備前市埋蔵文化財調査報告８

国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査報告書

２００８

備 前 市 教 育 委 員 会

備前市埋蔵文化財調査報告８

国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査報告書

２００８

備 前 市 教 育 委 員 会

東側窯跡全景（北より）

序

本書は、備前市伊部に所在する国指定史跡「伊部南大窯跡」の発掘調査報告です。この発掘調査は、史跡地内に所在する３基の窯の構造や規模、またその操業時期を明らかにすることを目的としたもので、平成17年度から19年度にかけて文化庁の国庫補助金を受けて実施しました。

伊部南大窯跡は備前焼の長い歴史の中で、窯の規模や操業期間の長さに関して国内では例のない窯跡であり、窯業史上貴重な遺跡であるとして昭和34年、国の史跡指定を受けています。平成11年度から実施した史跡地周辺の確認調査では、予想をはるかにこえる８基もの窯跡が確認され、その成果はすでに「伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書Ⅰ・Ⅱ」として刊行しています。

今回の調査では、長大な３基の窯の構造と規模を確認するとともに、巨大な物原や中央窯の下部に新たな窯も確認しました。備前市教育委員会ではこれらの調査結果もふまえ、伊部南大窯跡とその周辺の窯跡群、備前北大窯跡、備前西大窯跡、中世の窯跡群について「史跡伊部南大窯跡整備基本構想」を平成17年に策定し、これらの歴史的遺産を恒久的に保存し次世代へ引き継ぐための作業を進めています。

史跡地周辺の確認調査開始からすでに９年もの歳月が流れていますが、伊部南大窯跡に関する発掘調査の成果をすべて刊行することができました。本書に収められた成果が、文化財の保護・保存・活用、今後の歴史研究、地域の歴史を深める資料として少しでも寄与できれば幸いです。

最後になりましたが、文化庁、岡山県教育委員会、ならびに地元の関係各位から賜りましたご支援とご協力に対しまして、厚くお礼申し上げます。

平成20年３月

備前市教育委員会
教育長　正　宗　洋　三

例　言

1　本書は備前市教育委員会が国庫補助事業として、平成17年度から平成19年度に行った国指定史跡「伊部南大窯跡」発掘調査の報告書である。

2　国指定史跡「伊部南大窯跡」は岡山県備前市伊部2576－1・2576－2に所在する。

3　発掘調査は第１次が210.5㎡を対象に平成17年10月16日から12月27日の間、第２次が276.8㎡を対象に平成18年10月11日から12月28日の間実施した。遺物整理および報告書の作成は平成19年度実施した。

4　調査は石井啓、岩﨑紅美が担当した。

5　本事業をすすめるにあたっては、文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官坂井秀弥氏、小野健吉氏から指導およびご助言を賜った。記して深甚の謝意を表したい。

6　発掘調査および、報告書の作成にあたっては、史跡伊部南大窯跡整備委員会（河本清委員長）のご指導・ご助言のもと実施した。明記して感謝の意を表したい。

7　報告書の作成は、備前市教育委員会埋蔵文化財作業室において実施した。本書の編集は石井啓・岩﨑紅美が行い、執筆は第１章、第２章、第８章を石井啓が、第３章、第４章、第５章、第６章、第７章の各第１節・第２節を岩﨑紅美・石井啓が、各第３節を石井啓が行った。遺構写真、遺物写真は主に石井啓が担当した。

8　遺物の実測は、入江津々美、草加尚子が行い、トレース業務は入江津々美、草加尚子、藤田洋子が行った。

9　遺構の写真測量や実測については、㈱かんこうに委託した。

10　航空写真については堀家純一氏から協力を賜った。明記して感謝の意を表したい。

11　調査および報告書の作成にあたっては、以下の方々・機関のご指導・ご助言を賜った。記して感謝の意を表する。

岡山県教育庁文化財課　岡山県古代吉備文化財センター　河本清氏　間壁忠彦氏　西村康氏
長尾清一氏　肥塚隆康氏　高瀬要一氏　（故）葛原克人氏　伊勢﨑淳氏　松本和男氏　亀田修一氏
伊藤晃氏　上西節雄氏　花岡志郎氏　平井泰男氏　光永真一氏　小西通雄氏　乗岡実氏
亀山行雄氏　扇崎由氏　白石純氏　大橋雅也氏　重根弘和氏　馬場昌一氏　若松拳史氏
ほか多くの方々

12　発掘調査および遺物整理作業については下記の方々の協力を得た。

赤田盛夫　石野寿美江　井上征男　岡村勝歳　菊井洋子　滝川義高　中村知晴　難波勝之
松井秀幸　丸山勤　三波南海子（以上一次）石原清子　井上征男　恵美行隆　梶藤康子
片山伍一　西村利夫　西山孝志　三波南海子　安江文男　安富高行（以上二次）
松末左知子　鶴田清美　梶藤康子　上西高登　塚本篤史（以上遺物整理）

13　出土遺物・実測図・写真等は、備前市教育委員会（岡山県備前市西片上７）において保管している。

凡　　例

1　本書に用いた高度は海抜高であり、北方位は磁北で示している。

2　本報告書に掲載した遺構・遺物図面の縮尺は、基本的に次のように統一している。

　遺構　　1/50～1/150・1/40　　遺物　土器：1/4・1/8

3　本報告書で用いた土色の標記は『標準土色帳』（農林水産省・農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本彩色研究所票監修）に従っている。

4　本報告書に掲載した遺物番号については、ひとつの窯跡について土器・陶磁器ごとに連番としている。

　東側窯：1～61　　中央窯：1～294　　物原（T6）：1～206

　西側窯：1～90　　西2号窯跡：1～47

5　本報告書の第1図に使用した地図は、備前市作成（昭和63年）の1/10,000の「備前市全図No.4」を複製・加筆したものである。

6　焼成に失敗した不良品や窯体片、灰、焼土などを投棄した場所を、考古学的には灰原と呼ぶことが一般的であるが、本報告書では備前など窯業地で使用されている物原と統一して呼称する。

7　備前焼の編年案については下記の表を参考にされたい。1600年以降については、乗岡実氏の編年案に依拠する。

<table>
<tr><th>時　代</th><th>西　暦</th><th>間壁（1990）</th><th>乗岡（2000・2001）</th><th>重根（2003）</th></tr>
<tr><td>平　安</td><td rowspan="2">1200</td><td>Ⅰ期</td><td rowspan="2">中世1期</td><td>Ⅰ　B</td></tr>
<tr><td rowspan="4">鎌
倉</td><td rowspan="2">Ⅱ期</td><td rowspan="3">Ⅱ　A</td></tr>
<tr><td>1250</td><td rowspan="2">中世2期a</td></tr>
<tr><td>1300</td><td rowspan="3">Ⅲ期</td></tr>
<tr><td>1350</td><td>中世2期b</td><td>Ⅱ　B</td></tr>
<tr><td rowspan="3">中世3期a</td><td>Ⅲ　A</td></tr>
<tr><td>Ⅲ　B</td></tr>
<tr><td>ⅣA－1</td></tr>
<tr><td rowspan="5">室
町</td><td>1400</td><td rowspan="4">Ⅳ期</td><td>中世3期b</td><td>ⅣA－2</td></tr>
<tr><td rowspan="2">中世4期a</td><td rowspan="2">ⅣB－1</td></tr>
<tr><td>1450</td><td>中世4期b</td></tr>
<tr><td>中世5期a</td><td>ⅣB－2</td></tr>
<tr><td>1500</td><td>中世5期b</td><td>ⅣB－3</td></tr>
<tr><td rowspan="2">安土桃山</td><td rowspan="2">1550</td><td rowspan="2">Ⅴ期</td><td>中世6期a</td><td rowspan="2">Ⅴ　A</td></tr>
<tr><td>中世6期b</td></tr>
<tr><td rowspan="7">江
戸</td><td rowspan="2">1600</td><td rowspan="2">近世1期a</td><td rowspan="2">Ⅴ　B</td></tr>
<tr><td rowspan="6">Ⅵ期</td><td>近世1期b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1650</td><td>近世2期a</td><td rowspan="10"></td></tr>
<tr><td>近世2期b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1700</td><td>近世3期a</td></tr>
<tr><td>近世3期b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1750</td><td>近世4期a</td></tr>
<tr><td>近世4期b</td></tr>
<tr><td rowspan="2">1800</td><td>近世4期c</td></tr>
<tr><td>近世5期a</td></tr>
<tr><td rowspan="2">明　治</td><td rowspan="2">1850</td><td>近世5期b</td></tr>
<tr><td></td><td>近　代</td></tr>
</table>

伊藤晃・乗岡実・石井啓・重根弘和・上西高登2004「中世陶器の物流－備前焼を中心として－」『日本考古学協会2004年度広島大会研究発表資料集』

乗岡実2000「備前焼擂鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』を引用・改変

目　次

巻頭図版
序
例　言
凡　例
目　次
第１章　遺跡の位置と環境 …… 1
第２章　調査の経緯 …… 5
　第１節　調査に至る経緯 …… 5
　第２節　調査の経過 …… 6
　第３節　調査および報告書作成の体制 …… 15
第３章　東側窯跡の調査概要 …… 21
　第１節　位置と調査の概要 …… 21
　第２節　遺構の概要 …… 21
　第３節　遺物 …… 24
第４章　中央窯跡の調査概要 …… 41
　第１節　位置と調査の概要 …… 41
　第２節　遺構の概要 …… 41
　第３節　遺物 …… 45
第５章　巨大物原の調査概要 …… 86
　第１節　位置と調査の概要 …… 86
　第２節　物原の堆積状況 …… 86
　第３節　遺物 …… 87
第６章　西側窯跡の調査概要 …… 107
　第１節　位置と調査の概要 …… 107
　第２節　遺構の概要 …… 107
　第３節　遺物 …… 109
第７章　西２号窯跡の調査概要 …… 127
　第１節　位置と調査の概要 …… 127
　第２節　遺構の概要 …… 127
　第３節　遺物 …… 128
第８章　まとめ …… 137
　第１節　はじめに …… 137
　第２節　東側窯跡の窯構造と操業期間について …… 137
　第３節　中央窯跡の窯構造と操業期間について …… 139
　第４節　西側窯跡の窯構造と操業期間について …… 140
　第５節　西２号窯跡の窯構造と操業期間について …… 142

第６節　総括 …… 142
写真図版
報告書抄録

表　目　次

表１　東側窯跡出土遺物観察表 …… 38
表２　中央窯跡出土遺物観察表 …… 76
表３　物原（トレンチ６）出土遺物観察表 …… 99
表４　西側窯跡出土遺物観察表 …… 123
表５　西２号窯跡出土遺物観察表 …… 135
表６　窯関連文献一覧 …… 144

挿　図　目　次

第１章
第１図　伊部南大窯跡周辺の地形と主要窯跡 …… 3
第２章
第２図　平成18年12月12日
史跡伊部南大窯跡整備委員会による現地指導 … 6
第３図　平成18年12月３日現地説明会 …… 13
第４図　冬場屋外での遺物整理作業 …… 14
第３章
第５図　東側窯跡トレンチ配置図（S＝１/1000） …… 22
第６図　東側窯跡平面図（S＝１/150）…… 27
第７図　東側窯跡主軸断面図（S＝１/150）…… 29
第８図　東側窯跡煙道部立面図・横断面図（S＝1/50）… 31
第９図　トレンチ２平面図・断面図（S＝１/50） …… 33
第10図　トレンチ２出土遺物（１/４） …… 34
第11図　トレンチ３出土遺物１（１/４） …… 34
第12図　トレンチ３出土遺物２（１/４） …… 35
第13図　トレンチ４出土遺物１（１/４） …… 35
第14図　トレンチ４出土遺物２（１/４） …… 36
第15図　トレンチ５出土遺物１（１/４） …… 36
第16図　トレンチ５出土遺物２（１/４） …… 37
第４章
第17図　中央窯跡トレンチ配置図（S＝１/1000） …… 42
第18図　中央窯跡平面図・主軸断面図（S＝１/100）…… 51
第19図　中央窯跡横断面図（S＝１/50） …… 53
第20図　トレンチ７平面図・断面図（S＝１/60） …… 55
第21図　トレンチ11平面図・断面図（S＝１/50） …… 57
第22図　トレンチ１平面図・断面図（S＝１/40） …… 58
第23図　トレンチ７出土遺物１（１/４） …… 59
第24図　トレンチ７出土遺物２（１/４） …… 60
第25図　トレンチ７出土遺物３（１/４） …… 61
第26図　トレンチ７出土遺物４（１/４） …… 62
第27図　トレンチ７出土遺物５（１/４） …… 63
第28図　トレンチ７出土遺物６（１/４） …… 64
第29図　トレンチ８出土遺物１（１/４） …… 65
第30図　トレンチ８出土遺物２（１/４） …… 66
第31図　トレンチ８出土遺物３（１/４） …… 67
第32図　トレンチ８出土遺物４（１/４） …… 68
第33図　トレンチ８出土遺物５（１/４） …… 69
第34図　トレンチ９出土遺物１（１/４） …… 69
第35図　トレンチ９出土遺物２（１/４） …… 70
第36図　トレンチ10出土遺物１（１/４） …… 71
第37図　トレンチ10出土遺物２（１/４） …… 72
第38図　トレンチ10出土遺物３（１/４） …… 73
第39図　トレンチ10－２出土遺物（１/４） …… 74
第40図　トレンチ11出土遺物１（１/４） …… 74
第41図　トレンチ11出土遺物２（１/４） …… 75
第42図　トレンチ１出土遺物（１/４） …… 75
第５章
第43図　トレンチ６北壁断面図（S＝１/80） …… 89
第44図　トレンチ６－１区出土遺物１（１/４） …… 90
第45図　トレンチ６－１区出土遺物２（１/４） …… 91
第46図　トレンチ６－１区出土遺物３（１/４） …… 92
第47図　トレンチ６－２区出土遺物１（１/４） …… 92
第48図　トレンチ６－２区出土遺物２（１/４） …… 93

第49図　トレンチ６－２区出土遺物３（１/４）…… 94
第50図　トレンチ６－３区出土遺物１（１/４）…… 94
第51図　トレンチ６－３区出土遺物２（１/４）…… 95
第52図　トレンチ６－３区出土遺物３（１/４）…… 96
第53図　トレンチ６－３区出土遺物４（１/４）…… 97
第54図　トレンチ６－４区出土遺物１（１/４）…… 98
第55図　トレンチ６－４区出土遺物２（１/４）…… 99
第６章
第56図　西側窯跡トレンチ配置図（S＝１/1000）…… 108
第57図　西側窯全景（南側煙出しから焚口を見る）…… 110
第58図　西側窯跡平面図・主軸断面図（S＝１/100）…… 113
第59図　西側窯跡横断面図（S＝１/60）…… 115
第60図　トレンチ12出土遺物１（１/４）…… 116
第61図　トレンチ12出土遺物２（１/４）…… 117
第62図　トレンチ12出土遺物３（１/４）…… 118
第63図　トレンチ12出土遺物４（１/４）…… 119
第64図　トレンチ12出土遺物５（１/４）…… 120
第65図　トレンチ12出土遺物６（１/４）…… 121
第66図　トレンチ13出土遺物１（１/４）…… 121
第67図　トレンチ13出土遺物２（１/４）…… 122
第68図　トレンチ14出土遺物１（１/４）…… 122
第７章
第69図　西２号窯窯跡トレンチ配置図（S＝１/1000）… 128
第70図　西２号窯跡全景（北より　平成11年度調査）…… 129
第71図　西２号窯跡主軸断面図・平面図（S＝１/100）… 130
第72図　西２号窯跡平面図・主軸断面図・横断面図
（S＝１/70）…… 131
第73図　トレンチ15出土遺物１（１/４）…… 132
第74図　トレンチ15出土遺物２（１/４）…… 133
第75図　トレンチ15出土遺物３（１/４）…… 134

第１章　遺跡の位置と環境

伊部南大窯跡周辺窯跡群は、ＪＲ赤穂線伊部（いんべ）駅の南約200ｍ、榧原（かやはら）山山麓の北向きの斜面、国指定史跡「伊部南大窯跡」範囲内に位置する。ここから北側には伊部の町並みが広がり、その中央を東西に国道２号線が横切り、車が頻繁に往来する。町の北部、不老山南斜面には北大窯跡、天保窯が位置する。その不老山を山陽新幹線がトンネルで西に抜けると、標高約300ｍの医王山の鋭利な山容があらわれ、その山裾には西大窯跡が位置する。さらに西に進むと、12世紀代にはすでに存在し、江戸時代に熊沢蕃山の提案で津田永忠が改修した備前市内最大の池「大ヶ池（おおがいけ）」が広がる。

この伊部の町の南端に位置する伊部南大窯跡は、「規模や操業期間に関して国内でも例のない窯」として昭和34（1959）年国史跡の指定を受けた。

備前市は、岡山県南東部、兵庫県との県境に位置している。平成17（2005）年３月22日、吉永（よしなが）町、日生（ひなせ）町と合併し、現在「海とみどりと炎のまち」新備前市としてまちづくりが進められている。市域の北部に位置する吉永町は兵庫県佐用郡に接し、北は美作市に接する南北に長い地域である。吉永地域は流紋岩土壌であるが、標高539ｍの八塔寺（はっとうじ）山は石英粗面岩の残丘である。和意谷（わいだに）には、国指定史跡「岡山藩主池田家墓所」が所在する。市域の南東部日生町は、東は兵庫県赤穂市、南は瀬戸内海に臨む。階段状に降下する山々が直接海にいたる典型的な沈降海岸の地形で、沖合いには鹿久居（かくい）島、頭（かしら）島、大多府（おおたぶ）島、鶴島などの日生諸島が展開する。地質は流紋岩類で、砂浜は少なく、岩が切り立った海蝕崖が多く見られるが、鹿久居島には中世の拠点的な遺跡と考えられる「千軒遺跡」が所在する。

旧備前市域の西部香登から新庄にかけては吉井川左岸にあたり沖積平野の平坦地が広がり、低丘陵上には国指定史跡丸山古墳をはじめとする古墳群が点在する。伊部から三石にかけては急峻な山並みが続き、平坦地が谷に沿って細長く開けている。これは埋積谷とよばれる地形で、後氷期の海面上昇によって瀬戸内海に入り込んだ海水によって谷が沈水し「おぼれ谷」になるのに対し、海水の侵入が緩やかで堆積作用が優勢である場合に形成される地形である。片上大橋がかかる片上湾はおぼれ谷の典型で、その縁辺部の鶴海、久々井、浦伊部、片上、穂浪などに埋積谷の細長い平坦地が形成される。片上には西日本の縄文時代中期末の集落遺跡として著名な長縄手遺跡が所在する。

山地の部分は市域総面積の２／３以上を占めている。その地質は流紋岩や石英斑岩等である。流紋岩地域は花崗岩地域にくらべて、樹木が再生しやすく、アカマツ林が広く発達する。事実、慶長期に描かれた「備前国図」には伊部付近に松林が描写されている。この流紋岩から生成される山土や堆積した「田土」などは備前焼の原料粘土として使用され、独特の味わいを器表に描き出す。この豊かな山林資源、原料の粘土、水運に恵まれた立地などが、中世以降、窯業史を飾る「備前焼」を生み出すことになる。

備前市における旧石器時代の遺物は、亀井戸廃寺の調査の際確認されたサヌカイト製ナイフ形石器と翼状剥片があり、また日生諸島で握斧などが表採されているが、遺構に伴うものではない。

続く縄文時代では、早・前期には吉井川河口や島嶼部に貝塚が点在しており、日生諸島では土器や石器が表採されている。このうち中期末の集落が確認された片上の長縄手遺跡は、内湾沿岸部に立地しているが貝塚を伴わない集落遺跡で、近畿地方西部に共通する形態の住居址が検出されており注目

される。

弥生時代では、前期後半から中期中ごろまで継続した船山遺跡があり、竪穴住居や大溝などが確認され、拠点集落としての性格が想定されている。

古墳時代では吉井川西岸の浦間茶臼山古墳に続いて、全長68mを超える前方後円墳の長尾山古墳が築かれ、これに続いて40mを超える大形円墳である新庄天神山古墳、丸山古墳、小丸山古墳などが展開する。新庄天神山古墳と隣接する花光寺山古墳や既出した古墳を含む備前市東部から瀬戸内市西部地域は、前期から中期古墳の集中する地域としても注目される。内部主体を横穴室石室とする後期の古墳は、石室長9.5mの池灘古墳をはじめ大内地区を中心に10数基の大滝道古墳群、香登本の谷筋に展開する奥谷古墳群などが知られ、これらの勢力がその後の香登廃寺の建立を牽引したと考えられている。

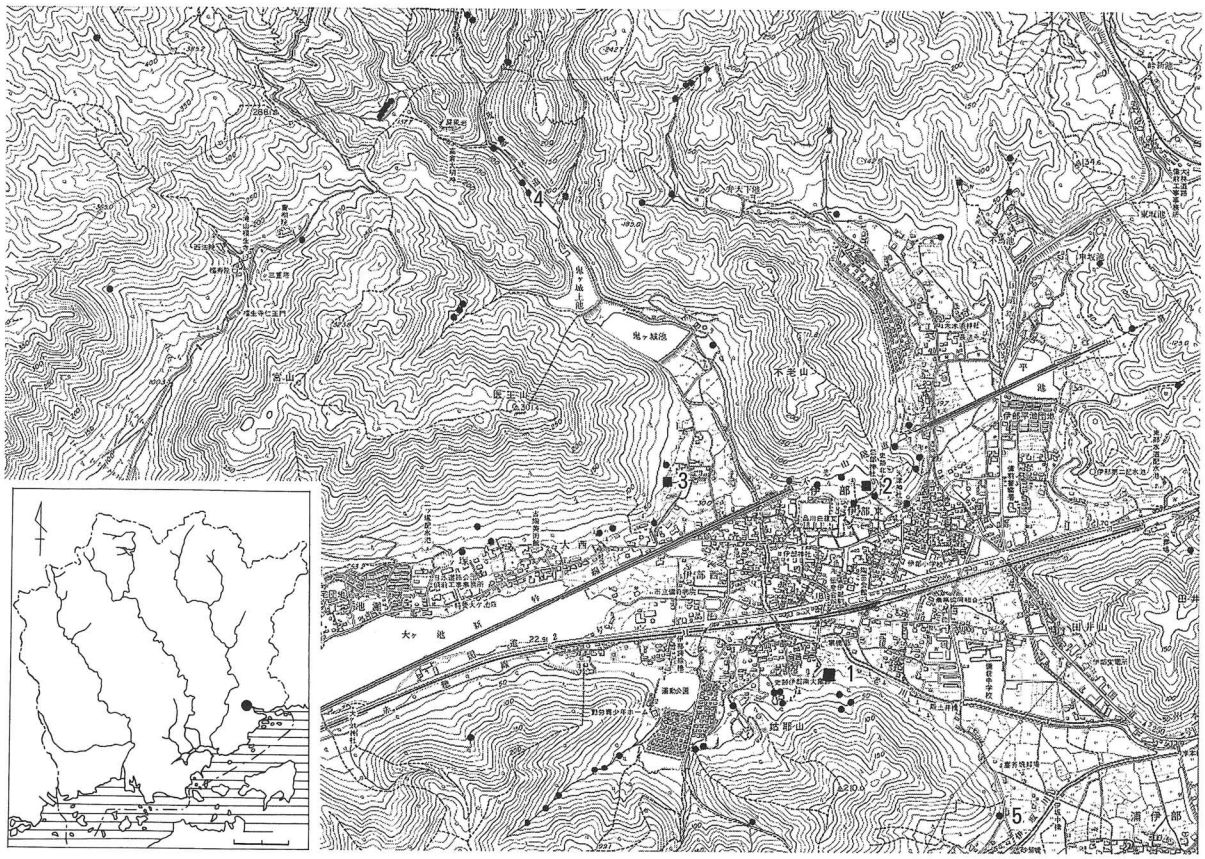
また、市域の南西部、長船町に接する佐山地区は、中国地方で最大の須恵器窯跡群である邑久古窯跡群の北東端に位置する。佐山では遅くとも７世紀末ごろには生産が開始され、奈良時代に最盛期を迎え、平安時代後半まで続けられるが、その後はこの地で生産がされなくなる。それに呼応するかのように伊部の地で本格的に備前焼の生産が開始される。

平安時代の末、西の山窯跡や大ヶ池南窯跡など伊部の山麓で生産が開始された備前焼は、鎌倉時代中ごろになると山の中腹に立地することが多くなり、南北朝期にはさらに高度をあげ、標高400mをこえるような熊山山塊に位置するものもある。熊山山頂には熊山遺跡を代表とする石積み遺構が点在し、平安時代には霊山寺という山上寺院が建立される。南北朝末ないしは室町時代はじめ頃、ふたたび窯は山麓に築かれるようになる。規模も山崎古窯跡の幅2.5m、推定全長20m、不老山東口窯跡の幅3.4m、推定全長40mと巨大化し、量産化を指向する。その後16世紀後半のある段階で、山麓に点在していた大窯は北大窯、西大窯、南大窯へ集約されることになる。

時代はさかのぼるが、律令制下の旧備前市域は、当初邑久郡香登郷、方上郷などに属していたようで、その後天平神護２（766）年、藤野郡（のちの和気郡）に編入されている。現在の旧備前市域は『倭名類聚抄』では和気郡坂長郷、香止郷であるが、記載のない「方上郷」は「延喜式」では美作の港「片上津」となっている。香止郷は伊部を含む香登の平野部だったと想定されるが、白河天皇の勅旨田となり、その後堀河天皇の時代（白河院の院政期）に荘園として成立する。その後、香登荘は鳥羽院、八条院に伝えられるが、母の美福門院藤原得子の菩提を弔うために高野山菩提心院に領家職が寄進される。こうして香登荘は八条院を本家とし、菩提心院を領家とすることになる。

菩提心院は、高野山内で金剛峰寺方と対立していた大伝法院方の末寺に属する。その紛争の結果、正応元（1288）年大伝法院は、和歌山県那賀郡根来町へ移る。この地にある根来寺はその大伝法院を前身とする真義真言宗の総本山であるが、その坊院跡から埋甕遺構として大量の備前焼の大甕が出土したことで知られる。その数は根来寺全山で、1,500個以上といわれており、多くが16世紀後半に属するものである。用途は甕倉で油を蓄える容器として使用が推定されている。その量的に多いことを根拠に香登荘と大伝法院との関係に見る向きもあるが、香登荘は南北朝の動乱によって領有は仁和寺に帰し、最終的に室町幕府領として伝領されていったと考えられている。したがって大量出土の理由を別に考える必要がある。

室町時代、備前の地は赤松氏、山名氏、浦上氏など勢力がめまぐるしく入れ替わるが、最終的に宇喜多氏が覇権をにぎる。そのころ活躍した豪商で来住法悦という人物は、片上湾の最奥部浦伊部に居



１ 南大窯跡　２北大窯跡　３西大窯跡　４愛ヶ淵窯跡　５山崎古窯跡

第１図　伊部南大窯跡周辺の地形と主要窯跡

住し、瀬戸内海の交易で何万石もの富を築いたという。交友関係も日禎をはじめとする日蓮宗本山関係者、保津川を開削したことで知られる京都の大商人角倉了以との結びつきがある。天正18（1590）年には、岡山城築城の銀を調達した功績により、岡山城下に一町を賜り、屋敷を構えるなど宇喜多氏とも非常に強く結びついている。

浦伊部の地は伊部南大窯跡からわずか1.5km東にあたり、備前焼を海上ルートで積み出す際、要地となったところで、根来寺での大量の備前焼大甕出土の背景には豪商来住法悦を要とした海上交易ルートのかかわりが深いと考えられる。平成12年の調査で確認され天正期の窯と推定されている東３号窯跡はまさに根来寺に大甕を大量に提供した窯のひとつであった。

「香登荘」と備前焼の関係についてみてきたが、文献資料・考古資料に「香登」がやきものの産地として登場することもある。和歌山県西牟婁郡日置川町長壽寺境内から出土した大甕は「備前國住人　香登御庄□　二　暦応五年□　あつらう也」銘文があり、「暦応５（1342）」年の年号は知見のある年銘資料としては最古のものである。

応安４（1371）年、九州探題へ下向する途中の今川了俊は、「さて、かがつ（香登）というさとは、いえいえごとに玉だれの小瓶といふ物を作ところなりけり（中略）某日はふく岡につきぬ・・・」という記述を『道ゆきふり』という紀行文の中に残している。

その福岡については、時代が少しさかのぼるが、正安元（1299）年円伊を主宰とする工房で制作さ

れた『一遍聖絵』の福岡の市の場面に、布や魚鳥など商いの商品とともに簡単な掘建て小屋の下に備前焼が置いている様が描かれている。一遍がこの地を布教に訪れたのは、弘安元（1278）年ごろだったといわれている。

このほか「香登荘」の関係ではないが『兵庫北関入船納帳』に文安２（1445）年に備前焼の壺や甕が1200個余り兵庫港（現神戸港）に運ばれた記載がある。

このように過去の備前焼は機能性の高い商品として西日本を中心に流通し、織豊期にはその味わいから為政者に茶道具として取上げられた。近世以降は他の窯業地で生産された施釉陶や磁器に商品として市場をうばわれ衰退の道をたどるが、昭和に現れた備前焼中興の祖と呼ばれる金重陶陽によって、美術品としてその市場価値を見出して、今日にいたる。

※本章「遺跡の位置と環境」は備前市教育委員会2003「伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書Ｉ」の第１章を加筆訂正したものである。

【参考文献】

・記念誌編集委員会『わがまちの文化遺産』　備前市文化協会　1998
・桂又三郎『伊部南大窯址発掘資料』　日本陶磁協会　1952
・文化庁文化財保護部史跡研究会『図説日本の史跡第8巻近世近代２』　紀行社　1991
・谷口澄夫・石田寛監修『岡山県風土記』　旺文社　1996
・光野千春他『岡山の地学』　山陽新聞社　1982
・備前市総務部市史編さん室『備前市二十年の歩み』　備前市　1993
・岡山理科大学『岡山学』研究会『備前焼を科学するシリーズ『岡山学』１』吉備人出版　2002
・岡山大学附属図書館「備前慶長国絵図のふしぎ」『池田家文庫等貴重資料展リーフレット』　2000
・亀山行雄「岡山県備前市長縄手遺跡」『日本考古学年報』46　日本考古学協会　1993
・岡山県史編纂委員会『岡山県史　古代Ⅱ』第３巻　岡山県　1988
・上西節雄『日本のやきもの備前』　淡交社　2002
・京都国立博物館『特別陳列修理完成記念　国宝・一遍聖絵』　2003
・北脇義友・目賀道明『「伊部と秀吉」展によせて』　1992
・和歌山県立博物館『根来寺の歴史と文化―興教大師覚鑁の法灯―』　2002
・竹林栄一「中世瀬戸内の商品流通―兵庫北関の二つの入船帳からみた―」『研究報告』15　岡山県立博物館　1994
・河本清・葛原克人「不老山古備前窯址」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』　岡山県文化財保護協会　1972
・田代健二『東備西播開発有料道路建設事業実施にともなう埋蔵文化財調査報告』　備前市教育委員会　1974
・田代健二「亀井戸廃寺確認調査報告」『備前市埋蔵文化財調査報告』２　備前市教育委員会　1984
・田代健二「亀井戸遺跡確認調査報告」『備前市埋蔵文化財調査報告』３　備前市教育委員会　1986
・田代健二「備前市文化財年報」（１）『備前市埋蔵文化財調査報告』４　備前市教育委員会　1988
・田代健二『船山遺跡発掘調査報告』エヌ・テー・エヌ東洋ベアリング運動場建設事業埋蔵文化財調査委員会　1985
・田代健二「備前市内採集の遺物について」『古代吉備』第10集　1988
・千葉豊「備前市新庄西畑田遺跡採集の縄文土器」『古代吉備』第9集　1987
・時實奈歩ほか「船山遺跡」『岡山県埋蔵文化財調査報告』155　岡山県教育委員会　2001
・中野栄夫「備前国香登荘」『岡山県史研究』第５号　岡山県史編纂室　1983
・長船町史編纂委員会『長船町史』通史編　2001
・岡山理科大学『岡山学』研究会『備前焼を科学する～窯はなぜ移動したか～』　2000
・重根弘和「山崎古窯跡」『岡山県埋蔵文化財報告』167　岡山県教育委員会　2002
・亀山行雄ほか「長縄手遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査方報告』189　岡山県教育委員会　2005

第２章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

１．平成17年度

９月10、11日、備前歴史フォーラム「備前焼研究最前線Ⅱ」開催。各日とも参加者約100名。

６月１日、伊部南大窯跡発掘調査について4,484千円の国庫補助交付決定を受ける。

８月19日、伊部南大窯跡内の発掘調査のため、法125条第１項による現状変更許可申請をおこなう。

９月16日、現状変更の許可がおりる。

９月16日、平成17年度第１回史跡伊部南大窯跡等整備連絡会開催。（資料１参照）

10月６日、伊部南大窯跡発掘調査開始。

10月７日、法99条の規定により埋蔵文化財発掘調査の報告を行なう。

10月15、16日、備前焼まつりにあわせて発掘調査の現場の公開の「伊部南大窯跡自由見学会」を開催。15日は雨天のため中止。16日は約40名の見学者あり。（資料２参照）

12月２日、坂井秀弥文化庁主任文化財調査官より現地にて指導を受ける。その後、備前市指定史跡北大窯跡、西大窯跡、愛が淵窯跡なども視察。（資料３参照）

12月３日、平成17年度第１回の史跡伊部南大窯跡整備委員会開催。現地にて指導を受ける。（資料４参照）

12月10日、発掘調査現地説明会。参加者約150名。

12月14日、史跡伊部南大窯跡整備委員会委員葛原克人氏永眠される。享年63歳。

12月27日、発掘調査終了。

平成18年１月６日、遺物整理開始。

２月１日、平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡等整備連絡会開催。（資料５参照）

２月24日、平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡整備委員会開催。（資料６参照）

３月20日、「北大窯跡・西大窯跡調査概報」刊行。

３月20日、区との協議が整わないまま、史跡南側に作業道が付けられる。

２．平成18年度

５月30日、伊部区に対し、追加指定想定地内での墓地造成の中止協力を求める。

６月１日、伊部南大窯跡発掘調査について6,350千円の国庫補助交付決定を受ける。

７月25日、追加指定申請の際の地積確定測量作業は、19年度当初予算に盛込むことに。

７月28日、伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書Ⅱ刊行。

８月18日、発掘調査のため、法125条第１項による現状変更許可申請をおこなう。

９月10日、11日、「備前焼・海の道・夢フォーラム2007」を備前焼伝統産業会館で開催。約100名の参加あり。

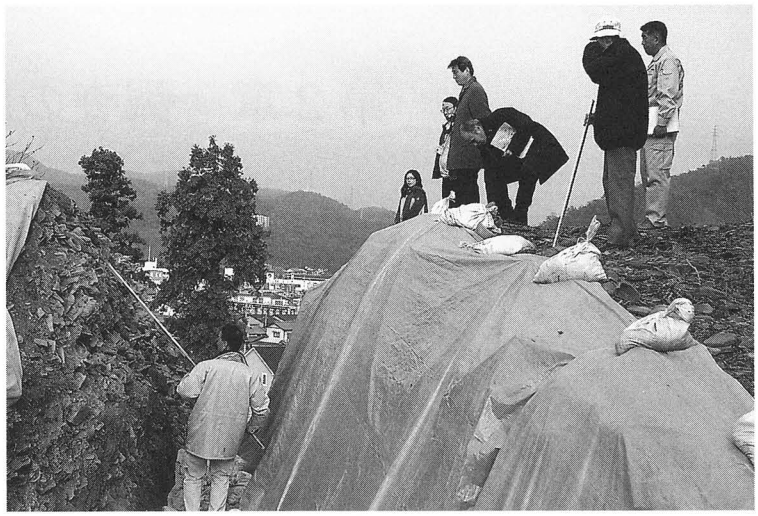
10月11日、平成18年度の調査開始。

11月12日、「備前焼の陶馬発見」の記事が山陽新聞一面に掲載される。（資料７参照）

12月２日、「急斜面に53メートルの遺構」として東側窯の調査の様子が山陽新聞一面に掲載。（資料８参照）

12月３日、現地説明会開催、約250名の参加。

12月12日、平成18年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会開催。（資料９参照）



第２図　平成18年12月12日
史跡伊部南大窯跡整備委員会による現地指導

３月19日、上京し、坂井秀弥文化庁主任文化財調査官に現状報告、指導を受ける。

３．平成19年度

６月１日、伊部南大窯跡発掘調査（整理）について5,192千円の国庫補助交付決定を受ける。遺物整理作業を継続する。

７月10日、北大窯、西大窯の追加指定想定地の測量立ち入り許可を順次所有者に求める作業を開始。

10月16日、岡山県備前陶芸美術館で「一期一会～堺の茶の湯と備前～」開催。窯跡出土資料も一部展示。11月11日まで。（資料10参照）

11月１日、国庫補助交付の変更決定（補助額を4,600千円に減額）。

平成20年２月15日、平成19年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会開催。（資料11参照）

３月25日、伊部南大窯跡発掘調査報告刊行（本書）。

第２節　調査の経過

１．17年度調査の経過

期　間　平成17年10月６日～12月27日

10月６日（木）快晴　発掘機材搬入。整地しテント・小屋設営。

10月７日（金）くもり午後一時雨　小屋設営完了。中央窯付近の草刈開始。

10月11日（火）くもり　東側窯跡の排土置き場を三ヶ所設置。中央軸線をきめる。

10月12日（水）晴れ時々くもり　東側窯跡の草刈を開始、西側にある大木を伐採。トレンチ３を設定、発掘開始。

10月13日（木）快晴　トレンチ３で床面と焚口を確認。東側窯跡中央付近にトレンチ４設定、掘下げ開始、中央軸線上に柱列を確認。東側で窯壁を確認、また造り替えの窯の壁の一部を確認。トレンチ５を設定、掘下げ開始、煙出しの一部を確認。

10月14日（金）くもり時々雨　トレンチ３、東側窯窯外の表土剥ぎ。トレンチ４、掘下げ。床面に環状に貼り付けられた粘土を確認。トレンチ５、掘下げ、煙出し付近で一部炭化物の層を平面的に検出。
備前焼祭りにあわせて現場を公開する見学会の開催準備。

10月16日（日）晴れ　見学会開催にあわせて、この日は現場作業をおこなう。午前中を中心に40名ほどの見学があり。トレンチ３、引き続き掘下げ、窯の北外側も調査開始。トレンチ４、窯外東側へ延長。造り替えた窯の燃焼室と焼成室を仕切る柱を確認。西側部分もほぼ窯内掘下げ終了。トレンチ５、窯内全体でほぼ床面を確認。床面近くで検出した煙出管は備前焼の土管で非常に細い。

10月19日（水）晴れ　トレンチ３、延長した焚口部分で最低でも３回改修した遺構を確認。窯の東・西側外継続して掘下げ。西側では匣鉢以外に徳利や、小皿が目立つ。トレンチ４、焚口付近で床面傾斜が変化することを確認。窯に西外側では灯明皿片が多い。トレンチ５、引き続き窯外側を掘下げ。

10月20日（木）快晴　トレンチ３窯内焚口より北側の掘り下げ。窯外の掘下げ続行。トレンチ４、窯外の西側の掘下げ。トレンチ５、東側窯外の現地表下160㎝で基盤層らしい層を確認。

10月21日（金）晴れ　西側窯の伐開作業開始。トレンチ３、トレンチ４窯外東、西側掘下げ。トレンチ５、東側窯外、窯壁付近の掘り下げ。西側、掘下げ。

10月24日（月）快晴　トレンチ３、窯外東、西側掘下げ。西側では径の大きい灯明皿が目立つ。トレンチ４、引き続き掘下げ、擂鉢片17世紀末ぐらいか。西側では擂鉢17世紀前半ぐらいか。トレンチ５、東側窯跡外の現地表下160㎝で基盤層確認。西側引き続き掘下げ。中央窯跡、中央軸線を決定し、トレンチ８・９・10を設定。西側窯跡、下草の伐採ほぼ終了。

10月25日（火）快晴　トレンチ３・４・５、引き続き窯外側掘下げ。史跡地西側部分の草刈。

10月26日（水）晴れ時々くもり　前日引き続きトレンチ３・４・５、窯外側掘下げ。トレンチ５東側窯外で、窯壁の厚さを検出する作業。中央窯跡、トレンチ８・９・10掘下げ開始。

10月27日（木）晴れ　東側窯跡トレンチ５、窯外東側で窯壁の厚さを確認。確認後物原の掘下げ。
中央窯跡トレンチ８の西側で窯壁、芯が備前焼の柱を確認。トレンチ９、両側の窯壁を確認するとともに、芯が備前焼の土柱を確認。

10月28日（金）晴れ　中央窯跡トレンチ10、調査開始。トレンチ９にて崩落した天井確認。床面までは深いのかまだ確認できず。東側窯跡トレンチ３・４・５、引き続き掘下げ。

10月31日（月）晴れ時々くもり　東側窯跡作業を継続。写真撮影のためトレンチ４付近に貯めた雨水をうち、シートを張る。トレンチ５東側完掘写真撮影。トレンチ５西側窯外、もう少しで窯壁検出できそう。中央窯跡作業を継続。トレンチ８西窯外掘下げ開始。トレンチ10の西側窯内で床面を確認するが、傾斜角度が煙出に向かって急に角度が変わり急傾斜になっている。複雑な構造で理解に苦しむ。

11月１日（火）快晴　東側窯跡トレンチ３東側窯外サブトレ引き続き下げる。西側窯外サブトレ設定。トレンチ４東・西側窯外引き続き掘下げ。トレンチ５西窯外ほぼ掘りあがり、掃除。中央窯跡トレンチ８の東側で窯壁確認。トレンチ９西窯外掘下げ中。トレンチ10窯内掘下げ床確認。煙出しに向かい複雑な構造。解釈できず。トレンチ10西側窯外掘下げ。

11月４日（金）晴れ　東側窯跡トレンチ３西窯外サブトレ掘下げ中。トレンチ４西窯外掘下げ中、地表下180㎝を超える。トレンチ４東窯外掘下げ中。中央窯跡トレンチ８東西窯外掘下げ中。燃焼室を仕切る土柱部分で、床面角度が変換していることを確認。トレンチ９東側窯外掘下げ、茶入など確認。

11月７日（月）晴れ時々くもり　東側窯跡継続して窯外掘下げ。中央窯跡の各トレンチ窯外側を中心に掘下げ中。

11月８日（火）晴れ　東側窯跡トレンチ３写真撮影のため掃除。トレンチ４東西窯外サブトレ設定。中央窯跡トレンチ８・９引続き掘下げ。トレンチ10メモ写真。西側窯跡トレンチ設定段取り。

11月９日（水）晴れ　東側窯跡トレンチ３掃除。トレンチ４掘下げ中。中央窯跡トレンチ８西側引き続き掘下げ。トレンチ９西側窯外で10㎝の厚さで堆積している粘土層確認。粘土置き場の可能性。トレンチ10掘下げ継続。西側窯跡トレンチ13設定、窯内掘下げ東西窯壁確認。

11月10日（木）晴れ　東側窯跡トレンチ４東西の窯外の掘下げ。中央窯跡トレンチ８・９・10、窯外の掘下げ。西側窯跡トレンチ13、窯内掘下げ。窯内で一部床面検出。西側窯跡トレンチ14設定後、掘下げ。

11月11日（金）くもりのち雨　東側窯跡トレンチ４窯外西側の掘り下げ。中央窯跡トレンチ８・９・10、窯外の掘り下げ西側窯跡トレンチ13、窯内掘下げ。

11月15日（火）くもり時々晴れ　東側窯跡トレンチ４東側窯外掘下げ、西側サブトレ掘下げ。中央窯跡トレンチ８東・西側メモ写真撮りながら掘下げ。トレンチ９・10掘下げ継続。西側窯跡トレンチ13窯内掘下げ。トレンチ14窯内掘下げ。床面や壁を貼り替えている模様。

11月16日（水）晴れ午後霧雨　東側窯跡トレンチ４窯外の掘下げ。裏込めの礫を検出。中央窯跡トレンチ８・９・10、窯外の掘下げ。西側窯跡トレンチ12表土剥ぎ後、掘下げ。窯壁を検出。トレンチ13、窯内掘下げ。

11月17日（木）晴れのちくもり　東側窯跡トレンチ４窯外を継続して掘り下げ。西側窯外は、窯裏付近を中心に掘下げ。中央窯跡トレンチ８西側窯外で石列を検出。石列より西側を掘下げ。トレンチ９・10は継続して窯外を掘下げ。トレンチ10西側の窯外より多量の遺物が出土。西側窯跡トレンチ12北側窯内の掘下げ。トレンチ13窯内の掘下げ。

11月18日（金）晴れのちくもり　東側窯跡トレンチ４西側窯外掘りあがり、掃除。東側窯外サブトレ設定し掘り始め。中央窯跡トレンチ８西側窯外で、窯の外側にもうひとつの窯壁確認。トレンチ９も継続。トレンチ10西側窯外で、地表下240㎝で基盤層確認。西側窯跡トレンチ12窯内を掘下げ継続。

11月21日（月）快晴　かんこう写真測量開始。東側窯跡トレンチ４東側窯外サブトレ掘下げ。中央窯跡トレンチ８東側窯外掘下げるが、東側で物原にあたる。トレンチ９・10掘下げ継続。西側窯跡トレンチ12床面確認。トレンチ13東窯内外掘下げ、トレンチ15も掘下げ。

11月22日（火）晴れ　東側窯跡トレンチ４東側窯外掘り下げ。中央窯跡トレンチ８・９・10東側窯外の掘下げ継続。トレンチ９西側窯外で一部先行して掘下げ、基盤層を確認する。西側窯跡トレンチ12東側窯内、西側窯外掘り下げ、トレンチ13・14東側窯外の掘り下げ続行。

11月24日（木）晴れ後くもり　東側窯跡トレンチ４東側窯外掘下げ。中央窯跡トレンチ８・９・10東

側窯外の掘下げ継続。トレンチ10で石列確認。西側窯跡トレンチ12東側窯内、トレンチ13・14東側窯外の掘下げ続行。

11月25日（金）晴れ時々くもり　東側窯跡トレンチ４東窯外掘りあがり、断面写真。中央窯跡トレンチ８・９・10継続して掘下げ。西側窯跡トレンチ12東西窯外掘下げ、西側ほぼ終了。窯内掘下げ、床面に相当量の陶片。トレンチ13窯内ほぼ掘りあがり、東窯外で溝状遺構内から徳利片、西窯外で橙色土の堆積。トレンチ14東窯外ほぼ掘りあがり、西窯外掘下げ開始。西２号窯跡、トレンチ15を設定し、草刈。

11月27日（日）くもり時々晴れ　現地説明会準備。

11月28日（月）晴れ　かんこう北・西大窯測量。中央窯跡トレンチ８東窯外地表下240㎝、西窯外270㎝、16世紀初の擂鉢確認。トレンチ９東窯外で基盤層確認。西側窯跡トレンチ12窯内引き続き掘下げ。トレンチ12・13・14窯外掘下げ継続。西２号窯跡トレンチ15表土はぎ。

11月29日（火）晴れ　東側窯跡トレンチ５全景・平断面写真、西側窯外断面写真。中央窯跡トレンチ９西側窯外ほぼ掘りあがり。トレンチ８東窯外掘下げ、トレンチ10東窯外念のため地山を掘下げ確認。西側窯跡トレンチ12窯内遺物検出面でとめる。トレンチ13東窯外細い溝検出。トレンチ14西掘下げ地山確認。西２号窯跡トレンチ15表土はぎ継続。

11月30日（水）晴れ時々くもり　東側窯跡トレンチ４全景・平断面写真、トレンチ３全景写真（中判）。物原トレンチ６区を設定、窯道具一次置き場をつくり、掘下げ開始。中央窯跡トレンチ９付近掃除。トレンチ10東窯外地山掘りあがり。西側窯跡トレンチ13西窯外地山確認。西２号窯跡トレンチ15表土はぎ、ほぼ終了、窯面でほぼ検出可能。

12月1日（木）晴れ後くもり　東側窯跡トレンチ３やぐらより平面写真、窯外東西断面写真。中央窯跡トレンチ８東側窯外掘下げ終了、壁掃除。トレンチ９全景、断面写真。物原トレンチ６、１区表層から31.5m、２区表層から32.5mを掘下げ。遺物は製品のみとりあげ、陶板状の窯道具などは一次置き場へ、区ごと・高さごとにわけて保管。西側窯跡トレンチ12東側窯外で石組みを確認。トレンチ13ほぼ掘りあがり。

12月２日（金）くもり　文化庁文化財部記念物課主任文化財調査官坂井秀弥氏現地指導。中央窯跡トレンチ８周辺の掃除、窯内・窯外の掃除。トレンチ５、トレンチ14などで指導を受ける。また18年度もう１年間発掘調査を延長することを承認。物原トレンチ６、２区表層～32.5m掘下げ、匣鉢、人形徳利など大量。中央窯跡トレンチ９、平面・断面写真。西側窯跡トレンチ12窯内、遺物出土状況写真。トレンチ13西窯外ほぼ掘りあがり。西２号窯跡西拡張区表土層はぐ。

12月３日（土）晴れ時々くもり　史跡伊部南大窯跡整備委員会。物原トレンチ６、２区32.5～31.5m掘下げ。３・４区を表土から32.5m掘下げ。東側窯跡トレンチ５西窯外サブトレ堀下げ。中央窯跡トレンチ10付近掃除。西側窯跡トレンチ12床面遺物取上げ。窯外写真。西側窯セクション検討・土層注記。西２号窯跡トレンチ15、表土剥ぎ開始。木の根の除去。

12月５日（月）晴れ時々くもり　物原トレンチ６、２区32.5～31.5mほぼ終了。窯道具置き場追加設置。西側窯トレンチ12、南北軸北へ延伸。西２号窯跡トレンチ15、表層はぎほぼ終了。

12月６日（火）雨　現場中止。午後から㈱文化財サービスと打合せ、遺構断面検討。

12月７日（水）晴れ時々くもり　㈱文化財サービス、実測開始。東側窯跡トレンチ５窯の改修回数を

確認するため拡張区等設定。物原トレンチ６、３区32.5m掘下げ。

12月8日（木）くもり　物原トレンチ６、３区～32.5mまで掘下げ。東側窯トレンチ５新たな煙だし確認。中央窯跡トレンチ10全景写真。西側窯トレンチ12、燃焼室と焼成室を区切る土管を芯にした柱確認。トレンチ13、15写真撮影のため掃除。

12月９日（金）晴れ　午後より、くいうち、どのう袋づくりなど現地説明会準備。東側窯トレンチ５拡張区ほぼ掘りあがり、写真撮影。物原トレンチ掘下げ継続。西側窯跡トレンチ14、西半分拡張。トレンチ12焚口継続して掘下げ。トレンチ13掘上げ写真。西１号窯跡トレンチ15、全面堀下げ。

12月10日（土）晴れ　現地説明会開催。約150名の参加あり。

12月11日（日）くもり　㈱リップス天保窯撮影立会い。

12月12日（月）くもり時々晴れ　西側窯上に散乱している伐採した樹木の片付け。西側窯跡トレンチ12、焚口部分掘りあがり。トレンチ14煙出し付近ほぼ掘りあがり。西１号窯跡トレンチ15、北側拡張区表土はぎ。物原トレンチ６、３区32.0～31.5m掘下げ。

12月13日（火）くもり　風強し　寒い１日　東側窯跡トレンチ３焚口付近精査。物原トレンチ６、１区31.5～31.0m掘下げる。西側窯跡トレンチ12、焚口部分精査、メモ写真。トレンチ14煙出し部分写真撮影。西２号窯跡、掃除。

12月14日（水）晴れ時々くもり　非常に寒い　東側窯跡トレンチ３、焚口部分写真撮影。トレンチ４短くした窯、焚口部分掘下げ。物原トレンチ６、２区31.0mまで下げる。西側窯トレンチ12、焚口確認、写真。

12月15日（木）晴れ　かんこう西側窯、トレンチ５、６、15写真測量。文化財サービス実測最終日。全体をビデオ撮影。東側窯跡トレンチ４、溝隠した窯焚口付近写真撮影。中央窯跡トレンチ８、床面遺物取上げ。西側窯跡トレンチ12、掃除。トレンチ13床面に散らばる陶片取上げ。西２号窯跡トレンチ15、北拡張区掘下げ。東側窯、窯内土層注記。

12月16日（金）晴れ時々くもり　東側窯跡各土層断面の炭などのサンプル採取。トレンチ４両サイドから埋め戻し開始、完了。トレンチ３埋め戻し。中央窯跡トレンチ８、焚口付近写真撮影、トレンチ９写真撮影。西側窯内土層注記。

12月19日（月）くもり　東側窯跡トレンチ３・５埋め戻し完了。中央窯跡トレンチ８埋め戻し。トレンチ８・９・10サンプル採集。

12月20日（火）晴れ　中央窯跡トレンチ８・９・10埋め戻し。西２号窯跡トレンチ15検出時全景写真。

12月21日（水）くもり午後通り雨　物原トレンチ６、来年度の調査に向けてシート張り。西側窯跡トレンチ12・13・14埋め戻し。西２号窯跡トレンチ15埋め戻し。

12月26日（金）くもり　遺物をリフト車で運搬。トレンチ15埋め戻し完了。

12月27日（土）晴れ時々くもり　器材撤収。テント片付け。本年度の現場終了。

２．18年度調査の経過

期　間　平成18年10月11日～12月28日

10月11日（水）小雨のちくもり　機材搬入。テント設営、小屋建築。16時以降中央窯付近草刈。

10月12日（木）晴れ　小屋完成。中央窯跡付近草刈、ほぼ終了。トレンチ１、２設定。

10月13日（金）晴れ　物原トレンチ６倒木処理。西側窯跡草刈り。西２号窯跡トレンチ15埋土除去。トレンチ７排土置き場設定。

10月16日（月）晴れ　西２号窯跡トレンチ15、排土除去、全体を削って窯再検出。中央窯跡前庭部トレンチ７、設定し全体を下げる。トレンチ１設定、トレンチ２設定して表層をさげる。

10月17日（火）晴れ　トレンチ１・２掘り下げ。トレンチ２で、南端に大甕が据えられていることを確認。トレンチ７掘り下げ。南端に床面を確認。トレンチ15全体を掘り下げ。北側崖面を削る。

10月18日（水）晴れ　トレンチ１掘下げ。トレンチ２全体を60㎝ほど掘下げ、17世紀代の擂鉢片が多い。中央窯前庭部トレンチ７、全体を40㎝ぐらいさげる。西２号窯跡トレンチ15全体を清掃、南側で窯壁のプランを確認。

10月19日（木）晴れ　トレンチ１、20㎝ぐらいずつ掘下げ、遺物は窯道具が多い。トレンチ２掘下げ、全体に17世紀代の擂鉢が多いが、建水や匣鉢なども目立つ。中央窯前庭部トレンチ７、床面を残してそれ以外を掘下げ。床面上からは土錘の一括を確認。トレンチ15、全体を清掃、写真撮影準備。

10月20日（金）くもり　トレンチ１、壁がうまく掘れないので幅を40㎝広げて成形。窯道具多し。トレンチ２、掘下げ継続、壁一部養生。17世紀前半擂鉢一括資料。中央窯跡物原トレンチ７、床面下部からピット確認。西２号窯跡トレンチ15、全体、部分写真。焚口部分に南・北区の市松模様のトレンチ設定。

10月23日（月）雨のちくもり　トレンチ２掘り下げ続行。中央窯跡前庭部トレンチ７掘り下げ。東壁に複数のピットと炭化物の層と焼土層が互層状になっていることを確認。中央窯西側のトレンチ11付近の伐開作業。

10月24日（火）晴れ　トレンチ１、南側部分北の道のレベルまでさがる。中央窯跡前庭部トレンチ７、引き続き掘下げ、排土置き場を追加設定。中央窯西側に幅1.5ｍ、全長10ｍのトレンチ11設定。西２号窯跡トレンチ15、北側焚口をＡ区、南側窯内をＢ区として市松模様に継続して掘下げ。

10月25日（水）晴れ時々くもり　トレンチ１、崩落などがあるため西側面を整える。北側通路面掘下げ開始。中央窯前庭部トレンチ７、南北軸のみ掘下げ。レベル20.24で陶馬確認。トレンチ11、掘下げ開始。西１号窯跡トレンチ15、掘下げ継続、焚口のプランを確認。

10月26日（木）晴れ時々くもり　中央窯跡前庭部トレンチ７、地表下1.7ｍ付近まで掘りさげ、遺物が少なくなる。南北軸中央部付近で径0.7ｍ前後の角礫確認。トレンチ11、東側部分掘下げ、徳利、皿、建水など17世紀初頭の遺物が目立つ。西側も掘下げ開始後、地山と思われる面確認。中央窯跡トレンチ10－２設定。トレンチ15、Ａ区Ｂ区とも掘りあがったので、遺物出土状況写真撮影。

10月27日（金）晴れ　中央窯跡トレンチ７東側窯外の堀下げ。東壁と南壁でピットを確認。トレンチ11、掘り下げ続行。中央窯跡トレンチ10－２の掘り下げ開始。

10月30日（月）くもり　トレンチ１、北側通路部分掘下げ、レベル16.7ｍあたりでほとんど遺物が出なくなる。トレンチ７、南北軸掘下げ、炭化物多い。東側部分で16世紀前半の擂鉢確認。南北軸一部壁ケズリ開始。トレンチ11、東区31.3～31.0ｍをさげる。西２区掘下げ開始。

トレンチ10－２、全体を床面近くまでさげる。南端部で別の煙出しを確認。昨年確認した焚口に対になると考えられる。

10月31日（火）晴れ　岡山県文化財課総括副参事光永真一現場視察。北側法面のコンクリート片除去。トレンチ１、ほぼ作業終了。写真撮影のための清掃。中央窯前庭部トレンチ７、壁の成形。トレンチ11、東区31.0～30.7ｍさげる。西２区掘下げ。トレンチ10－２煙出しを確認。床面に陶板多数確認。

11月２日（木）晴れ時々くもり　北側法面のコンクリート片除去。トレンチ７東、ほぼ掘下げ終了。16世紀前半ぐらいの擂鉢が多数。トレンチ11、東区30.7～30.4ｍさげる。西２区掘下げ。トレンチ10－２、遺物出土状況写真撮影。

11月６日（月）くもり時々雨　トレンチ１、断面写真撮影。トレンチ２、崩落した断面を処理し写真撮影。トレンチ７、写真撮影用に周辺を片付け。トレンチ11、西２区の地山面を念のため下げたところ、窯壁などを含む層を確認したため再度下げる。

11月７日（火）トレンチ７、写真撮影のため掃除するが強風のため中止。トレンチ11、東区、西区継続して掘下げ。西２区は東に向かって地山が落ち込んでいる模様。トレンチ６、昨年度の養生（シート、パネル）の撤去終了。東側窯本日より作業開始。トレンチ５、埋め戻しの土を除去する作業開始。

11月８日（水）晴れ時々くもり　出土する遺物量は膨大。トレンチ７、清掃。平断面、部分写真、全景写真、撮影。トレンチ11、東区30.1～29.8ｍ掘下げ、西区ベース層は東に向かって徐々に落ち込んでいる模様。東側窯の検出、全体を草刈、約半分くらい表土はぎ。

11月９日（木）晴れ時々くもり　トレンチ11東区、西区継続して掘下げ。西区は26.3ｍまで掘り下げ。トレンチ11、16世紀から17世紀初頭までの製品が廃棄され厚く堆積し、その上層により新しい時期の製品で構成される物原が薄く堆積していることが判明。東側窯、木の根の除去、草刈ほぼ終了、窯内全体の表土層をうすく堀下げ開始。

11月10日（金）くもり　東側窯、窯内全体の掘り下げ続行。トレンチ11の掘下げ続行。

11月13日（月）晴れ時々くもり　トレンチ11、29.2～28.9ｍをさげる。東側窯跡中ほどをさげる。煙出しから約20ｍの地点で、中央軸に直交する方向で土管を芯にした径25㎝の柱３本を確認。窯の横側からの入口を検出しようとするが、不明。

11月15日（水）くもり時々晴れ　現場比較的順調に進行。トレンチ11、28.9～28.3ｍをさげる。東側窯跡中央から焚口付近をさげる。

11月16日（木）晴れ時々くもり　トレンチ11、28.3～28.0ｍさげる。外面にヘラ目のある平鉢出土。東側窯跡、昨日と同じ付近を下げる。焚口と焼成室を仕切る西側の柱を確認。トレンチ６、遺物を一時置くためのヤードをつくる。４区表層～32.0ｍを掘下げ。

11月17日（金）晴れ　トレンチ11、27.4～26.8ｍをさげる。東側窯跡、窯の縁部をさげる。トレンチ６、４区掘下げ32.0～31.5ｍ。人形徳利や灯明皿などもみられる。

11月20日（月）くもり時々晴れ　朝一番にシートにたまった水をかきだし。「トレンチ11、26.8～26.0ｍ掘下げ。東側窯跡、窯の縁から50㎝の範囲を上からさげる。裏ごめの石などが観察できる。トレンチ６、４区の木を除去。３区31.5～31.0ｍを下げる。４区31.5～31.0ｍに着手。

11月21日（火）晴れ　整備委員会、現説段取り、予算作成事務などで錯綜。トレンチ11、写真撮影の

ための掃除。トレンチ６、４区31.5～31.0m終了、31.0～30.5mに着手。人形徳利、匣鉢、甕など、擂鉢は少量、年代幅がありそう。東側窯跡、窯縁から0.7～１mの幅で表面のみ掃除。略図作成。

第３図　平成18年12月３日 現地説明会

11月22日（水）くもり　トレンチ11崩落、後は写真撮影のみだった。崩落部分を回復させる作業。トレンチ６、３区31.0～30.5m完了、２区31.0～30.5m継続。崩落一部あり。東側窯跡、窯の縁部の下げ、９割がた終了。

11月27日（月）くもり後雨　小雨が降り続くので10：30現場中止。トレンチ７の東壁大崩落。

11月28日（火）くもり　トレンチ６掘り下げ続行。トレンチ７前日の東側壁の崩落に伴い、東壁・西壁を整える。東側窯で検出した窯壁と土管状の柱を麻布やどのうで保護する。間壁忠彦先生現地指導。

11月29日（水）晴れ時々くもり　河本清先生午後現場指導。トレンチ６、１区掘り下げ。トレンチ７、崩落した埋土の除去。南側一部を壷堀りして地山を検出。トレンチ11、埋土の除去。物原の堆積状況の確認。トレンチ10－１、昨年度埋め戻していた土のうや土を再度掘出し、煙出しを確認。

11月30日（木）晴れ　東側窯跡、全景撮影。入口、土管など部分撮影開始。
トレンチ６、掘りあがり、シートをあげ清掃。トレンチ11、清掃、写真撮影。トレンチ７、15付近へ現説のための周遊路設置。

12月１日（金）くもり時々晴れ　現説見学者用のルート、階段など整備。東側窯跡、煙出しから全体写真撮影。西側壁部分写真。トレンチ６、北側壁と南側壁写真撮影。トレンチ11、念のため朝の光でもう一度撮影。トレンチ10－２、煙出部と合わせて撮影。

12月３日（日）晴れ　現地説明会開催。くらしき作陽大学の学生をはじめ約250名の参加者あり。

12月５日（火）晴れ時々くもり　トレンチ７、南北軸南端、坪堀、灰色層上面が検出できたので終了。トレンチ２、南端坪堀、50㎝掘下げたところで大きな陶片にあたり、終了。最下層は16世紀初頭～前半の擂鉢。東側窯跡、部分写真をとるため掃除。西２号窯付近、掃除。

12月６日（水）晴れ
トレンチ11、物原堆積状況の確認、遺物のサンプルの選び出し。史跡地北側法面、土を入れて踏み固め養生。㈱かんこうの測量作業始まる。遺物を運搬するため、作業室東側の空き地部分の草刈。東側窯跡、日が差し込む午前９：15まで、早急に部分写真を撮る。トレンチ15、写真実測後、建水など取上げ、清掃。

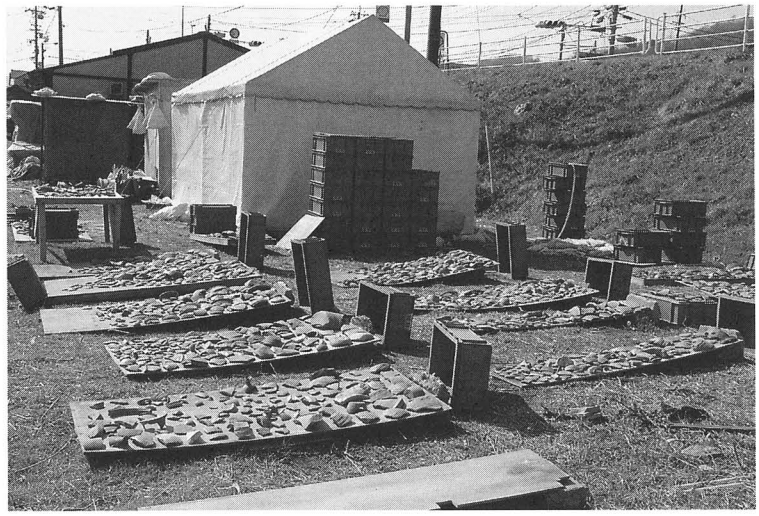
12月７日（木）くもり後雨　雨のため11時ごろ作業中止。西２号窯跡堀上写真。作業室前の遺物収納

木箱片付け。

12月11日（月）くもり

堀家氏、ラジコンヘリで南大窯跡全景を撮影。文化財サービス、作業を開始。

トレンチ７の西側がさらに崩落。今後崩落が予想されるクラック部分をくずし、埋土を除去。西壁を整える。かんこう、東側窯のプラン実測作業。



第４図　冬場屋外での遺物整理作業

12月12日（火）少雨。　降水確率70％なので現場休む。トレンチ10－２文化財サービス実測作業。かんこう、東側窯プラン実測作業。トレンチ15、土層注記。午後史跡伊部南大窯跡整備委員会開催、現地で指導を受ける。トレンチ10－２とトレンチ10の間を繋げたほうがいいのではないかとの指摘。

12月14日（木）くもり後雨　作業15時で中止。トレンチ６断面注記。文化財サービス、トレンチ１・２・７断面図作成。トレンチ10－２南へ拡張、掘下げ。トレンチ15埋め戻しほぼ完了。トレンチ７、崩落を整形。

12月15日（金）晴れ　トレンチ11注記。文化財サービス、トレンチ１・２・７断面・注記作成。トレンチ11、実測前に中央部大崩落。補修作業開始。トレンチ10－２南拡張区、床面等確認。トレンチ１・２、埋め戻し。

12月16日（土）くもり時々晴れ　かんこう、東側窯跡写真測量。文化財サービス、トレンチ７断面図作成。トレンチ10－２南拡張区、床面までほぼ全体さがる、写真撮影。トレンチ２埋め戻しほぼ終了。トレンチ６埋め戻し開始。

12月18日（月）くもり　トレンチ11大崩落、復旧は困難で現状で実測することに。文化財サービス、トレンチ10－２、トレンチ11実測。出土遺物運搬。トレンチ６埋め戻し継続。

12月19日（火）晴れ　トレンチ７注記。トレンチ６埋め戻し。

12月20日（水）晴れ　東側窯跡、１/50平板測量。トレンチ６埋め戻しほぼ終了。トレンチ10－２埋め戻し開始。

12月21日（木）くもり　トレンチ10－２埋め戻し。トレンチ11埋め戻しほぼ終了。

12月22日（金）晴れ　トレンチ11埋め戻し終了。東側窯焚口付近へ山土を寄せる。

12月25日（月）晴れ　トレンチ７埋め戻し、午前中でほぼ終了。東側窯埋め戻し。

12月26日（火）くもり後雨　雨のため14：00で作業終了。東側窯跡、２/３まで埋め戻し。

12月27日（水）くもり昼時々雨　東側窯埋め戻し、ほぼ終了。どのう袋などのゴミを環境センターへ運ぶ。「伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告Ⅱ」報告書発送。

12月28日（木）くもり時々晴れ風強し　東側窯跡埋め戻し土の上にさらにまさ土を入れる。午前中に

テント、道具小屋撤収。午後機材片付け、収納。以上ですべて終了。（写真遺物整理）

第３節　調査および報告書作成の体制

調査および報告書作成は「史跡伊部南大窯跡整備委員会」の指導の下、つぎの体制で行った。

史跡伊部南大窯跡整備委員会

委員長　河本　清（くらしき作陽大学食文化学部教授・現同大非常勤講師）

副委員長　長尾清一（備前市文化財保護審議会委員長）

間壁忠彦（倉敷考古館館長・現学術顧問）

西村　康（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター客員研究員・（財）ユネスコ・アジア文化センター文化遺産保護協力事務所所長）

肥塚隆保（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター保存修復科学研究室室長・平成18年度まで委嘱）

高瀬要一（奈良文化財研究所文化遺産部部長・平成19年度より委嘱）

指導・助言

坂井秀弥（文化庁文化財保護部記念物課主任文化財調査官）

平井泰男（岡山県教育庁文化財課埋蔵文化財班総括副参事・平成18年度まで）

光永真一（岡山県教育庁文化財課埋蔵文化財班総括副参事・平成18年度から）

成本俊治（岡山県教育庁文化財課文化財保護班総括主幹・平成18年度まで）

金田善敬（岡山県教育庁文化財課文化財保護班主任・平成18年度から）

備前市教育委員会

教育長　正宗洋三（平成17年６月～）

教育次長　杉原慶悟（平成17年７月～平成19年３月）

山本健次（平成19年４月～）

生涯学習課

課　　長　谷口富祥（平成17年３月～）

課長代理　福山哲明（平成18年４月～）

主　　査　末廣英輝（平成18年４月～）※二次調査埋戻作業総括

文化係長　石井　啓（平成16年４月～）※調査、整理担当（総括）

主　　任　福本浩子（平成16年４月～）

備前市歴史民俗資料館

学 芸 員　岩﨑紅美（平成17年４月～）※調査、整理担当

常勤臨時職員

入江津々美（平成13年４月～非常勤臨時職員～平成18年４月～）

非常勤臨時職員

草加尚子　（平成14年４月～平成17年５月・平成18年６月１日～）

松末左知子（平成17年４月～平成18年６月）

藤田洋子　（平成18年４月１日～）

資料１

平成17年度史跡伊部南大窯跡等整備連絡会

日　時：平成17年９月16日（金）18:00〜19:30
会　場：備前市保健センター３階研修室１
出席者：木村宏造（陶友会理事）平川忠（陶友会理事幹事）
　　　　柴部暁星（伊部総区長）永岡嗣雄（伊部里づくり推進の会）
　　　　長尾清一（備前市文化財保護審議会委員長）
　　　　備前市教育委員会　谷口富祥課長　石井啓文化係長
　　　　福本浩子主任

開会あいさつ
　谷口課長

①伊部南大窯跡等の保存整備基本構想案（冊子）について提示後の意見など
・北大窯跡は忌部神社を含めた文化ゾーンとして考えたほうがいいのでは。地域に親しみの持てるもの、愛着のもてるものに。→現在駐車場もない。商工や区を含めて考えていかなければ。申請の許可をもらう際、ご協力を。（事務局）
・北大窯のいちばん下の窯はどうなっている？→市指定地にはなっていないが、これから調査をしていく。（事務局）
・南大窯周辺の７ｈａについては、伊部区が購入した。筆境未定については、今専門のチームで解消作業をしている。陶里苑の下まで作業道をつけようと思う。おおきな改変をおこなうつもりがない。伐採については規模が大きいので農林水産課に申請中。東３号窯跡の北側の穴は、伐採した木を燃やすため。また、頂上を将来的に無縁墓地で公園化をしたい。→公有化できないということで、文化庁と協議してきた。分筆して公有化できるとなると、文化庁と再協議が必要になってくる。（事務局）
・将来は東３号窯の東側に実際に焼成できる窯を築きたい。東３号窯跡を生かす道を文化庁と協議してほしい。→東３号窯跡のところは、公有化前提に考えていきたい。補助率が80％のうちに実施したい。ただ、東３号窯跡と指定地間に個人の墓地があるので、公有化が可能か、文化庁とも協議をしていきたい。（事務局）
②伊部南大窯跡発掘調査について
・備前焼まつりに現場を公開する意味は。→史跡を訪れる観光客の安全の確保と史跡の広報（事務局）
・作業員募集の協力（事務局）

閉会あいさつ
　長尾文化財保護審議会委員長
　　予算が厳しいことです。

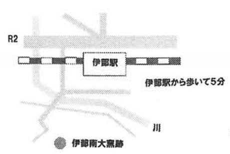
資料２

国指定史跡
伊部南大窯跡　発掘中！
見学できるよ

調査地点の備前市伊部地区一帯では、古くから焼き物の産地として知られており、現在も400をこえる窯元や作家が伝統を受け継いでいます。備前市教育委員会では、平成11年度から4回にわたって備前焼の歴史の中で最大の窯である伊部南大窯跡周辺の発掘調査を行ってきました。今年の調査でもたくさんの備前焼が発掘され、江戸時代の備前焼の窯についてさまざまな課題が解決されることが期待されています。
15日・16日両日とも発掘作業を行っています。自由に見学ができますので、お気軽にお立ち寄りください。

15日(土)9:00〜12:00　13:00〜16:30
16日(日)9:00〜13:00

・少雨決行・見学は時間内なら随時可能　調査員が発掘現場を説明します。



連絡先　備前市教育委員会生涯学習課
syougai@city.bizen.okayama.jp

備前焼の歴史と南大窯

備前焼の歴史は、平安時代の終わりごろ伊部の地に須恵器工人が移住して窯を築いたことに始まる。鎌倉時代になり、日常の容器として実用性のある強靭な陶器が求められるようになると備前焼は、壺・甕・擂鉢を大量に生産するようになる。また壺・甕の口縁も玉縁となるなど、備前焼の特徴が現れる。そして、流通圏は飛躍的に広がり、室町時代後半には畿内を中心にしてほぼ全国に運ばれている。その頃には、共同窯である大窯で生産されるようになるが、桃山時代になると南・北・西の三大窯に集約されることになる。やがて備前焼は素朴な焼味が茶人に注目されるようになり、茶会で用いられ多くの名品が生まれた。中でも桃山時代の製品は美術的に高く評価されている。

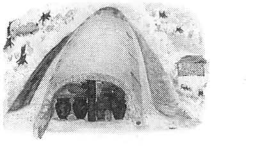
江戸時代になると、この南大窯は北・西大窯とともに岡山藩の管理下で生産されるようになり、天保年間（1830−1843）には小型の融通窯（天保窯）が築かれ、やがて大窯の時代は終わった。

備前焼の最盛期にあたる桃山時代から江戸時代の様相を物語るのがこの南大窯跡である。南大窯跡は、東窯跡・中央窯跡・西窯跡の三基の窯とそれらに伴う巨大な物原（破損品や窯道具を捨てた場所）から成っている。最大の東窯跡は全長約54mで国内でも最大規模の窯跡のひとつである。３基とも床面を少し掘り下げた上に天井を架けてトンネル状にした構造で、天井を支えるために土柱が設けられていた。その製品の多くは、壺・甕・擂鉢などの日常雑器類で、現在残る物原からみてもその生産量の多さがうかがわれる。

The history of Bizen ware originated in the end of the Heian period(794-1185),through the immigration to Inbe of Sueki Kozin who were potters of unglazed ceramic ware. People asked for durable and practical pottery for everyday use around Kamakura period and Potters had mainly produced three types of Bizen ware in large quantity. Bizen ware produced in large-scale communal kilns around Kamakura period and it wasn't until Momoyama period (1568-1600) that integrated those kilns into three major kilns; south kilns and north kilns and west kilns.that is Momoyama period was the golden age for Bizen ware. Beside this, the attension of master teacher of the tea to Bizen ware with the distinctive natural apperance and use of those in tea parties led to produce many masterpieces, that ware in Momoyama period received great artistic evaluation.

With the coming of the Edo period(1600-1867), Bizen ware were produced in Minami Ogama Kilns with other two smaller. This South Large Kiln shows the golden ages of Bizen ware from the Momoyama period to Edo period. It consists eastern kiln, central kiln, and western kiln with a huge ash pile in front of kilns respectively called monohara, which included wasters and kiln furniture, The western kiln has a length of about 54 meters it was one of the largest kilns in Japan. A long ditch was dug in the ground and it constructed a roof with clay pillars to support it. This kiln used for making vessels for everyday use, as jars, pots with wide rims, mortars and bottles. Tea sets and vases identified Momoyama era are also put high values as fine arts.

西1号窯跡・東3号窯跡・東5号窯跡復元想像図



東3号窯内部復元想像図（永井泉画）

資料３

国指定史跡「伊部南大窯跡」等の現地指導について

日　時：平成17年12月２日（金）９:40〜14:00ごろ
出席者：文化庁文化財部記念物課埋蔵文化財部門主任文化財調査官　坂井秀弥
　　　　岡山県教育庁文化財課総括副参事　平井泰男
　　　　備前市教育委員会生涯学習課長　谷口富祥
　　　　（議会のため中座）
　　　　備前市教育委員会生涯学習課文化係長　石井　啓
　　　　備前市教育委員会生涯学習課主任　福本浩子

現　地：伊部南大窯跡→西大窯跡→北大窯跡→愛が淵窯跡→グイビガ谷窯跡

●伊部南大窯跡の発掘調査について
・東側窯跡のＴ５や西側窯跡のT14については、窯構造の把握という目的意識があれば、ごく小規模な範囲で、断面にトレンチをいれてもいいのではないか。
・未着手になっている調査地点については、来年度事業としてすることも可能。ただし今回の調査のように計画倒れにならぬよう、綿密な計画を。
●伊部南大窯の追加指定について
・東側追加指定地は、現代使用の墓地等を除いた３の付近でもかまわない。ただし、地元が南側隣接地へ道路等をつけたり、山頂に墓地公園をするのであれば、榧原山と南大窯という景観が台無しになる。地元へは景観に配慮してもらうよう働きかけるとともに、場合によっては黄色部分を含む範囲に拡大して指定することも可能である。崖が連続するこの部分の位置付けとしては、備前焼生産のためや築窯時の粘土採掘場となる。
●西大窯について
・現地確認と追加指定範囲の確認
●北大窯跡について
・現地確認と追加指定範囲の確認
・指定範囲にある忌部神社は備前焼の陶祖ということで、是非入れるべきである。窯の保存と景観の保持を前提として現状変更は認める。
.●愛が淵窯跡・グイビガ谷窯跡
・中世備前焼の代表的な窯跡として現地確認。
・両者とも保存状態が良好であるし、17基が備前焼熊山古窯跡群として市指定史跡になっている。中世備前焼の国指定として、将来的にいい方向付けができると思います。
●全体を通して
・指定名称としては「備前陶器窯跡（南大窯跡、北大窯跡、西大窯跡）」が考える。
・指定理由としては、「南大窯、北大窯、西大窯はそのそれぞれ

が、近世の備前焼を代表する重要な窯跡群である」と考えられるのでは。

今後のスケジュールについて（予定）

17年度
12月下旬　伊部南大窯跡発掘調査終了
１月ごろ　「17年度第２回史跡伊部南大窯跡等整備連絡会」の開催
２月ごろ　平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡整備委員会
３月　「西大窯跡・北大窯跡測量調査概報」刊行
３月　「伊部南大窯跡周辺窯群確認調査報告書Ⅱ」刊行

18年度
７月　南大窯跡西側隣接地、備前北・西大窯跡など国へ追加指定申請
10月　第２次伊部南大窯跡発掘調査（～12月）
11月　平成17年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会
19年１月　文化審議会が指定を文部科学省へ答申

19年度
・公有化
・遺物整理→報告書作成
・基本計画の策定

資料４

平成17年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会について

日　時　平成17年12月３日(土) 13:00～15:30
場　所　備前焼伝統産業会館二階研修室
出席者　河本清委員長　長尾清一副委員長　間壁忠彦委員
西村康委員
岡山県教育庁文化財課　平井泰男総括副参事
成本俊治総括主幹
備前市教育委員会　谷口富祥生涯学習課課長
石井啓文化係係長　福本浩子文化係主任

１　開　会
あいさつ　教育長代理で生涯学習課長
合併のこと
あいさつ　河本委員長
整備の方向は？

２　協議及び報告
(1) 平成16年度第２回史跡伊部南大窯跡整備委員会から現在までの経過報告
・平成16年度第２回史跡伊部南大窯跡整備委員会について
・平成17年９月16日開催の「史跡伊部南大窯跡等整備連絡会」について
■作業道とは？（河本委員長）陶里苑へ抜ける道だが、計画自体不明。（事務局）
■作業道のメリットは？（西村委員）車で東へ抜ける道の確保。具体的構想が出てこない。
■性急な整備はやめてもらうよう事務局から協議してほしい。（河本委員長）

(2) 平成18年度事業計画について
■無計画な整備をしないよう地元協議をしっかりお願いしたい。（河本委員長）かべりだいまつの道を残さないと協議は難しいのでは。（事務局）
■かべりだいまつは新しい祭り？山肌が削られて景観がだいなし。今後の開発でさらに景観が損なわれるのが心配。下山山頂に無縁墓地公園は必要があるのか？（西村委員）
■山の頂上を開発するのはどうか。崩れるし景観がよくない。山の裏側からの道だと伊部のひとにメリットがない。（間壁委員）
■図面黄色部分を含めて追加指定を望みたい。（全員）
■崖の連続した地形は窯に関わるものに違いない。（間壁委員）
■崖面の連続は地形図から見る限り人工的ですね。（西村委員）
■その部分の整備の方法は。（西村委員）文化庁から整備はしたの窯の部分だけでよいとの指導。（事務局）
■整備は他の部署と連携をとってすすめてほしい。市全体でとりくむべきこと。（各委員）
■指定名称については「備前焼窯跡群」がいいのでは。いろんな方の意見を聞いてみる必要がある。（各委員）
■スケジュールに一部間違い。19年１月は指定告示。追加指定申請は一度にまとめてしなければならない。（平井副参事）
■指定申請は延ばすと。どんどん後になるのでがんばってやってもらわないと。（河本委員長）
■単市分の報告書は無理せず来年度でもいいのでは。（河本委員長）（間壁委員）

(3) 現地指導
■東側窯跡の煙道　西半分を掘って煙道部分の確認をしてください。
■中央窯跡　煙出部分の解釈については、色々意見があるが、幅はきちんと確認してください。
■西側窯跡　煙出部の確認を。間壁先生が測量したとき、鎌木先生がすでに、調査しているので掘ってかまわない。
■物原で一番新しい陶器片の確認を。
■現地説明会の時、陶片をもって帰られないように要注意。
■現状変更は指定地内の発掘調査であれば、多少の場所の変更は可能。

３　閉　会
あいさつ　副委員長

資料５

平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡等整備連絡会議議事要録

日　時：平成18年２月１日(水) 18:00～17:40
会　場：備前市保健センター３階研修室１
出席者：木村宏造（備前焼陶友会理事）
平川　忠（備前焼陶友会理事幹事）
柴部暁星（伊部区総区長）
永岡嗣雄（伊部里づくり推進の会）
尼子元重（大南町内会会長）
宮本俊二（備前焼商工会議所専務理事）
長尾清一（備前市文化財保護審議会委員長）
土地所有者
オブザーバー
伊部区有林関係者　土器豊　吉田たくみ
浦伊部区長　幡上義一

●協議事項
(1) 追加指定地について
・一帯を買収した。黄色部分は伊部地区の心臓部になる。黄色部分に道が通らないと西の地区が分断されてしまう。車が通れる道がほしい。４メートルの道路をつけたい。明日・明後日に重機を入れる。
・文化庁は、景観を含めた環境でないと追加指定はしない。（北・西を含め）もし景観が壊れると追加指定自体がなくなる可能性がある。調査だけで終わってしまう。（事務局）
・道は、常時車は通らない。県に見に来てもらえないか。
・具体的計画図があれば、文化庁や県と話ができる。すぐ県だけで結論がでるものではない。文化庁や県と話をせず、道を造ってしまった後に文化庁が視察に来たら、追加指定はできなくなる。黄色部分については、文化庁は追加指定もできますよ。というニュアンス。これは景観を守るため。（事務局）
・道については現地で県に説明する。協力はするが道は造る。
・先に具体的な計画図がないと。（事務局）
・景観とはどの程度のものを言うのか。判断基準はどこか。他の史跡地でも史跡を活かした公園化とかある。
・文化庁は、黄色部分は何も手を加えなくていい、という意図。（事務局）
・とにかく土を入れたい。史跡の南側で境界線の所。
・追加指定の可能性がある中で、事前協議は必要。事業の着手は事前協議なしでは難しい。文化庁までの相談が必要。追加指定緑色は確実に指定し、青色部分は一般公開する。③の東側部分で窯の上に通っている道については協議が必ず必要。他の部分は植栽な

どしていく。（事務局）
・この連絡会の初めの立ち上がりは、青色部分の整備についての意味合いだった。その後③と①の窯を含めた指定になり、今度は黄色部分と変わって、広くなってきている。
・開発時に窯が発見されたことと、最近文化庁の方針が変わってきた。面の広がりをもっての指定という具合になってきた。（事務局）
・どういった道路形態になるか出します。今も周辺を歩けるからそういった道をつけたい。
・いつ、どこで、だれが、どうするか、具体的なものが必要。それをたたき台にして話を進められる。そういった整備について計画の中に入れ込んでいけば、補助対象にもなる。
・一回書いて出します。
・文化庁に追加指定は緑色だけでいいとか言えるのか。
・何十年もほったらかしにしていたではないか。それをこちらが整備していった。指定をして何をしたいのかわからない。窯が他に出たらまた追加指定とかになるのか。（オブザーバー）
・予算的なことなどで、確かになかなか整備できなかったが、スケジュールを組んで補助等が順調にでれば21・22年にかけて整備を行う。なぜ指定が必要かということは、窯跡は後世に伝えていくために保存・保護をしていく。（事務局）
・黄色部分は景観としての追加指定か。④⑤⑥の窯の保護のためか。
・文化庁は景観として。（事務局）
・地元も一生懸命だから、道をつけるならどういう方法があるか、示してもらうほうがいい。それから具体案を出してもらえば。
・黄色部分を活かして公園化しようとした。その中心部を切り離されるのはつらい。地形をあまり変えるなということだな。
・とにかく具体的案を出してもらい、県と相談させて欲しい。（事務局）
・すぐに黄色部分をどうこうしようとは思ってない。つけられるものなら土を持って入りたい。南大窯跡は伊部地区の宝だから協力はする。大切なのは理解している。
・西側の方、全部指定してほしい。
・黄色部分は土を採ってきた範囲であり、あまりにも範囲の距離があると意味付けが必要になる。（事務局）
・青色部分上は区が管理しているので、それなりの対応ができる。緑部分について早く追加してほしいと文化庁に言えないか。
・協議等を行って努力したことが必要になる。（事務局）
・一回具体的計画を出します。石切り場を壊したりしません。景観をなるべく大切にします。

(2) 平成18年度事業計画について
・今回はここだけ指定、次はここ、という追加指定申請はできない。（事務局）
・西・北の隣接地も指定申請するのか。
・南大窯が先行して整備を進める。西・北は図面上での指定になる。これは土地所有者には話をしていない。
これから進める。（事務局）
・緑色部分が指定になると草刈等の範囲はどうなるのか。
・現在の契約の部分は青色の所。（事務局）

(3) その他
特になし

資料６

平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡整備委員会について

日　時　平成18年２月24日(金) 13:30～15:30
場　所　備前市役所二階応接会議室
出席者　河本清委員長　長尾清一副委員長　間壁忠彦委員
岡山県教育庁文化財課　平井泰男総括副参事
成本俊治総括主幹
備前市　樫本和博商工観光課長　樽家真佐人都市整備課長
備前市教育委員会　末長章彦生涯学習課長代理
石井啓文化係長　福本浩子文化係主任

１　開　会
あいさつ　河本清委員長

２　協議及び報告
(1) 伊部南大窯跡発掘調査の概要について
・中央窯跡の上部・床で一番焼けているのは？（間壁委員）
・どの面もかなり焼けている。横の壁も下までよく焼けている。窯を小さくして何回も焼いたのではないか？（事務局）
・そうでないとそんなに焼けないかな。（河本委員長）
・上の方の焚口はわかりにくいかもしれない。（間壁委員）
・東窯跡のみ煙出の部分に土管を使っている。（事務局）
・土管は貫通している？（河本委員長）
・抜けています。（事務局）
・真ん中はどうなっている？（河本委員長）
・土管は使わず真横に抜けています。（事務局）
・幅は？（河本委員長）
・３～40ｃｍ（事務局）
・調査をするといろんな事がわかるね。（間壁委員）

(2) 北大窯跡・西大窯跡について
・昨年12月、文化庁坂井調査官が現地視察。どこを追加指定するか意見を聞いた。（事務局）
・西大窯跡の字はどう読むの？（間壁委員）
・ヒガマです。（事務局）
・西・北の問題点は？（河本委員長）
・北大窯の範囲が広がった。（事務局）
・特には問題ないね。（河本委員長）
・西については？指定地にどうして⑤を入れたのか？（河本委員長）
・どうしてかわからない。（事務局）
・昔の指定はそういうことがよくある。所有者はどこにいる？（河本委員長）
・埼玉と他２名。（事務局）
・将来的に問題になるのは、③と④だね。まあ、それはまた別の話ですね。（間壁委員）
・西大窯の草刈はいつから？（間壁委員）
・数万円で委託をしている。
・きれいになっている。昔は草が茂っていた。
・西大窯について、座標指定と分筆がある。最近は筆でいくのが多いが、大きい所はやりやすい方、座標指定でもいい。（平井副参事）
・現地に入れば、問題点もあるが、指定はこういう格好でいけばいいのでは。西についても⑤は問題があるが、外してもいいのでは。（河本委員長）
・指定地除外はあまり・・・。（平井副参事）
・指定はいつ？（間壁委員）
・町村合併の時。（事務局）
・その時、書類（印鑑）はもらっているのか？（間壁委員）
・もらっていない。（事務局）
・所有者も指定地なのを知らないのでは？（河本委員長・間壁委員）
・昔は証拠がないものとか多い。こういう機会に整理するのはいい。（河本委員長）
・指定からはずす、外さないは、文化財保護審議委員会で。（河本委員長・間壁委員）

(3) 平成17年度第２回史跡伊部南大窯跡等整備連絡会について
・今までは、黄色部分と③（緑色部分）は、はずして指定とする計画だったが、伊部区が筆境未定地を買収し、協力も話によってはできる。ということだったので、文化庁坂井調査官に話をした。坂井調査官は、景観を守るために、黄色部分についても指定もできます。という話になった。（事務局）
・地元伊部区の事は、前々から聞いている。まちおこし・区おこしに一生懸命だが、これはどう扱えばいい？（河本委員長）
・そのことについて、市で進めている整備について都市整備課長より説明をお願いします。（末長課長代理）
・Ｈ11年度にある事業がストップしてから、地元と協議をしていきながらまちづくりを進めようということになった。手元にある「伊部まちづくり」は主に道路の整備。「ＢＩＺＥＮかえる」は備前焼を中心としたまちづくり。Ｈ14、15、16で整備。今までの反省を含め住民と一緒に考えることを目的に、ワークショップなどを年４回開催した。住民の意見を聞いて、伊部駅の電柱を地中へ移動させたり、公民館跡を公園化したり、案内板が少ないということで、大ヶ池・伊部交差点に案内板を、国道374号にモニュメ

ントを設置した。
今年度から来年度で、２号線は事故が多いので、旧道を歩行者がゆっくり歩ける道路整備を行う。（樽家課長）
- いんべのまちづくりの方針については、資料の５－２に載せています。そこに、南大窯も含まれている。（末長課長代理）
- いろいろ連絡ややりとりを聞いていると、今南大窯の東で進んでいるものも南大窯跡の拠点整備のひとつなのか？（間壁委員）
- 別のものです。南大窯は、新しい案内板などを事務局とタイアップして造った。（樽家課長）
- 今日、南大窯跡の写真を撮ろうと思って寄ったら、東側に２台重機が入っていた。これは、窯をぶった切るのか？（河本委員長）
- 地元も窯の位置は知っているので、ぎりぎりの所だと思う。課内で話し合ったが、国からの補助80％もらっても、20％は市の負担になる。財政にまだ話をしていないので、どうなるかはっきり言えない。窯跡の所は調査が必要だが、それ以外の所は協力を求めるという形しか言えない。（事務局）
- 文化財は住民の方の理解と協力を求めないといけない。だが、③と①部分はこの際に追加指定したほうがいい。（河本委員長）
- 道を造るとして、南大窯南側の山側の溝部分は、窯を守るための排水の溝。重要な部分であるので、ここは最低限保護が必要。黄色部分全部が指定無理なら、その部分だけでも指定をかけたらどうか。市としても財政的見通しをたてておかないと。（間壁委員）
- 医王山・不老山・榧原は、考古をやっている者にとって伊部を象徴する山である。景観は大切。（河本委員長）
- 周知の遺跡はどこまで？（平井副参事）
- 赤色部分。（事務局）
- 県のＧＩＳではどうなっているかな？周知の遺跡なら事前の届出は必ず必要。違っても、もし工事するとして、事前に調査しないと。遺跡の事を考えないと。史跡のすぐ側に道を造るのは難しい。指定地外ならすぐ側で何をしてもいいかという事ではない。整備で管理道（人が通る道）はいるから、それは考えられるが。（平井副参事）
- 聞いているのは、防火林道みたいなもの。（樽家課長）
- それと遺跡との関係を考えてほしい。（河本委員長）
- これは、かなり大きな問題をもっている。指定地のすぐ側に道を造るのは、どうか。（平井副参事）
- 伊部の方は性急な方が多い。昨日区長さんには開発の関係などがあるのでストップしてくれと言っている。今日も来ていて、担当と話をしている。話の結果を事務局に通す。（樽家課長）
- 教育委員会としては、協議をしながら、県を通して文化庁に話をしていってほしい。この問題は、これからの宿題・課題として残していこう。（河本委員長）

(4) その他
西・北大窯跡の調査概要報告書の案の提示

3　閉　会
あいさつ　長尾清一副委員長

資料７

愛らしい陶馬出土
江戸初期 類例なし 祭祀用？
備前・伊部南大窯跡
伊部南大窯跡で出土した類例のない備前焼の陶馬

資料８

急斜面に53メートル遺構
国内最大 備前・伊部南大窯跡
わが国最大規模の威容を現した伊部南大窯跡・東側窯跡

資料９

18年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会について
日　時　平成18年12月12日（火曜日）14:00～16:00
場　所　備前市市民センター４階第１会議室・現地
出席者　河本清委員長　長尾清一副委員長　間壁忠彦委員
西村康委員　光永真一総括副参事　野上茂之商工観光課長
谷口富祥生涯学習課長　石井啓文化係長
福本浩子文化係主任

1　開　会
あいさつ　河本清委員長

2　協議及び報告
（1）平成18年３月から12月までの経過報告

河本委員長	墓地の造成はどうなっている？
石井	墓地になっている。
長尾副委員長	登記はどうなっている？
野上課長	史跡の東側に市の墓地があるが一杯。指定地東側を市で造成して欲しいという要望がでたが、当時は筆境未定で無理だった。墓地造成は25㎡だと個人でも造成可能。
谷口課長	登記についてはいろいろ問題があった。
石井	指定地と接している部分が飛び地になってしまう。
間壁委員	飛び地指定はまったくだめか。
光永班長	坂井調査官の話では例外が無いわけではない。だめとういことではない。
西村委員	墓地の造成と南側の道の造成の関係は。今後の見通しは。
石井	伊部を見直す会はみどりを元に戻したいといっていたが、それが区全体の意見になるかはわからない。
河本委員長	とりあえずストップしたからやれやれと思っている。
谷口課長	区会の中でもおさまりがつかないので、もう少し時間がかかるだろう。
河本委員長	多量の樹木が伐採されているので災害が心配。
石井	スケジュールが北・西大窯の測量の関係で遅延することを報告。

（２）平成19年度の事業計画について

間壁委員　　スケジュールが相当きついね。

石井　　遺物はポイントになるものをピックアップすることになる。

間壁　　整理をうまくやっていかないと。南大窯については大方わかった。その内容が報告書になることが重要。

石井　　物原の断面、トレンチ６が予定のところまで掘れていない。

河本委員長　　作業場が狭い。収蔵もどうするか。今後の課題。盗難にでもあった大変。

石井　　昨年度420箱、今年度400～500箱。作業スペースがない。

（３）現地指導

西村委員　　トレンチ10－２と10の間は続けてほって、断面図作成や写真を撮ったほうがいい。

間壁委員　　トレンチ６の断面は詳細なものを作成する必要はない。おおよそのことがわかればいい。

３　閉　会

あいさつ　長尾清一副委員長

資料10

資料11

19年度第１回史跡伊部南大窯跡整備委員会について

日　時　平成19年２月15日（金曜日）14:20～16:20

場　所　備前市役所２階応接会議室

出席者　河本清委員長　長尾清一副委員長　間壁忠彦委員
西村康委員　高瀬要一委員　光永真一総括副参事
横山雅一商工観光課長　樽家真佐人都市整備課長
谷口富祥生涯学習課長　石井啓文化係長
福本浩子文化係主任

１　開　会

あいさつ　河本清委員長

２　協議及び報告

（１）平成20年２月までの経過報告と追加指定までの予定

●北大窯について

北大窯の1101－２の窯については余裕を持たせたほうがいいのでは。（西村）

もう少し余裕をもってふくらませたほうがいいのでは。（河本）

忌部神社とつながる平坦部があったほうがいいのでは。（西村）

忌部神社を指定地にいれると現状変更が必要なので、指定地にいれないほうがいいのでは。また法面も含めて範囲にいれるほうがいいと思う。（高瀬）

忌部神社と天津神社は別法人なのか。村の人の思いや宗教法人としてどうなっているのか。（間壁）

神社である限り公有地化は不可能では。神社本庁の意向もあるのでは。（樽家）

神社の建物など将来問題にならないようよく確認してください。（河本）

神社地の問題はよく確認します。1101－２の窯は範囲を拡大します。（事務局）

●西大窯について

凹地はなんですか。凹地の真ん中に線が引いてあるのは。（西村）

1034－２は市指定地だが、現況庭で窯から大きく外れているので、国指定時にはずしてもいいのでは。（事務局）

（２）発掘調査報告書について

各委員から、断面図の標記方法や表現方法、文章中の事実誤認、物原など用語の使用についてさまざまな意見が出される。

（３）その他

都市再生整備計画の骨子を説明。（樽家）

追加指定後の名称について（光永）「備前大窯群」などの意見が出る。伊部という呼称は全国的にわかりにくい。（各委員）

３　閉　会

あいさつ　長尾清一副委員長

第３章　東側窯跡の調査概要

第１節　位置と調査の概要

東側窯跡は、国指定史跡地内の一番東側、標高18mから34mの北向きの緩斜面に立地する。国指定を受ける以前から長大な凹地が確認され、全長約50m、幅５mの巨大な窯があることが推定されていた。また、標高18m地点にある昭和36年に設置された石柱から、南側上方10m以上にわたって両側の窯の壁とも露出しており、その幅から長大な窯があることは動かない事実として受け取られていた。長大な凹地の両側には、それと並行する方向で比高差５～10mの小山状の高まりがあり、構成している陶片や窯道具から長大な物原（不良品や窯道具を廃棄した場所）があると想定されていた。また、平成13年４月の、当時奈良文化財研究所埋蔵文化財センター遺跡調査技術研究室室長西村康氏による磁気探査と地中レーダー探査の結果、窯跡の中軸線上に並ぶ複数の土柱が指摘されていた。その結果や表面観察をもとに発掘調査へ移行した。

調査は窯跡の構造、正確な規模を確認することが目的である。平成17年度の調査では、すでに作成してある地形測量図をもとに地表観察の結果を加味し、トレンチの位置を決定した。窯内外の構造を追及するため、東側窯のトレンチは、幅１mで、窯に対して横断、縦断する５m～10m前後の長さの３地点を設定した。草木除去後、地表面を観察した結果、先の石柱（焚口付近と想定）から約25m南上方に、円弧状に窯壁状の仕切りが確認できたため、この地点をトレンチ４、石柱に近接する焚口推定部分をトレンチ３、上方の煙出想定部をトレンチ５とした。いずれのトレンチも窯壁から３～４m窯外に延伸するように設定し、覆屋の柱穴や溝など窯に付随する施設の有無を確認した。トレンチ５の西側窯内では、床面の構造をより詳細に解明するため、最小限の断ち割りを設定した。さらに、西側物原の南端部と地山の確認のため、トレンチ２を設定した。

平成17年度の調査では、大窯の基本的な構造や規模を確認した。しかし、側壁からの出入口を検出できなかったため、平成18年度調査は東側窯全面にわたって表土を10～20㎝程度掘り下げ、壁を地表にわずかに露出させ、全体の観察をとおして窯の平面プランや横方向の出入り口の有無などを確認した。

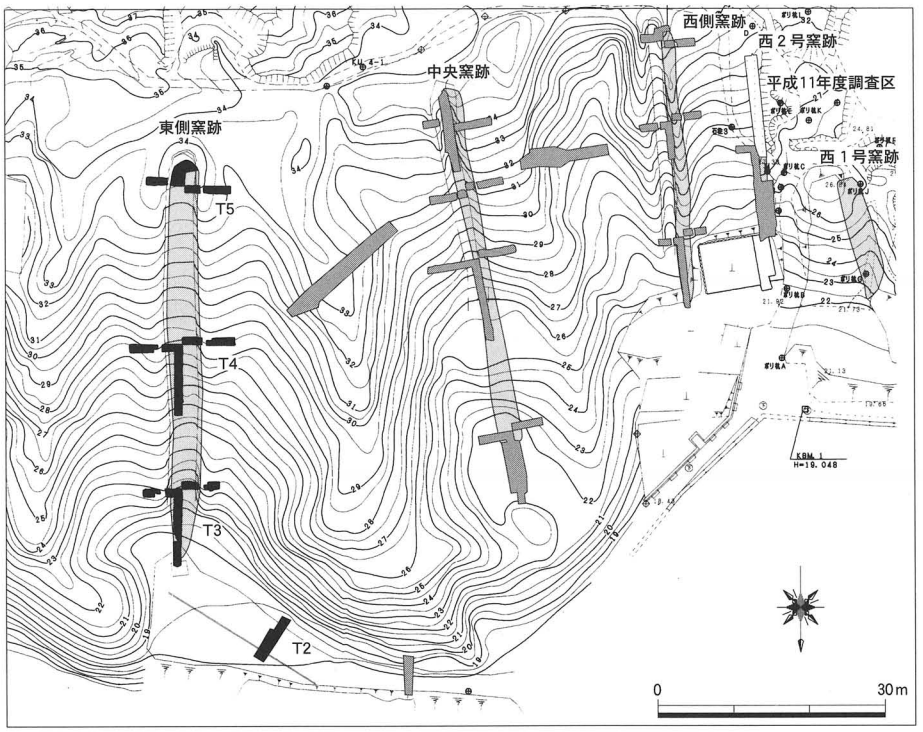
第２節　遺構の概要

１．窯体構造

概要　窯体は、ほぼ全体が地上に構築された地上式の窖窯で、焚口部から煙出部までほぼ良好に残存している。

全長は水平距離51.4m、斜距離53.8m、幅は3.8～５mを測る。燃焼室と焼成室を区切る柱の位置や床面の傾斜角度から、燃焼室は斜距離で3.4mとなる。燃焼室の平面形は逆三角形を呈している。窯跡群の中では大型の部類に相当する。

傾斜角度は、トレンチ３で確認した燃焼室では焚口から1.2mまでほぼ平坦で、そこから急に傾斜



第５図　東側窯跡トレンチ配置図（Ｓ＝１/1000）

が変わる。トレンチ３の焼成室は、燃焼室に近い北側は９度、南側は15度である。トレンチ４の焼成室が18度、トレンチ５の煙出部が17度で、窯全体の傾斜角度は約17度である。主軸ほぼ南北を向いている。各焼成室を仕切る隔壁は確認されておらず、単房である。

トレンチ４の北端で、トレンチ３で確認された焚口部から南上方の標高25m付近から、別の焚口が確認された。上述した焚口と同様に平面形はやや円弧状の逆三角形を呈す。東側窯の途中に焚口を設けて築かれたこの窯は、全長が水平距離で33.3m、斜距離で34.5m、窯全体の傾斜角度は16度を測る。トレンチ４で確認した燃焼室床面の傾斜角度は５度である。燃焼室西側壁には、２本の土柱が確認されており、もともと窯内に立てられていた土柱が、新たな燃焼室構築際に移動したものであると考えられる。

煙出部は、排煙孔に近づくほど徐々にせまくなり、丸く収められている。排煙設備は５箇所を確認できた。中央に位置する排煙孔は、縦長のベース形を呈し、高さ80㎝、最大幅43㎝を測る。その排煙孔の上部に、２箇所の土管を利用した排煙孔と、また主軸から約30㎝離れた床面付近にも２箇所の土管を利用した排煙孔を検出した。土管を利用した小型の排煙孔は、左右対称に位置している。

側壁　窯全体で、直立もしくは内傾して約１m前後残存している。両側壁は煙出に向けてほぼ平行に延びており、寸胴形を呈する。一部壁の上面に平滑な面が現れており、窯壁の構築単位を示していると考えられる。本来に直立に構築されていたが、床面に近い箇所でも部分的に内傾している。これは、窯の改修もしくは天井や壁が崩壊した際に内傾したものであると考えられる。

煙出部から10mほど北下方の西側の壁で、粘土を充填したような痕跡と∧状の間隙が２箇所認められ、それを幅１mの出入口部分と現時点で認定した。この地点以外の出入口や投薪孔は、複数回にわたる改修によって粘土が貼付されることにより、同定できなかった。

窯外側の壁は、赤色から橙色の色調で焼締まっている状況が看取できる。トレンチ５の両側で、窯壁を支持するための裏込めの礫が数箇所認められた。東側側壁焚口の壁は３層で、２度修復しており、そのうち１回は焚口先端のみのごく小規模の改修も行われたことも判明した。窯壁の厚みは、平面的に確認すると、45㎝前後である。壁は改修のため数層に及んでおり、被熱した部分も含めると、断面では厚みは１ｍほどになる部分もある。燃焼室と焼成室の間の部分でも、造り替えの壁が検出されており、この部分でも度重なる修復が行われていることが分かる。

床面　燃焼室の床面は５層確認でき、いずれも十分焼締まり黒色を呈す。東側窯の焚口は、改修する度に徐々に短く、窯の内側に側壁を構築していき、幅を狭くしている状況が確認できた。南下方に位置する古い床面に対応する焚口部の側壁は、検出できなかった。

燃焼室の床面は、黒褐色のガラス質で硬く焼き締まっているのに対し、煙出部付近の床面は、赤色で燃焼室ほど焼締まっていない。また、煙出部西側の窯内の断割りで合計５層の床面を確認するに至った。煙出部の第４層橙色土と第６層明赤褐色土は、最終操業に伴う第３層明赤褐色土の床面以前に築かれた床面と見られ、床面直上には陶板などの陶片を多く含む。

柱　燃焼室と焼成室の間に位置する柱は３本で、それぞれ隅丸のベース形を呈す。およそ長さ90㎝、幅70㎝を測り、焼成室の天井を支える土柱よりやや大きい。燃焼室は窯の中で最高温度に達するため劣化しやすく、焼成室の天井を支える柱より丈夫な構造でなければならなかったと考えられる。

焼成室の天井を支える中軸上に並んだ柱は、29本検出することができ、窯全体で37本以上の柱で支えられていることが推定できた。土柱はほぼ１ｍ弱の間隔で規則的に並んでおり、直径約50～60㎝、高さは遺存状態が良い箇所で50㎝を測る。

また、燃焼室から南へ約15ｍの地点で、西側窯壁方向に土管を芯にし、その外側を粘土で補強した柱が３本検出された。この柱は、直径20㎝の土管に５㎝幅の粘土が貼り付けられている。この３本の柱は天井を補助的に支える役割があったと考えられる。また、その柱と対応するように両側の側壁で若干内側に入る壁が認められた。この地点に燃焼室を設け、窯の長さを短くし、全長約25ｍの窯に改窯した遺構であると考えられる。

２．窯の埋没状況

窯の内部の堆積層は、赤褐色の被熱した土に窯壁片などを含む。これらの層は混入する窯体片、礫、焼土の多少について差異を含むものの、窯の内部に堆積する点が共通し、被熱した天井部などが窯の崩落に伴って窯内に流入したものと見られる。

煙出部では、床面の上層から平面的に一部薄い炭化物の層が広がっていることが確認されたが、詳細は不明である。

３．窯内の遺物の出土状況

トレンチ４の焼成室の床面直上では、最終操業時に利用された陶板が広がっている様相がみられる。また断面が三角形になる粘土紐を直接床面に円形に貼り付けた焼台が確認され、礫などとともに焼成を行う際に製品を据えるために利用したと考えられる。

トレンチ５の窯の内外で焼成不良の擂鉢や甕、陶板などが出土していることから、最終操業は焼成途中に何らかの理由で焼成を中断したか、窯が崩落した可能性がある。

４．窯外部の堆積状況

物原　各トレンチの窯の外部では、多量の廃棄された製品と焼土が堆積している。トレンチ４東側の層内に灯明皿のみが出土する箇所が見られ、器種ごとに焼成しまとめて廃棄している様相も認められる。トレンチ５では、地山が標高32mの地点で検出された。窯内のほぼ同じレベルで床面が確認されており、煙出付近のみ地山を整地した後に窯を構築した可能性がある。

トレンチ５の東西で深さ40㎝前後の３箇所の小規模のピットと、トレンチ４の東側で１箇所のピットが認められる。これらの遺構がどのように機能したかについては不明である。

溝状遺構　トレンチ４では第４・５層にぶい黄橙色土を掘り込み面として、現存幅約1.4m、深さ約１mの溝状遺構を検出した。煙出部から焼成室に向かって、溝が窯から離れていく位置関係になる。これは、雨水などの排水を目的にしたものであると考えられる。

５．西側物原北端部（トレンチ２）

掘り下げを行い物原の土層を精査した結果、土質や土色、遺物が包含される量などの差異から11層に分層することができた。

第２層明赤褐色土の直上で、大甕が１個体直立し据えられた状態で出土した。甕の底部東側には甕を安定させるための約10㎝大の礫が置かれている。大甕の内部から人骨・有機物は検出されなかった。この大甕は、東側窯西側の物原の土留めとして利用されていたと考えられ、この甕の左右に同様の甕が配置されている可能性がある。

地山は、第11層にぶい黄褐色土である。トレンチ３で確認した焚口の第１床面検出面より下層に位置し、東側窯を構築する際に地山が掘りこまれていないことから、焚口からトレンチ４付近までは地上に構築された地上式の窯であることが確認できた。ここでは中央窯で焼成したと考えられる16世紀前半の擂鉢や東側窯の操業開始時期を示す17世紀初頭ころの擂鉢などが出土している。

第３節　遺　　物

出土した遺物はすべて備前焼である。今回記述する遺物は東側窯の内外から確認されたもので、窯の外側で検出したものが多い。窯内には陶板などの窯道具は多数散見されるが、製品の量は相対的に少ない。主な遺物は、擂鉢、徳利、灯明皿、灯明受皿、窯道具などである。厳密に器種構成を検討していないが、窯道具をのぞく製品では擂鉢、灯明皿、灯明皿受などの比率が高いようである。

１．トレンチ２出土（第10図）

１～４は擂鉢である。**１～３**は口径が30㎝前後で、ナナメすり目をともなわないタイプである。これは乗岡編年の近世２ａ期、17世紀前半である。東側窯の操業開始時期を反映している遺物と考えている。**４**はトレンチ最下部の坪堀時に確認した擂鉢で、間壁編年Ｖ期、乗岡編年中世６期ａ～ｂ、重根編年ＶＡ期で16世紀前半から中頃に比定される。トレンチ最下層から出土しており、中央１号窯の操業期間を反映していると考えている。**５**は小振りの建水で、底部に「⬭」の陶印がある。**６**は徳利で胴部に「○」の陶印がある。

2．トレンチ３出土（第11図・第12図）

７～11が窯内から出土した遺物で、７・８レンガ色をした器壁の厚い大型の甕で、７の胴部には特徴的な文様が押されている。９・10は窯道具で、10の穴あき匣鉢（さや）は粗い胎土である。11は高台のある大型の擂鉢で近世５期ａ、19世紀前半と考えられる。

12・13は窯の東外側トレンチ地表下60cmで出土した遺物で、12は近世２期ｂ、17世紀第３四半期と考えられる。13は口径が42cmほどの寸胴の甕である。

14～19は窯西側地表下80cmの範囲で出土した遺物である。14は灯明受皿、15は香合の身の部分と考えられ、ヘラで丁寧に調整されている。16は出土数が少ない細工物で、動物の種類は不明である。17・18は径が10cm程度の極小型擂鉢で、精良な胎土が用いられ、細かなすり目が施された非常に丁寧な作りの製品である。19は１点のみの小片で、図面上で復元した脚付の鉢である。脚は獅子の頭がモチーフになっており、土型で抜いたものを貼り付けたものと推定される。

3．トレンチ４出土（第13図・第14図）

20～24は、トレンチ４内で新たに確認された窯の焚口床面上から出土した遺物である。20は比較的摩滅の少ない土型からおこされた寿老人の貼り型を、くぼませた胴部に貼り付けた人形徳利である。21は毛亀モチーフにした絵皿、22は径が25cmほどの鉢、23は「㊦」のヘラ描きのある径23cmの土管、24は窯道具の匣鉢である。

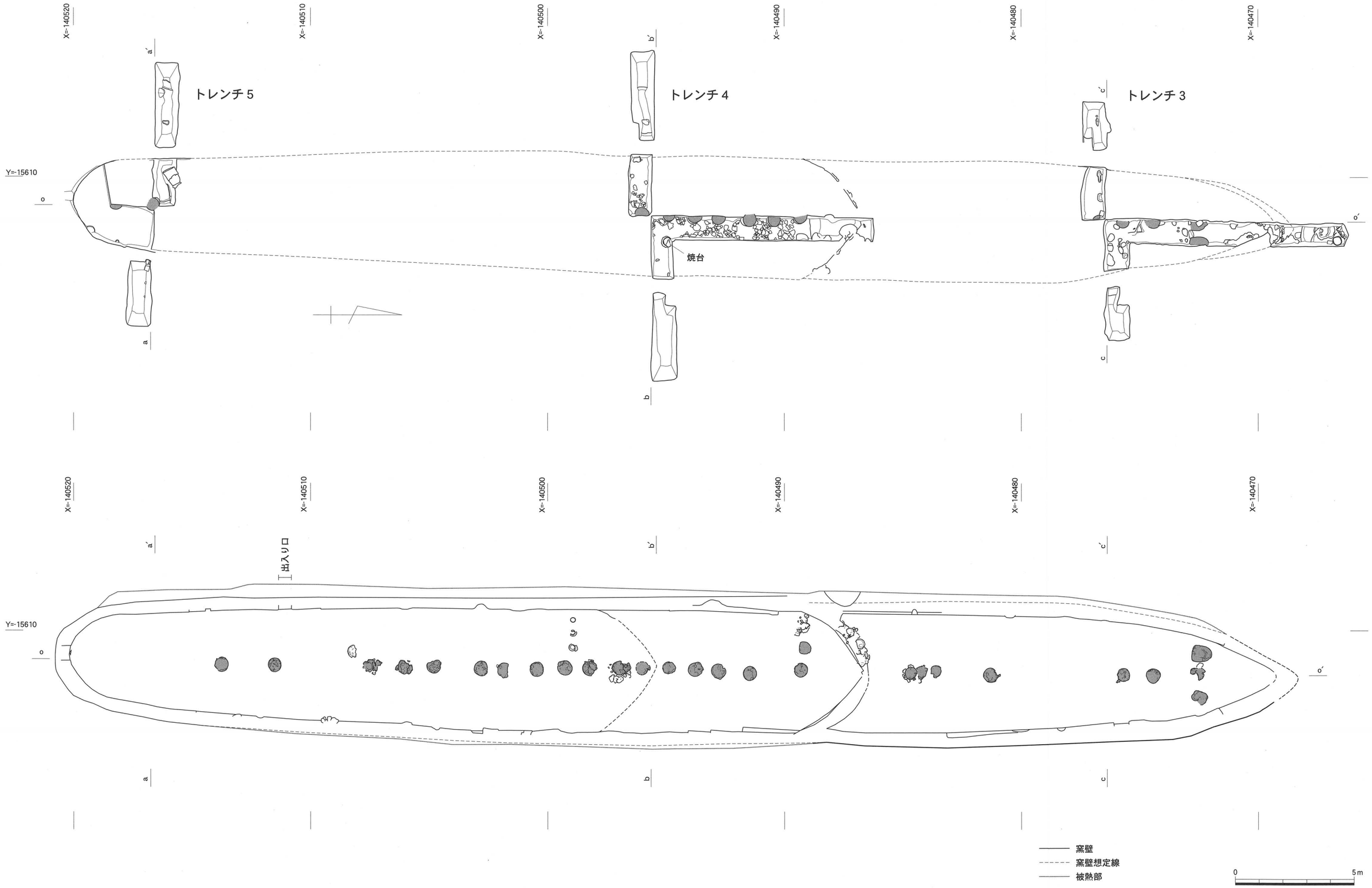
25～31は主に窯の東外側のトレンチで確認された遺物で、最下層から地表下240cmの灯明皿26と近世２期ｂの擂鉢30が出土している。25・26は灯明受皿で、26は口縁部の受け部に半円形の孔をもつ珍しい個体である。27は胴部に恵比須を貼り付けた人形徳利、28は人形徳利の布袋の貼り型の一部で、凹凸があり丁寧なつくりとなっている。よって、江戸後期に普遍的にみられる摩滅の激しい布袋などを貼り付けた初源的な人形徳利は、７cmを超えるような布袋などを貼り付けた28のような個体であったと考えられる。29・30・31は擂鉢で、29・30が近世２期ｂ、31が近世３期ａごろと考えられることから、確認された地表下170cmから240cmの間は、17世紀半ばから18世紀前半ごろの堆積と推定される。

32～37は主に窯の西側のトレンチで確認された遺物で、最深は地表下190cmの人形徳利35と灯明受皿33である。32は灯明受皿で、34もほぼ最下層で出土した人形徳利の布袋貼り型の一部である。36・37は擂鉢で、36が近世３期ａ、37が近世２期ｂ～３期ａごろと考えられる。

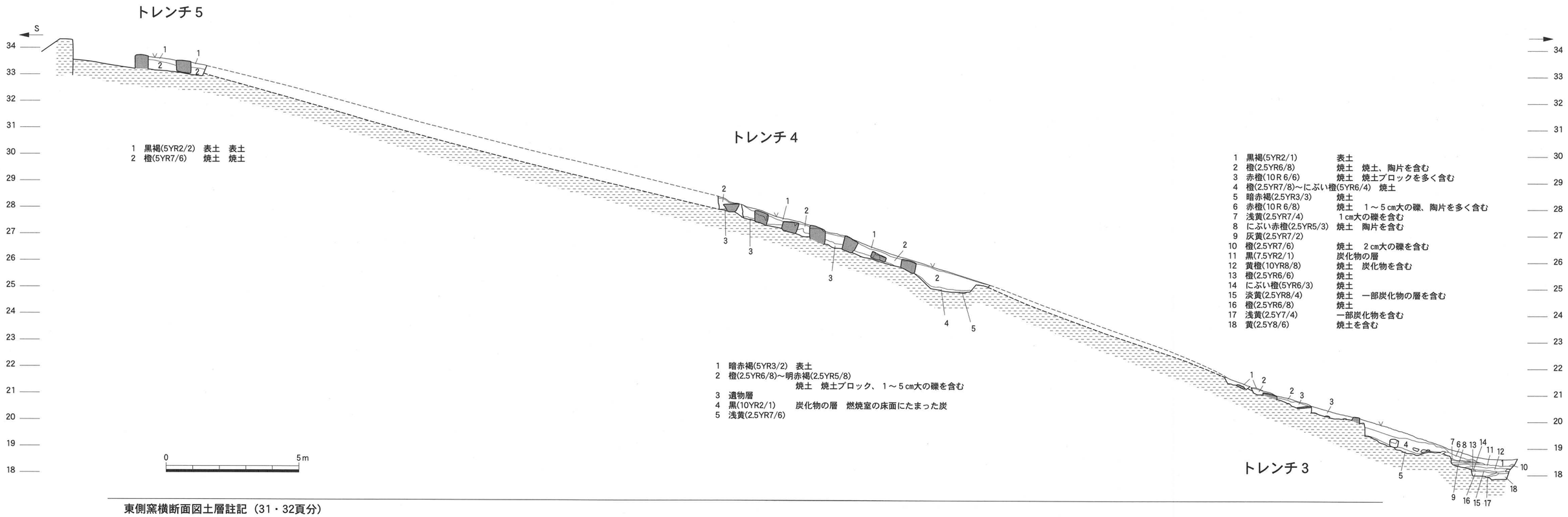
4．トレンチ５出土（第15図・第16図）

38～45が東側窯の煙出しの床面で検出されたもので、東側窯最後の焼成の時期を反映していると考えられる。38・39は徳利の口縁部、40は灯明皿、42～45は窯道具の匣鉢である。46～52は煙出付近の埋土中から出土したもので、焼成不良品が目立つ。一部には先述の床面の破片と接合するので、この一群の遺物も東側窯最後の焼成時期をある程度反映していると考えている。46・47は徳利底部と推定される。48は蓋で、49は極小型の甕である。50・51は擂鉢の焼成不良品で、近世５期ｂごろと考えられる。52は大型の匣鉢の焼成不良品である。

53～55は窯の東外側、57～61は窯の西外側で出土した遺物である。54・55・61は擂鉢で、54・61が近世２期ａ～ｂで、17世紀の半ばを中心とする時期と考えている。53・58～60が灯明皿や受皿、56は匣鉢である。



第6図　東側窯跡平面図（S＝1/150）



東側窯横断面図土層註記（31・32頁分）

トレンチ５窯内

1　黒褐(5YR2/2)　表土
2　橙(5YR7/6～7/8)　焼土
3　明赤褐(5YR5/6)　床面　直上に陶板焼土ブロックと被熱礫を多く含む　陶片を少量含む
4　橙(5YR7/6)　床面　直上に陶板、遺物を少量含む
5　明赤褐(5YR5/8)　床面　焼土ブロックと10～15cm大の被熱礫を多く含む　陶片を少量含む
6　明赤褐(2.5YR5/6)　床面
7　明赤褐(5YR5/6)　焼土

トレンチ４東窯外

1　にぶい黄褐(10YR7/2)　表土　表層に陶片がちらばる
2　にぶい黄褐(10YR5/3)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を少量含む
3　にぶい黄褐(10YR5/4)　焼土　焼土ブロック、遺物、３cmの小礫を含む
4　にぶい黄褐(5YR5/4)　焼土　焼土ブロックを多く含む　炭化物、陶片を少量含む
5　にぶい黄褐(10YR3/4)　焼土　焼土ブロック、陶片を少量含む
6　にぶい黄褐(10YR5/3)　焼土　焼土ブロック、陶片を少量含む　３cmの小礫を含む
7　にぶい黄橙(10YR6/4)　焼土　焼土ブロック、陶片を少量含む
8　にぶい黄褐(10YR8/3)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を少量含む
9　にぶい黄橙(10YR6/4)　焼土　焼土ブロックをやや多く含む 陶片を少量含む
10　にぶい黄橙(10YR7/4)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を少量含む
11　にぶい黄橙(10YR5/4)　焼土　焼土ブロックを少量含む
12　にぶい黄褐(10YR5/4)　焼土　焼土ブロックをやや多く含む　炭化物、３cmの小礫を少量含む
13　にぶい黄褐(10YR5/4)　陶片を極めて多く含む
14　にぶい黄褐(5YR5/6)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を含む
15　明赤褐(2.5YR5/6)　被熱層
16　明赤褐(2.5YR5/6)　窯壁

トレンチ４窯内

1　暗赤褐(5YR3/2)　表土
2　明赤褐(2.5YR5/8)　焼土　焼土ブロック、３～５cm大の礫を含む
3　明赤褐(2.5YR5/8)　焼土　焼土ブロック、３～５cm大の礫を含む
4　赤(10R 4/6)　焼土　焼土ブロック、３～５cm大の礫を含む
5　にぶい赤褐(5YR4/3)　焼土　下層に多くの陶片、礫を含む

トレンチ４西窯外

1　にぶい黄褐(10YR7/2)　表土　表層に陶片がちらばる
2　褐(10YR4/6)　焼土　焼土ブロック、陶片をやや多く含む
3　褐(10YR4/6)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を多く含む
4　にぶい黄橙(10YR7/4)　焼土　焼土ブロック、１～３cm小礫を含む
5　明赤褐(2.5YR5/8)　焼土　炭化物、陶片をやや多く含む
6　にぶい黄橙(10YR6/3)　焼土　焼土ブロック、陶片を含む
7　にぶい黄橙(10YR6/3)　焼土　焼土ブロック、陶片を多量に含む
8　にぶい黄橙(10YR5/3)　焼土　焼土ブロック、陶片をやや多く含む　３cm大の被熱礫を含む
9　にぶい赤橙(5YR4/4)　遺物層　３cm大の被熱礫を含む
10　にぶい黄橙(10YR6/4)　焼土　焼土ブロック、陶片を少量含む　10～15cm大の礫を含む
11　褐(7.5YR4/3)　焼土　焼土ブロックを含む　陶片を少量含む
12　明赤褐(2.5YR5/6)　被熱層
13　明赤褐(2.5YR5/6)　窯壁

トレンチ３東窯外

1　にぶい黄褐(10YR7/2)　表土　表層に陶片がちらばる
2　にぶい黄褐(10YR7/3)　陶片を含む
3　黒(10YR2/1)　炭化物の層
4　にぶい黄褐(10YR7/3)　焼土ブロック、陶片、３cm大の被熱礫を含む
5　黒(10YR2/1)　炭化物の層
6　にぶい黄褐(10YR7/3)　焼土
8　にぶい黄褐(10YR7/3)　焼土
7　黒(10YR2/1)　炭化物の層
9　明赤褐(2.5YR5/6)　陶片、焼土を含む
10　にぶい黄褐(5YR5/4)　焼土
11　明赤褐(2.5YR5/6)　炭化物を少量含む
12　明赤褐(2.5YR5/6)　遺物を少量含む
13　黒(10YR2/1)　炭化物の層
14　明赤褐(2.5YR5/6)　陶片を少量含む
15　明赤褐(2.5YR5/6)　被熱層
16　明赤褐(2.5YR5/6)　窯壁

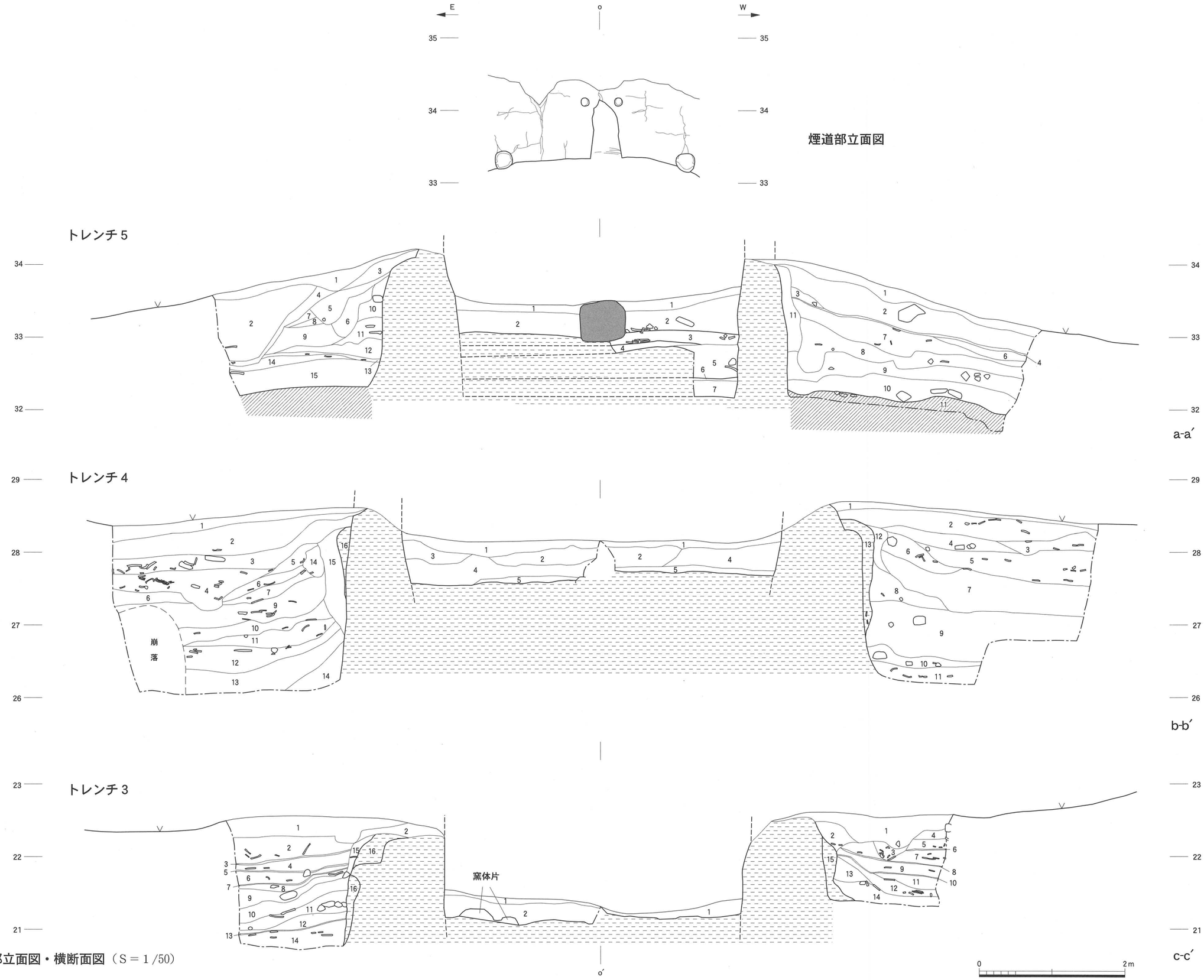
トレンチ３窯内

1　黒褐(5YR2/1)　表土
2　橙(2.5YR6/8)　焼土　焼土、陶片を含む

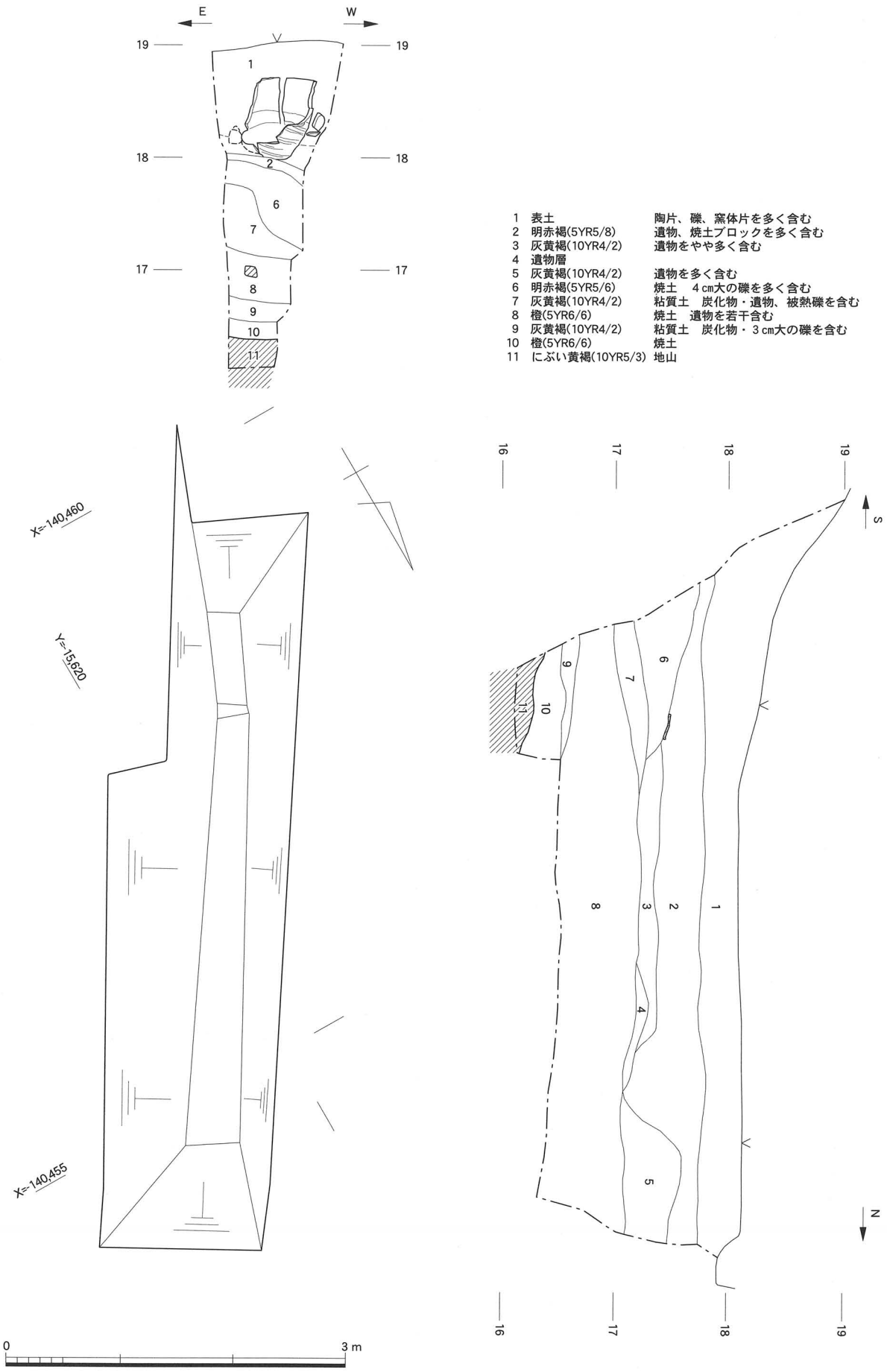
トレンチ３西窯外

1　にぶい黄褐(10YR7/2)　表土　表層に陶片がちらばる
2　明赤褐(2.5YR5/6)　被熱層
3　にぶい黄褐(10YR5/3)　焼土　焼土、陶片を少量含む
4　にぶい黄褐(10YR5/3)　焼土　焼土、４cm大の被熱礫含む
5　灰黄褐(10YR4/3)　焼土　陶片、４cm大の礫を含む
6　黒(10YR2/1)　炭化物の層
7　にぶい黄褐(10YR7/3)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を少量含む
8　黒(10YR2/1)　炭化物の層
9　にぶい黄褐(10YR7/3)　焼土　焼土ブロック、炭化物、陶片を少量含む
10　黒(10YR2/1)　炭化物の層
11　にぶい黄褐(10YR6/3)　焼土　焼土ブロックを含む
12　明赤褐(2.5YR5/6)　焼土
13　にぶい赤橙(5YR4/4)　陶片を多く含む層　３cm大の被熱礫を含む
14　明赤褐(2.5YR5/6)　焼土
15　明赤褐(2.5YR5/6)　窯壁

第７図　東側窯跡主軸断面図（S＝1/150）

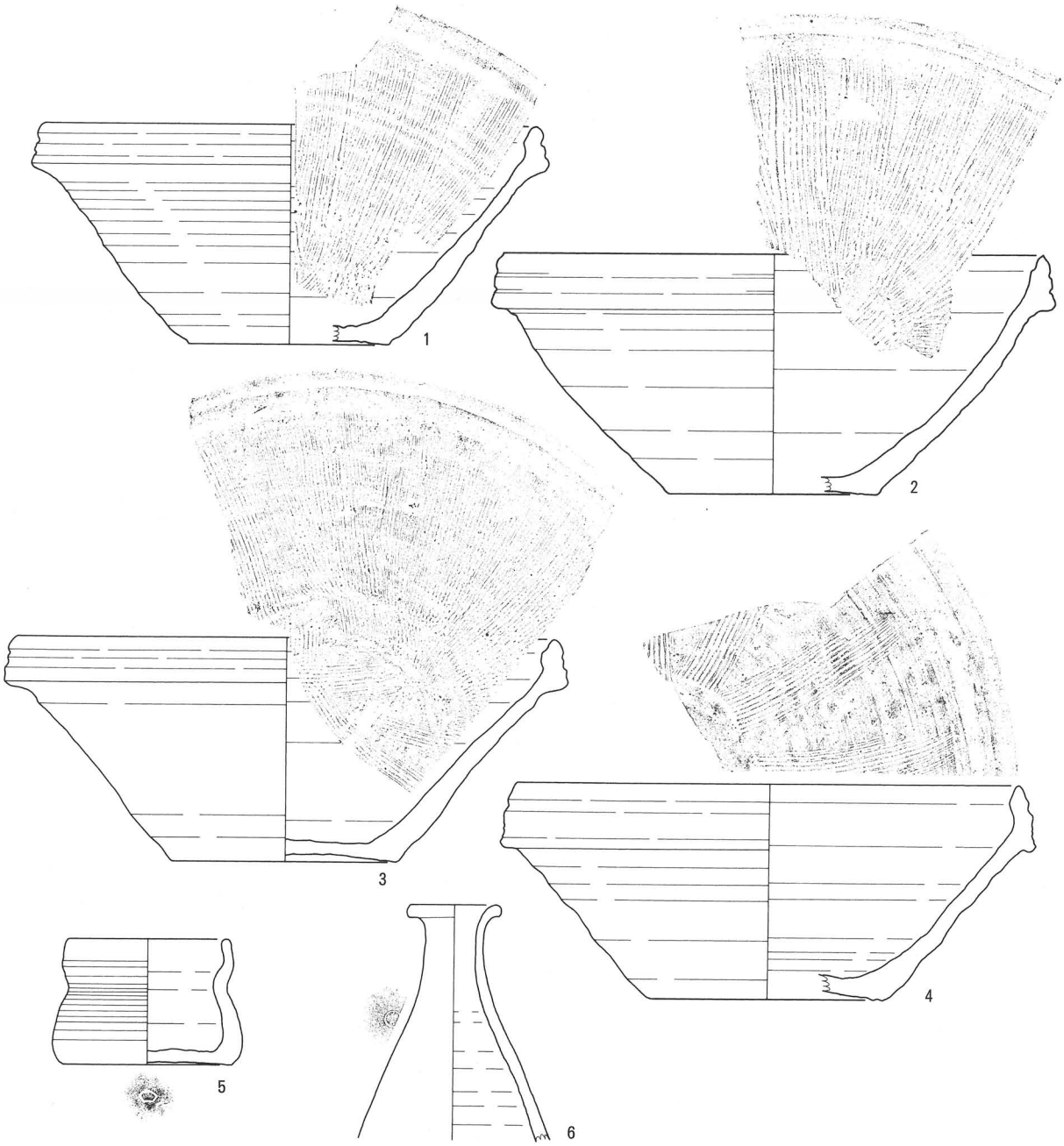


第８図　東側窯跡煙道部立面図・横断面図（S＝1/50）

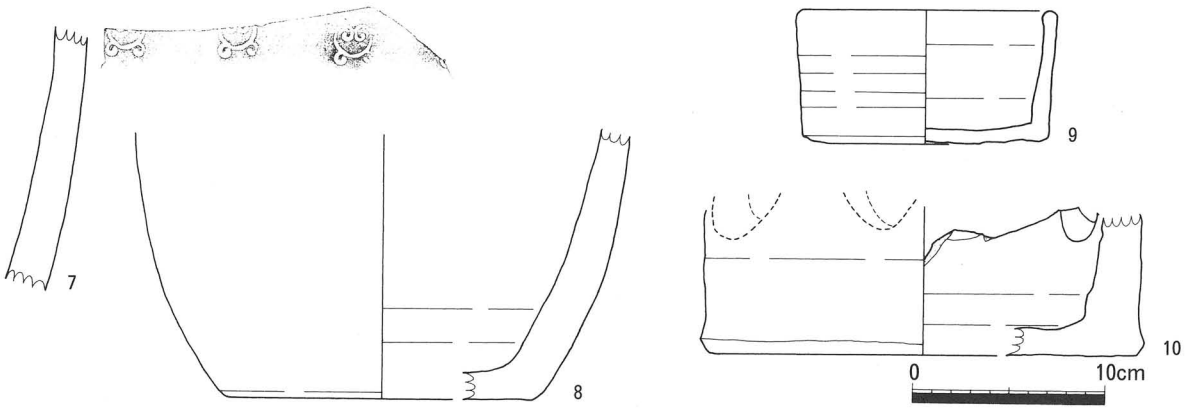


1	表土	陶片、礫、窯体片を多く含む
2	明赤褐(5YR5/8)	遺物、焼土ブロックを多く含む
3	灰黄褐(10YR4/2)	遺物をやや多く含む
4	遺物層	
5	灰黄褐(10YR4/2)	遺物を多く含む
6	明赤褐(5YR5/6)	焼土　４㎝大の礫を多く含む
7	灰黄褐(10YR4/2)	粘質土　炭化物・遺物、被熱礫を含む
8	橙(5YR6/6)	焼土　遺物を若干含む
9	灰黄褐(10YR4/2)	粘質土　炭化物・３㎝大の礫を含む
10	橙(5YR6/6)	焼土
11	にぶい黄褐(10YR5/3)	地山

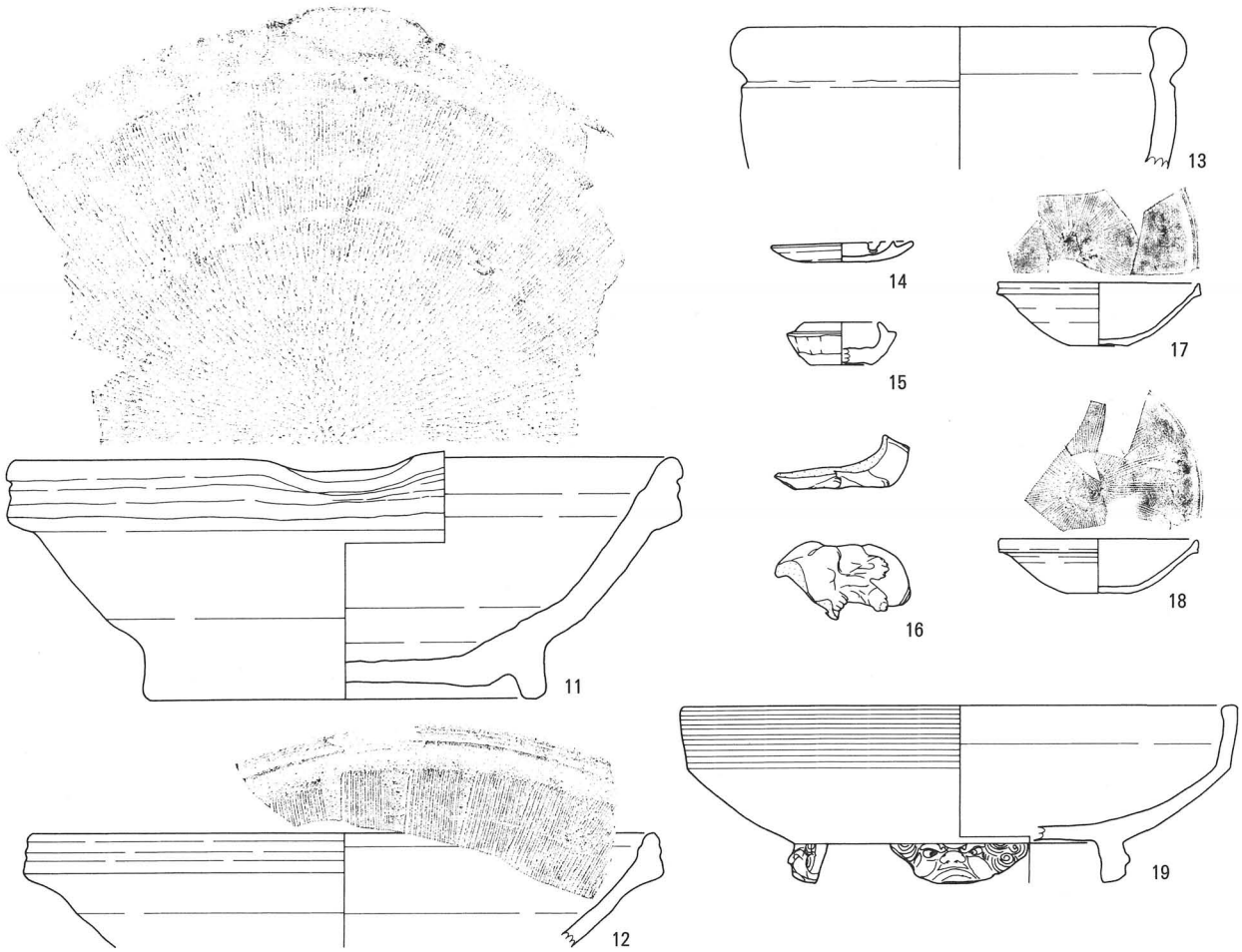
第９図　トレンチ２平面図・断面図（S＝1/50）



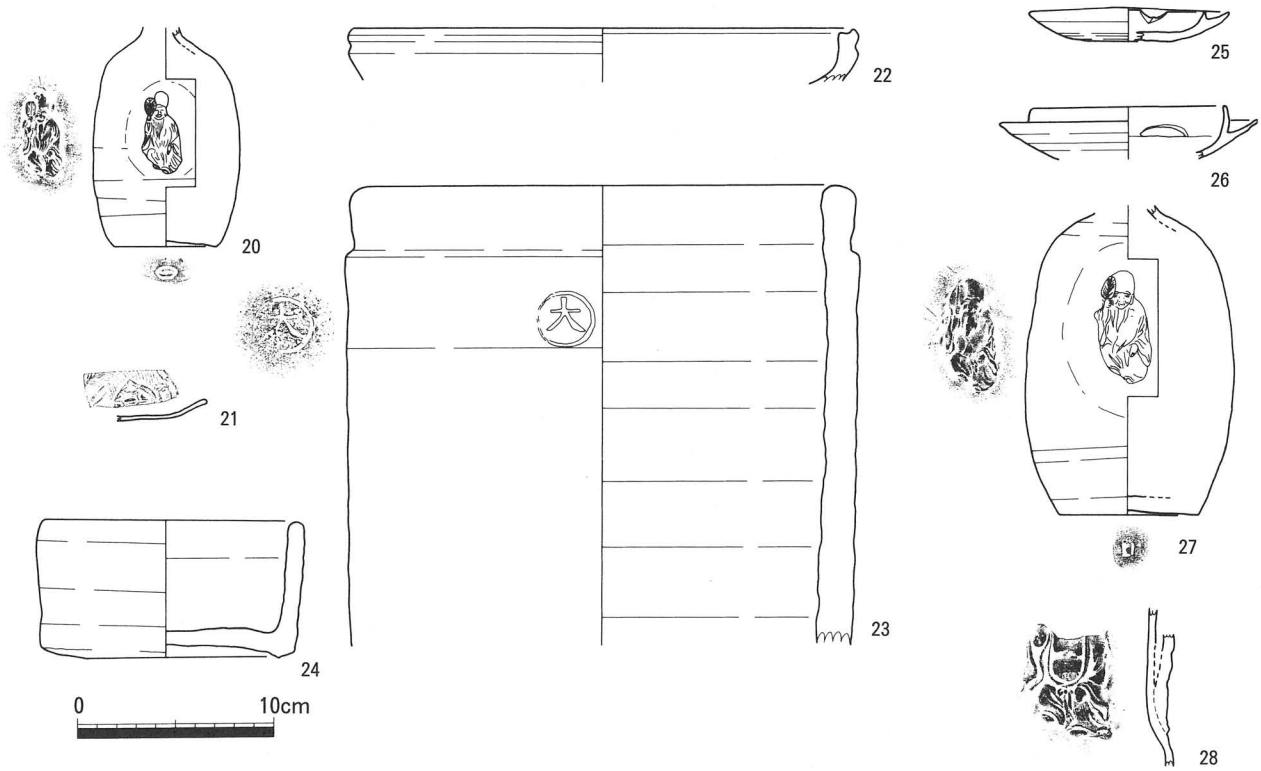
第10図　トレンチ２出土遺物（1/4）



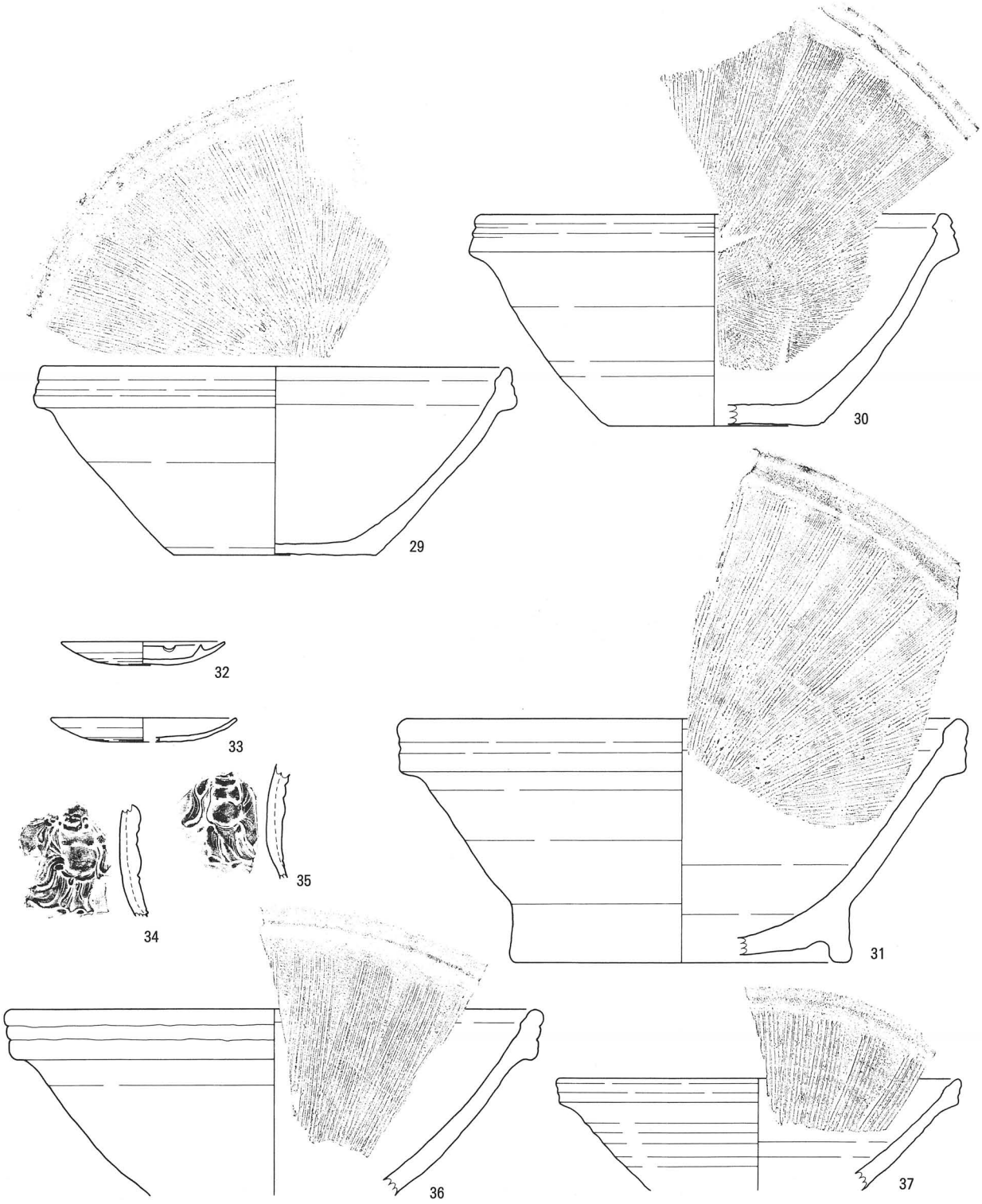
第11図　トレンチ３出土遺物１（1/4）



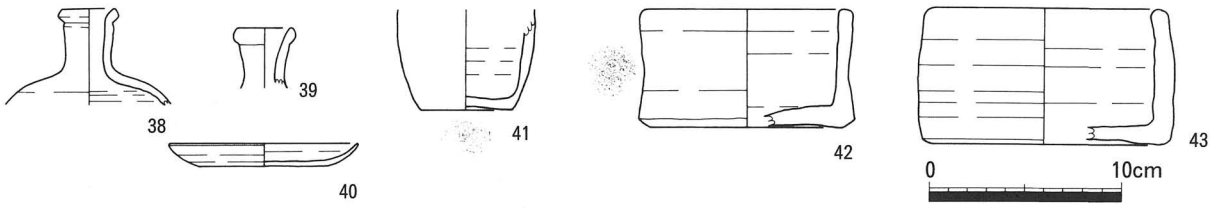
第12図　トレンチ３出土遺物２（1/4）（13は1/8）



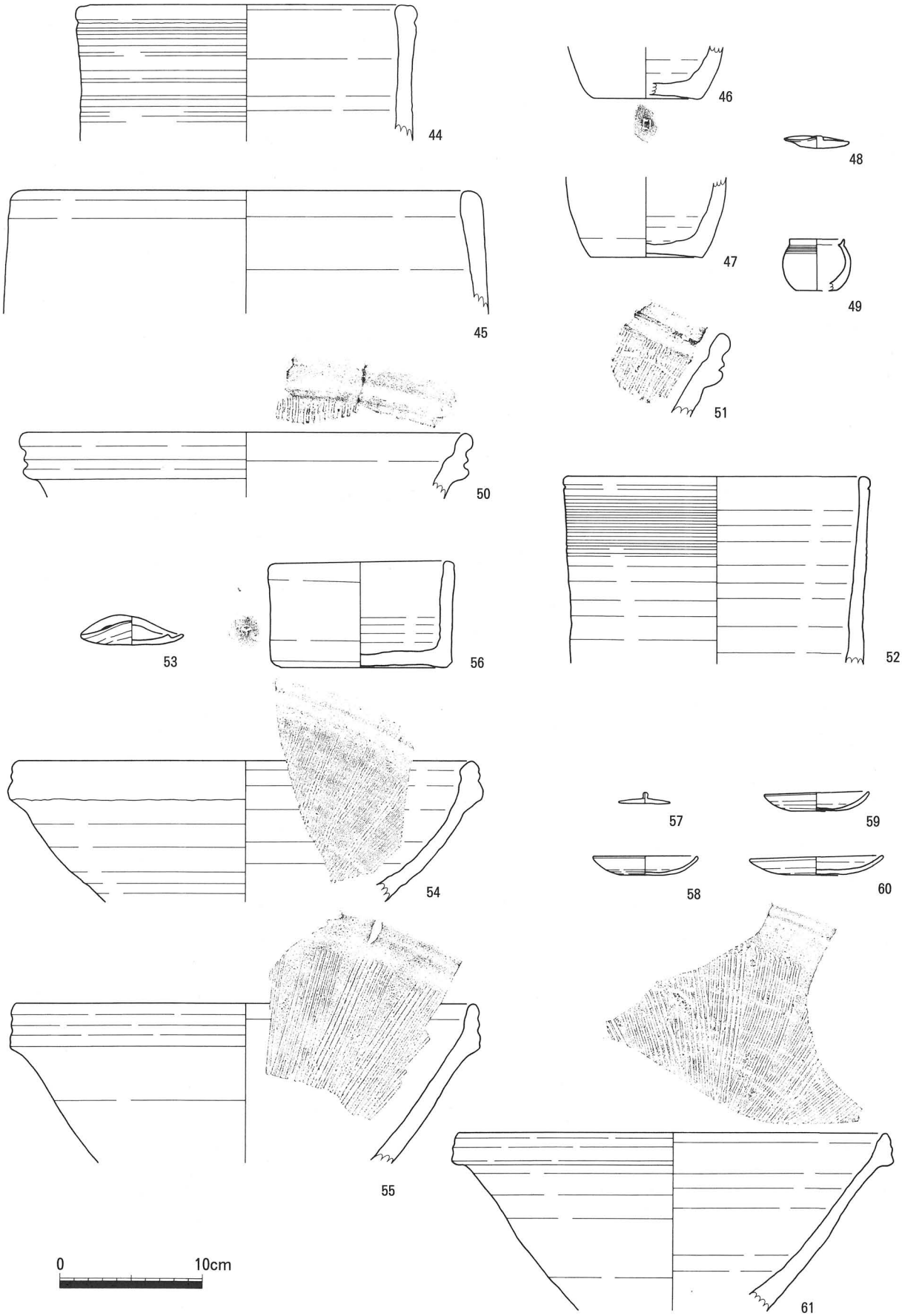
第13図　トレンチ４出土遺物１（1/4）



第14図　トレンチ４出土遺物２（1/4）



第15図　トレンチ５出土遺物１（1/4）



第16図　トレンチ５出土遺物２（1/4）

トレンチ２（第10図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
1	擂鉢	MO2-T2-南-17.28～17.08	061020	1/5	29.0	13.1	11.7	30.6	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/2 灰褐 外面：10R 4/2 灰赤			近世 ２期ａ	すり目： 27mm幅　8本 ＊ロクロ目顕著
2	擂鉢	MO2-T2-南-17.08～16.88	061020	1/5	31.8	14.3	12.2	33.2	0.1～1.5mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙			近世 ２期ａ	すり目： 33mm幅　9本
3	擂鉢	MO2-T2-北-17.28～17.08	061019	1/3	31.6	13.3	13.1	33.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐			近世 ２期ａ	すり目： 28mm幅　12本
4	擂鉢	MO2-T2-南端-坪堀(2)-16.33～16.13	061205	1/5	29.4	12.8	13.6	31.6	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	やや不良	内面：10R 6/8 赤橙 外面：10R 6/6 赤橙			Ⅴ期・ 中世６期 ａ～ｂ・ Ⅴａ	すり目： 33mm幅　11本
5	建水	MO2-T2-北-17.985～17.6	061019～	2/5	9.2	7.5	10.0	11.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：10YR 4/1 褐灰		底部に陶印：「〇」		
6	徳利	MO2-T2-南-17.28～17.08	061019	口縁部	5.0	(13.9)	-	-	0.1～1.0mm位の褐色粒を多く含む 0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10YR 6/3 にぶい黄橙 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐（塗土）		胴部に陶印：「〇」		

トレンチ３（第11図・第12図）

7	甕	MO-T3-東-焚口床近	051019	胴部一部分	-	(13.2)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 3/6 暗赤 外面：2.5YR 3/6 暗赤褐（塗土）		文様あり		
8	甕	MO-T3-東-焚口床上	051215	底部1/4	-	(13.8)	15.8	-	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤（塗土） 外面：10R 4/6 赤（塗土）				
9	匣鉢	MO-T3-東-焚口床近	051019	1/3	12.5	7.0	11.8	13.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
10	穴あき匣鉢	MO-T3-東-焚口床上	051215	底部1/3	-	(7.8)	22.2	-	0.1～2.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐				
11	擂鉢	MO-T3-東-焚口内	051215	1/3	33.2	12.8	19.5	34.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐、 7.5YR 6/4 にぶい橙 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐			近世 ５期ａ	すり目：不詳 ＊溶着痕あり
12	擂鉢	MO-T3-東-窯外-60下	051024	口縁部1/4	31.4	(5.8)	-	32.4	0.1～1.0mmの黒色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の白色粒を少し含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙			近世 ２期ｂ	すり目： 26mm幅　11本
13	甕	MO-T3-東-窯外-60下	051024	口縁部1/8	42.0	(14.4)	-	-	0.1～1.0mm前後の褐色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 2/2 極暗赤褐				
14	灯明受皿	MO-T3-西-窯外	051021	ほぼ完存	6.9	1.0	-	7.1	0.1mmの白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				
15	香合	MO-T3-西-窯外	051020	1/2	3.8	2.1	3.0	5.4	0.1～1.0mm前後の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 5/3 赤褐				＊１点のみ
16	細工物動物	MO-T3-西-窯外-60	051025	1/3	最大長 6.8	(2.7)	最大幅 4.0	-	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10YR 2/1 黒				＊細工物は個体数少ない
17	小形擂鉢	MO-T3-西-窯外-80	051027	1/3	10.2	3.2	3.0	10.4	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				すり目： 8mm幅　7本
18	小形擂鉢	MO-T3-西-窯外-80	051027	1/4	10.0	2.8	3.2	10.2	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5Y 4/1 黄灰 外面：10YR 4/2 灰黄褐				すり目： 8mm幅　7本
19	脚付鉢	MO-T3-西-窯外 サブトレ-40～60	051104	1/4	26.8	9.1	16.8	28.0	0.1～0.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤				＊脚数は復元

トレンチ４（第13図・第14図）

20	人形徳利	MO-T4-南北軸-焚口床面	051215	頸部欠損	-	(11.2)	5.3	7.4	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/1 黒褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤		底部に陶印：「〇」		センターひずみあり ＊寿老人比較的良く型が摩滅していない
21	絵皿	MO-T4-東-南北軸北-初戸内	051020	一部分	-	1.1	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：7.5YR 5/2 灰褐		中国の亀		
22	鉢	MO-T4-東-南北軸北-初戸内	051020	口縁部1/8	25.2	(2.7)	-	25.8	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐				
23	土管	MO-T4-窯内東-土柱?	051216	上部1/3	23.2	(23.3)	-	26.0	0.1～3.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：5YR 4/4 にぶい赤褐		胴部に陶印：「㊋」		
24	匣鉢	MO-T4-東-南北軸北-初戸内	051020	4/5	12.8	6.9	11.5	13.6	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mmの黒色粒を多く含む	良好	内面：7.5R 3/2 暗赤褐 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐				
25	灯明受皿	MO-T4-東-窯外－190	051111	1/3	10.1	1.7	-	10.2	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤（塗土） 外面：7.5R 4/2 灰赤				
26	灯明受皿	MO-T4-東-窯外－240	051117	口縁部1/3	12.9	(2.7)	-	13.1	0.1mm前後の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐（塗土） 外面：10R 4/4 赤褐				＊受部に穿孔のある珍しい個体
27	人形徳利	MO-T4-東-上層（物原）	051014	頭部欠損	-	(15.7)	7.0	10.5	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 3/2 暗赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐（塗土）		恵比須の貼り型底部に陶印：「上」		

表１　東側窯跡出土遺物観察表（１）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
28	人形徳利	MO-T4-東-窯外－140～160	051109	胴一部のみ	-	(8.1)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）		摩滅していない布袋の貼り型		
29	擂鉢	MO-T4-東-窯外－170	051109・10	1/2	29.8	12.4	13.0	31.2	0.1～1.0mmの褐色粒を含む 0.1～1.0mmの白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/2 灰赤 外面：2.5YR 6/3 にぶい橙			近世 2期b	すり目： 25mm幅　9本
30	擂鉢	MO-T4-東-窯外(西)-240	051118	1/3	29.8	13.9	13.6	31.6	0.1～1.0mmの褐色粒を多く含む 0.5mm前後の黒色粒を含む 0.1～1.0mmの白色粒を少量含む	やや不良	内面：7.5YR 7/6 橙 外面：10YR 8/6 黄橙			近世 2期b	すり目： 25mm幅　10本
31	擂鉢	MO-T4-東-窯外-220	051117	1/4	35.4	16.0	21.4	36.8	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 6/6 赤橙			近世 3期a	すり目： 23mm幅　10本
32	灯明受皿	MO-T4-西-窯外-100	051024	2/3	10.5	1.5	-	10.6	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤（塗土）				
33	灯明皿	MO-T4-西-窯外-190	051107	1/3	11.8	1.6	-	12.0	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土） 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
34	人形徳利	MO-T4-西-窯外-180	051104	胴一部のみ	-	(7.3)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）		摩滅していない布袋の貼り型		
35	人形徳利	MO-T4-西-窯外-190	051107	胴一部のみ	-	(7.0)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5Y 4/1 灰 外面：2.5Y 4/2 暗灰黄（塗土？）				
36	擂鉢	MO-T4-西-窯外-120	051028	口縁部1/6	34.0	(12.2)	-	35.0	0.1～0.5mmの白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 5/6 赤			17C後 近世 3期a	すり目： 27mm幅　10本
37	擂鉢	MO-T4-西－窯外－190	051107	口縁部1/6	25.8	(7.3)	-	26.2	0.1～0.5mmの白色粒を多く含む 0.1～0.5mmの黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙			近世 2期b～ 3期a	すり目： 19mm幅　7本

トレンチ５（第15図・第16図）

38	徳利	MO-T5-東-床上	051016	口縁部のみ	2.7	(5.0)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	上面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 下面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
39	徳利	MO-T5-西拡-煙出床直上	051208	口縁部一部欠損	2.8	(3.1)	-	-	0.1mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：5YR 7/6 橙				＊東側窯最後の焼成品
40	灯明皿	MO-T5-西拡-煙出床直上	051208	1/10	9.7	1.2	6.6	9.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐（塗土） 外面：2.5YR 5/6 明赤褐				
41	徳利?	MO-T5-東-床上	051016	底部のみ	-	(5.2)	4.8	-	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 6/8 橙 外面：7.5R 4/4 にぶい赤（塗土）		底部に陶印：「[illegible]」		
42	匣鉢	MO-T5-東-床上	051016	1/4	10.2	6.2	10.0	11.2	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：10R 5/6 赤		胴部の陶印：「Ⓨ」		
43	匣鉢	MO-T5-西拡-煙出床直上	051208	1/4	11.6	8.1	12.2	13.3	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：7.5YR 5/4 にぶい褐				
44	匣鉢	MO-T5-東-床上	051016	口縁部1/8	22.0	(9.5)	-	-	0.1～1.0mm位の褐色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐、2.5YR 4/1 赤灰				
45	匣鉢	MO-T5-西拡-中央煙道内 MO-T5-西拡-煙出床直上	051205～051208	口縁部1/5	31.0	(8.7)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.5～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 5/4 赤褐				
46	徳利	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	底部3/4	-	(3.6)	7.3	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 8/4 浅黄橙 外面：5YR 6/6 橙		底部に陶印：「上」		＊東側窯最後の焼製品
47	徳利?	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	底部2/3	-	(5.6)	7.8	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：10YR 8/3 浅黄橙 外面：7.5YR 7/3 にぶい橙				＊東側窯最後の焼製品か?
48	蓋	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	ほぼ完存	-	0.9	-	4.6	0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	不良	上面：5YR 6/6 橙 下面：10YR 8/3 浅黄橙				＊東側窯最後の焼製品
49	小形甕	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	1/3	3.8	3.6	2.9	4.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：5YR 6/6 橙				＊天保期に近い製品あり ＊東側窯最後の焼成品
50	擂鉢	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	口縁部1/8	30.8	(4.6)	-	31.8	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.5mm位の褐色粒を含む	不良	内面：5YR 6/6 橙 外面：7.5YR 6/6 橙			近世 5期b	＊19C代擂鉢 ＊東側窯最後の焼成品
51	擂鉢	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	口縁部一部分	-	(5.8)	-	-	0.1～1.0mm位の褐色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：7.5YR 7/4 にぶい橙 外面：7.5YR 7/4 にぶい橙			近世 5期b	＊19C天保期に似る ＊東側窯最後の焼成品
52	匣鉢?	MO-T5-東-煙道中埋土	051016	口縁部1/10	41.0	(26.3)	-	-	0.1～1.0mm位の褐色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 7/4 にぶい橙 外面：5YR 7/4 にぶい橙				＊東側窯最後の焼製品か?
53	灯明皿	MO-T5-東-窯外	051021	9/10	7.1	2.1	-	7.2	0.1mm前後の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5R 4/4 にぶい赤				＊歪みが著しい
54	擂鉢	MO-T5-東-窯外	051025～27	口縁部1/8	31.8	(9.9)	-	33.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.5mm前後の白色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐			近世 2期b	すり目： 28mm幅　14本
55	擂鉢	MO-T5-東-窯外-100	051027	口縁部1/10	32.0	(11.2)	-	33.0	0.1～1.5mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5YR 4/2 灰褐			近世 4期?	すり目： 30mm幅　10本
56	匣鉢	MO-T5-東-窯外	051021	9/10	12.2	7.5	12.1	13.1	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙		胴部に陶印：「Ⓨ」		

表１　東側窯跡出土遺物観察表（２）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	最大径（cm）	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
57	蓋	MO-T5-西-窯外	051020	9/10	-	0.8	-	3.6	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	上面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：10R 5/4 赤褐				
58	灯明皿	MO-T5-西-窯外-上～	051019	1/2	7.2	1.3	-	7.4	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤橙				
59	灯明皿	MO-T5-西-上層	051013	1/2	7.3	1.4	-	7.4	0.1mm位の黒色粒を含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：7.5YR 7/6 橙				
60	灯明皿	MO-T5-西-窯外-上～	051019	3/4	9.2	1.4	-	9.4	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 5/4 赤褐				
61	擂鉢	MO-T5-西-窯外-窯壁裏	051025	口縁部1/10	29.9	(12.5)	-	31.0	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/6 赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙			近世２期 a～b	すり目： 31mm幅　9本

表１　東側窯跡出土遺物観察表（３）

第４章　中央窯跡の調査概要

第１節　位置と調査の概要

中央窯跡は、国指定史跡地内の中央やや南西より、標高26mから34mの北向きの緩斜面に立地する。指定を受ける以前から、全長25m、幅２m前後の凹地が確認されていて、同規模の窯の存在が推定されていた。昭和18年、26年に桂又三郎氏により実施された調査で紀年銘のある遺物が出土したことから、16世紀末からの操業と考えられている（桂又三郎1952)。中央窯跡付近は窯体を構築しうる傾斜地以外に、ややその下方に傾斜がゆるくなったほとんど平坦に近い地形も有している。中央窯焚口付近には100㎡のテラスを有する。西村康氏による磁気探査とレーダー探査の結果からも、中央窯と関連する窯体や作業場の可能性が指摘されていた。

中央窯跡の東側は、先述の巨大な物原が南北に走り、その西側は比高差が３～４mの崖になり、西側窯との間に幅約10mの溝をなす。

調査は窯跡の構造、正確な規模を確認することが目的である。平成17年度の調査は、地形測量図をもとに凹地やテラスなどの地表観察の結果も加味し、トレンチを設定した。トレンチは、窯内外に幅１m、窯に対して横断、縦断する５m～10m前後の長さで３地点を設定した。焚口と想定されるテラス部分にトレンチ８、窯中央部をトレンチ９、煙出部をトレンチ10とした。中央窯想定位置の北側のテラス部分の性格を把握するため、中央窯跡軸線延長線上にトレンチ７を配置した。

トレンチ７については調査期間内では実施が困難になり、18年度調査とした。17年度調査時、トレンチ10内において、性格不明の被熱した段状の床面が検出された。その床面の構造の原因を究明するため、平成18年度にトレンチ10から10m北側へトレンチ10－２の調査区を設定し、17年度の発掘調査のトレンチ10をトレンチ10－１と変更した。調査の結果、トレンチ10－２から、昨年度確認した煙出より新しい時期に構築された別の煙出を検出した。トレンチ10－１とトレンチ10－２の間については、T10－２南拡張区を設け未発掘部分を調査し、２つの煙出部の層位的関係を確認した。

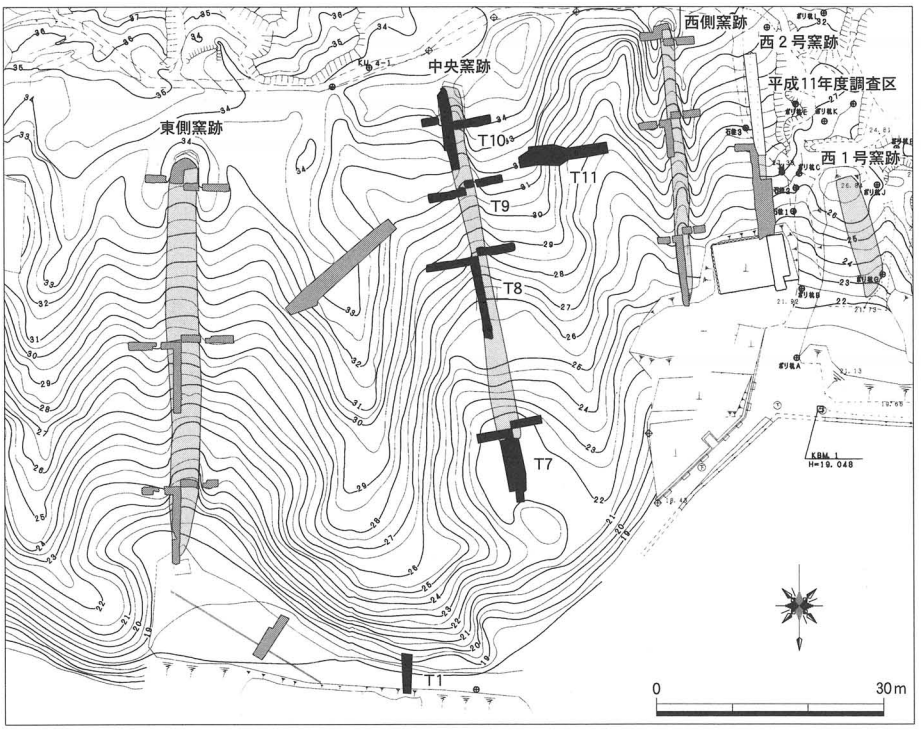
また中央窯跡北側の通り道付近にトレンチ１を設定し、物原端部の確認を行った。

第２節　遺構の概要

中央窯跡からは、２基の窯体が重なるように検出された。ここでは、ほぼ同じ場所に位置する新旧の窯について、16世紀を中心に操業した窯を中央１号窯、18世紀の短期間に操業した窯を中央２号窯と仮称する。

１．１号窯の窯体構造

概要　地上式の窖窯で、焚口にごく近い燃焼室部分と煙出部、西側壁を反映している石列が確認された。それ以外の部分は２号窯の下に位置しているため詳細は不明であるが、２号窯を構築する際に一部破壊されていると考えられる。



第17図　中央窯跡トレンチ配置図（Ｓ＝１/1000）

規模は、残存長が水平距離47.6m、斜距離48.8m、幅は焚口が4.5m、煙出部が２ｍを測る。窯跡群の中では大型の部類に相当する。床面の傾斜角度は、煙出部は約12度、窯全体では15度である。主軸はほぼ北北東を向いている。各焼成室（房）を仕切る隔壁は確認されておらず、単房であると推定できる。

煙道部は排煙孔の50㎝手前で急に角度を変え、丸く収められている。排煙設備は１箇所確認できた。残存高50㎝、幅30㎝で、排煙孔上部は残存していない。

床面　　トレンチ７南端で焼締まった床面を検出し、それより北側がすべて物原であることを確認した。この床面はほぼ平坦で、トレンチ10－１で確認された煙出に対応する窯の燃焼室付近である可能性が高い。また、この床面の西端では、窯壁の下部を補強する礫と粘土層が確認された。窯壁を補強した粘土の西端から、残存している床面の東端までは4.5mを測り、東側が若干削平されていることを考慮すると、燃焼室付近の床面の幅は約５ｍ弱であったと考えられる。

トレンチ７の南壁断面では、検出した床面より下部に灰色系の第10層（第１床面）が認められ、２回の床面の貼り変えが想定できる。それより下部の床面は、検出した床面より北側に位置していたと考えられ、検出した第１床面の時期が、中央１号窯の規模が最大だった時期にあたる。これは対応する物原から考慮すると16世紀末ころから17世紀初頭ころと考えられる。

この床面の下の第13層黒色土下で複数のピットが検出された。これらの遺構は、ピット内埋土に主に炭化物が構成されていることから、除湿の機能や排水溝としての利用、またある焼成段階で覆屋が存在した可能性を示唆している。

第33層、第38・42層、第46・47層といった厚い焼土層と褐灰系の土層の互層状単位が３回認められるため、３度の大規模な窯の改修が行われた可能性がある。

また煙出部床面は、少なくとも５回以上の床面の貼替えが確認できた。検出した最上部の床面から最下部の床面までは90㎝を測る。煙出部の側壁と床面は、２号窯の構築によって損壊しており、その分断されている部分の床面は階段状を呈している。段上の床面は、表面が被熱しており、２号窯の操業中に二次的に熱の影響を受けた結果と考えられる。

側壁・柱　トレンチ８西側の窯外で南北方向の石列を検出しており、トレンチ10－１の煙出部とトレンチ７で検出した床面に対応する１号窯の西側側壁と考えられる。トレンチ８西側、１号窯の東側側壁は、２号窯の構築によって損壊している。

１号窯の柱は確認されていない。しかし、東３号窯や不老山東窯跡で土柱やその可能性が指摘されていることから、長大な窯の天井を支える土柱が存在した可能性が考えられる。

２．窯内外の遺物の出土状況

トレンチ７西側の窯内のほぼ床面直上から、陶製の錘が出土した。また、窯の外側の物原上層では主に擂鉢、徳利などの多量の製品が廃棄されている。表土層からは、17世紀初頭の擂鉢が出土している。

トレンチ10－１の窯外の最下層では、16世紀代の擂鉢、壺などが出土している。

北側物原に関しては項を改めて述べたい。

３．２号窯の窯体構造

概要　地上式の窖窯で、焚口部から煙出部までほぼ良好に残存しているが、焚口北端が若干削平されていると考えられる。

規模は、全長が水平距離25m、斜距離27m、幅は２～2.5mを測る。柱の位置や床面の傾斜角度から、平面形が逆三角形を呈す燃焼室の範囲は、斜距離で3.4mとなる。傾斜角度は燃焼室で５～７度、焼成室の北側で３度、焼成室で11度、煙出部15度で、窯全体では傾斜角度17度である。主軸ほぼ北北東を向いている。各焼成室（房）を仕切る隔壁はなく、単房である。

トレンチ10－２の煙出は、排煙孔の60㎝手前から急に窯壁の角度がかわり、丸く収まっていることが確認された。主軸は１号窯の煙出部の主軸とほぼ同一である。

２号窯の煙出は、１号窯跡の煙出部より６m北側に新たに構築している。先述したように、この煙出部を構築する際に１号窯東壁と床面を削平している。

側壁・床面　遺存状況が良い箇所では、直立して約１m前後残存している。両側壁は、煙出部に向かってほぼ平行に延びており、寸胴形を呈する。壁は、10～20㎝大の角礫の積み上げと粘土の貼付することによって築かれている。各トレンチで側壁や床面の貼り替えを確認した。トレンチ８の床面は、黒色でガラス化している。トレンチ８窯内西側では、床面直上から礫と粘土で成形されたU字状の焼台が確認された。

柱　燃焼室と焼成室を区分する、粘土を外側に貼付した直径35㎝の柱を１本確認した。トレンチ９窯内では、主軸上に並んでいると思われる土管の柱が倒壊し、それに伴い天井が崩落している状況を確認した。柱の下部は床面上に残存している。燃焼室と焼成室を区分する柱と同様、焼成室内の柱は、二重の土管の周囲に粘土を貼付し補強している。

４．窯内の堆積状況

窯内の層は、主に赤橙系の被熱した土に窯壁片などを含んだ埋土が堆積する。これらの層は混入する窯体片、礫、焼土の多少について差異を含むものの、窯の内部と煙出し部付近の窯外に堆積する点が共通し、被熱した天井部などが窯の崩落に伴って窯内に流入したものと見られる。１号窯と２号窯の間に堆積した層からは、17世紀初頭の擂鉢や油壺、徳利が出土している。

トレンチ10は第６層の橙色系の土層内に大きな窯体片や礫などが含まれ、２号窯が崩落した際の埋土であると考えられる。トレンチ８・９層の床面直上では製品や窯道具が多く出土した。床面直上には陶板や匣鉢（さや）、礫が出土している。

５．物原の堆積状況

トレンチ８・９・10－１の物原堆積状況　ここでは、主にトレンチ８・９・10－１の窯外に位置する物原の堆積状況について述べる。各トレンチで、窯体片を含む焼土層や陶片を含む層が堆積しており、多量の製品が廃棄されている状況が看取できる。

トレンチ10－１西側窯外では、一部粘土層が認められたが、これは窯構築用に準備されたものなのか、そのほかの目的で運ばれたものなのかは判然としない。

トレンチ７南北軸南端やトレンチ10－１東側窯外で、床面検出レベルより下方で、黄白色土系の地山が検出された。このことから１号窯は、地上式の長大な窖窯であることが判明した。

トレンチ７の物原堆積状況　前述したように、トレンチ７では、南端から操業期間が16世紀を中心とする窯の焚口付近の床面と物原を確認した。第19層より下の土層では、南から北へ落ち込むように堆積している。厚い焼土層、陶片を多く含む層と薄い炭化物の層が互層状に堆積しており、焼成ごとにそれらが窯からかき出され、廃棄された状況を示している。第19層以下では、16世紀を中心とした擂鉢、壺、甕などが出土している。また第42層の付近で幅、高さともに70㎝の角礫を検出した。

北端の落ち込みを埋めるように堆積した第19層黒褐色土では、16世紀末から17世紀初頭の擂鉢、壺などとともに陶馬が共伴している。

トレンチ７西壁の第13層黒色土層下では、深さ50㎝、幅30㎝のピットが検出され、東壁でも同様なピットが確認されている。また、トレンチ７東側窯外でもピットが確認でき、これらの数箇所の掘り込みから、１号窯の操業中に使用された覆屋などの軽微な施設の可能性を指摘できる。また、第７・８層では、２、３箇所の掘り込みが認められ、１号窯の操業に関連する整地や掘削を行っていたと考えられる。

また表面採集によって瀬戸・美濃系の鉄釉の椀、信楽系の皿、肥前系の小皿、信楽・京系の片口鉢、備前の絵皿が確認されている。いずれも18世紀末～19世紀前半ごろと考えられる２号窯開窯・テラス造成時期と対応する可能性もある。

表土層である第３層は、南北方向にほぼ水平な堆積をしており、２号窯の操業と関連するテラスの造成を推定できる。

中央窯西側物原（トレンチ11）　中央窯跡の西側には山の斜面下方に急な崖の斜面がみられ、焼成に失敗した製品や窯道具が多量に廃棄されている。山の斜面に沿って掘り下げを行い、物原の土層を精査した結果、土質や土色、遺物が包含される量などの差異から14層に分層することができた。調査の際に南壁法面が崩壊し、東側部分で図面作業ができずに調査が終了した。

第５層の橙色系土層下は地山である。地山は東から西に向かって落ち込んでいる。

赤色系の第５層から第14層は、主に擂鉢や壺といった製品や焼台などの窯道具を含む層や焼土が堆積していた。中央１号窯で焼成された製品群であると考えられる。第４層黄橙～灰白土は、地山と土質が類似しており、ほとんど製品を含んでいない。この第４層は、17世紀末ころに西側窯を構築した際、地山を掘り込んだ土を中央窯跡と西側窯跡の間の谷に廃棄し堆積した結果であると考えられる。その上層には、17世紀前半以前に比定される擂鉢を含む第２層赤橙色土が堆積している。これは２号窯が築窯される際に、１号窯の製品で構成される物原の一部が崖に遺棄された結果であると想定している。また第１層暗赤褐色土は、主に中央２号窯で焼成された不良品や窯道具が、廃棄され堆積している。

中央窯北端部物原（トレンチ１）　　トレンチ１は、遺物を多量に含む層、焼土、窯壁、被熱した礫と遺物を含む層が堆積する。遺物は窯道具が主であり、製品は少なく、大甕などが散見される程度である。

第３節　遺　　物

出土した遺物はほとんどが備前焼で一部陶磁器がある。今回記述する遺物は中央１・２号窯体内のものと、窯外の物原等から出土したもので、トレンチごとに記述する。中央２号窯内は比較的まとまって遺物が出土している。中央１号窯跡は中央２号窯跡に一部破壊されて築窯されているため、１号と２号の遺物が混在しているが、比較的良好に１号窯の遺物が残存しているトレンチ７で出土した資料を中心に掲載した。トレンチ11は物原であるが、調査中に崩落したため、掲載数は少ない。中央１号窯は２号窯と比較して操業期間が長く、規模も大きいため、遺物量も多い。下層では擂鉢などが多くを占めるが、上層へいくほど大甕、徳利、壷、鉢、盤など、いわゆる桃山の多種多様な器種構成になっている。中央２号窯は、甕、擂鉢、徳利、小壷などである。

あわせて中央窯の北方向、物原北端部に位置しているトレンチ１についてもこの節で記述している。

１．トレンチ７出土（第23図～第28図）

トレンチ７は主に１号窯跡の焚き口、前面の作業場付近に位置する。遺物の掲載は、南北方向の全長8.4mのトレンチから記述し、焚き口部東西方向の窯内外について後述する。南北方向は遺物量が膨大であるが掲載は一部のみである。調査時中央部で南側と北側に区別して遺物を取り上げているので、その順に上層から下層に向けて一定のまとまりをもって記述する。

１～５はおもにトレンチ表層での表採した遺物である。当然備前焼片が大部分だが、それ以外の陶磁器片を少量確認したので図化した。**１**は瀬戸・美濃系の鉄釉の椀、**２**は信楽系の皿、**３**は肥前系の小皿、**４**は信楽・京系の片口鉢、**５**は備前の絵皿である。いずれも18世紀末～19世紀前半ごろと考えられるが、**４**の片口鉢はやや古い可能性もある（註１）。**５**の絵皿の上限は細工物の土型調査（註２）から1800年ごろと推定される。

６～30はおもにトレンチ南半分から、31～63は北半分から出土したものである。

６～８はおもに標高21m付近で検出されたもので、**６**は穴あきの匣鉢（さや）、**８**は大型の鉢、**７**は擂鉢で口縁部が三角形状を呈し、ナナメすり目をもつので乗岡編年近世１期ｃにあたる。

９～12は標高20.44～20.24ｍの高さで検出したものである。９は小杯、10は胴部下半に不定方向にケズリを施した鉢、11・12は胴部の条線が顕著な小甕である。

13は肩部に波状文のある壺、14・15は小形の壺で、15は頸部に「干」のヘラ描きがある。16は鉢、17は小杯、18外面は小形の鉢様であるが、注口があり内面にはすり目が施されている小型の擂鉢で、１点のみ出土している。19は大海風の茶入れの可能性もある。20は甕、21は胴部に把手をもつ大型の水屋甕、22・23は擂鉢で、間壁編年Ｖ期、中世６ａ～ｂ期、重根編年ＶＡ期にあたる。

24は小壷、25は口縁端部の受け部の形状から水指の可能性がある。26は小皿、27は１点のみ出土した7.1㎝×4.8㎝×1.8㎝の小型の硯である。背面に「干」のヘラ描きがある。28・29は擂鉢で、22・23と同様の型式で、時期は16世紀代であると推定される。28は最下層地山直上で、中央１号窯の操業開始時期を反映すると考えている。30は大甕で、胴部にヘラ描きがあり、器表はカセゴマ様である。時期は擂鉢とほぼ同時期であると考えられる。

31～63まではトレンチの北半分で検出されたものである。

31は表層に近い22ｍ直下で検出された台付鉢と思われるが、個体数が少なく鉢部の形は不明である。やや下層から検出された32は、徳利の頸部でらっきょ形になると考えられる。33はにぶい黄褐色の自然釉が外面に付着している小平鉢で、内面に自然釉が付着していないことから、焼成時底面を上にしていた可能性がある。

34～39はすべて水指と推定されるが、34は胴部が扁平なもの、35・36・37は胴部が筒状のもの、38・39は胴部にやや丸みをもつもので、37は内外面に緋ダスキがあらわれた優品の破片である。40は黄褐色のゴマが一様にかかる徳利の優品である。41は底部糸切り後にヘラ描きした小壷状の個体で、茶入の可能性がある。42は１点のみ出土した管状の土錘である。43は把手付鉢の把手部分である。伝世品の優品に同様のものがあり、用途は銚子の可能性がある。44は鉢、45は平鉢、46は口縁部の形態から大甕で16世紀後半と考えられる。47は壷、48は水屋甕である。

49・50は擂鉢で、ナナメすり目をもつことからいずれも間壁編年Ｖ期、乗岡編年近世１期ｂ、重根編年ＶＢ期で、16世紀の第４四半期を中心とする時期と考えられる。

51・52は擂鉢で49・50と同型式である。53は頸部に「大」のヘラ描きのある小型の徳利、54は椀で１点のみである。55は浅鉢であるが、用途が水指の可能性もある。56も小杯、57は平鉢である。58は陶馬で、次項で別記する。

59～63はトレンチ最下層で検出された。59は壷である。60・61は擂鉢で、49～52と同型式である。62は平鉢（皿）で、端部に凹面をもつ。63は大甕で、16世紀後半に比定される。

64～68・73・74は、中央１号窯の焚口付近の窯内の床上で検出した遺物である。64は底部に「◎」の陶印がある建水、65は近世１期ｃで17世紀初頭の擂鉢、66は水屋甕である。67～68は窯道具だが、67は穴あき匣鉢で優品用か丁寧な作りがなされている。73・74は床面の西側で10数個体確認された有溝土錘である。

70～72は中央１号窯焚口付近の東側トレンチで確認された遺物である。70は壷、71は大甕で、72は中世６期ａ、16世紀前半にあたる擂鉢である。３点ともほぼ同じ時期を示している。

75～82は中央窯焚口付近の西側トレンチで確認された遺物で、80～82がやや上層からの出土である。75は近世２期ｂ、76は近世２期ａで、17世紀第３四半期の擂鉢である。77・78とも水屋甕、79は窯道具である。80は前述と同様有溝土錘、81は徳利で、82は寸胴の甕である。

２．トレンチ７出土の陶馬（第26図）

備前焼の陶馬は高さ12.1㎝、長さ19.2㎝、幅6.8㎝である。この陶馬は手づくね（手びねり）で作られ中実で、顔・首と脚部と胴部は別作りである。顔は両目と口があり、雄の性器が粘土で貼り付けられている。肛門部は刺突によって、たてがみは沈線で表現されており、極めて写実的な陶馬である。

右前足端部には串状工具で穿孔された穴が横方向に貫通している。右後足は欠損しているが穿孔されていた様子が認められ、脚部は全て穴が穿たれていたことが想定される。頸部には細い粘土紐が縦方向に貼り付けられ、紐などを通したものと考えられる（註３）。

尾部・左前足・左後足は完全に欠損し、両耳・右前足・性器の一部が欠損している。焼成中もしくは焼成後の欠損と考えられる。たてがみの部分から右胴部にかけて火だすきが認められる。

この陶馬は、第19層黒褐色土から出土し、擂鉢の編年より、間壁編年Ｖ期後半、乗岡編年近世１期に比定され、16世紀半ばから17世紀初頭頃のものとされる。焼成に失敗した擂鉢や徳利などと同様この陶馬も廃棄されたものと考えられる。岡山県内では陶馬に関して言えば10例程度しか確認されていない。また、土馬・陶馬が出土する時期は奈良・平安時代が中心であり（註４）、今回出土した江戸時代初頭前後の陶馬の類例は認められない（註５）。

土馬・陶馬については研究が蓄積されているものの、製作・使用された目的については発掘調査による出土状況をもってしても十分に明らかにできない場合が多い。祓いの形代であれば再度使用しないため粗成品でもよいであろうが、出土した陶馬は、写実的に表現され丁寧に作られているためその可能性は低い。また小児のための玩具として作られた可能性も捨てきれないが、類例等が認められないため判断しがたい。

祭祀における土馬・陶馬使用の歴史的背景は、暴風雨を鎮める祈願、祈雨や止雨祈願など様々な場面で行われた神への生馬の献上が始まりとされ、それが奈良時代以降土馬、木製の馬形（うまがた）の奉納に転換し、さらに絵馬になると考えられる（岩井1979）。有職故実の『西宮記』などの文献史料には、平安時代中期以降、祈雨には黒毛の馬、止雨には赤毛の馬を献上したという記述がある（岩井1979）。土馬には赤色顔料が塗られている場合があり、今回出土した陶馬も備前焼の赤褐色を呈し、「赤」という色に特別な意味をもたせていた可能性がある。

今回出土した備前焼陶馬は、日常雑器や茶陶としての備前焼の範疇を越えるものであり、実用的な製品ばかりを生産していたのではないことを示している。また17世紀中頃以降の細工物の製作とも系統が異なるものである。

３．トレンチ８出土（第29図～第33図）

83～94はトレンチ東側の２号窯内の上層で検出したものである。窯体内の出土であるが、後世の落ち込みや撹乱があり、全てが２号窯に伴うものではなく、窯の床直上で出土した資料でも同様なことがいえる。83は薬研の円盤部分の一部と思われる。84・85は茶入れの可能性がある。86は胴部に糸目の入った甕で、87は胴下半に不定方向のケズリが施された平鉢である。88～94はすべて擂鉢で、88・89は小形のものである。90・93は近世３期ａの17世紀後半、91・92・94は近世２期ａの17世紀前半に比定される。

95～102はトレンチ西側の窯内上層で確認された遺物である。95～97は擂鉢で、96は胴部にろくろ目が残ることから古く近世２期ｂで、95・97は３期であると考えられる。

98～100は灯明皿、101は胴部上半に糸目を施した徳利、102は匣鉢である。

103～114はトレンチ南北軸上の窯内で確認されたものである。103は端部に段がある受け部をもつので水指の可能性がある。104～107は甕で、106の大甕以外は同一の型式である。108～110は擂鉢で、109がすり目の一本一本が太いのでやや古く近世２期ａ、108・110はすり目が細かく細いので、３期までくだる可能性がある。111は小壷、112は最大径が11.3㎝の大型の灯明受皿、13・114は窯道具である。

115～125は窯内の床上で検出されたものであるが、すべてが２号窯にともなうものとは断定できない。115・116は窯道具で、116は普遍的にみられない形である。118～121は土管で、主に燃焼室よりの焼成室で確認されたものである。119は最大径が50㎝もある巨大なものである。122から125は小甕であるが、胴部がやや張り丁寧なつくりであることから、江戸期後半に普遍的に見られる甕の初源的なものかもしれない。

126～147はトレンチ東側の窯の外側で検出されたもので、126は地表面から約１ｍ下で、以後番号がおおきくなるにつれて深度が増し、147は地表下約3.4ｍより出土した。126～128・131は徳利で、128は蕪徳利、127・131は尻張形の徳利である。129は窯道具で円盤にスリットのある筒状のものをつけたもので、この透しを利用して大型品等へ引っ掛けて、製品を載せて焼成したのではないかとの指摘もある。132は133のような壷の耳と同様なものをつまみにした蓋で、完形品である。133は耳付壷、134は窯道具、135は地表下2.1ｍ地点で検出した擂鉢で、近世２期ａの16世紀前半に比定できる。136・137・142は平鉢であるが、137は扁平で口縁端部が内側へ鋭くつまみ出されていて、盤状となっている。138は徳利で胴部にヘラ描きがある。139は胴部に「大」のヘラ描き、140は底部が糸切りで、ともに茶入れの可能性がある。141は台付の小皿の可能性がある。144～147はいずれも擂鉢で、間壁編年Ｖ期、乗岡編年中世６期ｂ、重根編年ＶＡ期である。最下層からこの時期の擂鉢が確認されていることから、窯の操業開始期を16世紀前半と想定することが可能である。

148～161は東側と同様、窯の外側検出の遺物で、番号が大きくなるほど下層になる。161の擂鉢が地表下2.6ｍで最下層の遺物である。148は径が12㎝弱の大型の灯明受皿である。149・151・154・155・157・158はいずれも徳利である。150は内面に黄ゴマがふりかかり、高台内に「大」のヘラ描きがある茶碗である。152は胎土が精良で丁寧な調整がなされているため、建水の可能性が高い。156は大型の水屋甕で、160は波状文のある壷、159は胴部に「葉」などをヘラ描きした筒型のものである。162～188は東側の窯壁の直近外側で地表下50㎝の範囲で確認された遺物である。162は非常に精緻なつくりの小形の擂鉢で「餌擂鉢」とよばれるものの可能性がある。163～166は甕の蓋、167～173は灯明皿、174～177は灯明受皿で、174・175は径が11㎝を超える大型のものである。182は糸目の徳利、178から188は窯道具で、183～188は匣鉢、特に187・188は器高が15㎝と深い。

４．トレンチ９出土（第34図・第35図）

189・190は窯内で確認された遺物。189は小壷、190は糸目のある徳利の胴部。191～195は窯の東外側検出の遺物で、地表下0.8～1.2ｍの範囲で確認されている。191は最大径が８㎝ほどの鉢で、やや小振りながら建水の可能性がある。192・193は台付の大平鉢で、192は最大径46㎝ほどある。194は蕪徳利、195は水屋甕で、ともに「㊦」のヘラ描きがある。

196～212は窯の西外側で検出されたもので、地表下1.6ｍの範囲までの遺物である。196・197・203・

205は徳利で、196・205は蕪徳利の頸部、198は耳付の壷、199・204・209は擂鉢で、199・209はナナメすり目が入るので近世１期ｃ、204は近世２期ａと考えられる。200～202は小型の平鉢である。206は径が11cmほどの筒型であり、建水の可能性がある。207・208は甕で、207は口縁部が肥厚していることから慶長期以降と考えられる。210は把手様のものを貼り付けた径45cmの大型の鉢である。211は「献上徳利」といわれる頸部が長い徳利である。212は底部をヘラで一気に掻きとり、「上」とヘラ描きした茶入である。

５．トレンチ10出土（第36図～第39図）

213～218は、２号窯の構築で破壊されず残存した１号窯煙出部（トレンチ10窯内南側上段部分）から確認した遺物である。213は小壷、214・215は外面に塗土を施した小甕、217は径が30cm以上の水屋甕、216は近世２期ａの擂鉢、218は胴部にヘラ描きのある土管である。

219～225は南側上段の北側で、２号窯の構築で破損した１号窯のある時期の床面から出土したもので、２号窯の煙出の南外側にあたる。従って遺物は、１号窯、２号窯で焼成された製品が混在している。219・220は擂鉢で219は近世３期ａと考えられる。221・222は甕、223は灯明受皿、224は小壷、225は外面に塗土を施した鉢胴部で、底部に「×」のヘラ描きがある。226～228は窯内の上層から出土したもので、227は平鉢が２個体溶着したものである。

229～234は窯内西側部分の上層から出土したものである。229・230は窯道具の陶板と匣鉢、231・232は徳利で232は肩部にヘラ描きがある。233は花立と考えられる。234は胴部の最大径が20cmを超える徳利である。

235～237は窯内西側部分で、先述の１号窯のある時期の床面上から出土したものである。235は江戸時代後半に普遍化する甕の初源的な型式であり、236・237は尻張形徳利である。

238～240は窯東外側出土で、238は壷、219は小型の徳利、240は平鉢である。

241～253は窯西外側の主に地表下1.7～2.2ｍの範囲で出土した遺物で、241～243は大甕、244・245は壷、246～253は擂鉢である。擂鉢は249・251・253が口縁受け部内面に段をもち、中世６期ｂで、明確に段を持たないそれ以外の擂鉢は中世６期ａになるが、基本的には重根編年ＶＡ期で16世紀の第２・第３四半期を中心とする範疇である。

254～256は平成18年度調査したトレンチ10－２から出土したもので、基本的には２号窯の構築で破損した１号窯のある時期の床面から出土したもので、２号窯の煙出の南外側にあたる。254・255とも尻張形の徳利で、254は頸部に「△」、226は底部に「叶」のヘラ描きがある。256は近世２期ａの擂鉢である。

６．トレンチ11出土（第40図・第41図）

257～280はトレンチの東側、中央窯の物原部分から出土したものである。標高31.6～26.5ｍの範囲で確認されたもので、番号が大きくなるほどより下方から出土した資料である。257は何耳壷か不明だが、耳付壷である。258は歪みがかなりあるが、堅緻に焼成されている鉢もしくは建水と考えられる。259は蕪徳利、260は花立の可能性があり、外面に塗土が施されている。261は内面に塗土が施されている灯明皿、262は近世２期ａの擂鉢である。

263は小片だが耳付建水と思われる。264・265・266・268・270・273は徳利で、頸部や底部にヘラ

描きされているものが多い。**267**は内面に牡丹餅様の小片が溶着している平鉢で、胴部と底部に大きく「干」とヘラ描きがされている。**269・272**は小壷だが、**269**は大海風の茶入れ、**272**も底部をヘラ切りの後、「上」とヘラ描きしている。**271**は扁平な壷だが、用途は建水と考えられる。

274・280は徳利で、頸部にヘラ描きがある。**276**は筒型で、底部にヘラ描きがある。花入の可能性がある。**275・277**は緋だすきが美しい大型の平鉢であるが、**277**は外面にヘラで幅１㎝の抉りが不規則に入っている。**278**は手ひねりの丁寧な作りの蓋で上面に「×」のヘラ描き、下面にもヘラ描きがある。**280**は用途不明だが、外面に文字が彫りこまれている。

281・282は小型徳利である。

283～289はトレンチ西側からの出土である。**284・285・288・283**は徳利で、**284**は鶴首形徳利である。**287**は近世１期ｃである。**286**は底部にヘラ描きがある建水、**288**は蕪徳利の頸部、**289**は茶入れの蓋、つまみ部は欠損しているが、下面糸切りで側面をヘラで細かく切り取る丁寧なつくりとなる。

７．トレンチ１出土（第42図）

290は口径が５㎝の小型の煎茶器で完存である。**291**は口径が26㎝の高台を持たない擂鉢で、乗岡編年近世４期ａ～ｂで18世紀前半である。**292・293**は灯明受皿で、**293**は口径が７㎝とやや小型である。**294**は大甕で全体は寸胴形である。

【註】

（１）乗岡実氏のご教示による。

（２）備前焼紀年銘土型調査委員会・備前市教育委員会「備前焼紀年銘土型調査報告書」1998の調査結果による。

（３）胸繁等の馬具に関連するものとも考えられるが鞍・鐙（あぶみ）などが認められないため、その可能性は低いように考えている。

（４）土馬については９世紀前半まで出土していたが、14世紀後半前後に再度認められるまで出土していないことが指摘されている（安芸鞠子下記ホームページより）。

（５）16世紀後半から17世紀初頭ごろ東北地方から九州地方で犬、猿、猪の土製品が出土している。近畿地方の出土例が多く、とくに犬が多く認められる（嶋谷2006）。また、岐阜県端浪市田ノ尻窯跡では、17世紀中ごろの陶馬が出土している（(財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター編2006）。

【参考URL・文献】

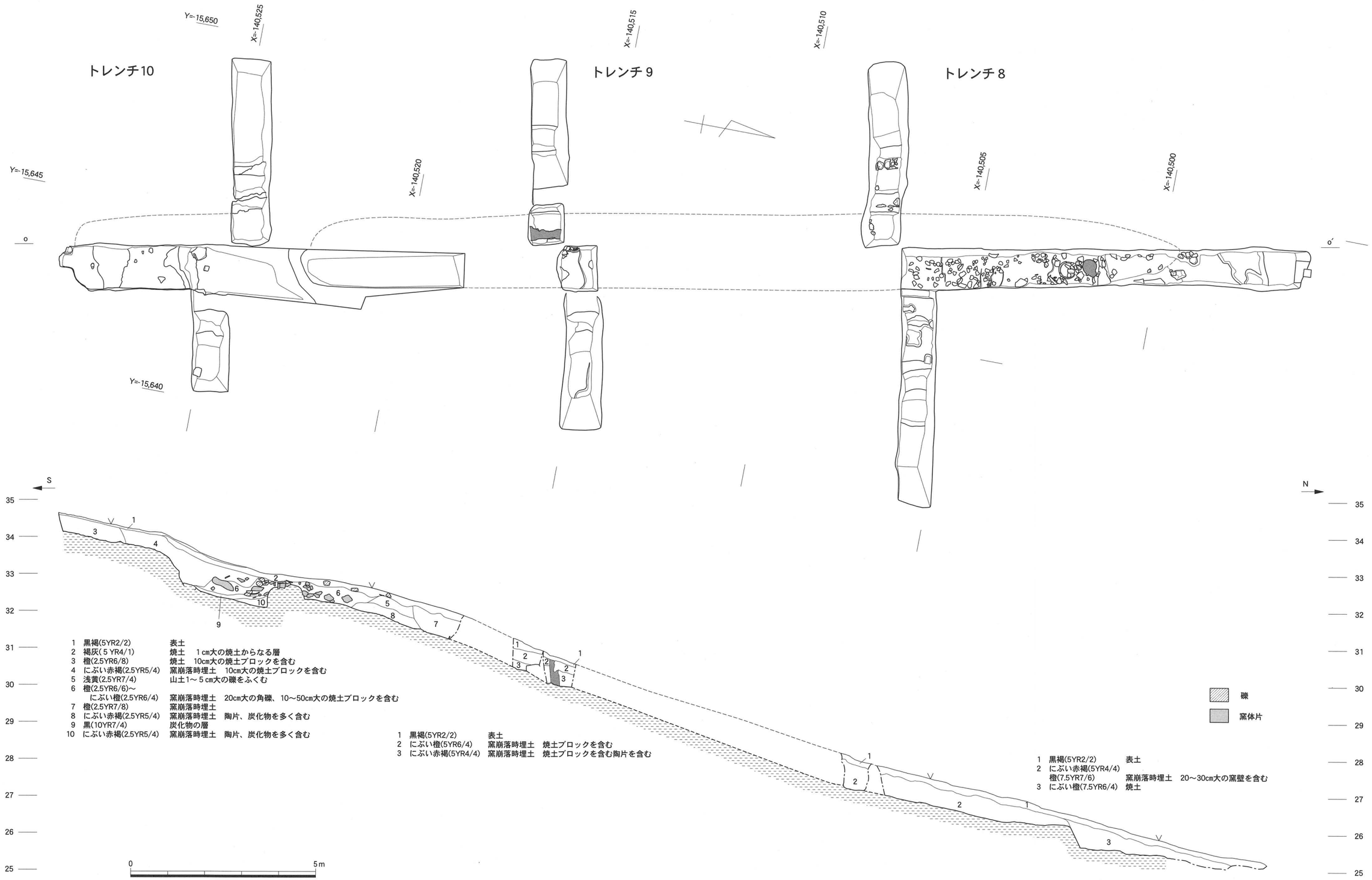
桂又三郎1952『伊部南大窯址発掘資料』日本陶磁協会　1952

安芸毬子「出土した人形と玩具」http://www.um.u-tokyo.ac.jp/publish_db/2000Kaga/02/020500.html

岩井宏美1974『絵馬』ものと人間の文化史　法政大学出版局

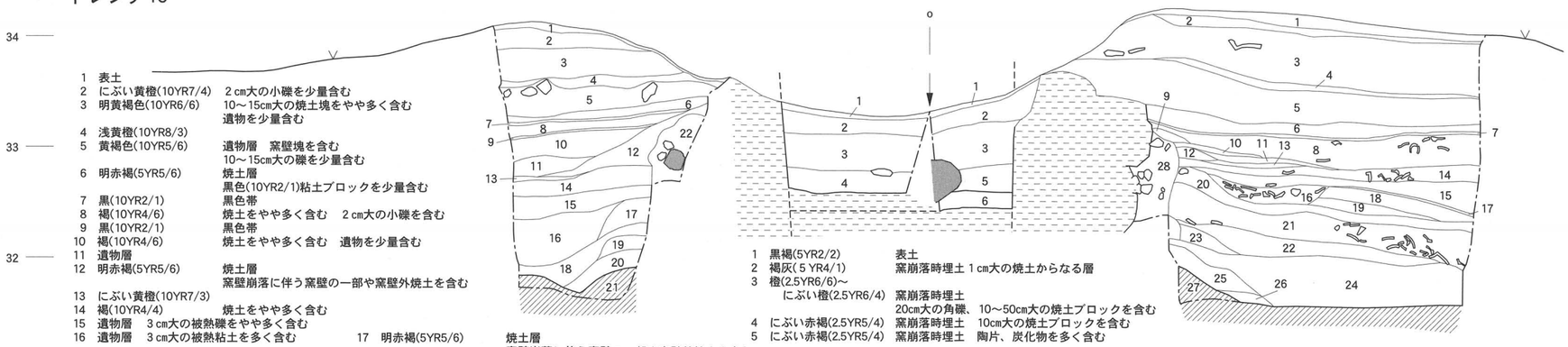
(財)瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター編2006 『江戸時代のやきもの』

嶋谷和彦2006「姫路市内から出土した犬型土製品たち」　姫路市埋蔵文化財センター講演会資料



第18図　中央窯跡平面図・主軸断面図（S＝1/100）

トレンチ10

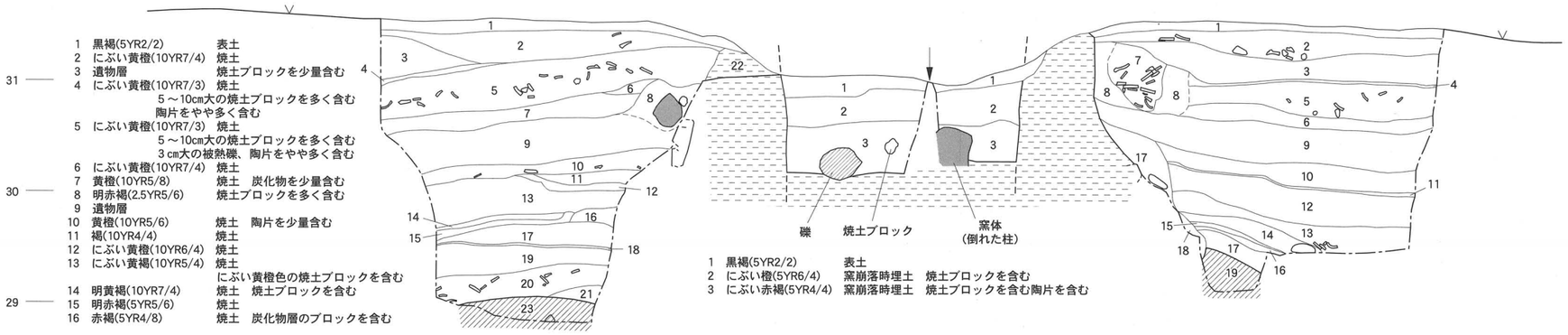


1 表土
2 にぶい黄橙(10YR7/4) 2cm大の小礫を少量含む
3 明黄褐色(10YR6/6) 10～15cm大の焼土塊をやや多く含む
遺物を少量含む
4 浅黄橙(10YR8/3)
5 黄褐色(10YR5/6) 遺物層 窯壁塊を含む
10～15cm大の礫を少量含む
6 明赤褐(5YR5/6) 焼土層
黒色(10YR2/1)粘土ブロックを少量含む
7 黒(10YR2/1) 黒色帯
8 褐(10YR4/6) 焼土をやや多く含む 2cm大の小礫を含む
9 黒(10YR2/1) 黒色帯
10 褐(10YR4/6) 焼土をやや多く含む 遺物を少量含む
11 遺物層
12 明赤褐(5YR5/6) 焼土層
窯壁崩落に伴う窯壁の一部や窯壁外焼土を含む
13 にぶい黄橙(10YR7/3)
14 褐(10YR4/4) 焼土をやや多く含む
15 遺物層 3cm大の被熱礫をやや多く含む
16 遺物層 3cm大の被熱粘土を多く含む
17 明赤褐(5YR5/6) 焼土層
窯壁崩落に伴う窯壁の一部や窯壁外焼土を含む
18 遺物層 窯壁塊や被熱粘土を多く含む
19 明赤褐(5YR5/6) 焼土層 窯壁崩落に伴う窯壁の一部や窯壁外焼土を含む
20 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼土をやや多く含む
21 にぶい黄橙(10YR7/3) 地山
22 窯壁崩落に伴う窯壁の一部や窯壁外焼土を含む

1 黒褐(5YR2/2) 表土
2 褐灰(5YR4/1) 窯崩落時埋土 1cm大の焼土からなる層
3 橙(2.5YR6/6)～
にぶい橙(2.5YR6/4) 窯崩落時埋土
20cm大の角礫、10～50cm大の焼土ブロックを含む
4 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 窯崩落時埋土 10cm大の焼土ブロックを含む
5 にぶい赤褐(2.5YR5/4) 窯崩落時埋土 陶片、炭化物を多く含む

1 表土
2 明黄褐(10YR7/6) 焼土をやや少なく含む
2cm大の小礫を含む
3 にぶい黄橙(10YR7/4) 10～15cm大の焼土塊をやや多く含む
遺物と3cm大の小礫を少量含む
4 明黄褐(10YR7/6)
5 褐(10YR4/4) 遺物層 焼土と5cm大の窯壁塊を多く含む
3cm大の小礫を少量含む
6 褐(10YR4/6) 焼土を多く含む 遺物を少量含む
7 黒(10YR2/1) 黒色帯
8 褐(10YR4/6) 黒褐(10YR3/1)ブロックを含む 遺物を少量含む
9 にぶい黄橙(10YR7/4)
10 橙(5YR6/8) 焼土層
11 にぶい黄橙(10YR7/4)
12 黒(10YR2/1) 黒色帯
13 橙(5YR6/8) 焼土層
14 明黄褐(10YR6/6) 焼土をやや多く含む
15 にぶい黄褐(10YR5/6) 焼土と遺物をやや多く含む
にぶい黄橙(10YR7/4)弱粘質土ブロックを含む
16 遺物層
17 黒(10YR2/1) 黒色帯
18 明赤褐色(5YR5/6) 焼土層 焼土ブロックを多く含む
19 褐(10YR4/4) 焼土を少量含む
20 明赤褐(5YR5/6) 焼土層 窯壁塊を少量含む
21 褐(10YR4/4) 焼土と遺物をやや多く含む
22 褐(10YR4/4) 遺物を少量含む 3～5cm大の小礫をやや多く含む
23 暗赤褐(2.5YR3/6) 焼土層
24 遺物層 被熱粘土塊を多く含む
25 明赤褐(2.5YR5/8)
26 明黄褐(10YR6/6) 焼土をやや多く含む
27 にぶい黄橙(10YR6/3) 地山
28 窯壁外焼土

トレンチ9

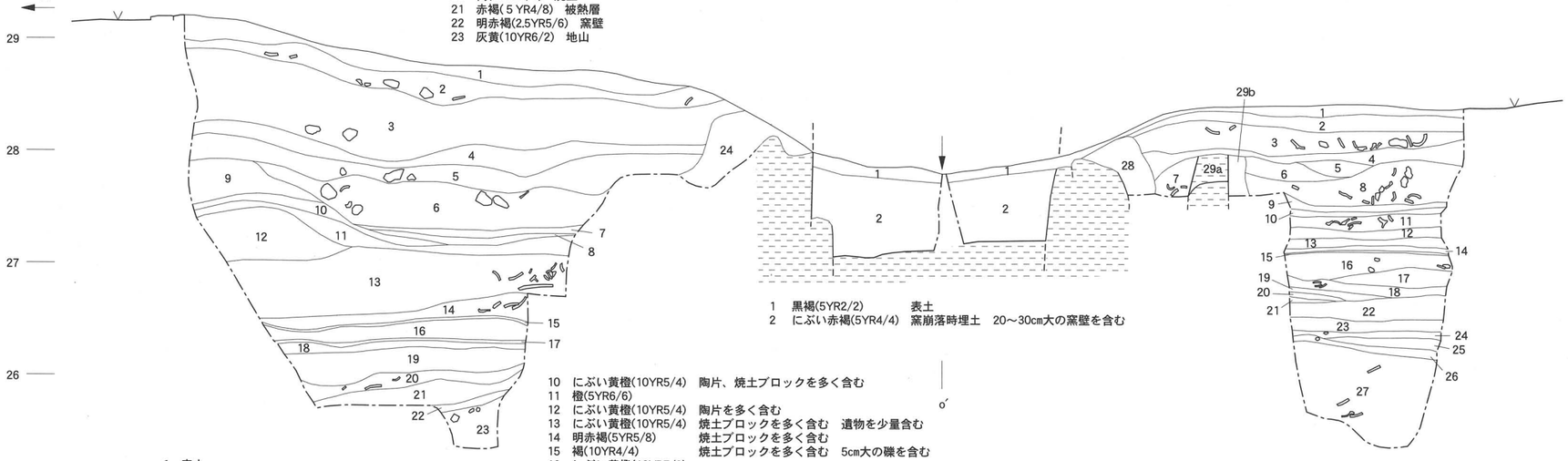


1 黒褐(5YR2/2) 表土
2 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼土
3 遺物層 焼土ブロックを少量含む
4 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土
5～10cm大の焼土ブロックを多く含む
陶片をやや多く含む
5 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土
5～10cm大の焼土ブロックを多く含む
3cm大の被熱礫、陶片をやや多く含む
6 にぶい黄橙(10YR7/4) 焼土
7 黄橙(10YR5/8) 焼土 炭化物を少量含む
8 明赤褐(2.5YR5/6) 焼土ブロックを多く含む
9 遺物層
10 黄橙(10YR5/6) 焼土 陶片を少量含む
11 褐(10YR4/4) 焼土
12 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼土
13 にぶい黄褐(10YR5/4) 焼土
にぶい黄橙色の焼土ブロックを含む
14 明黄褐(10YR7/4) 焼土 焼土ブロックを含む
15 明赤褐(5YR5/6) 焼土
16 赤褐(5YR4/8) 焼土 炭化物層のブロックを含む
17 赤褐(10YR4/6) 焼土
18 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土
19 褐(10YR4/4) 焼土
20 褐(10YR4/4) 焼土
21 赤褐(5YR4/8) 被熱層
22 明赤褐(2.5YR5/6) 窯壁
23 灰黄(10YR6/2) 地山

1 黒褐(5YR2/2) 表土
2 にぶい橙(5YR6/4) 窯崩落時埋土 焼土ブロックを含む
3 にぶい赤褐(5YR4/4) 窯崩落時埋土 焼土ブロックを含む陶片を含む

1 黒褐(5YR2/2) 表土
2 褐(10R4/4) 焼土
焼土ブロックをやや多く含む 陶片を少量含む
3 明赤褐(5YR5/8) 焼土 陶片を多量に含む
4 明赤褐(10YR7/6) 焼土
5 橙(5YR6/8) 焼土 3～5cm大の焼土ブロックをやや多く含む
遺物を少量含む
6 黒(10YR3/1) 炭化物の層
7 遺物層
8 赤褐(5YR4/8) 窯壁崩落土
9 遺物層 5cm大の焼土ブロックを少量含む
10 赤褐(5YR4/6) 焼土 陶片を少量含む
11 黒(10YR2/1) 炭化物の層
12 褐(10R4/4) 焼土
焼土ブロックをやや多く含む 陶片を少量含む
13 褐(10R4/6) 焼土
14 にぶい赤橙(5YR4/4) 焼土
15 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土
16 黒(10YR2/1) 炭化物の層
17 明赤褐(10YR5/6) 焼土
18 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土
19 赤褐(5YR4/8) 被熱層

トレンチ8



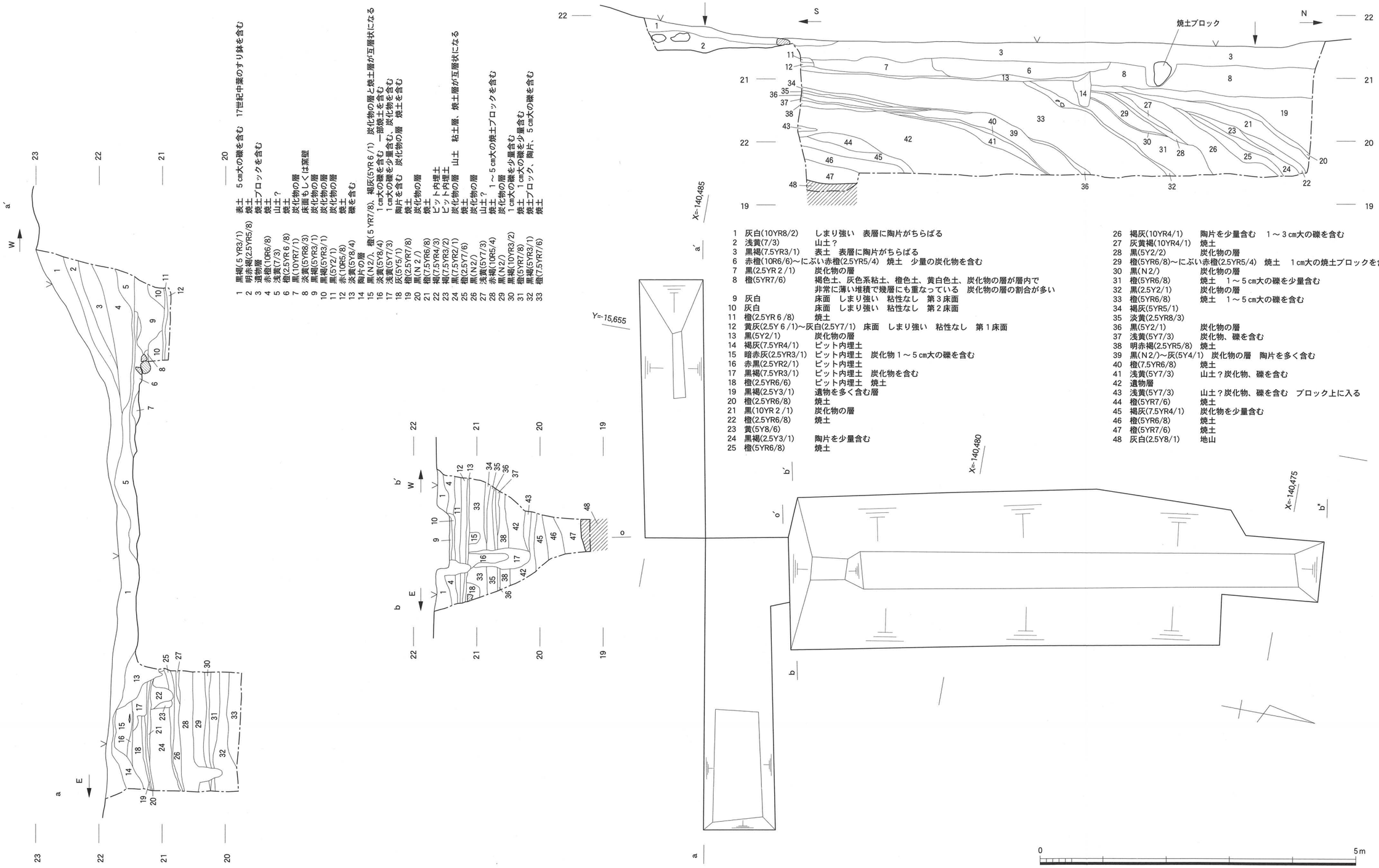
1 表土
2 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼土 10～15cm大の礫を少量含む
3 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片を多く含む
4 褐(10YR4/4) 焼土ブロックをやや多く含む
5 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片、焼土ブロックを多く含む
6 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片、焼土ブロックを多く含む
7 にぶい黄橙(10YR6/4)
8 黒(10YR3/1) 炭化物の層
9 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片、焼土ブロックを多く含む
10 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片、焼土ブロックを多く含む
11 橙(5YR6/6)
12 にぶい黄橙(10YR5/4) 陶片を多く含む
13 にぶい黄橙(10YR5/4) 焼土ブロックを多く含む 遺物を少量含む
14 明赤褐(5YR5/8) 焼土ブロックを多く含む
15 褐(10YR4/4) 焼土ブロックを多く含む 5cm大の礫を含む
16 にぶい黄橙(10YR7/3)
17 褐(10YR4/4) 焼土ブロックを多く含む 2～3cm大の礫を含む
18 褐(10YR4/4) 粘土ブロック、陶片を少量含む
19 にぶい黄橙(10YR7/3)
20 明赤褐(5YR5/8)
21 褐(10YR4/4) 2～3cm大の礫を含む
22 にぶい黄橙(10YR4/3) 粘土ブロック、陶片を少量含む
23 赤褐(5YR4/8)
24 赤褐(5YR4/8) 被熱層

1 黒褐(5YR2/2) 表土
2 にぶい赤褐(5YR4/4) 窯崩落時埋土 20～30cm大の窯壁を含む

1 表土
2 褐(10YR4/4) 陶片を含む
3 黄橙(10YR5/6) 焼土
4 にぶい黄橙(10YR6/4) 焼土
5 にぶい黄橙(10YR5/4) 焼土ブロックがやや多い
6 にぶい黄橙(10YR6/4)
7 明赤褐(5YR5/6) 遺物を少量含む
8 明赤褐(5YR5/6) 焼土 15～20cm大の焼土ブロックを含む
陶片を多く含む
9 褐(10YR4/4) 焼土ブロックと陶片を少量含む
10 黒(10YR7/4) 炭化物の層
11 赤褐(10YR4/3) 焼土ブロックを少量含む 陶片をやや多く含む
12 明赤褐(5YR5/6)
13 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土ブロックを多く含む
14 にぶい赤褐(10YR4/4) 焼土ブロックを多く含む
粘土ブロック、3cm大の小礫を少量含む
15 黒(10YR7/4) 炭化物の層
16 明赤褐(5YR5/6)
17 にぶい黄橙(10YR7/3) 焼土ブロックをやや多く含む
5cm大の被熱礫を含む
18 褐(10YR4/6) 焼土ブロックを多く含む
19 黒(10YR7/4) 炭化物の層
20 明赤褐(5YR5/6) 焼土
21 にぶい黄橙(10YR7/3) 粘土ブロックを少量含む
22 赤褐(5YR4/6)
23 にぶい黄橙(10YR4/3)
24 黒(10YR7/4) 炭化物の層 3cm大の小礫を含む
25 明赤褐(5YR5/6) 焼土ブロックをやや多く含む
26 褐(10YR4/4) 焼土ブロックを少量含む
27 にぶい赤褐(10YR4/4) 焼土ブロックを少量含む 陶片を少量含む
28 赤褐(5YR4/8) 被熱層
29a 1号窯の窯壁の一部
29b 窯壁の崩落に伴う層

0 5m

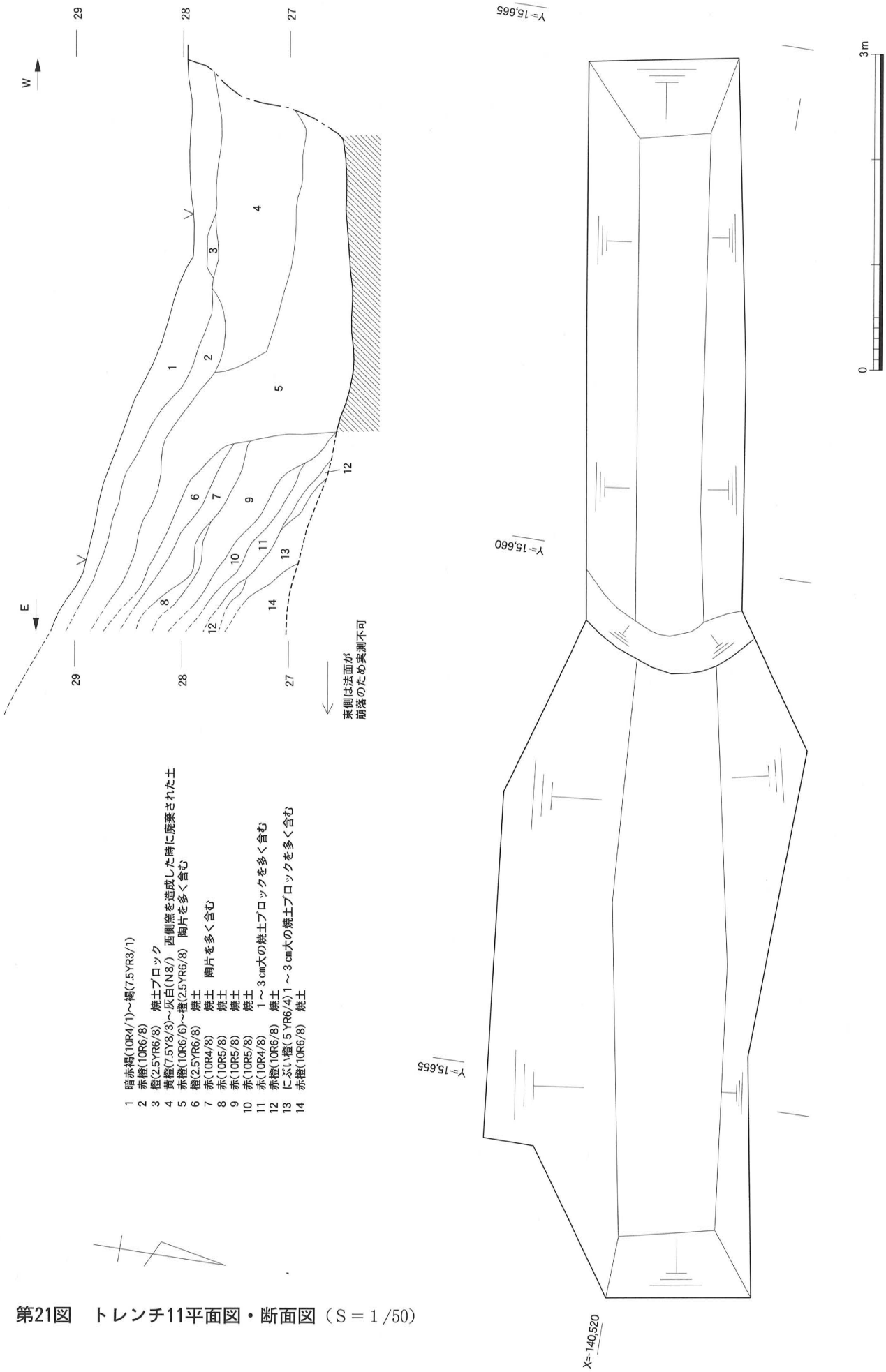
第19図 中央窯跡横断面図（S＝1/50）



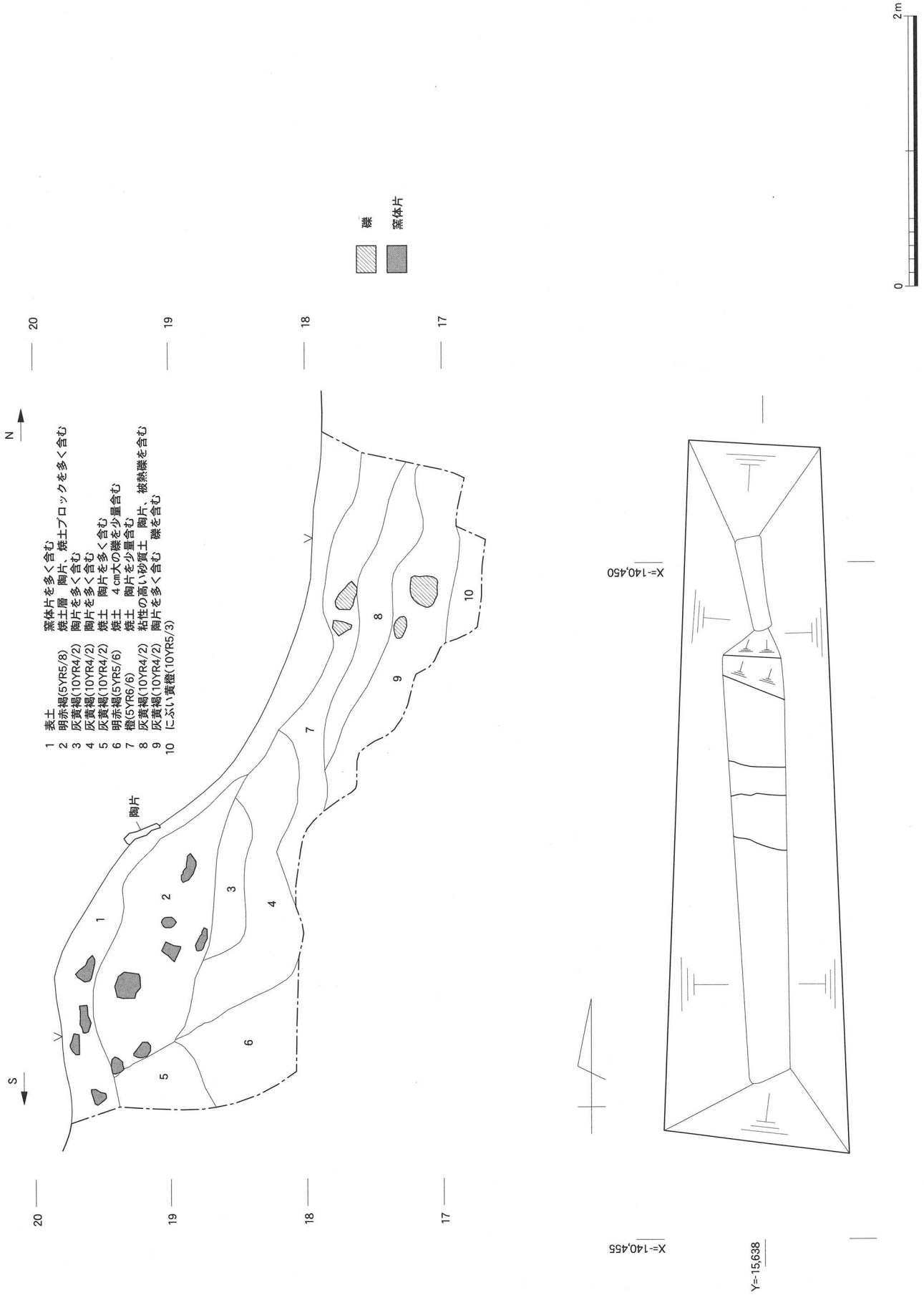
1 黒褐(5YR3/1) 表土 5cm大の礫を含む 17世紀中葉のすり鉢を含む
2 明赤褐(2.5YR5/8) 焼土
3 遺物層 焼土ブロックを含む
4 赤橙(10R6/8) 焼土
5 浅黄(7/3) 山土？
6 橙(2.5YR 6 /8) 焼土
7 黒(10YR7/1) 炭化物の層
8 淡黄(5YR8/3) 床面もしくは深壁
9 黒褐(5YR3/1) 炭化物の層
10 黒褐(5YR3/1) 炭化物の層
11 黒(5Y2/1) 炭化物の層
12 赤(10R5/8) 焼土
13 淡黄(5Y8/4) 礫を含む
14 陶片の層
15 黒(N2/)、橙(5 YR7/8)、褐灰(5YR 6 /1) 炭化物の層と焼土層が互層状になる
16 淡黄(5Y8/4) 1cm大の礫を含む 一部焼土を含む
17 浅黄(5Y7/3) 1cm大の礫を少量含む、炭化物を含む
18 灰(5Y5/1) 陶片を含む 炭化物の層 焼土を含む
19 橙(2.5YR7/8) 焼土
20 黒(N 2 /) 炭化物の層
21 橙(7.5YR6/8) 焼土
22 褐(7.5YR4/3) ピット内埋土
23 褐(7.5YR3/2) ピット内埋土
24 黒(7.5YR2/1) 炭化物の層 山土 粘土層、焼土層が互層状になる
25 橙(2.5Y7/6) 焼土
26 黒(N2/) 炭化物の層
27 浅黄(5Y7/3) 山土？
28 赤褐(10R5/4) 焼土 1～5cm大の焼土ブロックを含む
29 黒(N 2/) 炭化物の層
30 黒褐(10YR3/2) 1cm大の礫を少量含む
31 橙(5YR7/8) 焼土 1cm大の礫を少量含む
32 黒褐(5YR3/1) 焼土ブロック、陶片、5cm大の礫を含む
33 橙(7.5YR7/6) 焼土

1 灰白(10YR8/2) しまり強い 表層に陶片がちらばる
2 浅黄(7/3) 山土？
3 黒褐(7.5YR3/1) 表土 表層に陶片がちらばる
6 赤橙(10R6/6)～にぶい赤橙(2.5YR5/4) 焼土 少量の炭化物を含む
7 黒(2.5YR 2 /1) 炭化物の層
8 橙(5YR7/6) 褐色土、灰色系粘土、橙色土、黄白色土、炭化物の層が層内で非常に薄い堆積で幾層にも重なっている 炭化物の層の割合が多い
9 灰白 床面 しまり強い 粘性なし 第3床面
10 灰白 床面 しまり強い 粘性なし 第2床面
11 橙(2.5YR 6 /8) 焼土
12 黄灰(2.5Y 6 /1)～灰白(2.5Y7/1) 床面 しまり強い 粘性なし 第1床面
13 黒(5Y2/1) 炭化物の層
14 褐灰(7.5YR4/1) ピット内埋土
15 暗赤灰(2.5YR3/1) ピット内埋土 炭化物1～5cm大の礫を含む
16 赤黒(2.5YR2/1) ピット内埋土
17 黒褐(7.5YR3/1) ピット内埋土 炭化物を含む
18 橙(2.5YR6/6) ピット内埋土 焼土
19 黒褐(2.5Y3/1) 遺物を多く含む層
20 橙(2.5YR6/8) 焼土
21 黒(10YR 2 /1) 炭化物の層
22 橙(2.5YR6/8) 焼土
23 黄(5Y8/6)
24 黒褐(2.5Y3/1) 陶片を少量含む
25 橙(5YR6/8) 焼土
26 褐灰(10YR4/1) 陶片を少量含む 1～3cm大の礫を含む
27 灰黄褐(10YR4/1) 焼土
28 黒(5Y2/2) 炭化物の層
29 橙(5YR6/8)～にぶい赤橙(2.5YR5/4) 焼土 1cm大の焼土ブロックを含む
30 黒(N 2/) 炭化物の層
31 橙(5YR6/8) 焼土 1～5cm大の礫を少量含む
32 黒(2.5Y2/1) 炭化物の層
33 橙(5YR6/8) 焼土 1～5cm大の礫を含む
34 褐灰(5YR5/1)
35 淡黄(2.5YR8/3)
36 黒(5Y2/1) 炭化物の層
37 浅黄(5Y7/3) 炭化物、礫を含む
38 明赤褐(2.5YR5/8) 焼土
39 黒(N 2/)～灰(5Y4/1) 炭化物の層 陶片を多く含む
40 橙(7.5YR6/8) 焼土
41 浅黄(5Y7/3) 山土？炭化物、礫を含む
42 遺物層
43 浅黄(5Y7/3) 山土？炭化物、礫を含む ブロック上に入る
44 橙(5YR7/6) 焼土
45 褐灰(7.5YR4/1) 炭化物を少量含む
46 橙(5YR6/8) 焼土
47 橙(5YR7/6) 焼土
48 灰白(2.5Y8/1) 地山

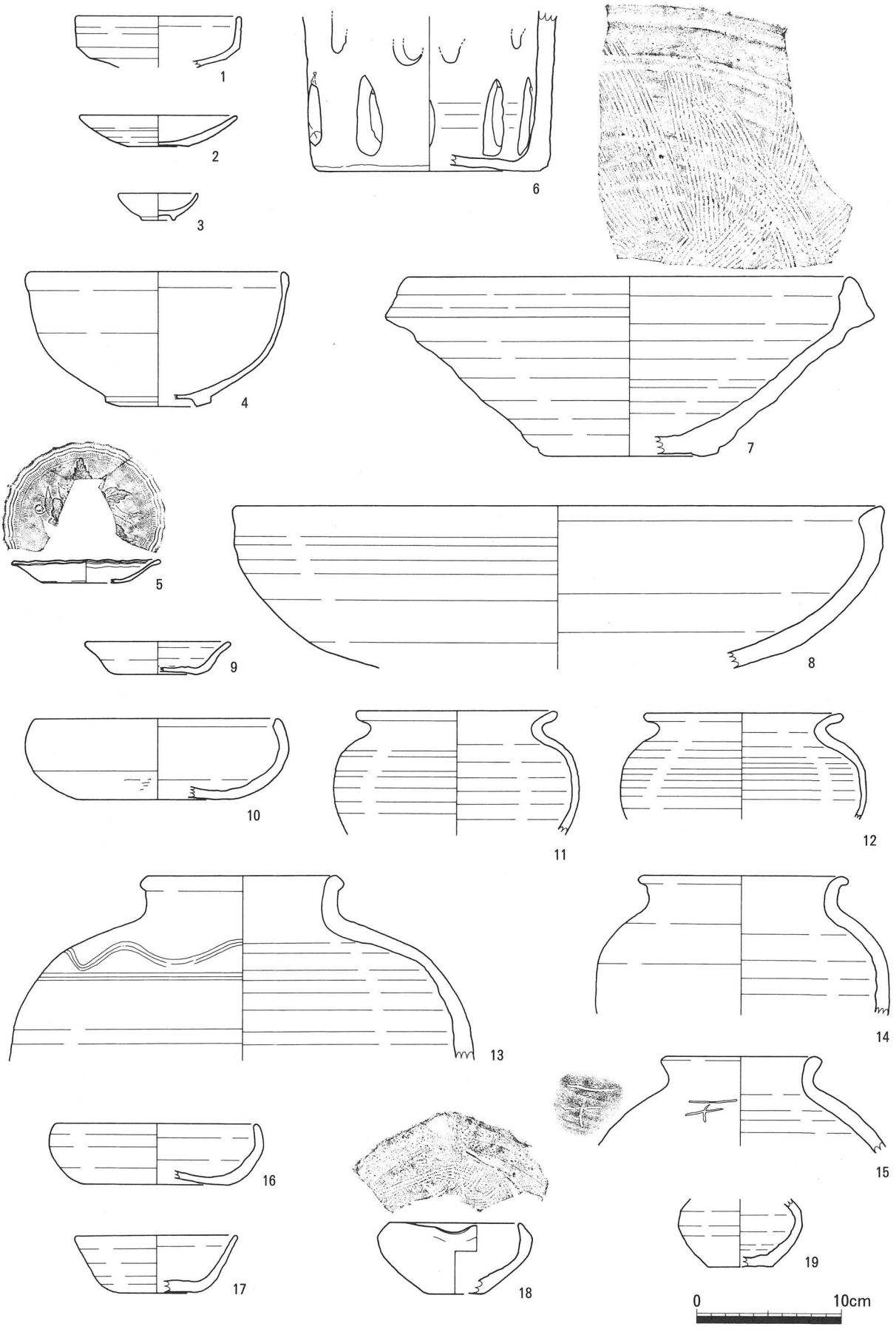
第20図　トレンチ7平面図・断面図（S＝1/60）



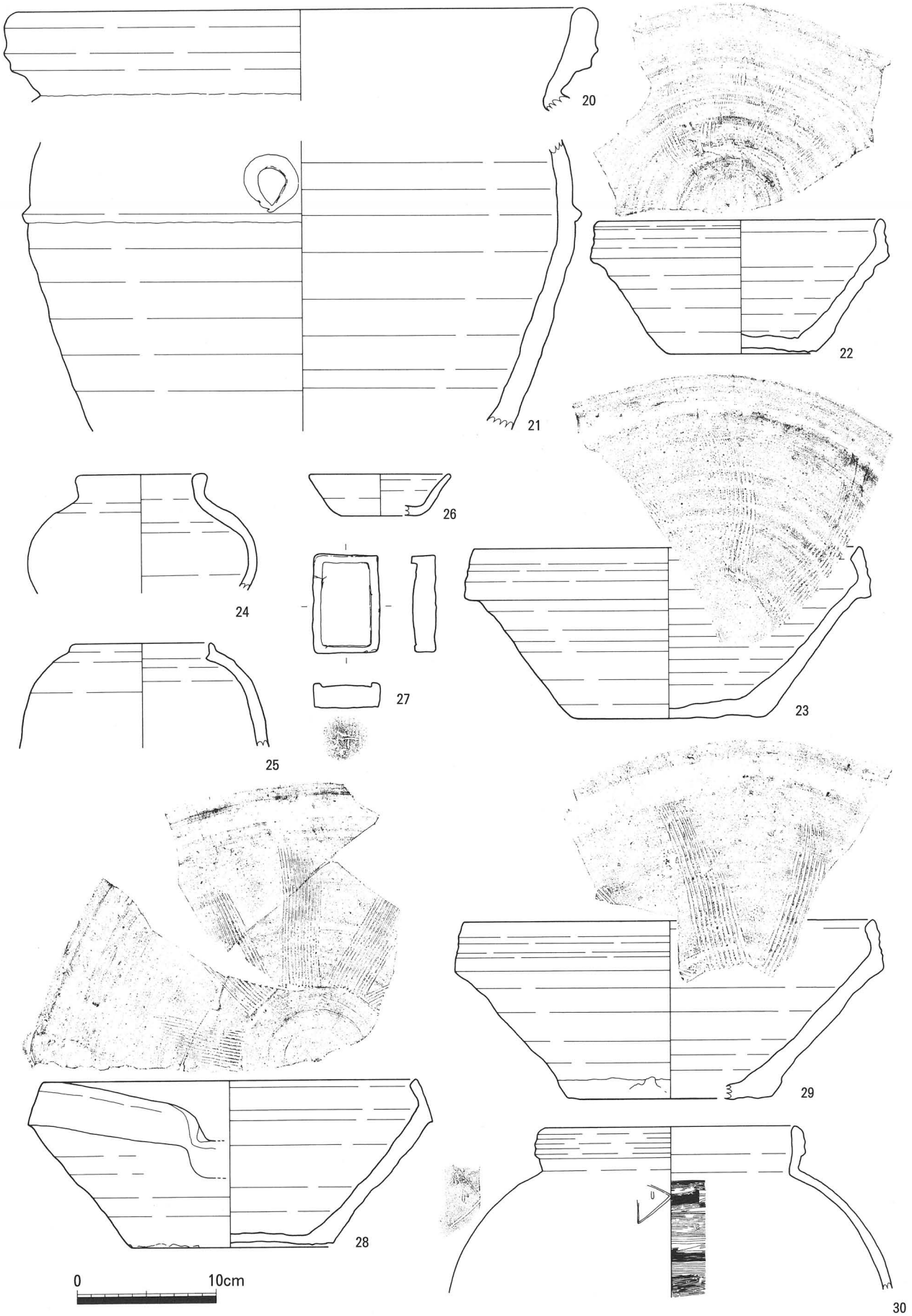
第21図　トレンチ11平面図・断面図（S＝1/50）



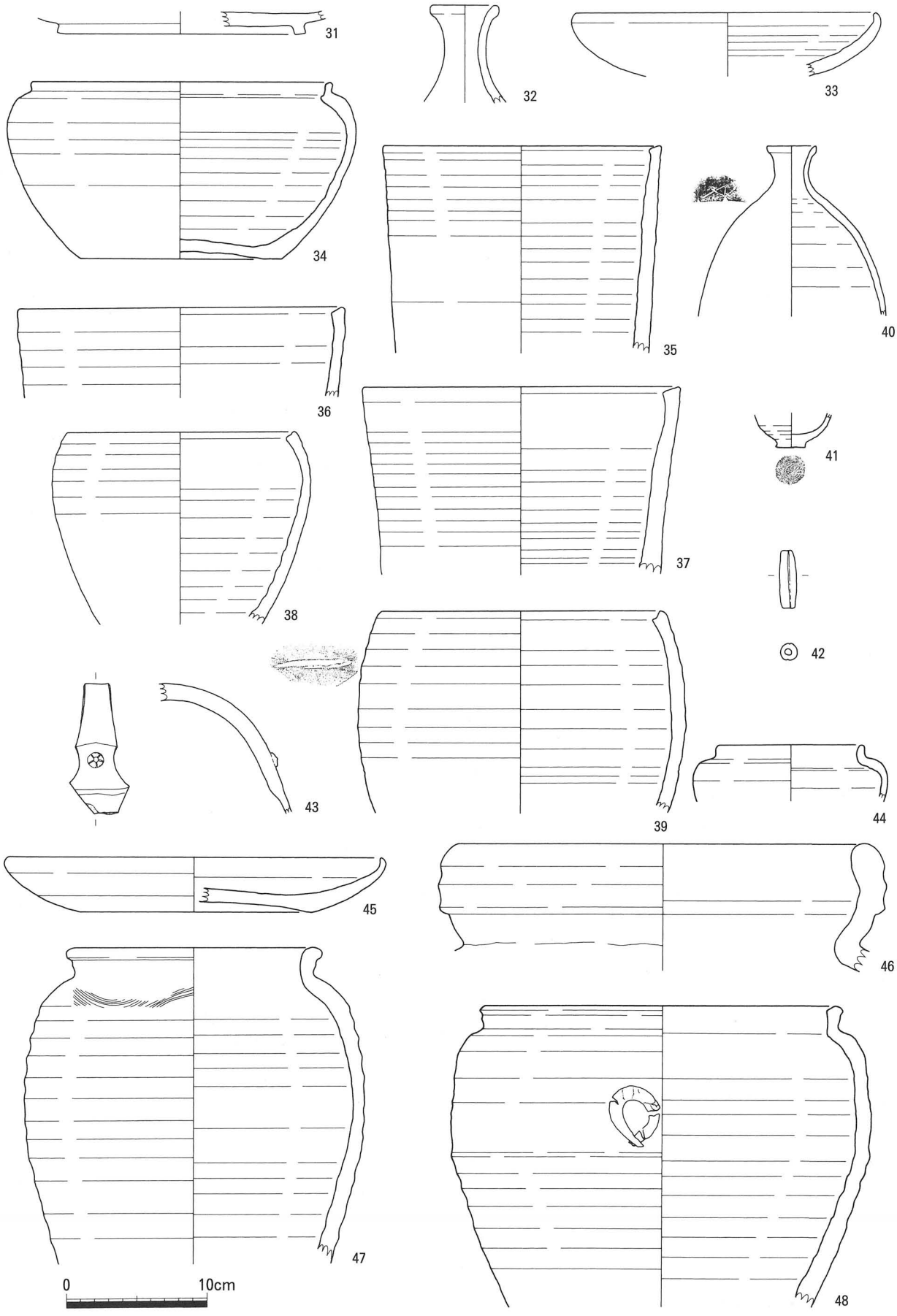
第22図　トレンチ１平面図・断面図（S＝1/40）



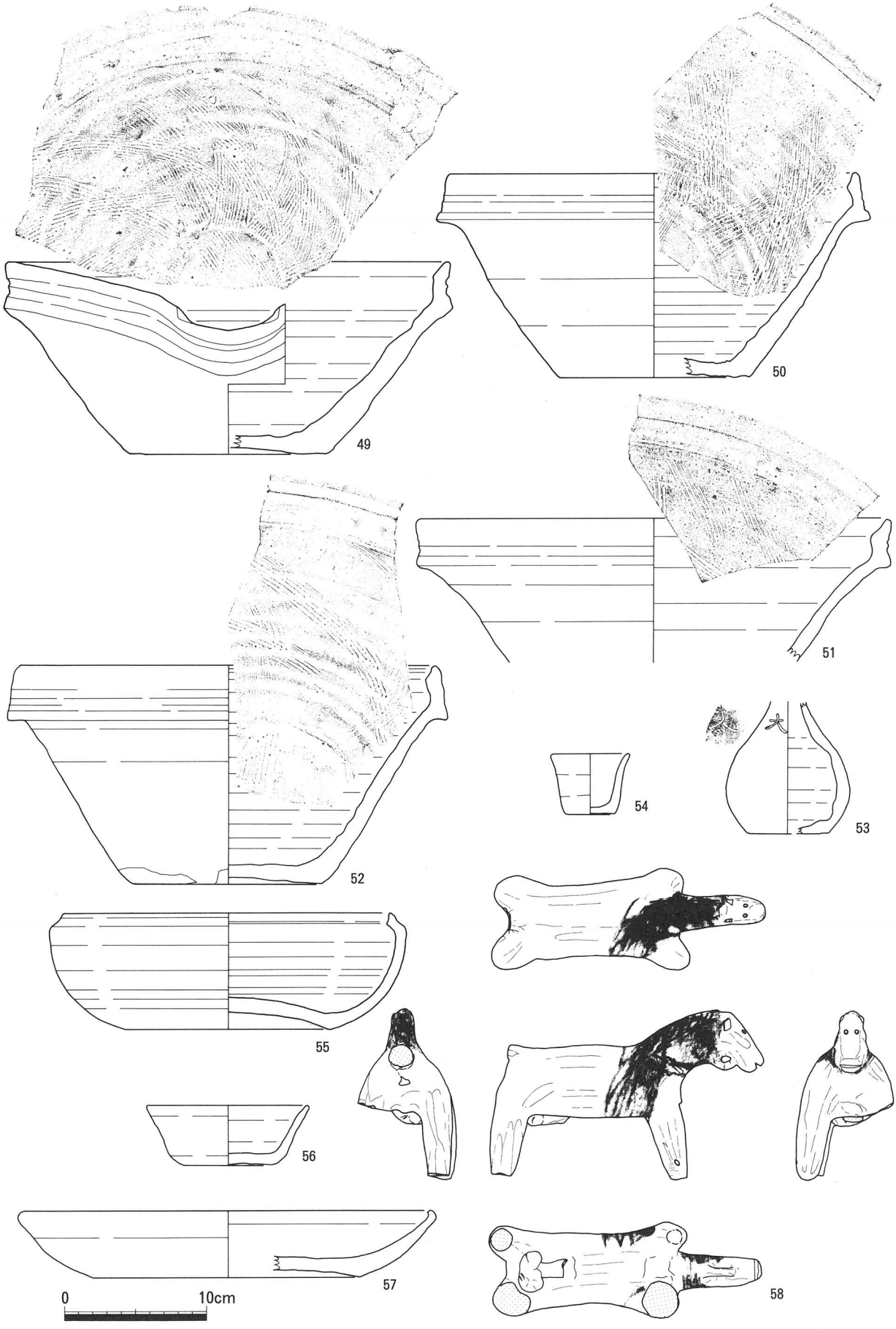
第23図　トレンチ７出土遺物１（1/4）



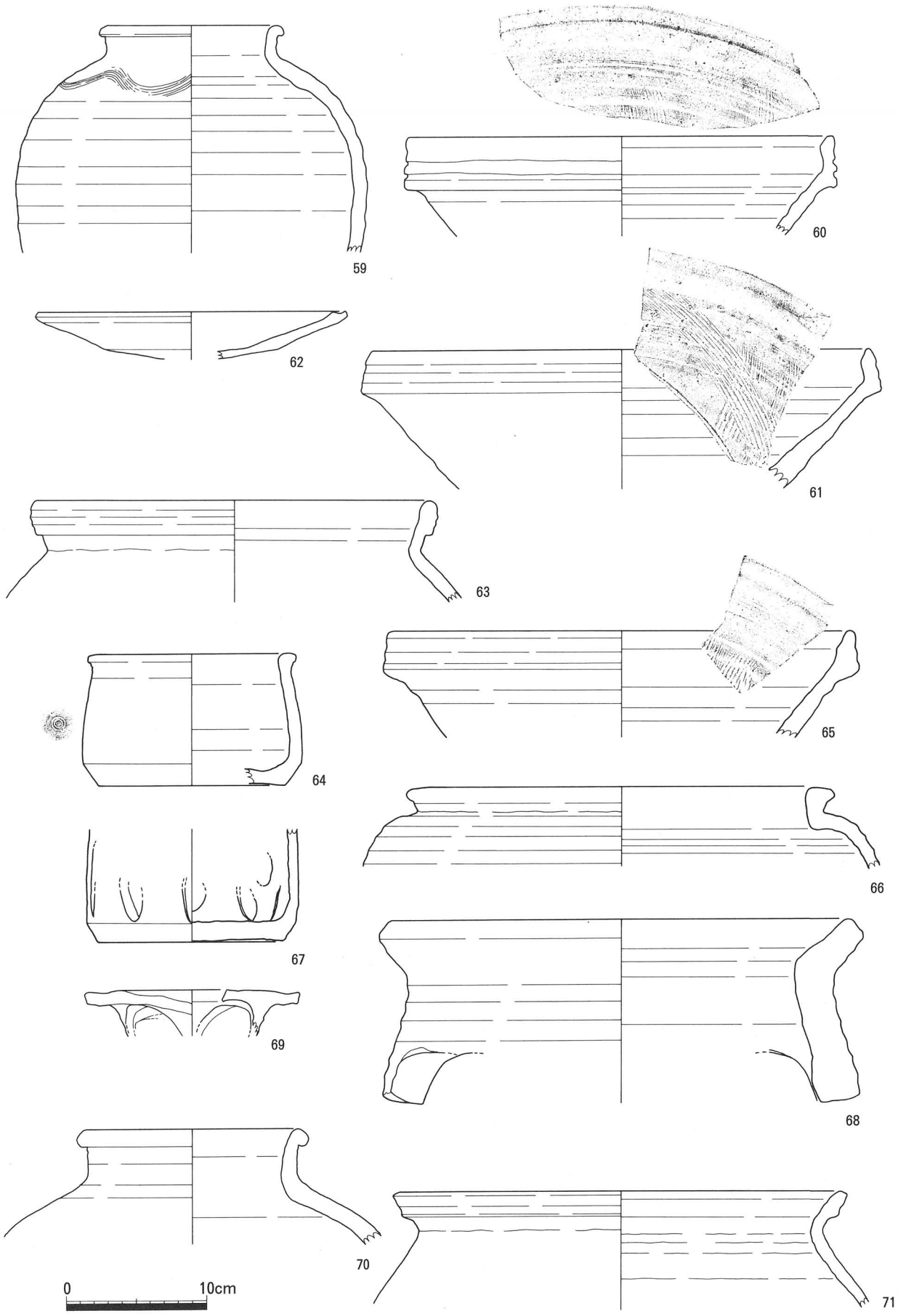
第24図　トレンチ７出土遺物２（１/４）（30は１/８）



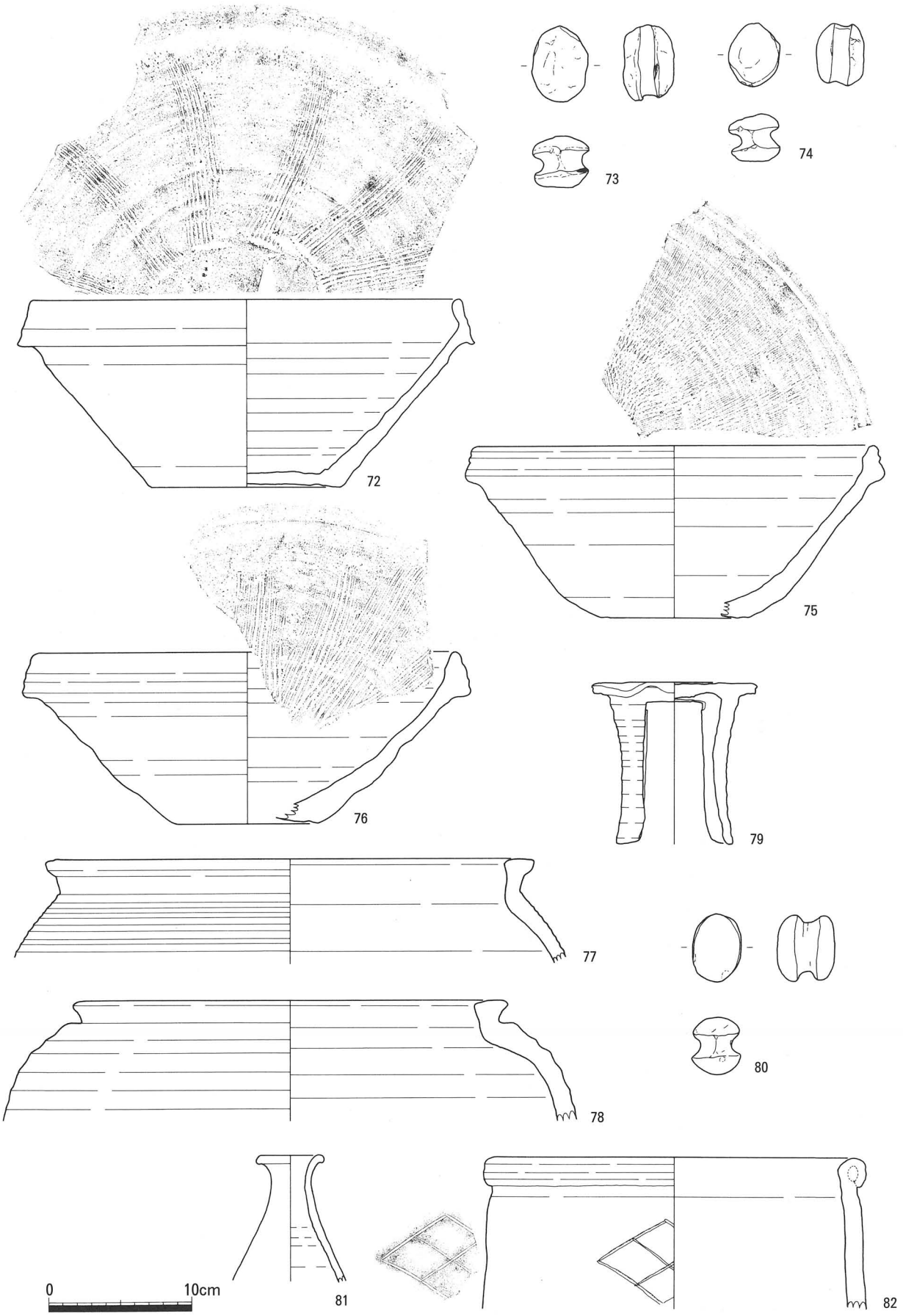
第25図　トレンチ７出土遺物３（1/4）



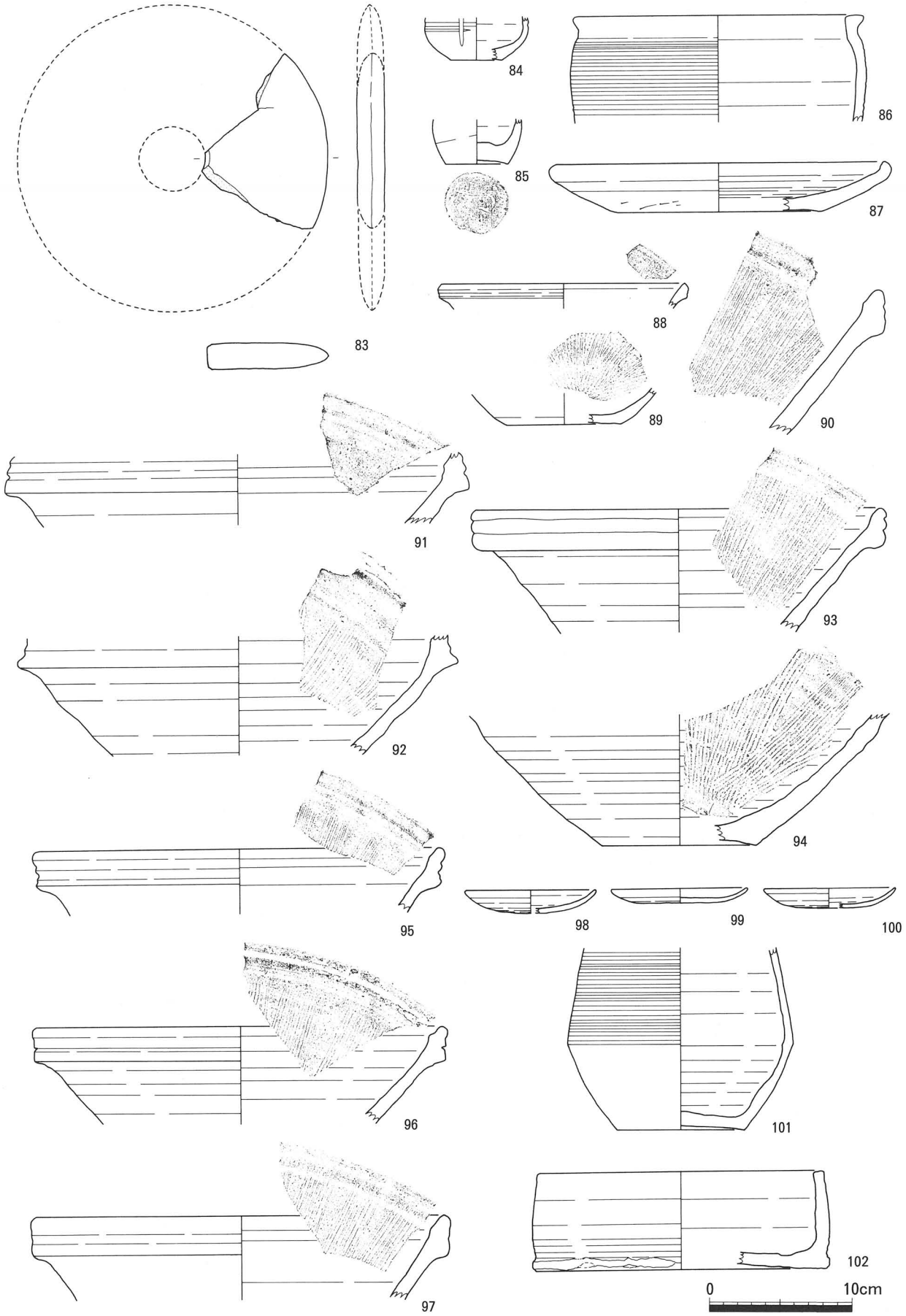
第26図　トレンチ７出土遺物４（1/4）



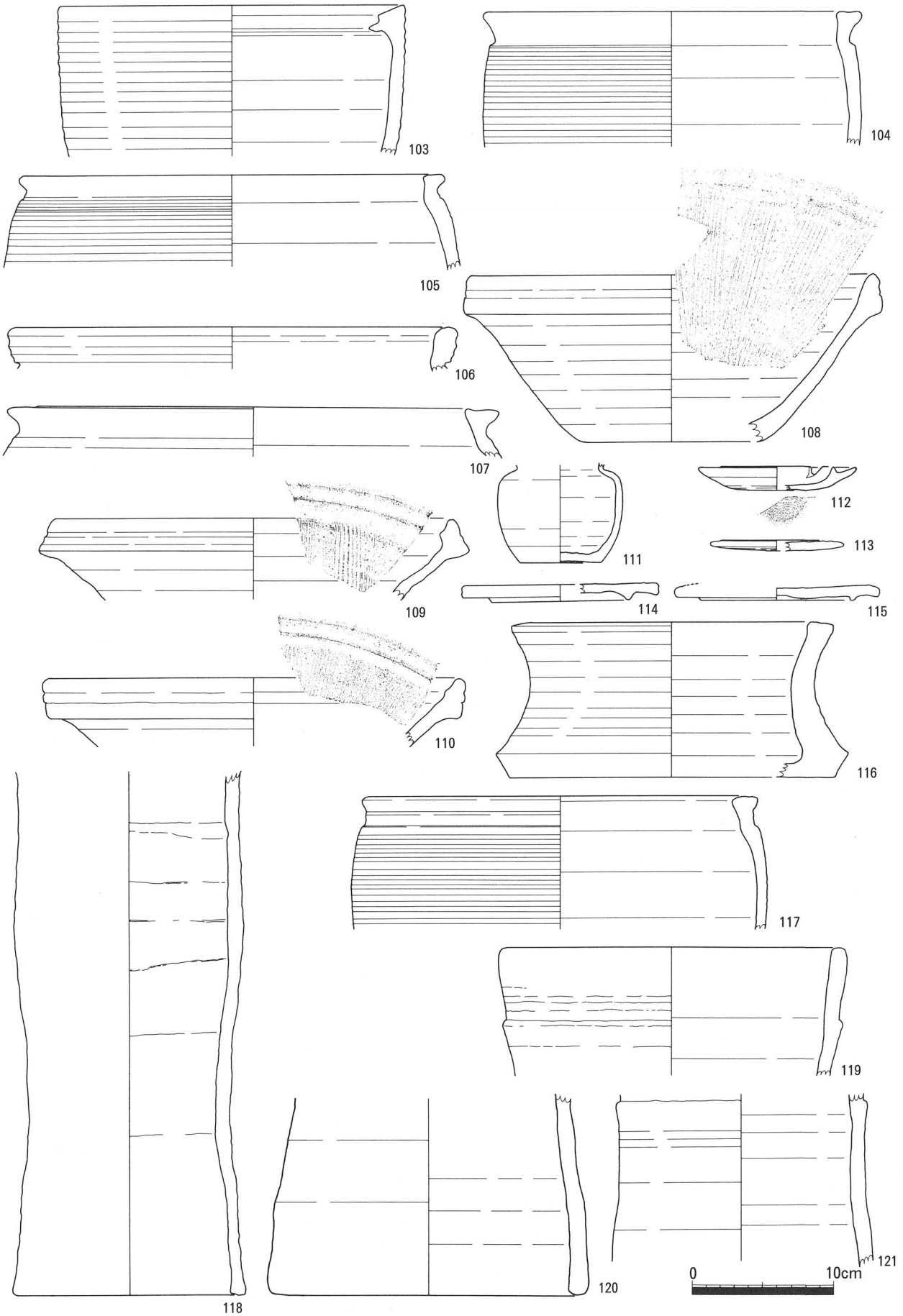
第27図　トレンチ７出土遺物５（１/４）（63は１/８）



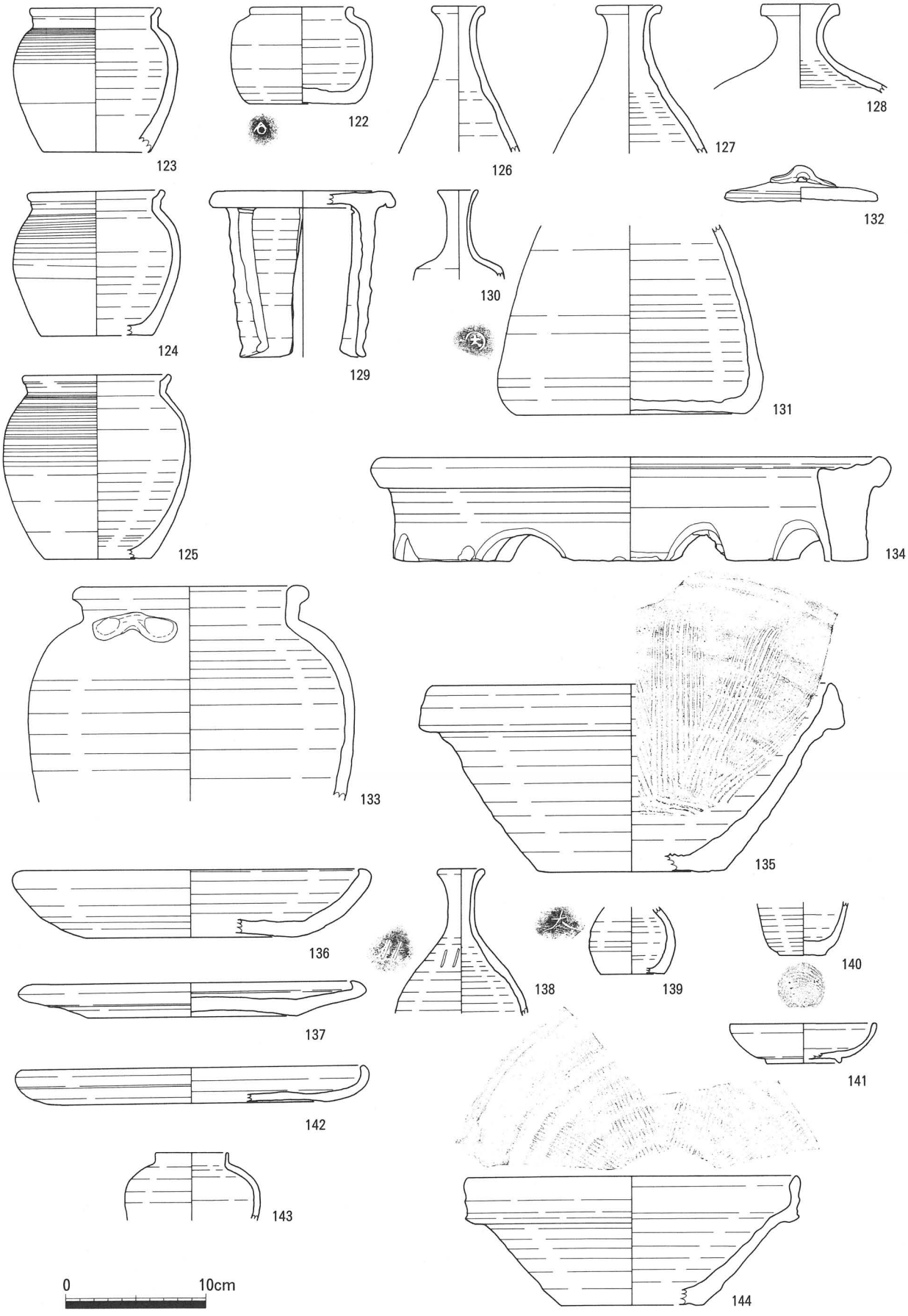
第28図　トレンチ７出土遺物６（１/４）（82は１/８）



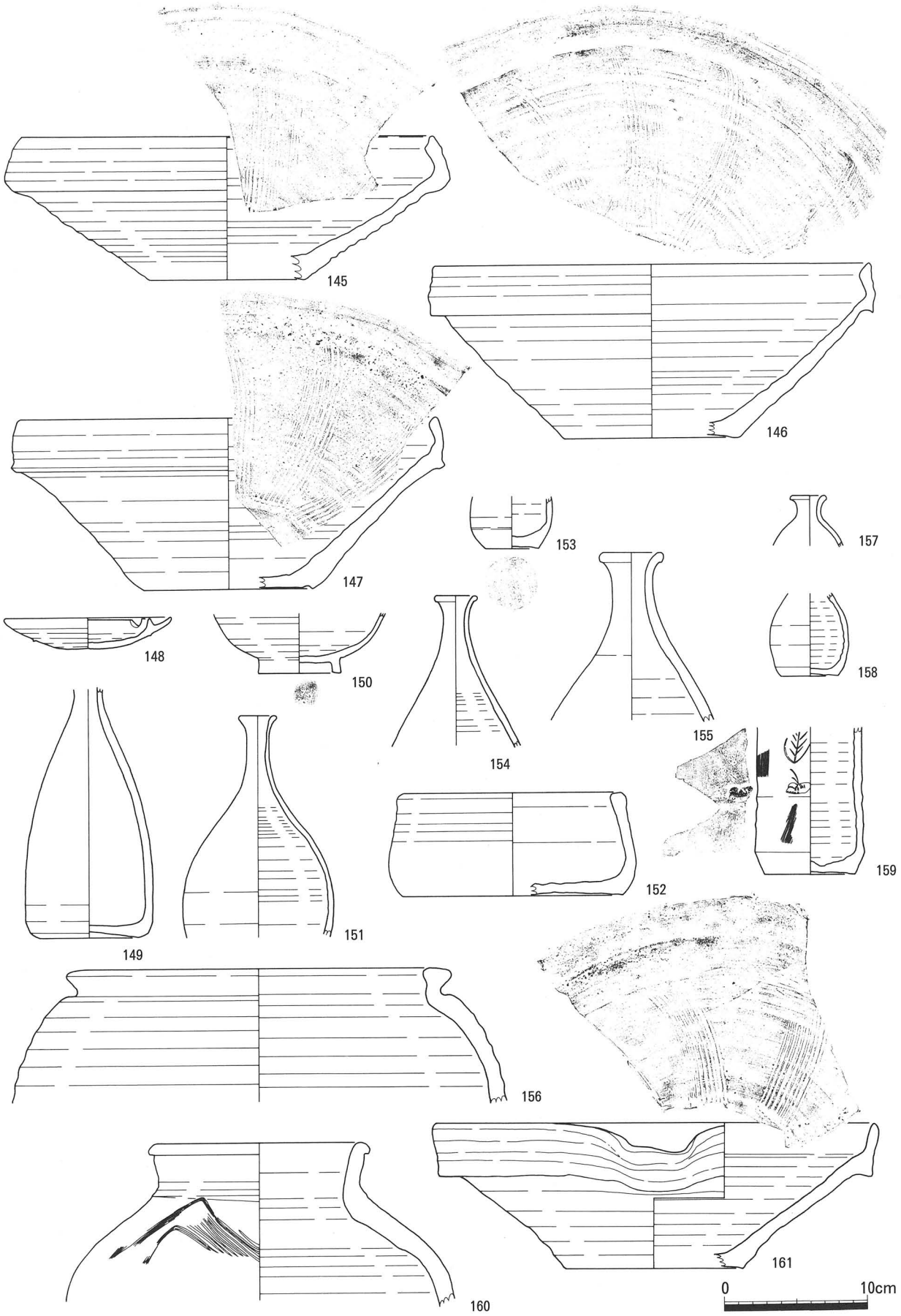
第29図　トレンチ８出土遺物１（1/4）



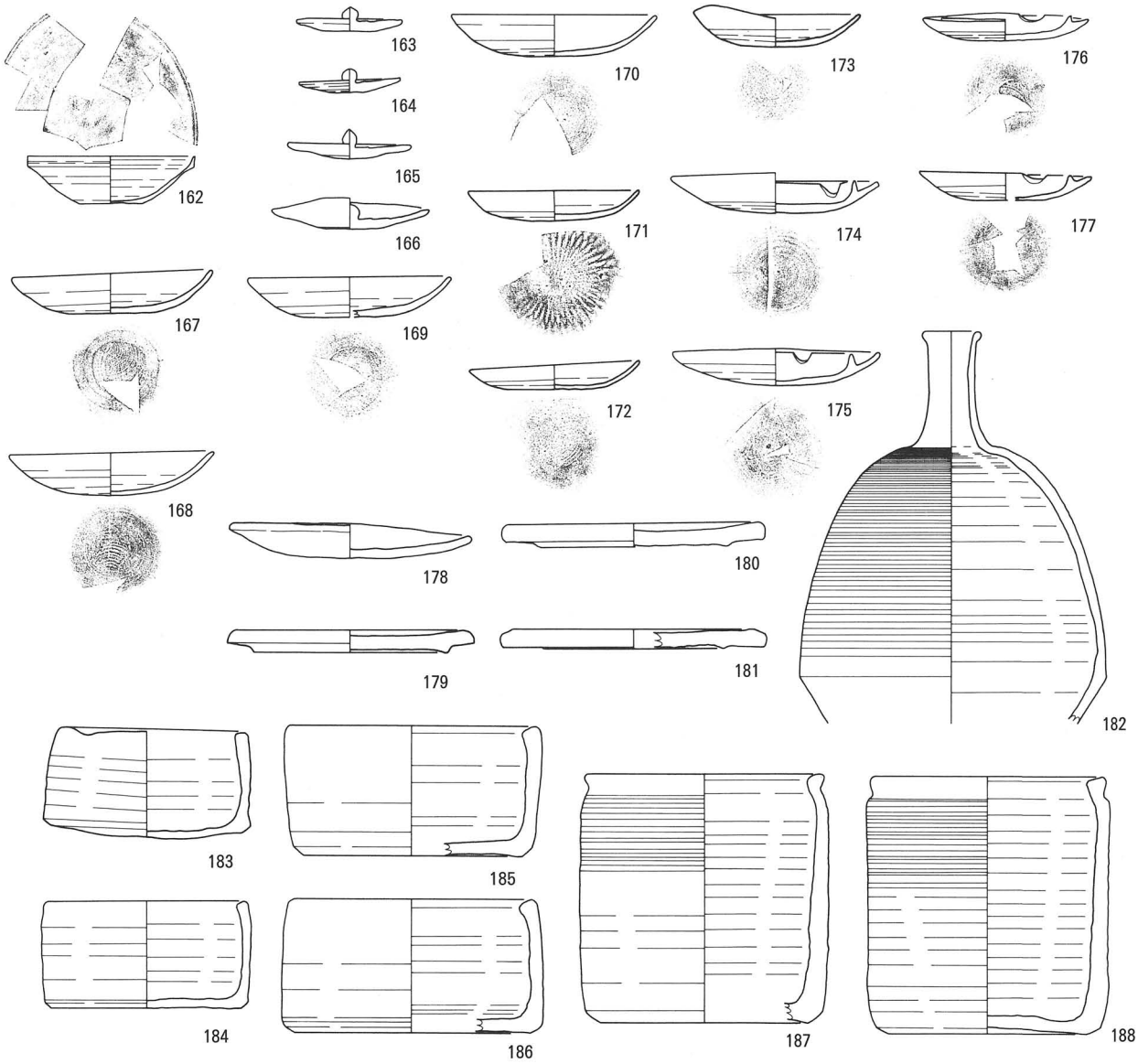
第30図　トレンチ８出土遺物２（1/4）



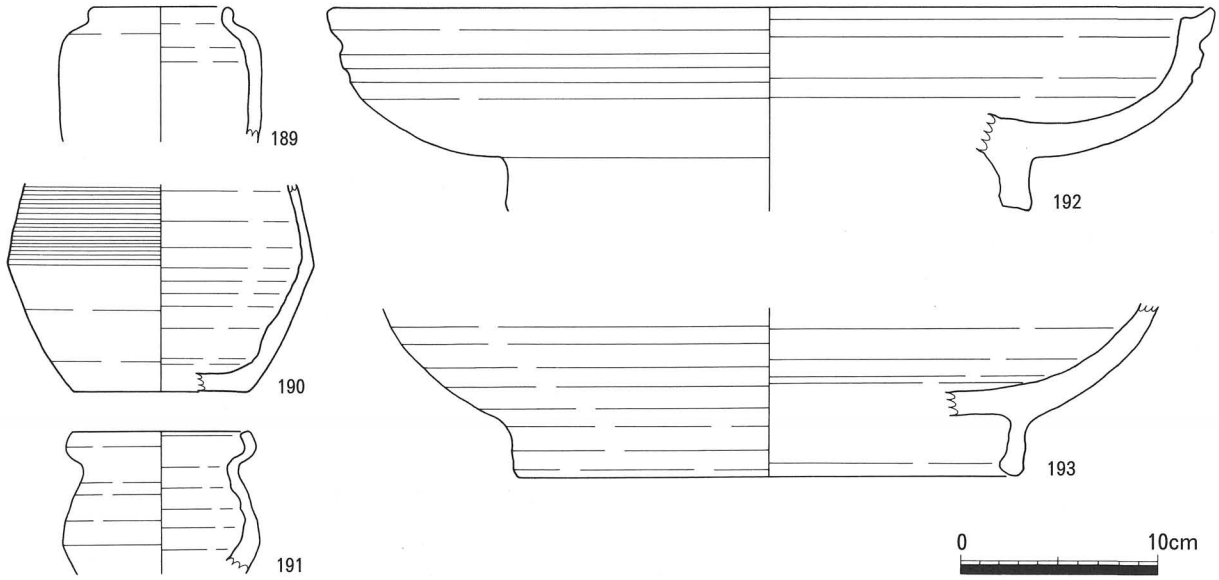
第31図　トレンチ８出土遺物３（1/4）



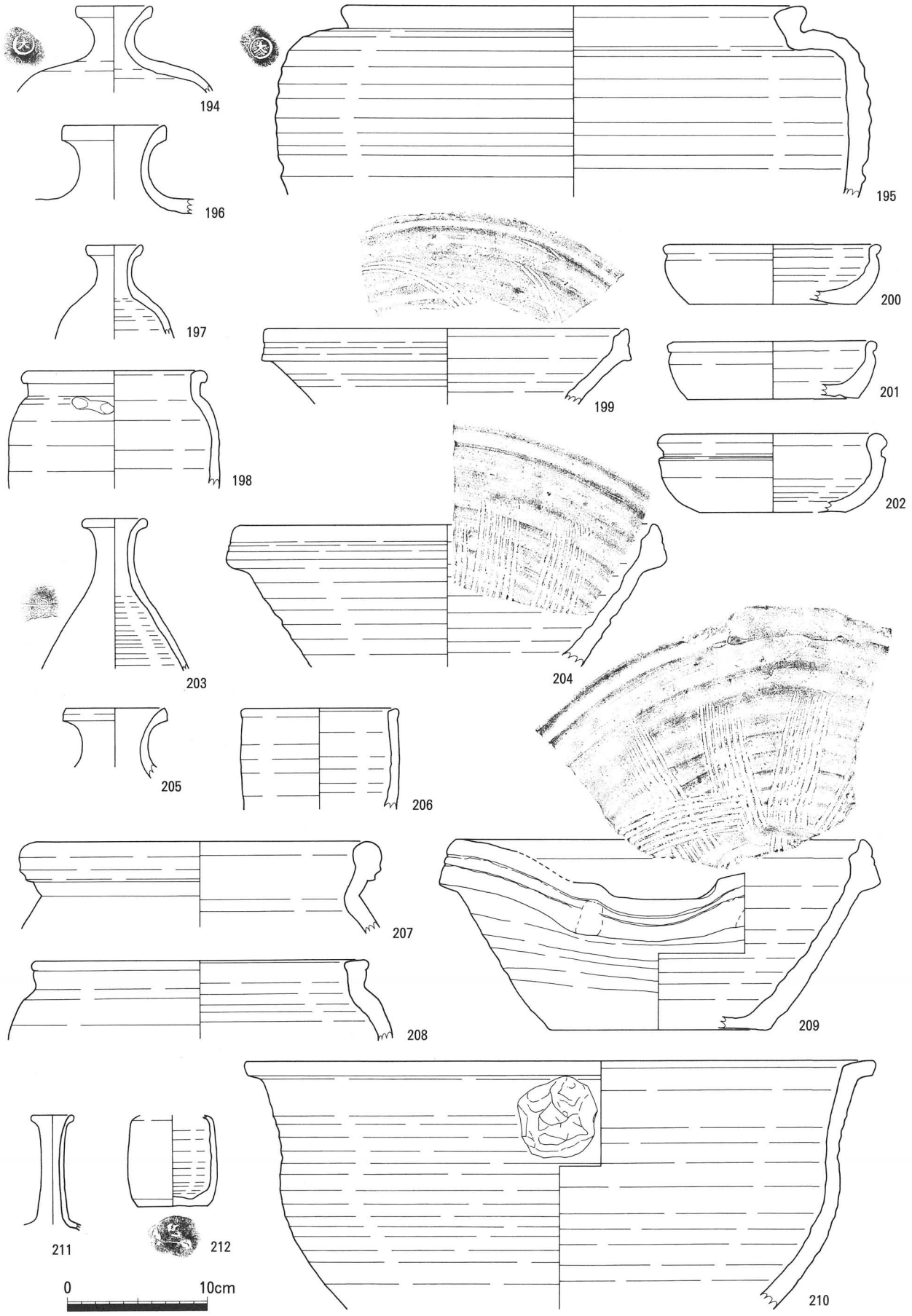
第32図　トレンチ８出土遺物４（1/4）



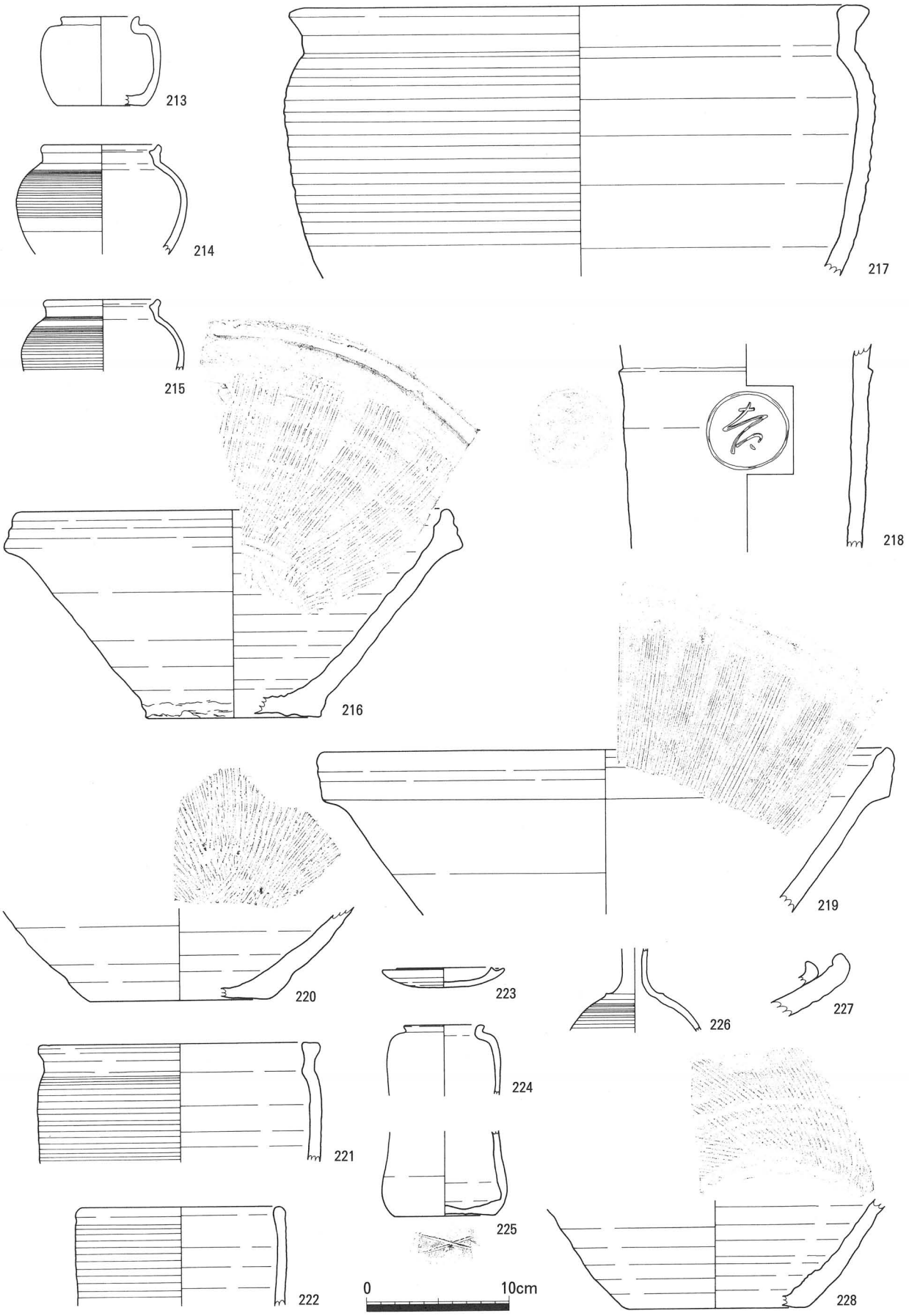
第33図　トレンチ８出土遺物５（1/4）



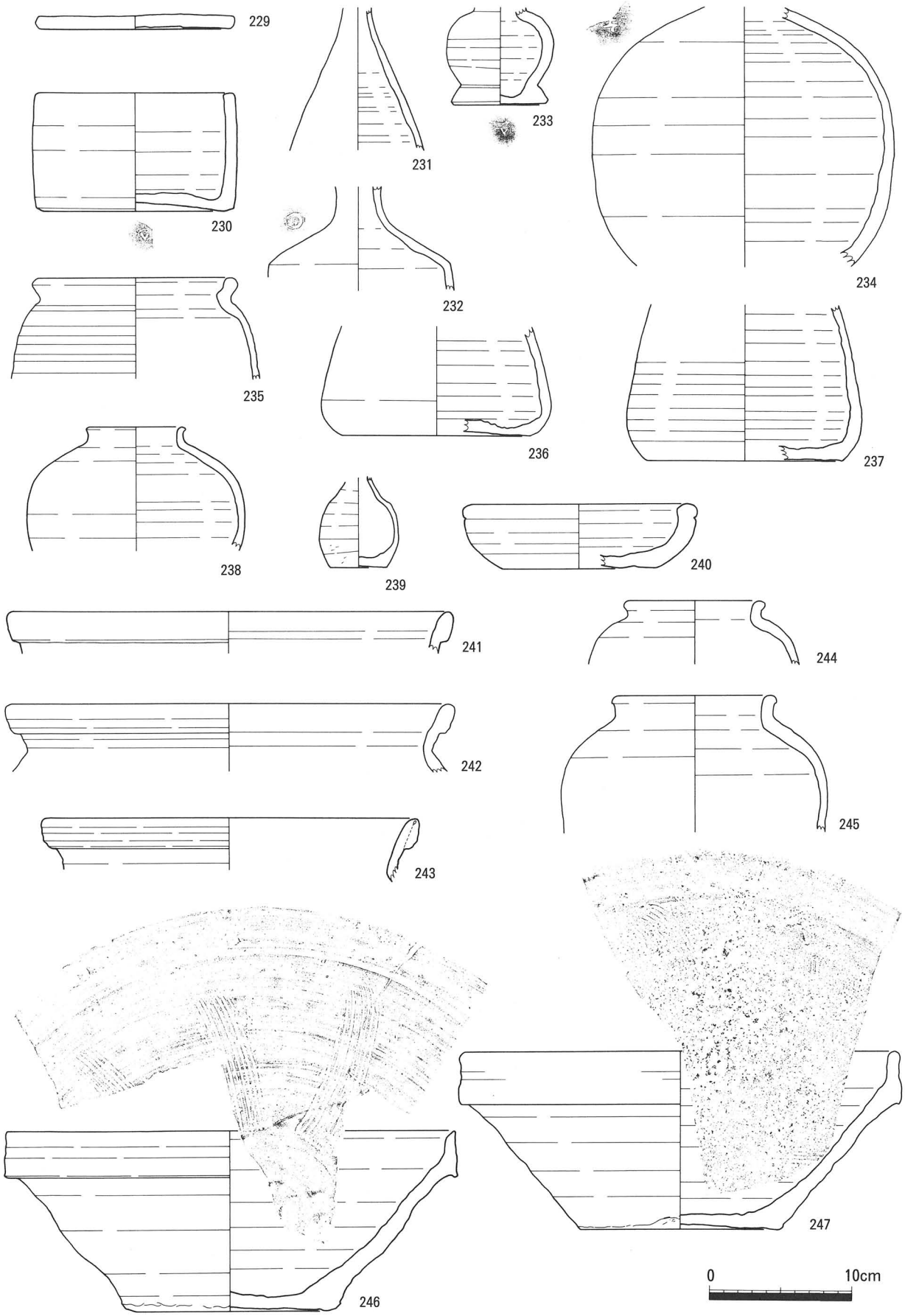
第34図　トレンチ９出土遺物１（1/4）



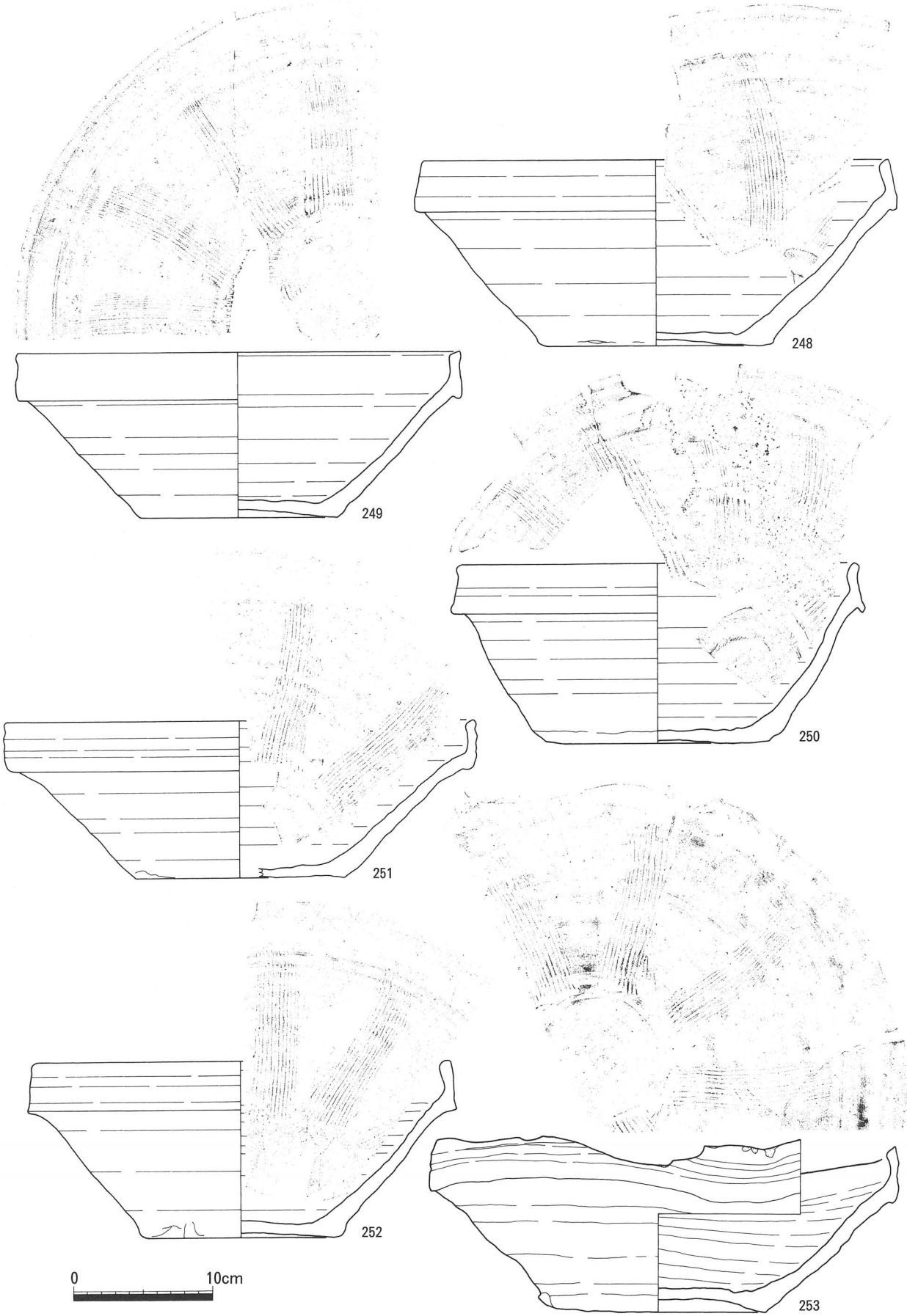
第35図　トレンチ９出土遺物２（1/4）



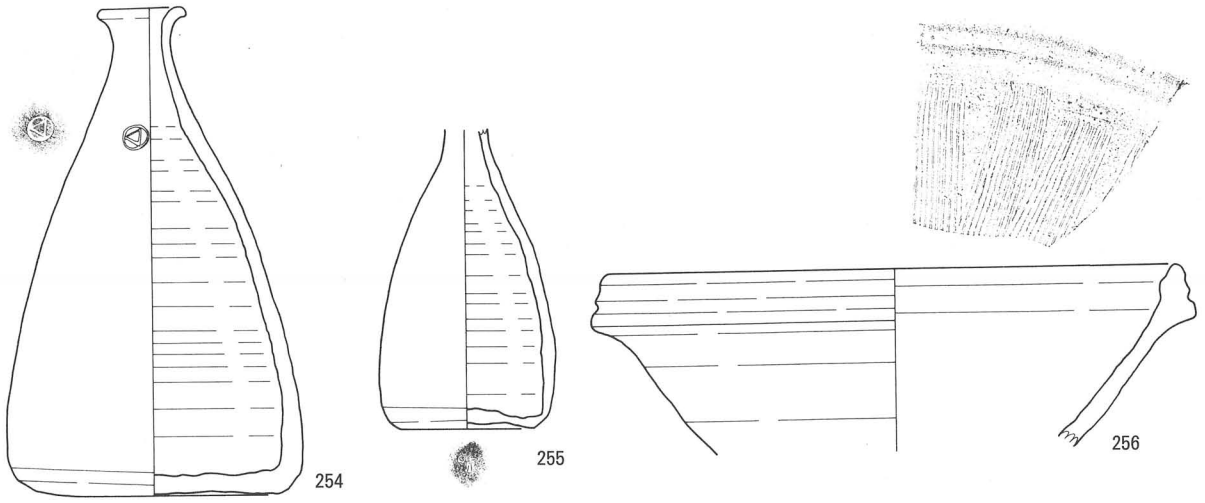
第36図　トレンチ10出土遺物１（1/4）



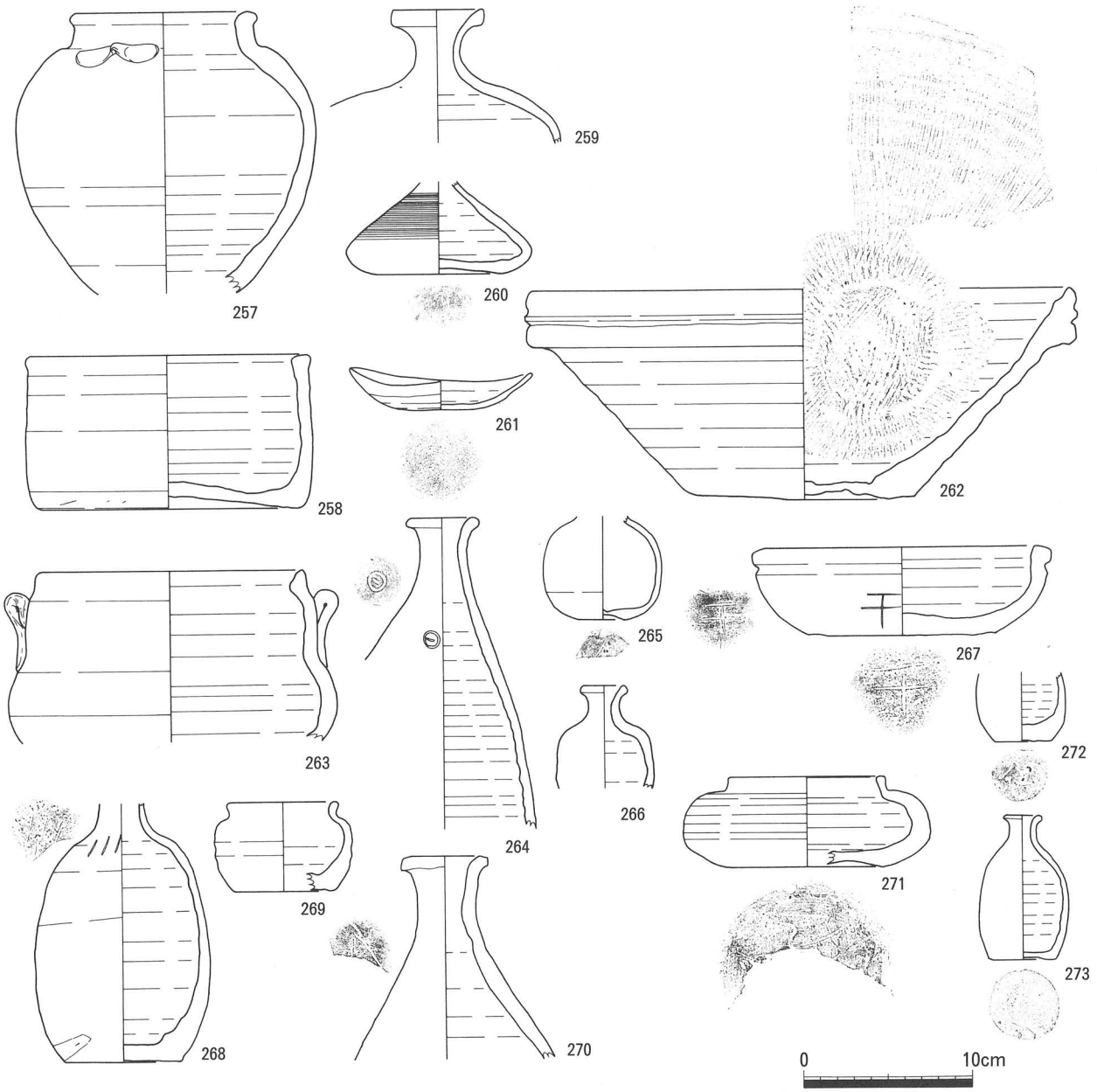
第37図　トレンチ10出土遺物２（1/4）



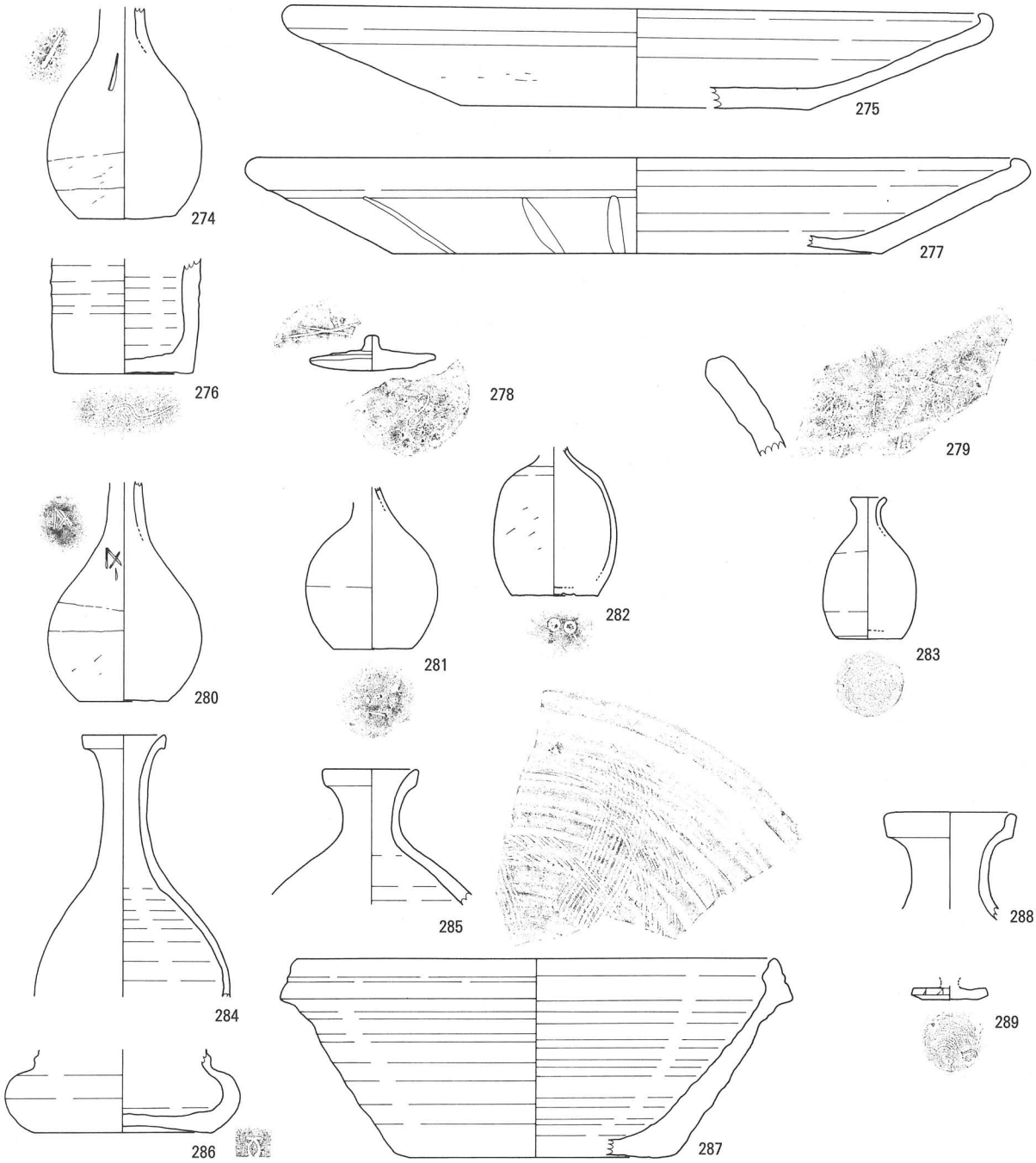
第38図　トレンチ10出土遺物３（1/4）



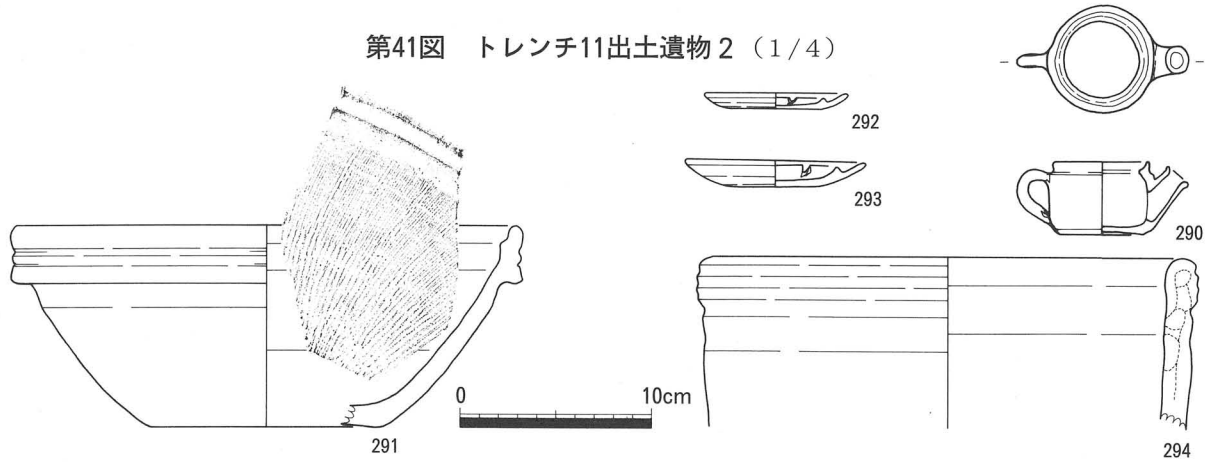
第39図　トレンチ10－２出土遺物（1/4）



第40図　トレンチ11出土遺物１（1/4）



第41図　トレンチ11出土遺物２（1/4）



第42図　トレンチ１出土遺物（1/4）

トレンチ７（第23図～第28図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
1	椀	MO2-T7南北軸-表層	061016	口縁部1/4	11.2	(3.6)	-	11.6	0.1～0.5mmの白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/2 暗赤褐 外面：5YR 3/2 暗赤褐、10YR 6/3 にぶい黄橙				＊瀬戸・美濃系鉄釉
2	皿	MO2-T7南北軸-表層	061016	1/4	10.8	2.2	4.4	11.0	0.1～0.5mmの黒色粒を含む	良好	内面：2.5Y 5/2 暗灰黄 外面：10YR 6/2 灰黄褐				＊信楽系
3	小皿（小杯？）	MO2-T7南北軸-表層	061016	1/3	5.5	1.9	2.2	5.6	磁器	良好	内面：10Y 8/1 灰白 外面：10Y 8/1 灰白			18C末～19C	＊肥前系
4	片口鉢	MO2-T7南北軸-表層	061016	1/4	17.6	9.5	7.4	18.4	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5Y 6/2 灰黄 外面：5Y 6/2 灰オリーブ			18C後半～19C前半	＊信楽・京系
5	絵皿	MO2-T7南北軸-表層	061016	2/3	10.1	1.7	-	10.4	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐			1800上限	
6	穴あき匣鉢	MO2-T7南北軸-南-21.3～21.15	061019	底部1/3	-	(10.9)	15.4	-	0.1～2.0mmの白色粒を多く含む 0.1～2.0mmの褐色粒を含む	良好	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：10YR 4/1 褐灰				
7	擂鉢	MO2-T7南北軸-南-21.2～下	061018	1/5	30.6	12.6	12.6	34.0	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐 外面：10R 5/2 灰赤			近世1期c	すり目：38mm幅　12本
8	鉢	MO2-T7南北軸-南-21.2～下	061018	口縁部1/6	45.0	(11.4)	-	45.6	0.1～0.5mmの白色粒を含む 0.1～1.0mmの黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：7.5R 4/2 灰赤				
9	小杯？	MO2-T7南北軸-南-20.44～20.24	061024	1/3	9.9	2.3	5.6	10.2	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐	底部糸切り痕			
10	鉢	MO2-T7-南北軸-南-20.44～20.24	061024	1/4	16.6	5.7	10.2	18.4	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/1 赤灰 外面：10R 3/2 暗赤褐、10R 4/2 灰赤				
11	小甕	MO2-T7南北軸-南-20.44～20.24	061024	口縁部1/5	13.6	(8.7)	-	17.2	0.1～1.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 4/1 赤灰 外面：10R 4/1 暗赤灰				
12	小甕	MO2-T7南北軸-南-20.44～20.24	061024	口縁部1/4	13.4	(7.4)	-	17.2	0.1～1.5mmの白色粒を少量含む 0.1～1.0mmの黒色粒を極少量含む	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：10YR 5/2 灰黄褐				
13	壺	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061025	胴上部2/5	13.2	(13.0)	-	-	0.5mm前後の褐色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤 外面：10YR 5/3 にぶい黄褐				
14	小壺	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061025	口縁部1/4	13.7	(9.8)	-	20.4	0.1～0.5mmの白色粒を少量含む	良好	内面：N 5/ 灰 外面：10YR 5/1 褐灰				
15	小壺	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061025	口縁部1/4	10.2	(6.3)	-	-	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～0.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：10YR 6/1 褐灰		胴部にヘラ描き：「干」		
16	鉢	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061026	1/5	14.0	4.3	10.0	15.0	0.1～1.0mmの白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/1 褐灰 外面：10R 3/1 暗赤灰				
17	小杯	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	1/4	11.1	4.1	6.2	11.4	0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐	底部糸切り			
18	小形擂鉢	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	2/5	9.0	5.0	3.9	10.8	0.1～0.5mmの白色粒を含む 0.1～0.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/1 褐灰 外面：5YR 4/2 灰褐				＊擂鉢を模した小型の鉢で非常に珍しい
19	茶入（？）	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	底部1/4	-	(4.8)	4.6	8.6	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				＊大海風
20	甕	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	口縁部1/8	40.2	(6.5)	-	-	0.1～2.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10Y 5/1 灰 外面：7.5Y 5/1 灰				
21	水屋甕	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	胴部1/3	-	(20.9)	-	40.0	0.1～4.0mmの白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5Y 4/1 灰 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				水屋甕でも大型品
22	小擂鉢	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	2/5	20.2	9.6	10.7	21.4	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙		注ぎ口にヘラ描きの線	中世6期a	すり目：27mm幅　10本
23	擂鉢	MO2-T7南北軸-南-20.24～20.00	061027	2/5	27.2	12.3	13.8	29.0	0.1～2.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐			中世6期b	すり目：25mm幅　9本 ＊底部に５cm大の陶片付着
24	小壺	MO2-T7南北軸-南-19.6～19.35	061030	口縁部2/5	8.6	(8.5)	-	16.4	0.1～2.0mmの白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：10YR 5/1 褐灰				
25	水指	MO2-T7南北軸-南-19.6～19.35	061030	口縁部1/4	9.7	(7.5)	-	-	0.1～1.0mmの白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/1 褐灰 外面：7.5YR 5/2 灰褐				
26	小杯	MO2-T7南北軸-南-19.6～19.35	061030	1/3	9.8	3.0	5.6	10.2	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/2 灰赤				
27	碗	MO2-T7南北軸-南-19.6～19.35	061027	完形	短軸4.8	厚さ1.8	長軸7.1	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	やや不良	表面：10YR 5/2 灰黄褐 裏面：10YR 4/1 褐灰		底部にヘラ描き：「干」		＊1点のみの確認
28	擂鉢	MO2-T7南北軸-南-19.65～19.45-南端坪掘	061205	1/3	26.6	12.0	14.7	29.0	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 3/2 暗赤褐			中世6期b	すり目：28mm幅　13本 ＊地山直上16C前
29	擂鉢	MO2-T7南北軸-南-19.6～19.35	061027	1/4	29.1	12.8	14.6	30.6	0.1～1.5mmの白色粒を含む 0.1～5.0mmの褐色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤			中世6期a	すり目：32mm幅　10本

表２　中央窯跡出土遺物観察表（１）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
30	甕	MO2-T7南北軸南-19.9～19.6	061027	口縁部1/2	35.7	(26.8)	-	-	0.1～0.2mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10YR 4/4 褐		胴部にヘラ描き		＊カセゴマの自然釉が全面に付着
31	台付鉢（？）	MO2-T7南北軸-北-21.95～21.8	061020	底部1/4	-	(1.1)	17.4	-	0.1～0.5mm前後の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 3/3 暗赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				
32	徳利	MO2-T7南北軸-北-20.97～20.64	061023	頸部のみ残存	4.6	(6.9)	-	-	0.1～2.0mmの白色粒を含む 0.1～0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5Y 4/1 灰 外面：7.5YR 3/3 暗褐				
33	小平鉢	MO2-T7南北軸-北-20.97～20.64 MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061023 061023 •24	口縁部1/3	21.2	(4.5)	-	22.0	0.1～1.0 mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 2/2 極暗赤褐、10R 4/6 赤 外面：10YR 4/3 にぶい黄褐（自然釉）				
34	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	1/5	20.9	12.5	14.2	24.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/4 暗赤				
35	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061024	口縁部1/5	19.3	(14.7)	-	19.6	0.1～1.0mmの白色粒を含む 1.0mm前後の褐色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/3 にぶい橙 外面：10R 4/4 赤褐（ひだすき）				
36	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061024	口縁部1/6	22.6	(6.4)	-	23.0	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 3/2　暗赤褐				
37	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	口縁部1/4	22.2	(13.3)	-	22.4	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/2 灰赤 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐				
38	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061023	口縁部1/6	16.0	(13.6)	-	18.2	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤 外面：10R 5/4 赤褐				
39	水指	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061023 •24	口縁部1/8	19.6	(14.3)	-	23.2	0.1～0.5mmの白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：7.5R 4/4 にぶい赤		胴部にヘラ描き： 「－」		
40	徳利	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	頸部	3.5	(12.1)	-	-	0.1～0.5mmぐらいの黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（かせごま）		胴部にヘラ描き： 「メ4-」		
41	茶入？	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	底部のみ	-	(2.3)	2.1	-	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐	底部糸切り	底部にヘラ描き： 「Xメ4」		
42	土錘	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061023 •24	完存	長 4.1	幅 1.2	穿孔径 0.5	-	0.1～0.5mmぐらいの黒色粒を少量含む	良好	外面：10R 5/4 赤褐				＊個体数少ない
43	把手付鉢（銚子）	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061024	把手のみ	-	(9.2)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5Y 5/2 暗灰黄				＊個体数少ない
44	鉢	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061023 •24	口縁部1/4	10.0	(4.0)	-	13.8	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/4 暗赤				
45	平鉢	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	1/2	26.2	3.9	16.2	27.0	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐				
46	甕	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.41	061024	口縁部1/6	28.3	(7.6)	-	-	0.1～4.0mmの白色粒を多く含む 0.1～1.0mmの黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：5YR 4/1 褐灰				
47	壺	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061024	胴部の一部	16.4	(22.5)	-	24.0	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：2.5YR 4/1 赤灰				
48	水屋甕	MO2-T7南北軸-北-20.64～20.44	061024	口縁部1/2	24.4	(21.4)	-	29.8	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/6 暗赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐				
49	擂鉢	MO2-T7南北軸-北-20.44～20.24	061025	2/5	31.0	13.7	13.6	31.6	0.1～1.0mm前後の黒色粒を含む 0.1～1.0mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐	火ぶくれで歪みあり		近世１期 b	すり目： 28mm幅　12本 ななめすり目： 22mm幅　10本
50	擂鉢	MO2-T7南北軸-北-20.44～20.24	061025	1/4	28.4	14.5	13.4	30.6	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～0.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤 外面：2.5YR 4/2　灰赤			近世１期 b	すり目： 30mm幅　10本
51	擂鉢	MO2-T7南北軸-北-20.24～20.00	061026	口縁部1/5	32.9	(10.2)	-	33.4	0.1～1.5mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐			近世１期 c	すり目： 24mm幅　9本
52	擂鉢	MO2-T7南北軸-北端-20.24～20.00	061027	1/5	29.2	15.6	13.3	31.1	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/8 橙 外面：7.5YR 5/2 灰褐、5YR 6/6 橙			近世１期 b	すり目：斜め 20mm幅　7本
53	小形徳利	MO2-T7南北軸-北-20.44～20.24	061025	底部2/5	-	(9.4)	5.8	8.8	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐		胴部にヘラ描き： 「大」		
54	小杯	MO2-T7南北軸-北-20.44～20.24	061025	1/3	5.3	4.3	3.3	5.6	0.1～1.0mmの黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/4 暗赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐				＊個体数少ない
55	鉢	MO2-T7南北軸北-北端-20.24～20.00	061027	1/4	22.8	8.3	14.4	25.2	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/1 暗赤灰 外面：7.5R 4/2 灰赤				＊歪みあり
56	小杯（？）	MO2-T7南北軸-北-20.24～20.00	061026	2/5	11.2	4.3	6.2	11.4	0.1～1.0mmの黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：10R 5/4 赤褐	底部糸切り			
57	平鉢	MO2-T7南北軸-北-20.24～20.00	061025	1/4	28.8	4.8	18.8	29.6	0.1～2.5mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐、2.5Y 7/1 灰白				
58	陶馬	MO2-T7-南北軸北-20.24	061025	-	長さ 19.2	12.1	幅 6.8	-	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/6 暗赤褐				
59	壺	MO2-T7南北軸-北-19.9～19.6	061027	口縁部1/3	11.9	(16.3)	-	24.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5Y 5/1 黄灰 外面：5Y 5/1 灰				

表２　中央窯跡出土遺物観察表（２）

番号	器種	出土地点	採取日	残存部	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	最大径 (cm)	胎土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備考
60	擂鉢	MO2-T7南北軸-北-19.6～19.35	061030	口縁部1/4	29.4	(7.1)	-	30.8	0.1～1.0mmぐらいの白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤				すり目： 28mm幅　11本
61	擂鉢	MO2-T7南北軸-北-19.6～19.35	061030	口縁部1/6	35.1	(10.0)	-	37.0	0.1～1.5mmの白色粒を含む 0.1～2.0mm前後の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 4/1 赤灰 外面：2.5YR 4/1 赤灰				すり目： 26mm幅　9本 ＊復元径が広め
62	平鉢（皿）	MO2-T7南北軸-北-19.6～19.35	061030	1/5	21.7	(3.4)	12.3	22.0	0.1～1.5mmの白色粒を多く含む 0.1～0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 3/2 暗赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐、10YR 3/2 黒褐	歪みあり			＊個体数少ない
63	大甕	MO2-T7南北軸-北-19.6～19.35	061030	口縁部1/2	55.4	(14.0)	-	-	0.1～3.0mmの白色粒を多く含む 0.1～2.0mmの黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐			16C前	
64	建水	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	1/4	13.0	9.4	13.2	15.6	0.1～1.0mmの黒色粒を含む 0.1～1.0mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/1 赤灰 外面：10R 4/3 赤褐		底部に陶印：「◎」		
65	擂鉢	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	口縁部1/12	32.3	(7.6)	-	33.8	0.1～1.0mmの褐色粒を含む 0.1～1.0mm前後の白色粒を少量含む	不良	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：10YR 7/4 にぶい黄橙			近世 1期c	すり目：不詳 ＊ナナメすり目あり
66	水屋甕	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	口縁部1/6	26.8	(5.7)	-	-	0.1～0.5mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5R 3/4 暗赤				
67	穴あき匣鉢	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	底部のみ残存	-	(8.1)	13.3	-	0.1～1.0mm前後の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：5Y 6/2 灰オリーブ 外面：5Y 5/1 灰				＊優品用か丁寧なつくり
68	焼台	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	1/8	32.3	13.1	33.8	34.4	0.1～3.0mm前後の白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：N 6/ 灰				
69	焼台	MO2-T7-東-南北軸上南側(窯内)-21.23	061017・18	上部2/5	-	(3.3)	-	15.2	0.1～1.0mm前後の黒色粒を含む 0.1～0.5mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐 外面：2.5YR 4/1 赤灰				
70	壺	MO2-T7-東-21.3～21.1	061027～30	口縁部1/4	15.0	(7.7)	-	-	0.1～2.0mmの白色粒を含む 0.1～1.0mmの黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐、10YR 4/1 褐灰 外面：N5/ 灰				
71	大甕	MO2-T7-東-東-20.9～20.7	061102	口縁部1/8	62.4	(15.9)	-	-	0.1～2.0mm前後の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐				
72	擂鉢	MO2-T7-東-20.9～20.7	061102	1/2	29.8	13.3	13.2	32.0	0.1～0.5mmの白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤			中世 6期a	すり目： 30mm幅　10本
73	土錘	MO2-T7-西-21.55～21.35-床上一括	061019	完存	最大長 5.4	最大幅 3.9	最大厚 3.6	-	0.1～0.5mmの白色粒を含む	良好	上面：2.5Y 8/2 灰赤 下面：10YR 8/2 灰白				
74	土錘	MO2-T7-西-21.55～21.35-床上一括	061019	完存	最大長 4.4	最大幅 3.6	最大厚 3.3	-	不詳	良好	上面：N6/ 灰 下面：5Y 6/1 灰				
75	擂鉢	MO2-T7-西-西側-22.433	061017	1/4	27.5	12.2	10.5	29.2	0.1～1.0mm前後の白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 6/6 赤橙			近世 2期b	すり目： 40mm幅　14本
76	擂鉢	MO2-T7-西-西側-22.433	061017	1/4	29.2	12.1	9.8	31.4	0.1～1.0mmの白色粒を含む 0.1～2.0mmの黒色粒を多く含む	やや不良	内面：10R 6/8 赤橙 外面：2.5YR 6/6 橙			近世 2期a	すり目： 36mm幅　10本
77	水屋甕	MO2-T7-西-西側-22.433	061017	口縁部1/4	32.0	(6.9)	-	-	0.1mmの白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：10R 4/2 灰赤				
78	水屋甕	MO2-T7-西-西側-22.433	061017	口縁部1/4	29.0	(8.5)	-	-	0.1～1.0mm前後の黒色粒を含む 0.1～0.5mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 赤褐				
79	焼台	MO2-T7-西-西側-22.433	061017	2/5	-	11.4	8.2	11.6	0.1～0.5mmの黒色粒を含む 0.1～0.5mmの白色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：7.5YR 5/1 褐灰				
80	土錘	MO2-T7-西-西側-22.07～21.64	061018	完存	最大長 4.3	最大幅 3.5	最大厚 3.9	-	不詳	良好	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：10YR 5/1 褐灰、7.5YR 6/3 にぶい褐				
81	徳利	MO2-T7-西-西側-22.070	061017	頸部のみ残存	4.2	(8.9)	-	-	0.1～0.5mm前後の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/6 赤褐				
82	甕	MO2-T7-西-西側-22.07	061017	口縁部1/10	50.0	(21.4)	-	-	0.1～1.0mm前後の黒色粒を多く含む 0.1～0.6mm前後の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：7.5YR 5/3 にぶい褐		胴部にヘラ描き		

トレンチ８（第29図～第33図）

83	薬研?	MO-T8-東-窯内	051104	1/5	-	1.9	-	21.8	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	上面：10YR 6/4 にぶい黄橙、2.5Y 6/2 灰黄 下面：2.5Y 6/2 灰黄				
84	茶入れ?	MO-T8-東西軸-上層	051027	底部1/5	-	(3.0)	3.6	-	0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐				
85	茶入れ	MO-T8-東西軸-上層	051027	底部のみ	-	(2.2)	4.4	-	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤	ヘラ切り	底部に陶印：「X」		
86	甕	MO-T8-東-東西軸	051026	口縁部1/5	20.3	(7.6)	-	20.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/2 灰褐（塗土）				
87	平鉢	MO-T8-東-東西軸	051026	1/5	20.8	3.5	14.4	24.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤				
88	小擂鉢	MO-T8-東西軸-上層	051027	口縁部1/15	17.0	(1.8)	-	17.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：5YR 4/2 灰褐				すり目：不明

表２　中央窯跡出土遺物観察表（３）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
89	小擂鉢	MO-T8-東-東西軸	051026	底部1/4	-	(2.2)	8.0	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐				すり目： 14mm幅　6本
90	擂鉢	MO-T8-東西軸-上層	051027	口縁部一部分	-	(10.4)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐			近世 3期a	すり目： 34mm幅　13本
91	擂鉢	MO-T8-東西軸-上層	051027	口縁部1/10	-	(5.0)	-	32.6	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤			近世 2期a	すり目：不明
92	擂鉢	MO-T8-東-東西軸	051026	胴部1/10	-	(8.4)	-	31.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5Y 3/2 黒褐 外面：10YR 4/2 灰黄褐			近世 2期a	すり目： 29mm幅　7本 ＊溶着後はく離あり
93	擂鉢	MO-T8-東-東西軸	051026	口縁部1/10	28.4	(8.8)	-	29.0	0.1～2.0mm位の褐色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐			近世 3期a	すり目： 25mm幅　8本
94	擂鉢	MO-T8-東-東西軸 MO-T8-東西軸-上層	051026 051027	底部1/3	-	(9.3)	10.8	-	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤	底部、胴部にすり目あり		近世 2期a	すり目： 33mm幅　13本 ＊溶着痕あり
95	擂鉢	MO-T8-窯内-上層	051027	口縁部1/10	28.1	(4.6)	-	29.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐、10R 4/3赤褐			近世3期	すり目： 24mm幅　8本
96	擂鉢	MO-T8-窯内-上層	051027	口縁部1/6	28.6	(6.9)	-	29.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐			近世 2期b	すり目： 31mm幅　14本 ＊溶着痕2ヶ所あり
97	擂鉢	MO-T8-西-窯内	051026 ～27	口縁部1/8	28.8	(6.0)	-	29.6	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙、5YR 5/3 にぶい赤褐			近世3期	すり目： 25mm幅　8本
98	灯明皿	MO-T8-西-窯内	051026 ～27	1/2	9.0	1.6	-	9.2	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐(塗土) 外面：5YR 6/6 橙				
99	灯明皿	MO-T8-窯内-上層	051027	1/3	9.5	1.0	-	9.6	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：2.5Y 4/1 黄灰				
100	灯明皿	MO-T8-西-窯内	051026 ～27	2/5	9.0	1.5	-	9.1	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐(塗土) 外面：5YR 6/4 にぶい橙				
101	徳利	MO-T8-西-窯内	051026 ～27	底部2/3	-	(12.9)	9.0	16.0	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：N 6/1 灰				
102	匣鉢	MO-T8-窯内-上層	051027	1/5	19.8	6.9	20.6	21.0	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10YR 5/3 にぶい黄褐 外面：2.5Y 7/2 灰黄、10YR 5/2 灰黄褐				
103	甕（水指）	MO-T8-東-南北軸南半-20～80 MO-T8-東-南北軸-40～60	051031 051101	口縁部1/4	24.4	(10.8)	-	24.8	0.1～1.0mm位の黒色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 5/4 にぶい褐 外面：2.5YR 2/4 極暗赤褐				＊口縁部に緑色の自然釉 ＊胴部に「トビゴマ」
104	甕	MO-T8-南北軸-上層	051027	口縁部1/8	26.4	(9.8)	-	27.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10YR 3/2 黒褐（塗土）				
105	甕	MO-T8-東-南北軸-40～60	051101	口縁部1/10	29.7	(6.6)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：2.5Y 3/1 黒褐、5YR 4/3 にぶい赤褐				
106	大甕	MO-T8-南北軸-上層	051027	口縁部1/20	61.5	(5.9)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
107	甕	MO-T8-東-南北軸-40～60	051101	口縁部1/20	30.7	(3.5)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：7.5YR 5/3 にぶい褐				
108	擂鉢	MO-T8-東-南北軸-40～60	051101	1/6	28.6	12.1	12.8	30.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐			近世3期	すり目： 26mm幅　9本
109	擂鉢	MO-T8-南北軸-上層	051027	口縁部1/8	28.4	(5.9)	-	30.8	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐			近世 2期a	すり目： 33mm幅　10本
110	擂鉢	MO-T8-南北軸-上層	051027	口縁部1/8	29.4	(4.9)	-	30.2	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐			近世3期	すり目： 21mm幅　9本
111	小壷	MO-T8-南北軸-上層	051027	底部から胴部	-	(7.0)	5.8	8.8	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/2 暗灰黄 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐、2.5Y 6/1 黄灰				＊西側窯にも多くみられる個体
112	灯明受皿	MO-T8-南北軸-上層	051027	1/4	11.0	1.7	-	11.3	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐(塗土) 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				
113	蓋	MO-T8-東-南北軸南半-20～80	051031	1/2、つまみ欠損	-	(0.8)	-	9.4	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 5/4 にぶい褐 外面：2.5Y 4/1 黄灰				
114	匣鉢蓋	MO-T8-南北軸-上層	051027	1/6	-	1.2	-	14.2	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	上面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 下面：10R 4/4 赤褐				
115	匣鉢蓋	MO-T8-南北軸-上層	051027	1/2	-	1.1	-	14.6	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	上面：7.5YR 4/3 褐 下面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				＊歪みあり
116	窯道具?	MO-T8-南北軸-上層	051027	1/3	19.6	11.2	23.2	25.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：5YR 3/3 暗赤褐				
117	甕	MO-T8-南北軸-床直上 MO-T8-東-南北軸-40～60 MO-T8-東-南北軸-20～80	051215 051101 051031	口縁部1/5	27.4	(9.6)	-	29.8	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	やや不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/4 にぶい橙				
118	土管	MO-T8-南北軸-床直上 MO-T8-南北軸-焚口付近 MO-T8-南北軸-上層	051215 051104 051027	下部	-	(75.4)	32.6	-	0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5Y 3/1 オリーブ黒、10YR 5/1 褐灰 外面：7.5YR 4/1 褐灰				

表2　中央窯跡出土遺物観察表（4）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
119	土管	MO-T8-南北軸-床直上 MO-T8-東-南北軸-焚口付近 MO-T8-南北軸-上層	051215 051104 051027	上部1/10	47.4	(18.4)	-	50.0	0.1～3.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～3.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				
120	土管	MO-T8-南北軸-床直上 MO-T8-南北軸-上層	051215 051027	下部	-	(28.5)	44.6	46.2	0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：10YR 5/1 褐灰、N 5/ 灰				
121	土管	MO-T8-南北軸-床直上	051215	胴部1/3	-	(24.1)	-	-	0.1～4.0mm位の白色粒を含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 5/3 にぶい黄褐 外面：7.5YR 4/1 褐灰				
122	小壺	MO-T8-南北軸-床直上	051215	1/3	6.6	6.9	7.4	9.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙（塗土）		底部に陶印：「⌂」		
123	小甕	MO-T8-南北軸-床直上	051215	3/4	9.0	10.3	7.6	11.6	0.1mm前後の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	不良	内面：10YR 8/3 浅黄橙 外面：5YR 6/6 橙（塗土）	ケズリあり			
124	小壺	MO-T8-南北軸-床直上	051215	3/4	9.5	10.3	7.9	11.9	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	不良	内面：10YR 8/3 浅黄色 外面：5YR 6/6 橙	ケズリあり			
125	小甕	MO-T8-南北軸-床直上	051215	2/3	10.1	13.1	7.6	13.2	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 8/4 浅黄橙 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙	ケズリあり			
126	徳利	MO-T8-東-窯外-100	051117	口縁部	3.6	(10.3)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 6/8 赤橙 外面：10R 4/4 赤褐				
127	徳利	MO-T8-東-窯外-130～	051118	口縁部のみ	4.2	(5.5)	-	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 3/1 暗赤灰（塗土）				
128	徳利	MO-T8-東-窯外-130	051118	口縁部のみ	5.3	(6.0)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10R 5/6 赤（肩部塗土あり）				
129	窯道具 焼台	MO-T8-東-窯外-180	051121	2/5	-	11.8	8.8	23.0	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/2 暗赤褐、5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 3/1 黒褐				
130	徳利	MO-T8-東-窯外-180	051124	口縁部のみ	2.9	(3.3)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/3 明赤褐 外面：2.5YR 3/1 暗赤灰、N 6/ 灰				
131	徳利	MO-T8-東-窯外-200	051125	底部1/2	-	(13.4)	16.0	18.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐		陶印：「㊋」		
132	蓋	MO-T8-東-窯外-200	051125	完存	-	2.6	-	10.9	観察不可	良好	上面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 下面：2.5YR 3/3 暗赤褐				
133	耳付壺	MO-T8-東-窯外-200	051125	口縁部1/3	15.0	(15.2)	-	23.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 5/3 にぶい黄褐 外面：10YR 5/1 褐灰、10YR 6/3 にぶい黄橙				
134	窯道具 焼台	MO-T8-東-窯外-200	051125	1/4	34.8	7.4	33.4	36.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
135	擂鉢	MO-T8-東-窯外-210	051125	1/3	28.0	13.3	13.2	30.0	0.1～1.5mm位の黒色粒多く含む 0.1～2.0mm位の白色粒を含む	やや不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙			近世 ２期ａ	すり目： 38mm幅　10本
136	鉢	MO-T8-東-窯外-～220	051128	1/5	23.8	4.8	15.1	25.4	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤				
137	鉢（盤）	MO-T8-東-窯外-～220	051128	1/6	22.7	2.4	14.7	24.6	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/4 赤褐				＊歪みあり
138	徳利	MO-T8-東-窯外-220～	051128	口縁部のみ	3.0	(10.2)	-	-	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	やや不良	内面：10YR 6/6 明黄褐 外面：2.5Y 6/1 黄灰、7.5YR 6/4 にぶい橙		右肩に陶印：「//」		
139	茶入れ?	MO-T8-東-窯外-220	051128	底部1/4	-	(4.7)	4.4	6.0	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐		胴部に陶印：「大」		
140	茶入れ?	MO-T8-東-窯外-240	051129	底部のみ	-	(3.7)	3.3	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐	底部に糸切り			
141	台付小皿	MO-T8-東-窯外-240	051129	1/3	10.3	2.3	5.2	10.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/8 明赤褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土?）				
142	鉢	MO-T8-東-窯外-270～280	051130	1/8	24.2	2.5	20.0	25.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5Y 4/1 灰 外面：5Y 4/1 灰				
143	小壺	MO-T8-東-窯外-270～280	051130	口縁部1/4	5.2	(4.8)	-	9.6	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/1 黄灰 外面：2.5Y 5/1 黄灰				
144	擂鉢	MO-T8-東-窯外-280～310	051130	1/5	23.0	10.1	10.0	23.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/1 黄灰 外面：2.5Y 5/1 黄灰			中世 ６期ｂ	すり目： 33mm幅　11本
145	擂鉢	MO-T8-東-窯外-280～310	051130	1/4	28.9	10.3	11.0	31.4	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明暗褐 外面：10R 4/3 赤褐			中世 ６期ｂ	すり目： 36mm幅　12本 ＊歪み相当あり
146	擂鉢	MO-T8-東-窯外-280～310	051130	2/3	30.6	12.4	12.4	31.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：10R 4/3 赤褐			中世 ６期ｂ	すり目： 32mm幅　10本
147	擂鉢	MO-T8-東-窯外-340	051201	1/4	29.2	12.2	12.0	30.6	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/3 赤褐			中世 ６期ｂ	すり目： 31mm幅　9本
148	灯明受皿	MO-T8-西-窯外-40～	051107	2/3	11.7	2.2	-	11.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐（塗土） 外面：10YR 4/2 灰黄褐				＊灯明受皿の中では径が大きい

表２　中央窯跡出土遺物観察表（５）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
149	徳利	MO-T8-西-窯裏-表～40	051108	底部のみ	-	17.7	7.0	9.0	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 6/4 にぶい橙				
150	茶碗	MO-T8-西-窯外-100	051116	底部のみ	-	(4.3)	5.9	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：2.5YR 2/2 極暗赤褐（塗土）		底部に陶印：「大」		
151	徳利	MO-T8-西-窯外-110	051121	口縁部から胴部	2.5	(15.8)	-	10.8	0.1～1.0mm位の黒色粒含む	良好	内面：10YR 6/3 にぶい黄橙 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（頸部のみ塗土）				
152	建水	MO-T8-東-窯外-100	051117	1/4	15.4	7.3	15.6	17.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤 外面：7.5R 4/2 灰赤				
153	徳利	MO-T8-西-窯外-110	051122	底部のみ	-	(3.7)	3.8	5.8	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐	底部に糸切り			
154	徳利	MO-T8-西-窯外-110	051121	口縁部のみ	2.7	(10.7)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：N5/ 灰				
155	徳利	MO-T8-西-窯外-110	051121	口縁部のみ	4.2	(11.9)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：N 6/ 灰 外面：N 6/ 灰				
156	水屋甕	MO-T8-西-窯外-110	051121	口縁部1/6	24.4	(9.5)	-	-	0.1～2.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤（塗土?） 外面：10R 4/3 赤褐（塗土?）				
157	徳利	MO-T8-西-窯外-150	051124	口縁部のみ	2.0	(3.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
158	小徳利	MO-T8-西-窯外-150	051124	底部1/3	-	(5.9)	4.0	5.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
159	?	MO-T8-西-窯外-150	051124	底部1/3	-	(10.5)	6.2	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤、2.5Y 5/1 黄灰	底部に面取り			
160	壺	MO-T8-西-窯外-230～260 MO-T8-西-窯外-260	051128 051129	口縁部2/5	14.5	(11.2)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐、10YR 3/1 黒褐 外面：N 5/ 灰				
161	擂鉢	MO-T8-西-窯外-260	051129	1/4	31.0	10.4	12.5	31.6	0.1～2.5mm位の白色粒を含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 4/2 灰赤			中世 6期b	すり目： 27mm幅　9本 ＊少々歪みあり
162	小擂鉢	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	1/3	9.4	2.7	3.5	9.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：N 5/ 灰				すり目： 5mm幅　5本
163	蓋	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	完存	-	1.4	-	6.0 (径)	観察不可	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				
164	蓋	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	完存	-	1.4	-	5.8 (径)	観察不可	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/2 灰褐（塗土）				
165	蓋	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	完存	-	1.7	-	7.1 (径)	観察不可	良好	内面：7.5YR 4/3 褐 外面：7.5YR 4/3 褐				
166	蓋	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	9/10	-	1.8	-	9.0 (径)	0.1mm前後の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土）				
167	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	9/10	11.1	2.4	-	11.3	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/2 灰黄褐（塗土） 外面：7.5YR 5/3 にぶい褐	底部に糸切り			
168	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	3/4	11.4	2.5	-	11.6	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 5/4 赤褐	底部に糸切り			
169	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	3/4	11.4	2.3	-	11.6	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土） 外面：2.5YR 5/6 明赤褐	底部に糸切り			
170	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	2/3	11.4	2.4	-	11.6	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐（塗土） 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐	底部に糸切り			
171	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	1/2	9.4	1.8	-	9.6	0.1mm前後の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：10R 3/4 暗赤	底部に糸切り 断片的なケズリ整形			
172	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	2/5	9.4	1.6	-	9.6	0.1mm前後の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐	底部に糸切り			
173	灯明皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	3/4	9.2	2.4	-	9.5	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：5YR 5/2 灰褐	底部に糸切り			
174	灯明受皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	完存	11.6	2.3	-	11.8	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：2.5YR 4/2 灰赤	底部に糸切り			
175	灯明受皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	4/5	11.6	2.1	-	11.7	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/3 暗赤褐（塗土） 外面：2.5YR 4/2 灰赤	底部に糸切り			
176	灯明受皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	9/10	9.1	1.6	-	9.3	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：5YR 3/3 暗赤褐	底部に糸切り			
177	灯明受皿	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	4/5	9.5	1.7	-	9.6	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐（塗土） 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐	底部に糸切り			
178	窯道具 丸形陶板	MO-T8-東-窯外(窯裏～2m)-50	051108	完存	-	2.0	-	13.8	観察不可	良好	上面：10YR 5/2 灰黄褐、5Y 4/1 灰 下面：7.5YR 5/2 灰褐				

表2　中央窯跡出土遺物観察表（6）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
179	窯道具 匣鉢蓋	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/4	-	1.3	-	14.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：5YR 4/2 灰褐				
180	窯道具 匣鉢蓋	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/3	-	1.3	-	14.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 5/4 赤褐				
181	窯道具 匣鉢蓋	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/4	-	1.1	-	15.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 5/4 赤褐				
182	徳利	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	口縁部	3.1	(22.3)	-	17.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐（塗土）				
183	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	ほぼ完存	10.4	6.4	10.8	11.7	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：5YR 4/2 灰褐				
184	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/2	11.2	6.1	10.8	11.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				
185	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	2/5	14.0	7.4	12.4	14.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）				
186	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/3	13.4	7.6	13.4	14.8	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 3/2 暗赤褐（塗土）				
187	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	2/5	13.2	14.1	11.8	14.2	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
188	窯道具 丸形匣鉢	MO-T8-東-窯外 (窯裏～2m)-50	051108	1/3	12.8	14.7	11.0	13.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5Y 6/1 黄灰 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）				

トレンチ９（第34図・第35図）

189	小壷	MO-T9-西-窯内	051027 •28	口縁部1/5	6.6	(7.0)	-	10.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	やや不良	内面：5YR 5/6 明赤褐 外面：5YR 6 /2 灰褐				
190	徳利	MO-T9-西-窯内	051027 •28	底部1/3	-	(10.8)	9.0	15.8	0.1～0.5mm位の白色粒をごく少量含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				
191	建水？	MO-T9-東-窯裏-80 ～100	051118	口縁部1/4	7.2	(7.4)	-	8.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
192	台付大平鉢	MO-T9-東-窯外-90	051116	1/5	45.4	10.6	27.0	45.8	0.1～5.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐、N3/ 暗灰				＊台には孔あり
193	台付大平鉢	MO-T9-東-窯外-90	051116	底部1/4	-	(8.8)	25.9	-	0.1～3.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 5/6 赤、10R4/3 赤褐				
194	徳利	MO-T9-東-窯裏-100 ～120	051118	口縁部	5.4	(6.2)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐		胴部に陶印：「㊋」		
195	水屋甕	MO-T9-東窯裏-100 ～120	051118	口縁部1/4	31.9	(13.6)	-	42.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	上面：2.5Y 5/1 黄灰 下面：10R 4/3 赤褐		口縁部に陶印： 「㊋」		
196	徳利	MO-T9-西-窯外-110 ～150	051110	口縁部のみ	7.1	(5.3)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	上面：10YR 4/2 灰黄褐 下面：2.5YR 4/2 灰赤				
197	徳利	MO-T9-西-窯外	051111	口縁部のみ	3.9	(6.7)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
198	耳付壺	MO-T9-西-窯外	051111	口縁部1/3	12.3	(8.4)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐				
199	擂鉢	MO-T9-西-窯外	051111	口縁部1/4	25.2	(5.4)	-	26.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐			近世 １期ｃ	
200	鉢	MO-T9-西-窯外	051111	1/6	14.7	4.3	11.9	15.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
201	鉢	MO-T9-西-窯外	051111	1/4	14.0	4.1	12.1	14.8	0.1～0.5 mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 5/6 赤				
202	鉢	MO-T9-西-窯外	051111	1/4	14.4	6.6	10.3	16.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/2 灰褐				
203	徳利	MO-T9-東-窯外-90 ～100	051116	口縁部のみ	4.1	(10.7)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/2 灰赤、N6/ 灰		胴部に陶印：「○」		
204	擂鉢	MO-T9-東-窯外-90 ～100	051116	口縁部1/5	29.4	(10.1)	-	31.2	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐、N3/ 暗灰			近世 ２期ａ	すり目： 29mm幅　7本
205	徳利	MO-T9-西-窯外-110 ～150	051110	口縁部1/4	7.0	(4.2)	-	-	0.1～1.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 7/3 浅黄 外面：2.5YR 4/6 赤褐（塗土）				
206	建水？	MO-T9-西-窯外-110 ～150	051110	口縁部1/3	10.8	(7.2)	-	11.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤				
207	大甕	MO-T9-西-窯外-110 ～150	051110	口縁部1/10	46.6	(12.3)	-	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 3/3 暗赤褐 外面：5YR 3/3 暗赤褐				

表２　中央窯跡出土遺物観察表（７）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
208	甕	MO-T9-西-窯外-110～150	051110	口縁部1/4	23.4	(5.6)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：5YR 6/6 橙、5YR 5/3 にぶい赤褐				
209	擂鉢	MO-T9-西-窯外-110～150	051110	1/4	28.8	13.6	15.6	31.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10YR 7/2 にぶい黄橙、5YR 7/6 橙			近世 1期c	すり目： 30mm幅　7本
210	鉢	MO-T9-西-窯外-110～150	051110	口縁部1/10	44.5	(17.7)	-	44.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
211	徳利	MO-T9-西-窯外-160	051115	口縁部のみ	2.8	(7.8)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：10YR 4/2 灰黄褐 外面：5YR 3/2 暗赤褐				
212	茶入	MO-T9-西-窯外-160	051115	胴部	-	(6.5)	5.0	6.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/6 赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐		底部に陶印：「上」		

トレンチ10（第36図～第39図）

213	小壷	MO-T10-東-窯内-上段	051104 •07	1/2	5.3	6.3	6.0	8.4	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 3/4 暗赤（塗土?）				
214	甕	MO-T10-東-窯内-上段	051104 •07	口縁部1/2	8.0	(7.7)	-	12.0	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 4/6 赤褐（塗土）				
215	小甕	MO-T10-東-窯内-上段	051104 •07	口縁部1/3	7.8	(5.0)	-	-	0.1～0.5 mmの白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 3/6 暗赤（塗土）				
216	擂鉢	MO-T10-東-窯内-上段	051108	1/4	29.7	14.7	12.4	32.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	やや不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10R 5/6 赤			近世 2期a	すり目： 33mm幅　8本
217	水屋甕	MO-T10-東-窯内-上段	051104 •07	1/3	39.0	(19.2)	-	41.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：5YR 3/2 暗赤褐				＊歪み著しい
218	土管	MO-T10-東-窯内-上段	051104 •07	胴部の一部	-	(28.8)	-	-	0.1～2.0mmの白色粒を多く含む 0.1～2.0mmの黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：7.5R 4/4 にぶい赤				
219	擂鉢	MO-T10-東-窯内-床上	051101	口縁部1/5	39.4	(11.6)	-	40.4	0.1～0.5mmの白色粒を含む 0.1～1.0mm前後の黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/4 赤褐			近世 3期a	すり目： 24mm幅　9本
220	擂鉢	MO-T10-東-窯内-床上	051101	底部1/4	-	(6.5)	12.6	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/2 灰褐 外面：5YR 5/1 褐灰				すり目： 28mm幅　8本
221	甕	MO-T10-東-窯内-床上	051104	口縁部1/6	19.5	(8.4)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）				
222	甕	MO-T10-東-窯内-床上 MO-T10-南北軸-上層	051104 051028 •31	口縁部1/4	14.0	(6.9)	-	15.2	0.1～0.5 mmの黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）				
223	灯明受皿	MO-T10-東-窯内-床上	051104	1/4	8.5	1.3	3.4	8.6	0.1mmの白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土?） 外面：2.5YR 4/2 灰赤				
224	小壷	MO-T10-東-窯内-床上	051101 •04	口縁部から胴部	5.3	(5.0)	-	8.0	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐				
225	鉢	MO-T10-東-窯内-床上	051101	底部3/4	-	(6.0)	7.0	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：10R 5/6 赤（塗土）		底部にヘラ描き：「×」		
226	徳利	MO-T10-南北軸-上層	051028 •31	頸部から胴部	-	(5.7)	-	-	0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）				
227	平鉢 溶着片	MO-T10-南北軸-上層	051028 •31	口縁部一部	-	(4.4)	-	-	0.1～1.0mmの白色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/4 にぶい赤褐				
228	擂鉢	MO-T10-南北軸-上層	051028 •31	底部1/3	-	(7.1)	12.0	-	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙				すり目： 39mm幅　13本
229	窯道具 陶板	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	ほぼ完存	-	厚み 1.0	-	14.0	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐				
230	窯道具 匣鉢	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	1/2	13.6	8.4	13.9	14.4	0.1～1.0mmぐらいの白色粒を含む 0.1～1.0 mmぐらいの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 6/6 赤橙、N6/ 灰		底部に陶印：「Ⓥ」		
231	徳利	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	頸部から胴部	-	(10.1)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10R 3/2 暗赤褐				
232	徳利	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	頸部から胴部	-	(7.4)	-	-	0.5mm位の白色粒を多く含む 0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）		胴部に「○」の陶印		
233	花立	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	底部～胴部	-	(6.9)	6.4	7.5	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐（塗土）		底部に陶印：「Ⓥ」		
234	徳利	MO-T10-西-窯内-0～40	051028 •31	胴部	-	(18.3)	-	21.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐（塗土）		胴部にヘラ描き：「十」		
235	甕	MO-T10-西-窯内-床上	051031	口縁部1/3	13.6	(7.1)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/1 褐灰 外面：7.5YR 5/2 灰褐				この型式の甕の初源
236	徳利	MO-T10-西-窯内-床上	051031	底部1/3	-	(7.7)	13.2	16.2	0.1～0.5 mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐（塗土）				

表2　中央窯跡出土遺物観察表（8）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	最大径（cm）	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
237	徳利	MO-T10-西-窯内-0～40 MO-T10-西-窯内-床上	051028 •31 051030	底部1/3	-	(11.0)	13.6	16.4	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙				
238	壺	MO-T10-東-窯外-80～100	051117	口縁部1/4	6.5	(8.7)	-	15.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：10R 3/3 暗赤褐				
239	小形徳利	MO-T10-東-窯外-110	051122	底部から胴部	-	(6.3)	4.0	5.5	0.1mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 4/2 灰黄褐 外面：2.5YR 4/6 赤褐、7.5YR 4/2 灰褐				
240	平鉢	MO-T10-東-窯外-110	051122	1/2	15.0	4.6	10.8	16.4	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 6/1 黄灰、5YR 7/6 橙 外面：2.5Y 6/1 黄灰、5YR 7/6 橙				
241	大甕	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	口縁部1/16	60.8	(5.9)	-	62.4	0.1～3.0mm位の白色粒を含む 0.1～4.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/1 褐灰 外面：7.5YR 4/2 灰褐				
242	大甕	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	口縁部1/10	61.0	(9.5)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/2 灰褐				
243	大甕	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	口縁部1/12	52.0	(7.3)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10R 4/3 赤褐				
244	壺	MO-T10-西-窯外-170～200	051118	口縁部1/4	9.0	(4.5)	-	-	0.1～0.5mmの白色粒を少量含む 0.1～1.0mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/3 赤褐				
245	壺	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	口縁部1/8	10.4	(9.6)	-	18.8	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				
246	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200 MO-T10-西-窯外-200～220	051117 051121	2/5	31.2	12.7	14.7	31.8	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：7.5YR 7/6 橙、口縁部 7.5YR 5/2 灰褐 外面：7.5Y 7/6 橙、口縁部 10YR 5/3 黄褐			中世 ６期ａ	すり目：28mm幅　8本 ＊内面:条線顕著
247	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200	051118	1/4	30.0	12.5	13.8	31.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：2.5Y 5/1 黄灰			中世 ６期ａ	すり目：30mm　幅9本 ＊内面に2～5mm大の石粒が被熱して付着 ＊外面も二次的に被熱している可能性
248	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～220 MO-T10-西-窯外-180～220	051118 051118	1/4	32.6	13.3	16.6	34.0	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	不良	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙 外面：10YR 8/3 浅黄橙			中世 ６期ａ	すり目：30mm幅　12本
249	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200 MO-T10-西-窯外-180～220 MO-T10-西-窯外-200～220	051118 051118 051118	2/5	31.2	11.9	14.0	31.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/4 にぶい橙 外面：2.5Y 5/3 にぶい赤褐			中世 ６期ｂ	すり目：34mm幅　11本
250	擂鉢	MO-T10-西-窯外-200～220 MO-T10-西-窯外-180～220 MO-T10-西-窯外-170～200	051118 051118 051118	2/5	27.6	12.8	15.7	29.2	0.1～1.0mmぐらいの白色粒を含む 0.1～0.5mmぐらいの黒色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 8/4 浅黄橙 外面：5YR 7/4 にぶい橙			中世 ６期ａ	すり目：35mm幅　9本 ＊内面に1～5mm大の石粒が被熱して付着
251	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200	051118	2/5	32.9	11.2	14.8	33.4	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/8 橙			中世 ６期ｂ	すり目：31mm幅　11本
252	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	2/5	28.8	12.5	14.0	30.4	0.1～1.5mm前後の白色粒をごく少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 7/8 橙			中世 ６期ａ	すり目：28mm幅　11本
253	擂鉢	MO-T10-西-窯外-170～200	051117	ほぼ完存	32.5	12.5	15.4	33.3	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/2 灰赤 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐			中世 ６期ｂ	すり目：30mm幅　10本 ＊外面に0.5～1.0mm大の砂粒を中心にした灰色の付着物
254	徳利	MO-T10-2-南拡張-床上 MO-T10-2-南拡張-20～40	061215	3/4	4.0	25.3	12.5	15.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土）		底部に陶印： 「◎」		
255	徳利	MO-T10-2-南拡張-床上	061215	頸部欠損	-	(15.5)	6.9	9.1	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 3/6 暗赤（塗土）		底部に陶印： 「叶」		
256	擂鉢	MO-T10-2-南拡張-床上	061215	口縁部1/6	29.0	(9.4)	-	31.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				すり目：29mm幅　10本

トレンチ11（第40図・第41図）

257	耳付壺	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	1/3	10.0	(16.6)	-	17.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：5YR 5/2 灰褐				
258	建水	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	1/3	16.2	9.1	14.9	16.8	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 3/3 暗褐 外面：7.5YR 3/3 暗褐				
259	徳利	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	口縁部のみ	5.3	(9.1)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 3/2 暗赤褐				
260	花立?	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	2/3	-	(5.4)	7.6	11.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）		底部に陶印： 「㐅」		
261	灯明皿	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	4/5	10.6	2.6	5.3	10.8	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：5YR 6/4 にぶい橙	底部に糸切り			＊歪みあり
262	擂鉢	MO2-T11東-31.6～31.9	061026	1/4	31.5	12.5	12.8	32.5	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5Y 4/1 黄灰 外面：2.5Y 4/2 暗灰黄			近世 ２期ａ	すり目：32mm幅　9本
263	建水	MO2-T11東-31.6～31.3	061030	口縁部1/10	15.7	(10.1)	-	19.6	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐、10R 4/4 赤褐 外面：10R 3/4 暗赤				
264	徳利	MO2-T11東-31.6～31.3	061030	1/2	3.6	(18.5)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙		胴部に陶印： 「㊀」		
265	小徳利	MO2-T11東-31.3～31.0	061030	1/3	-	(6.1)	2.8	7.0	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐		底部にヘラ描き： 「／」		

表２　中央窯跡出土遺物観察表（９）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	最大径（cm）	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
266	小徳利	MO2-T11東-31.3～31.0	061030	1/3	2.4	(6.1)	-	5.8	0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/1 褐灰 外面：5YR 5/2 灰褐				
267	平鉢	MO2-T11東-30.7～30.4	061102	1/3	15.6	5.3	11.0	17.6	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の褐色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐		胴部、底部にヘラ描き：「干」		＊内面に陶片の溶着痕あり
268	徳利	MO2-T11東-30.1～30.4	061107	底部のみ	-	(15.3)	7.0	10.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の褐色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐		胴部にヘラ描き：「///」		
269	小壷（茶入れ?）	MO2-T11東-30.1～30.4	061107	1/3	6.0	5.3	5.6	8.0	0.1～1.5mm位の褐色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/6 にぶい赤 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐				
270	徳利	MO2-T11東-30.1～30.4	061107	口縁部のみ	4.1	(12.0)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		胴部にヘラ描き：「へ」		＊大正のらっきょ形の次の形式?
271	建水（鉢）	MO2-T11東-30.1～29.8	061108	2/3	9.1	5.4	8.9	14.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の褐色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐		底部にヘラ描き		
272	茶入?	MO2-T11東-29.5～29.2	061110	底部のみ	-	(4.1)	3.3	5.3	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐	底部ヘラ切り	底部にヘラ描き：「上」		
273	徳利	MO2-T11東-29.5～29.2	061110	9/10	1.9	8.6	4.0	5.3	0.1～2.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐	底部に糸切り			
274	徳利	MO2-T11東-28.9～29.2	061115	胴部のみ	-	(12.7)	5.9	9.4	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 4/6 赤		頸部と胴部の間にヘラ描き：「/」		＊一部にカセゴマ風の自然釉
275	平鉢	MO2-T11東-28.9～28.6	061115	1/8	41.6	6.0	21.2	43.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の褐色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 6/4 にぶい赤褐				
276	花入	MO2-T11東-28.9～28.6	061115	底部のみ	-	(7.0)	8.4	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/3 褐 外面：7.5YR 3/3 暗褐		底部にヘラ描き：「～」		＊内面に溶着片
277	平鉢	MO2-T11東-28.3～28.0	061116	1/8	46.0	5.8	29.6	47.6	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙 外面：10YR 7/3 にぶい黄橙	ヘラでカキトリ火襷あり			＊外面をヘラでかきとる珍しい平鉢
278	蓋	MO2-T11-東-28.0～27.7	061116	1/2	-	2.2	-	7.6	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	上面：10R 4/4 赤褐 下面：5YR 4/3 にぶい赤褐		上面にヘラ描き 下面にヘラ描き		＊一品製作、丁寧な手作り
279	?	MO2-T11-東-28.0～27.7	061116	口縁部一部	-	(5.5)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐		胴部にヘラ描き		
280	徳利	MO2-T11東-26.8～26.5	061120	胴部のみ	-	(13.2)	5.4	9.3	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		頸部と胴部の間にヘラ描き：「[illegible]」		
281	小徳利	MO2-T11中央-L=27付近	061117	口縁部欠損	-	(9.8)	4.8	8.0	1.0mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤	底部にヘラ切り	底部にヘラ描き「上」		＊頸部に歪みあり
282	徳利	MO2-T11-中央崩落時	061122	胴部のみ	-	(9.0)	5.2	7.5	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤 外面：7.5R 3/2 暗赤褐		底部に陶印：「〇〇」		＊優品
283	小徳利	MO2-T11西-2区-27.0～26.8	061108	口縁部一部欠損	1.9	8.6	3.7	5.7	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/1 褐灰 外面：5YR 4/1 褐灰	底部に糸切り			
284	徳利	MO2-T11西2区-27.0～26.8	061108	1/2	5.0	(15.9)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/2 灰赤 外面：10R 5/2 灰赤				鶴首形
285	蕪徳利	MO2-T11西-27.0～26.8	061108	口縁部のみ	5.7	(7.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤 外面：7.5R 4/3にぶい赤褐				＊胴部歪みのため実測せず
286	建水	MO2-T11西-27.0～26.8	061108	底部1/2	-	(5.0)	10.8	14.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		底部に陶印：「[illegible]」		
287	擂鉢	MO2-T11西2区-26.8～27.0	061108	1/4	28.8	12.1	15.4	31.0	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：5YR 5/6 赤			近世 1期c	すり目： 35mm幅　12本 ＊全体にロクロ目顕著
288	蕪徳利（大型）	MO2-T11西2区-27.55付近	061102	口縁部のみ2/3	7.2	5.9	-	-	0.1～0.5mm位の褐色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 6/2 灰褐 外面：7.5YR 6/2 灰褐				
289	蓋（茶入れ）	MO2-T11西2区-27.5付近	061102	つまみ部分欠損	-	(0.8)	-	4.6	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	上面：5YR 6/6 橙、10YR 7/2 にぶい黄橙 下面：5YR 6/3 にぶい橙、5YR 6/6 橙	下面に糸切り			＊丁寧に作られている。 ＊茶入れの蓋の可能性

トレンチ1（第42図）

290	煎茶器	MO2-T1南-17.7～17.5	061031	完存	4.9	3.8	4.4	9.0	不明	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/6 赤（塗土）				
291	擂鉢	MO2-T1南-19.15～18.9	061019	1/10	26.0	10.5	12.0	26.8	0.1～1.0mm位の褐色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙			近世 4期a	すり目： 24mm幅　9本
292	灯明受皿	MO2-T1南-18.5～18.3	061024	完存	7.2	0.9	-	7.4	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/6 赤（塗土） 外面：10R 3/6 暗赤				
293	灯明受皿	MO2-T1南-19.5～18.9	061019	1/2	9.2	1.5	-	9.4	0.1mm位の白色粒を少量含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/2 暗赤橙（塗土） 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				
294	甕	MO2-T1北-17.1～16.9	061030	口縁部1/8	49.0	(17.7)	-	52.4	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐				

表2　中央窯跡出土遺物観察表（10）

第５章　巨大物原の調査概要

第１節　位置と調査の概要

第３章でも記述したとおり、東側窯の両側には長大な物原が形成されている。物原は焼成不良品や窯道具を投棄した場所であるが、この地点は比高差５～10ｍもある小山状をなし、まさに物原という表現にふさわしい様をなしている。今回の調査は、中央窯と東側窯の間に所在する、南北全長約70ｍ、幅20ｍ前後の史跡地内で最も巨大な物原の長軸に対して、直交する位置にトレンチ６を設定した。調査地点は、崩落の危険や廃土置き場の位置なども考慮し、物原の南側上部を断割ることとした。この地点は、平成13・14年度に西村康氏が実施した地中レーダー探査・磁気探査により、中央窯すぐ東側に数ｍ幅で、東南から西北方向の溝があり、それが窯体である可能性が否定できないとの所見（西村康2003）をいただいた場所と一致する。

この磁気異常の原因を探り当てるとともに、物原堆積状況の確認のため、トレンチ６は全長20ｍ、幅３ｍとし、５ｍごとに区画を設けた。西側から１区、２区、３区、４区とし、崩落の危険を避けるため、より安定している西側から、50㎝を一度の発掘深度として調査をすすめる計画とした。物原は主に陶片や窯道具で構成されているため、特徴的な製品と窯道具のみを抽出し、その他の窯道具については区ごとに一時保管し、埋め戻しの際には同一の区へ戻すよう配慮した。

平成17年度は、西側から１区、２区、３区と順次掘り下げたが、日程の関係で４区は、全く未調査になり、また全体も当初の予定の深さに達しなかった。17年度調査終了後、トレンチ法面にパネルやベニヤ板、ブルーシートで厳重に崩落防止措置を講じ、次年度に備えた。

18年度は前年度に引続き、４区および全体を50㎝の深度で順次掘り下げた。しかし、作業途中で陶片を多く含む法面の崩落が危惧されたため、安全面等を考慮し最大で３ｍ弱掘り下げた時点で、作業を中止した。よって磁気探査等で指摘されていた別の窯体を確認することはできなかった。

断面の実測は小規模な崩落が続いたため、ごく短期間で行える写真測量とした。

第２節　物原の堆積状況

物原の土層を精査した結果、土質や土色、遺物が包含される量などの差異から11層に分層することができた。しかし、層ごとに各窯の遺物を同定することはできなかった。主に陶片から構成される層と、窯壁や焼土から構成される層がおおよそ互層上に堆積し、焼土層から大きな窯体片や焼土塊なども認められる状況は、廃棄の単位の差や窯の改修などを示しているのであろう。

この調査区では、大量の匣鉢（さや）とともに、徳利類、灯明皿、甕、鉢などが出土している。主な出土遺物は東側窯で焼成した製品であるが、調査区西端の上層から出土した17世紀初頭の擂鉢は、中央窯１号窯の製品であると考えられる。

第3節　遺　　物

中央１・２号窯跡と東側窯の間に設定したトレンチ６は全長20m、幅３mの長大なものである。第１節でも記述したとおり西側から５m単位で１区、２区、３区、４区としている。遺物は、この各区ごとに表層から下層に向かって記述している。従って標高何m～何mの間の遺物でという具合なので、層位ごとに取り上げたものではない。くわえて調査時にすべての遺物を取り上げたわけではなく、製品や完形のものを中心に抽出している。また擂鉢は小片まで含めて一定量掲載しているが、これは型式編年が進んでいる擂鉢を特に取り上げたもので、図化した図面の比率の中では多くを占めない。

したがってここに記載している遺物は巨大な物原の全体的な傾向と理解していただいてよいと思う。

１．１区出土（第44図～第46図）

１～３は表層～32.5mの間の遺物である。１・２は径が７～８cmの灯明受皿、３は底部に陶印をもつ径24cmのやや小型の擂鉢で、乗岡編年近世２期ｂと考えられる。

４～12は表層～31.5mの間の遺物である。４～７は灯明受皿で、６は径12.7cmと大型品である。８は徳利、９は復元径22cmほどの乗岡編年近世２期ｂと考えられる小型擂鉢、10・11は胴部に菊文などを貼り付けた甕、12は大型の匣鉢（さや）である。

13～43は31.5～31.0mの間の遺物である。13～18は徳利で、16は胴部に布袋の貼り型を施す。19は灯明受皿、21は口縁端部を約２cm幅で内側に折り返している。23～25は寸胴の甕で、25は胴部にヘラ描きがある。22は大型の平鉢である。26～36は擂鉢で、33・34・36が高台をもつ。28～32が乗岡編年近世２期ａ内で、それ以外は近世３期ｂを下限とする。37は口径が８cm弱の土管である。38から43は窯道具で、38～41は中型品から大型品を焼成する際、製品底部に据え付ける焼台である。側面を抉っているのは、底部にも焼成が及ぶようにするためと考えられる。42・43は製品を中に入れて焼成する匣鉢で、外面に陶印を入れているものが多い。

２．２区出土（第47図～第49図）

47から53は表層～32.5mの間の遺物である。44～46は灯明受皿である。47・48は擂鉢で、47はやや小型で体部外面にヘラケズリが施され、近世２期ｂと考えられる。49は糸目の徳利、50～52は窯道具で、50はあまり見られない窯道具だが輪ドチと考えられる。51・52は匣鉢、53の形態は大型匣鉢であるが、菱形文をはじめ数種類の陶印がほどこされているので、特別な製品を焼成したのか、または甕として使用されたのかもしれない。

54～67は32.5～32.0mの間の遺物である。54～56は灯明受皿、57は西側窯でも確認されている小壷で、58は江戸期後半に普遍的に見られる小甕である。59～61は徳利、62は大型の擂鉢、63～67は匣鉢である。

68～77は32.5～31.5mの間の遺物である。68は小型甕の蓋、69・70は灯明皿、71・72は灯明受皿で、72が胴部をもつタイプである。73は油壷の可能性がある。74は徳利、75～77は擂鉢で、76はケズリが外面全面に及ぶが、すり目の一本一本が太いので乗岡編年近世３期ｂ、75は口縁部の受け部が扁平ですり目の一本一本が細かいので、近世４期ｂと考えられる。78は匣鉢、79は外面の塗土が顕著な甕で

ある。

80～101は31.0～31.5ｍの範囲で確認された遺物である。80～87は灯明受皿であるが、86は径11.7㎝、高さ1.3㎝と平均的な個体と比べると扁平で径が大きい。88～91は徳利で、88は油徳利である。92～95は甕で、92・93は水屋甕、94・95は寸胴である。96～99は擂鉢で、96が近世２期ｂ～３期ａ、97がすり目がくまなく施されているので、近世３期ａと考えられる。98・99ともに大型で、98がすり目にすき間があるが、口縁部の受け部が扁平化しているので、近世３期ａ、99はすり目にすき間はあり、すり目の一本一本も太いが、体部外面全面にヘラケズリが施されているので、３期の範疇と考えていいかもしれない。100・101は匣鉢である。

３．３区出土（第50図～第53図）

102～115までが表層～32.5ｍの範囲で確認された遺物である。102は小型甕の蓋、103～107は灯明受皿、108は油壷、109・110は徳利で、109は頸部から胴部にかけて糸目を施した大型のものである。111・112は擂鉢で、112は近世５期ａと考えられる。113～115は匣鉢で、115は、亀裂があるが完形である。

116～170は32.0～32.5ｍの範囲で確認された遺物である。116・117は灯明皿で、径が9.2㎝で平均よりは大きい。118から131は灯明受皿で、径10.4㎝、高さ1.4㎝で平均的な個体と比べると扁平で径が大きい。113は竹をモチーフにした筒状の個体である。134は類例がないが、釘穴があるので掛花と考えられる。135は有溝土錘で、中央１号窯の焚口付近の床面で相当数検出されている。136・137は小壷、138は小甕である。139～149はすべて徳利で、胴部をくぼませて布袋などの貼り型を施した個体がある。150～153は擂鉢で、150がやや古く近世３期ｂ～４期ａ、151～153が近世５期ａ～ｂと考えられる。155～159は甕で、155は甕の胴部が寸胴化したタイプである。159から169は匣鉢で、法量もバリエーションに富む。170は土管で、断面に土紐を積み上げた痕跡が観察される。

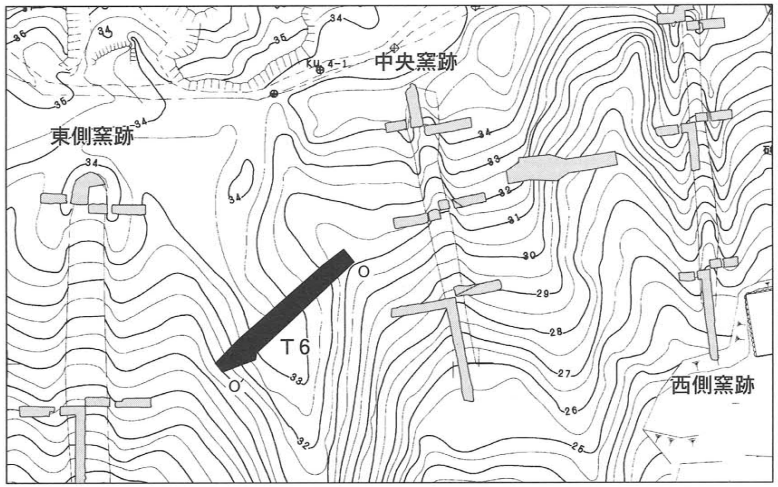
171～177は31.5～32.0ｍの範囲で確認された遺物である。171・172は灯明受皿の溶着片で、このように匣鉢の中で複数枚重ねて焼成していたようである。173は穿孔のある小壷であるが用途不明である。174～177は寸胴の甕である。178は胴部にヘラで文様を施し、塗土を施した筒型の容器だが、用途不明である。

４．４区出土（第54図・第55図）

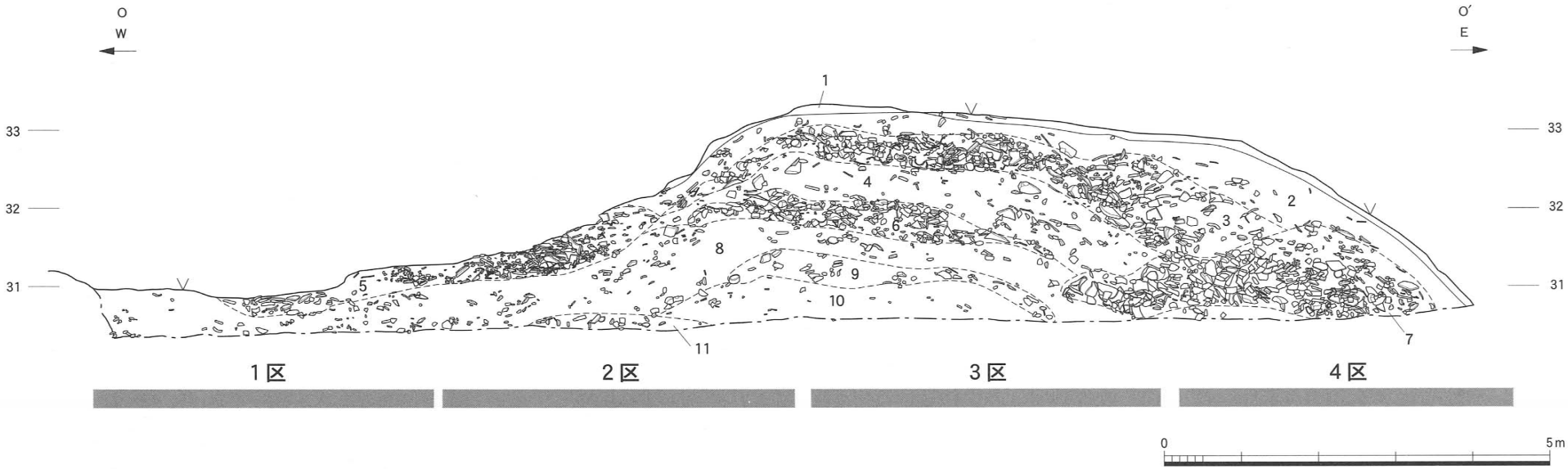
180～201が32.0～31.5ｍの範囲で確認された遺物である。180～187は灯明受皿で、径が平均して７㎝～８㎝強の範囲である。188は灯明皿と匣鉢と陶板が溶着した個体で、灯明皿は５枚以上残存している。190～199は全て徳利で、完形のものが多い。200は擂鉢で、近世４期と考えられる。201は胴下半に不定方向のケズリが施された鉢である。202～204が31.5～31.0ｍ、205・206が31.0～30.5ｍの範囲の遺物である。202は近世４期の擂鉢、203は灯明受皿、204は匣鉢、205・206は徳利である。

【引用文献】

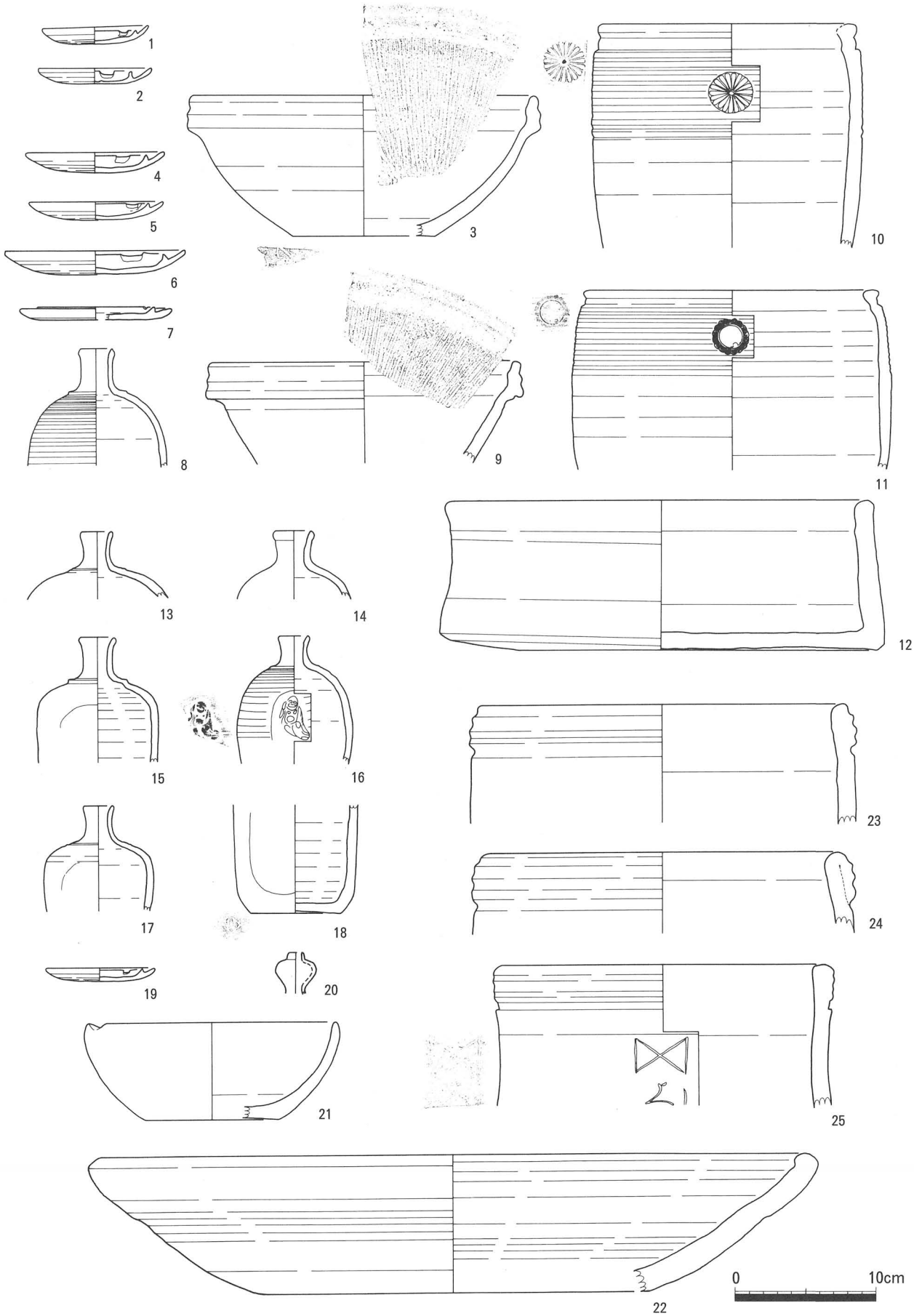
西村康2003「伊部南大窯の探査」『伊部南大窯跡周辺窯跡群確認調査報告書Ⅰ』備前市教育委員会



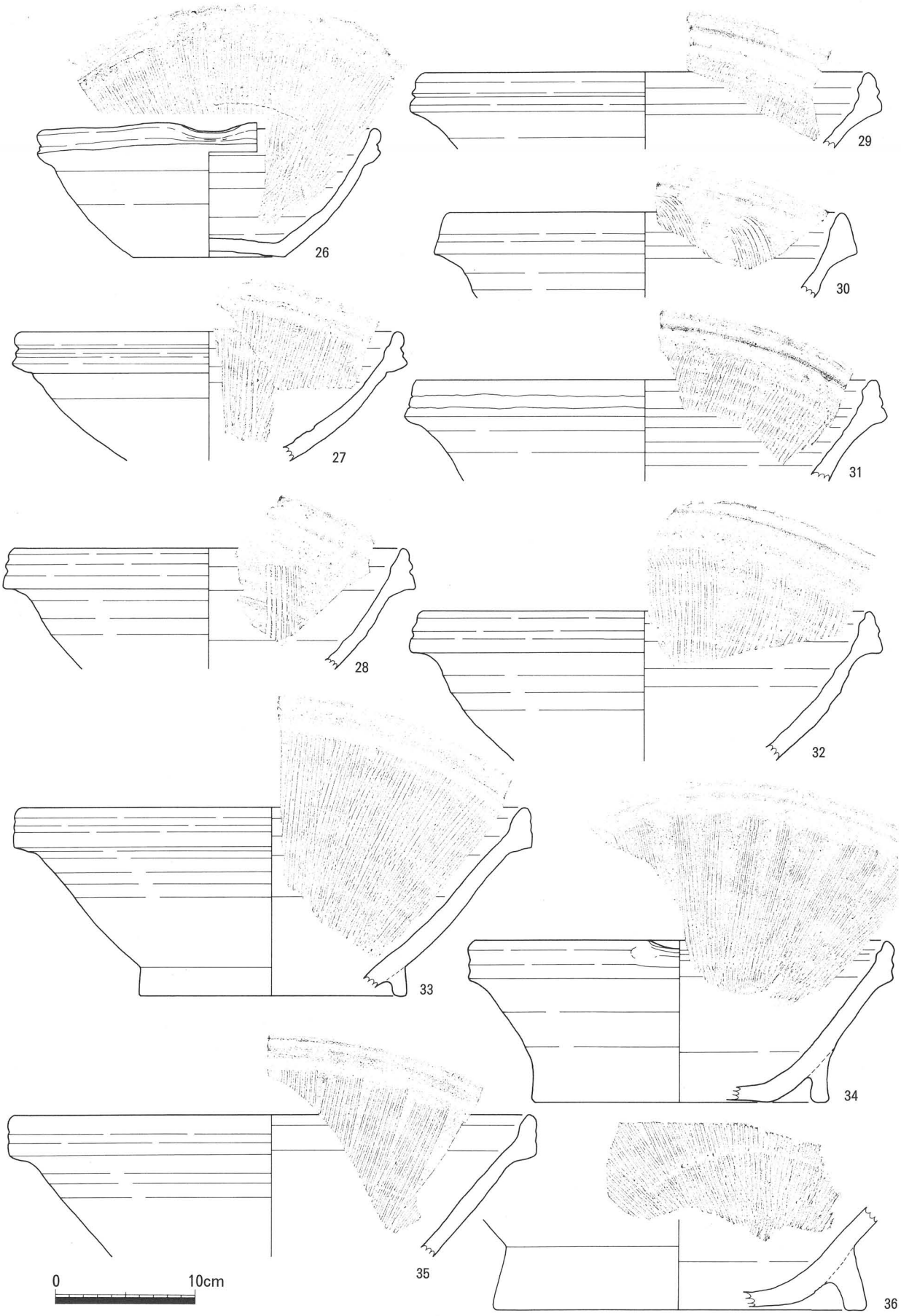
1　暗赤灰(10R4/1)　表土
2　赤灰色(10R5/1)～赤橙(10R6/6)　焼土　窯体片を多く含む
3　陶片が主な層
4　明赤褐(2.5YR5/6)～赤橙(10Y6/8)　焼土　窯体片を多く含む
5　陶片が主な層
6　陶片が主な層
7　陶片が主な層
8　明赤褐(2.5YR5/8～5YR5/8)　焼土　窯体片を多く含む
9　陶片が主な層
10　赤(10YR5/8)～赤褐(10YR5/4)　焼土　窯体片を多く含む
11　陶片が主な層



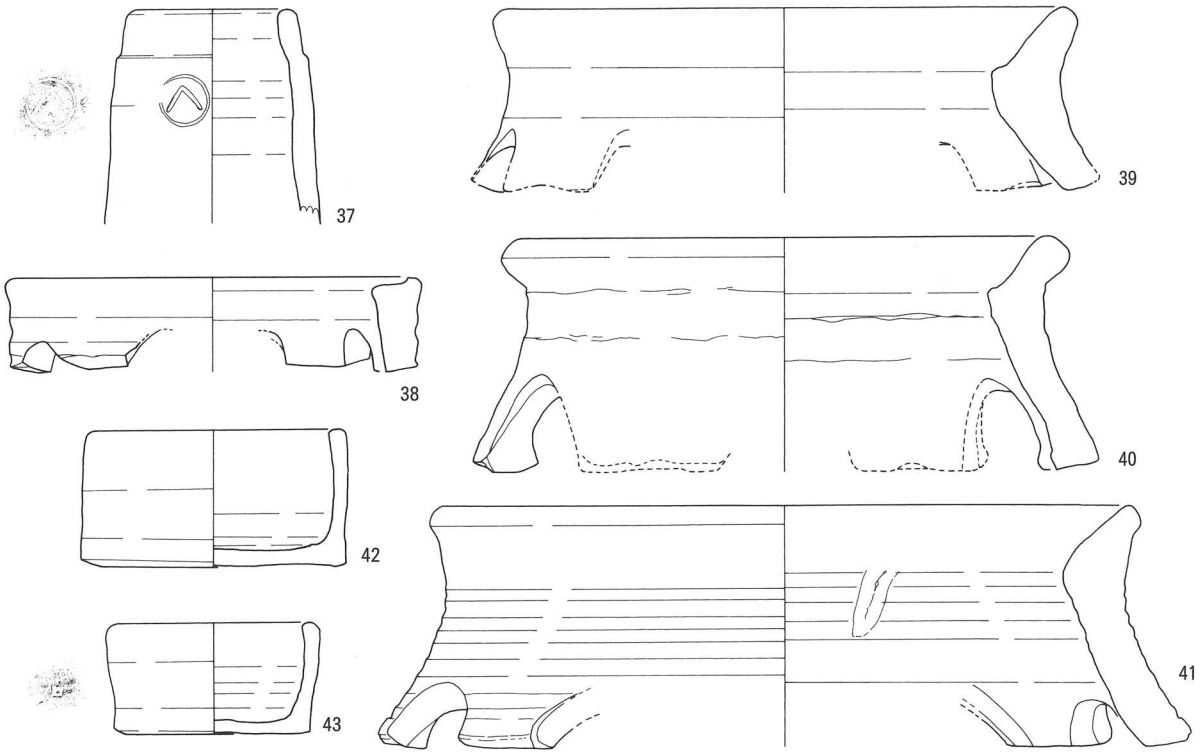
第43図　トレンチ6北壁断面図（S＝1/80）



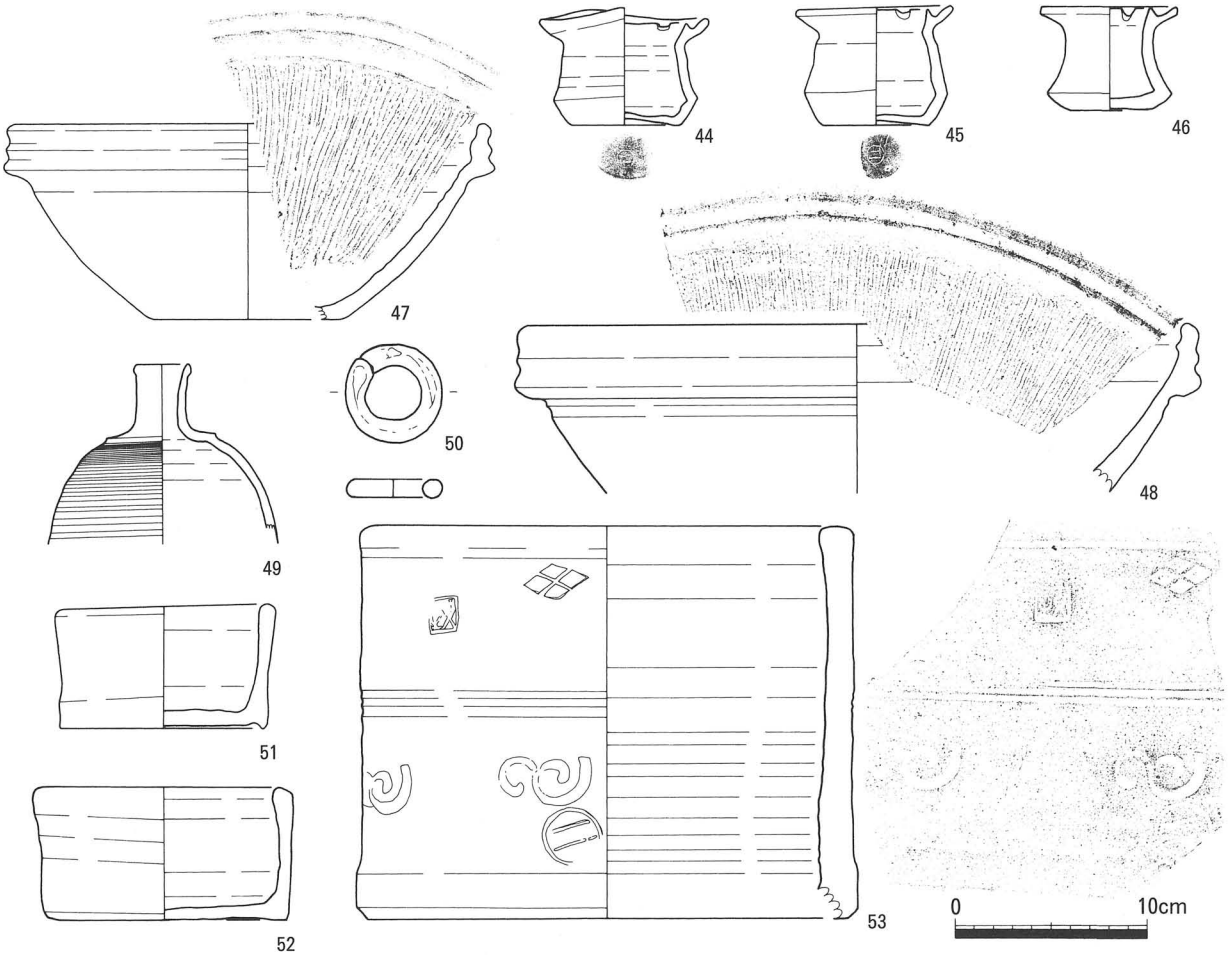
第44図　トレンチ６－１区出土遺物１（１/４）（23・24・25は１/８）



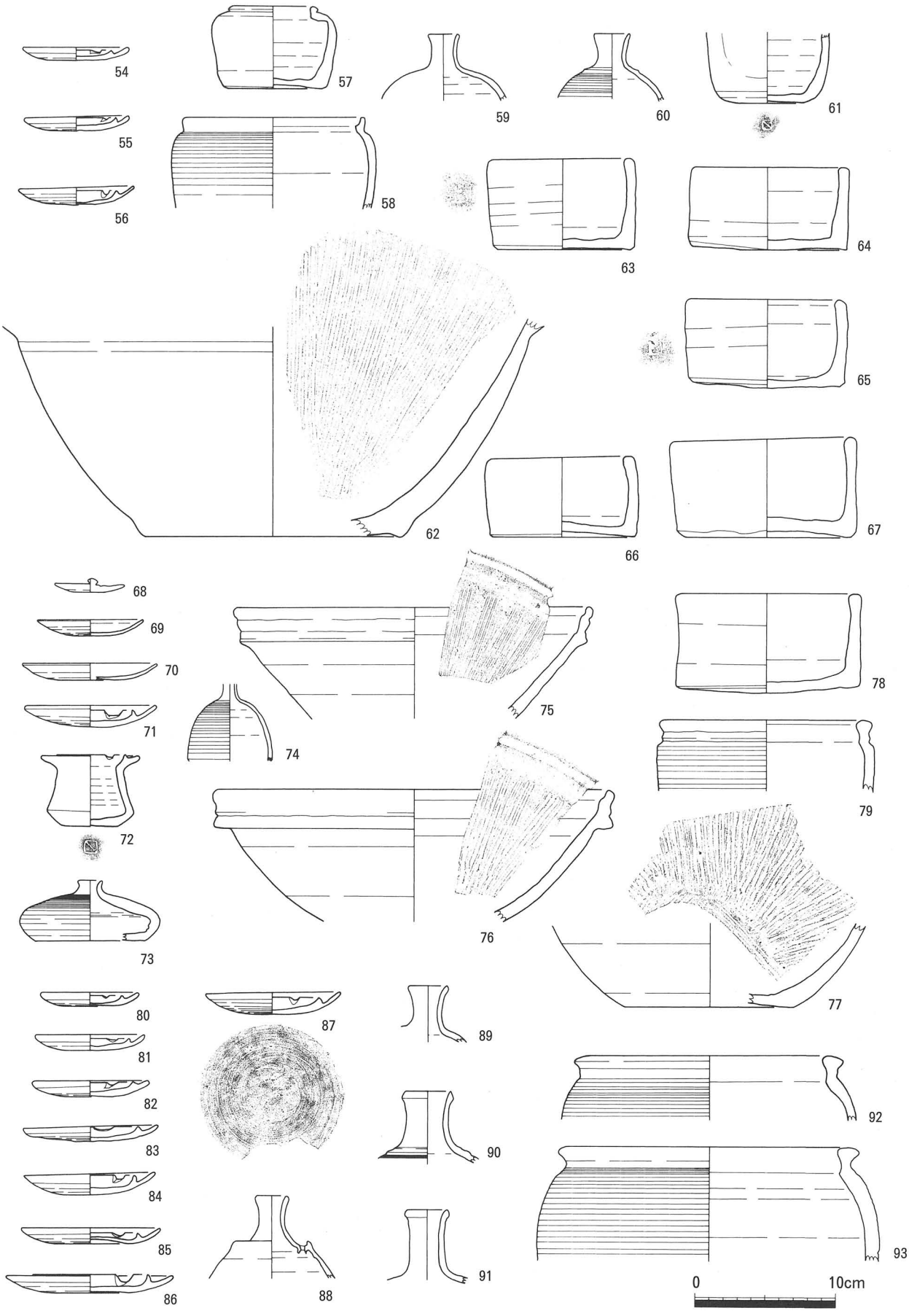
第45図　トレンチ６－１区出土遺物２（1/4）



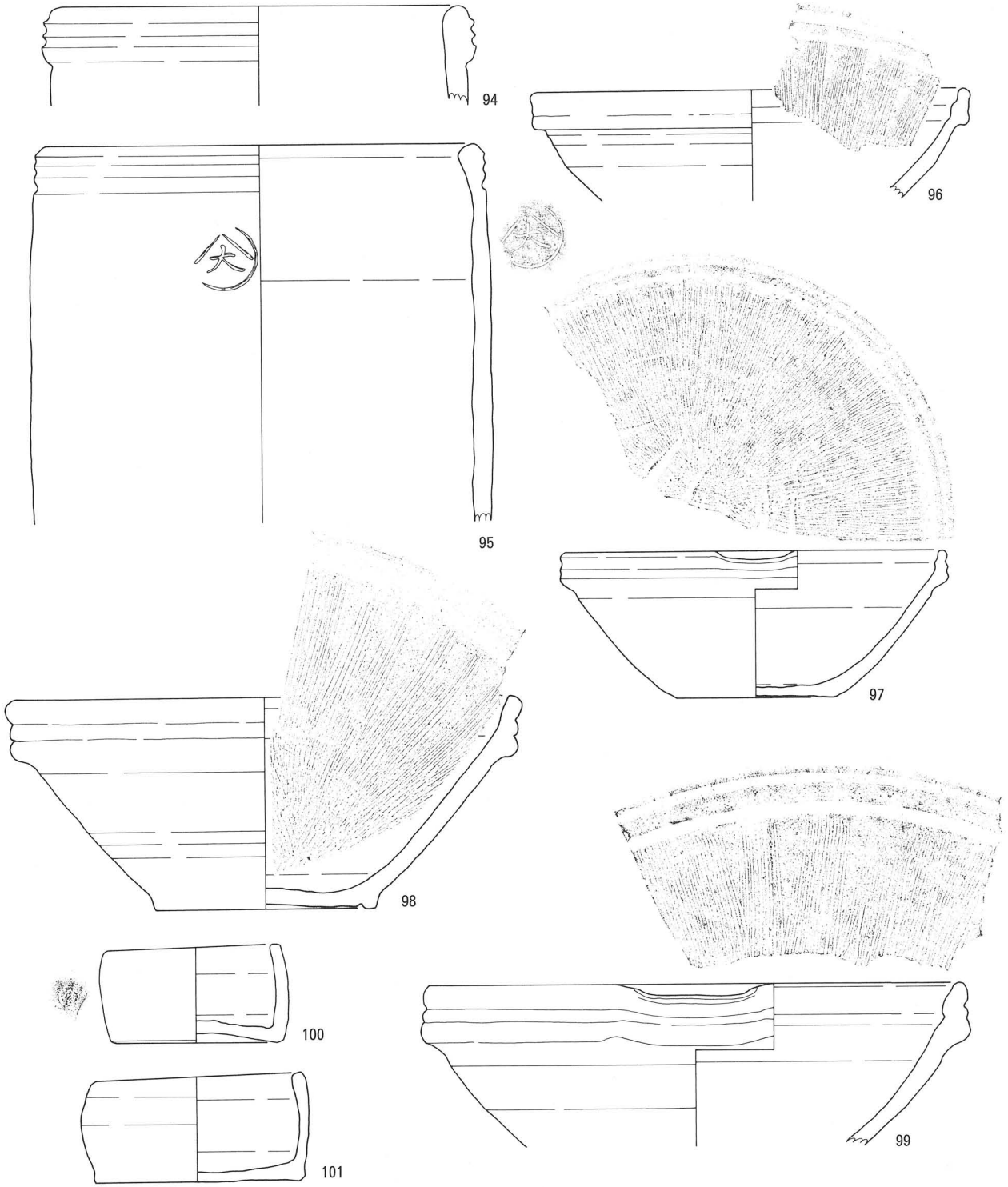
第46図　トレンチ６－１区出土遺物３（1/4）



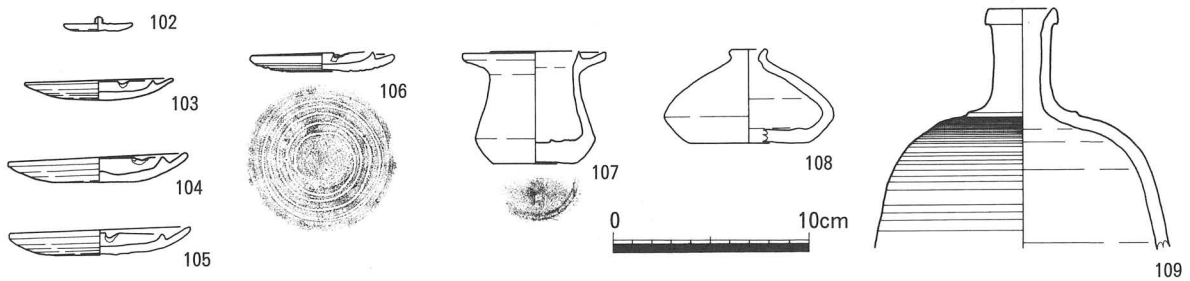
第47図　トレンチ６－２区出土遺物１（1/4）



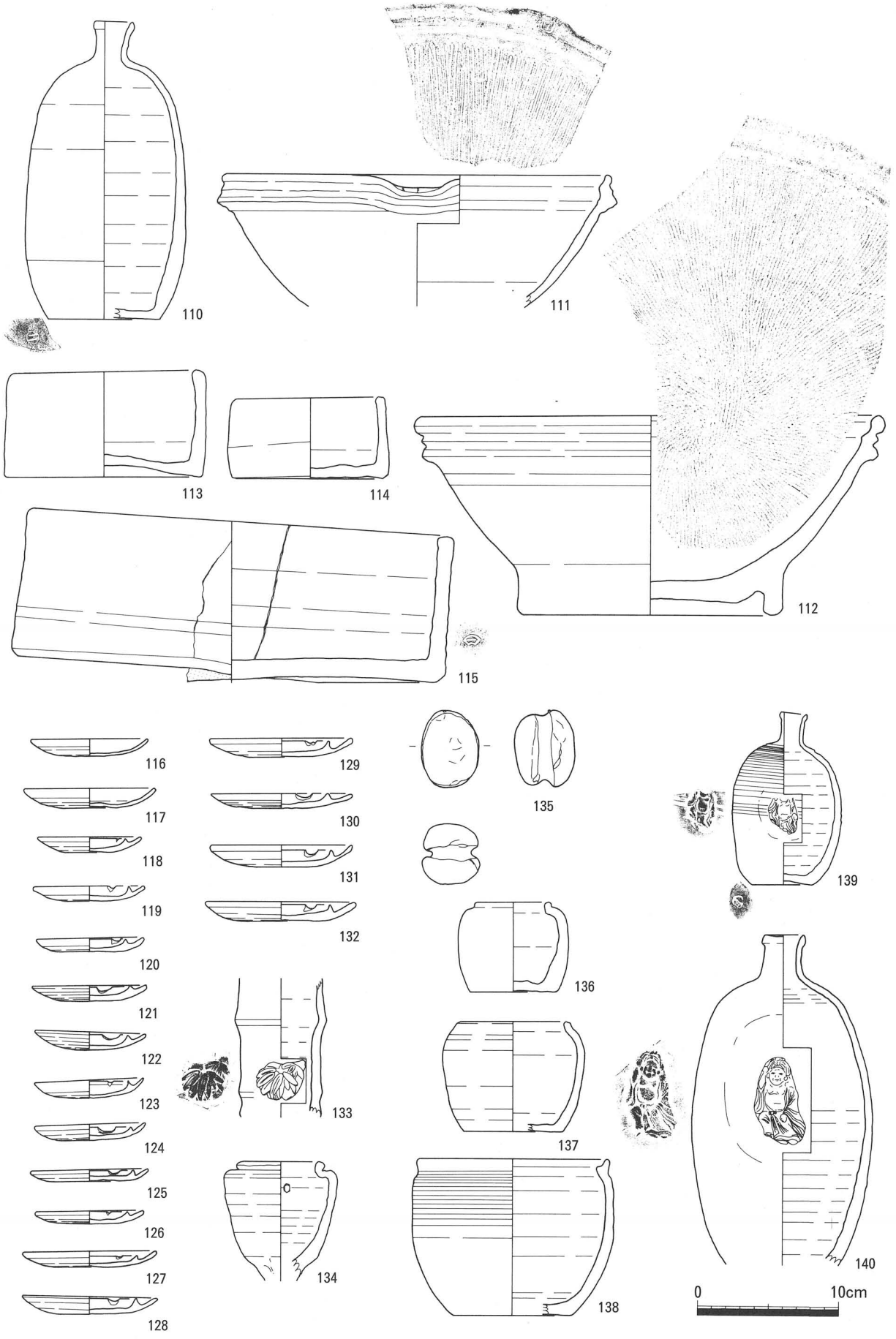
第48図　トレンチ６－２区出土遺物２（1/4）



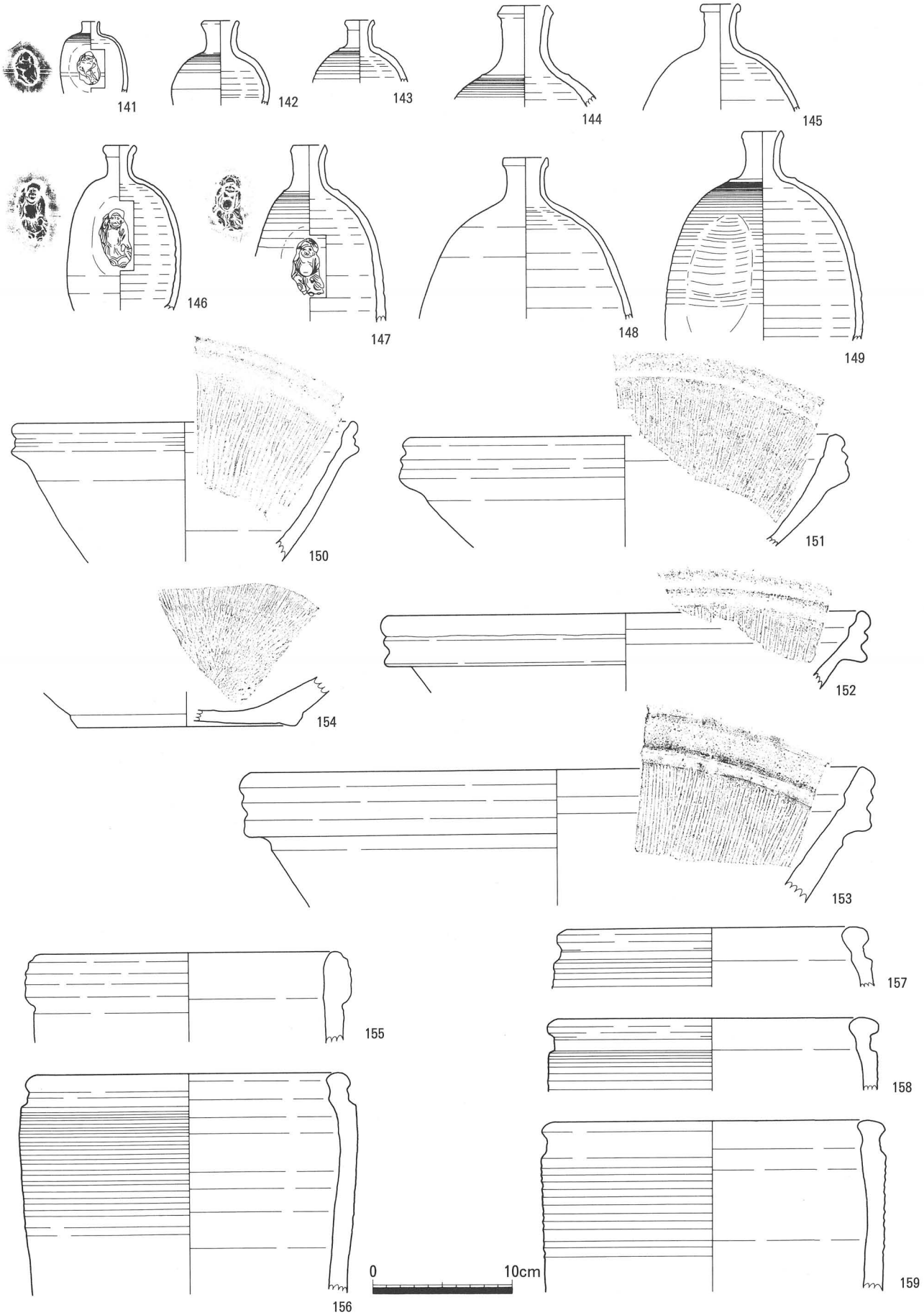
第49図　トレンチ６－２区出土遺物３（１/４）（94・95は１/８）



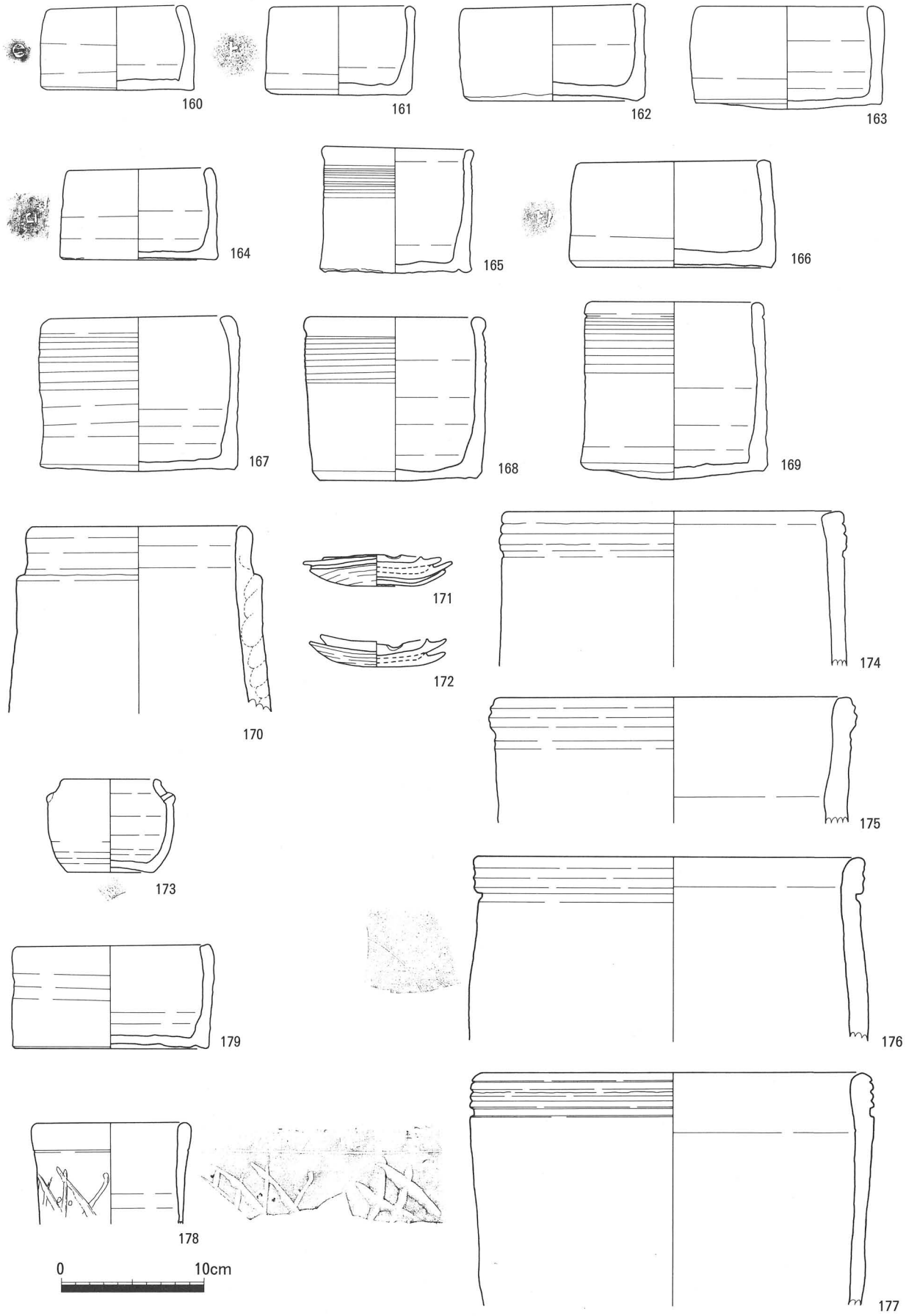
第50図　トレンチ６－３区出土遺物１（１/４）



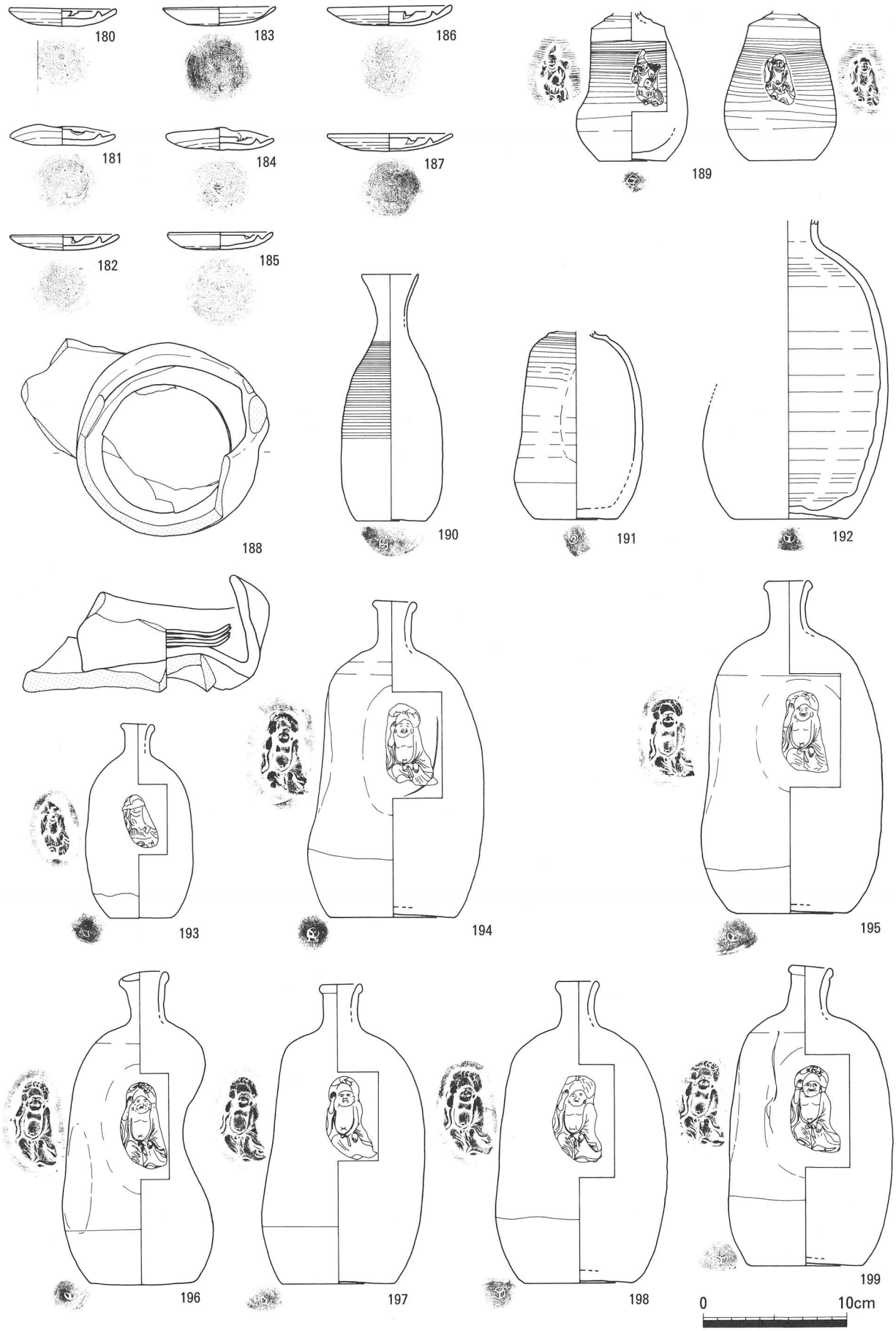
第51図　トレンチ６－３区出土遺物２（1/4）



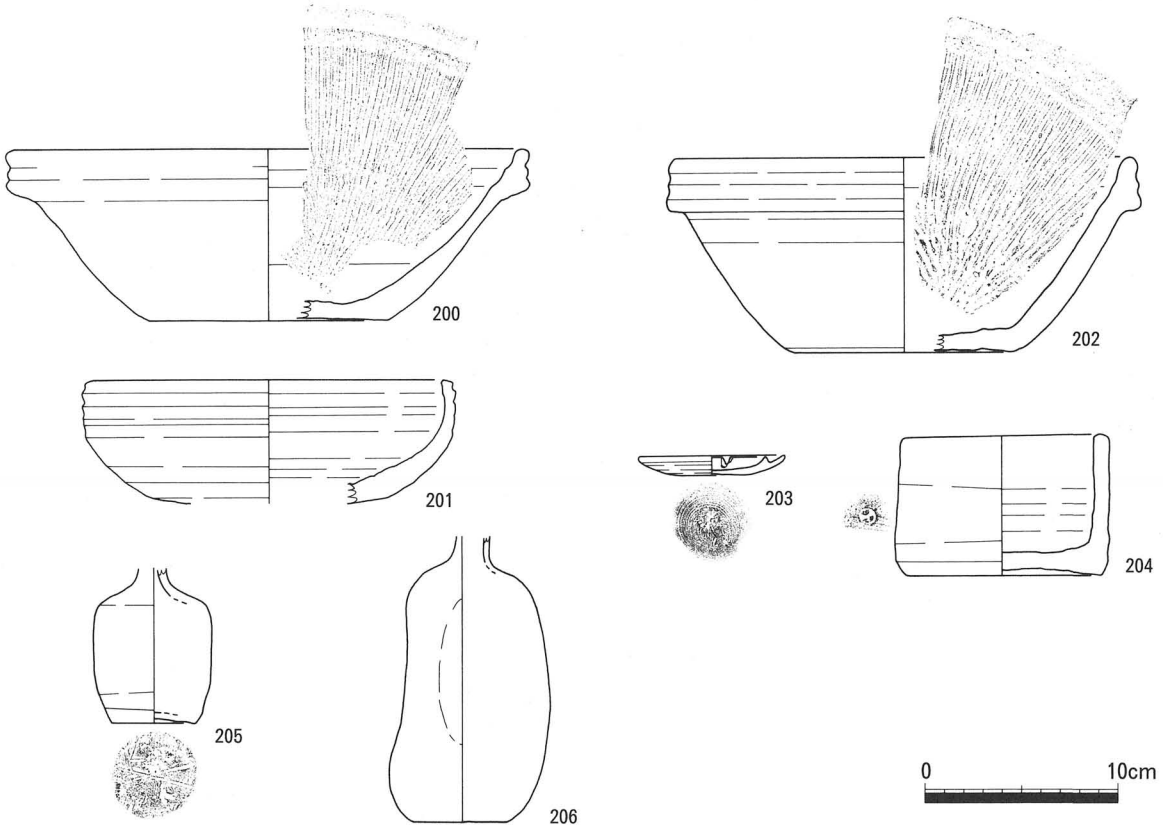
第52図　トレンチ６－３区出土遺物３（１/４）（155は１/８）



第53図　トレンチ６－３区出土遺物４（１/４）（174・175・176・177は１/８）



第54図　トレンチ６－４区出土遺物１（1/4）



第55図　トレンチ６－４区出土遺物２（1/4）

トレンチ６－１区（第44図～第46図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
1	灯明受皿	MO-T6-1区-表～32.5	051203	4/5	7.3	1.3	-	7.5	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3にぶい 赤褐 外面：2.5YR 5/3にぶい 赤褐				
2	灯明受皿	MO-T6-1区-表～32.5	051203	2/5	7.8	1.1	-	8.0	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2灰褐 外面：5YR 4/2灰褐				
3	擂鉢	MO-T6-1区-表～32.5	051203	1/5	24.0	10.0	10.0	25.0	0.1～2.5mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5Y 5/1 灰 外面：10YR 5/3 にぶい黄褐		底部に陶印：「へ」 ＊珍しい	近世 ２期ｂ	すり目： 20mm幅　7本
4	灯明受皿	MO-T6-1区-表～31.5	051130	4/5	9.6	1.5	-	9.8	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/4 にぶい褐 外面：7.5YR 5/3 にぶい褐				
5	灯明受皿	MO-T6-1区-表～31.5	051130	2/3	9.3	1.4	5.0	9.5	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）				
6	灯明受皿	MO-T6-1区-表～31.5	051130	2/5	12.7	1.7	-	12.8	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 4/4 赤褐				＊灯明皿の中では巨大
7	灯明受皿	MO-T6-1区-表～31.5	051130	1/2	10.6	0.9	7.6	10.8	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤（塗土）				＊扁平にケズリこみ
8	徳利	MO-T6-1区-表～31.5	051130	口縁部のみ	2.3	(8.3)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 5/4 にぶい褐 外面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土）				
9	擂鉢	MO-T6-1区-表～31.5	051130	口縁部1/4	21.4	(7.2)	-	22.4	0.1～0.5mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少し含む	良好	内面：10YR 7/1 灰白 外面：10YR 6/1 褐灰				すり目： 28mm幅　8本
10	甕	MO-T6-1区-表～31.5	051130	口縁部1/5	16.8	(11.0)	-	18.6	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）		胴部に飾り文様		
11	甕	MO-T6-1区-表～31.5	051130	口縁部1/12	39.8	(25.6)	-	45.0	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐		胴部に飾り文様		
12	匣鉢	MO-T6-1区-表～31.5	051130	1/2	28.8	10.7	30.3	31.4	0.1～4.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				
13	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部	2.1	4.8	-	-	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐（塗土）				

表３　物原出土遺物観察表（１）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
14	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部	2.5	(4.9)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を多く含む 0.5mm前後の黒色粒を少し含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐（塗土）				
15	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部	2.4	(8.9)	-	-	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
16	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部	1.9	(9.1)	-	8.2	0.1～0.5mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				
17	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部のみ	2.0	(7.5)	-	-	0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/4 にぶい赤褐 外面：2.5Y 5/1 黄灰（塗土）				
18	徳利	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	底部3/4	-	(7.7)	6.4	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 4/3 赤褐		底部に陶印：「◇」		
19	灯明受皿	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	3/4	7.6	0.9	-	7.8	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：7.5YR 4/2 灰褐				
20	壺（極小）	MO-T6-1区-31.0～31.5	051214	底部欠損	0.9	(2.9)	-	2.9	0.1mm未満の白色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 4/6 赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐（塗土）				＊神棚での使用?
21	鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	1/4	17.4	6.9	9.4	18.2	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5Y5/1 灰 外面：10YR 5/3 にぶい黄褐				＊端部2cm幅に折り込む箇所あり
22	大平鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/8	49.8	9.8	28.0	51.8	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 6/3 にぶい橙 外面：10YR 5/2 灰黄褐				
23	甕	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部1/4	50.5	(16.7)	-	-	0.1～3.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐（塗土?）				
24	甕	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部1/6	49.2	(11.5)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤、10YR 4/2 灰黄褐				
25	甕	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部1/8	45.6	(20.0)	-	-	0.1～5.0mm位の白色粒を含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐、10YR 3/1 黒褐		胴部にヘラ描き		
26	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	1/3	23.6	9.6	10.8	24.4	0.1～1.5mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：7.5YR 5/2 灰褐	外面にケズリあり			すり目： 26mm幅　7本 ＊内面に外面ケズリの際のロクロ台の痕あり ＊ロクロ台 15.6cm径
27	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部1/6	26.8	(9.2)	-	28.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙	外面にケズリあり			すり目： 18mm幅　5本
28	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/10	27.5	(8.6)	-	29.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐			近世 ２期ａ	すり目： 24mm幅　7本
29	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	口縁部1/10	31.7	(5.5)	-	33.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 5/2 灰褐			近世 ２期ａ	すり目： 28mm幅　10本
30	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	口縁部1/6	27.6	(6.1)	-	30.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/3 にぶい橙 外面：10YR 6/1 褐灰			近世 ２期ａ	すり目： 24mm幅　7本
31	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	口縁部	32.6	(7.2)	-	34.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5Y 4/2 暗灰黄 外面：10YR 5/2 灰黄褐			近世 ２期ａ	すり目： 36mm幅　12本
32	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	口縁部1/5	31.6	(10.7)	-	33.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：7.5YR 6/4 にぶい橙 外面：7.5YR 7/2 明褐灰、口縁部 4/2 灰褐			近世 ２期ａ	すり目： 29mm幅　7本
33	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/5	35.6	13.5	18.8	36.8	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/4 にぶい赤橙 外面：10R 5/4 赤褐	付高台			すり目： 25mm幅　8本
34	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	1/4	29.2	11.6	20.4	30.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/6明赤褐 外面：10R 5/6赤				すり目： 21mm幅　7本
35	擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	口縁部1/8	36.6	(10.1)	-	37.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				すり目： 25mm幅　8本
36	台付擂鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	底部1/4	-	(6.4)	26.0	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：5YR 5/6 明赤褐				すり目： 26mm幅　8本
37	土管	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	口縁部1/2	7.8	(6.2)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10R 4/3 赤褐		胴部に陶印：「〇」		
38	焼台	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/4	20.0	4.9	-	21.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				
39	焼台	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/4	28.6	9.6	-	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：5YR 7/4 にぶい橙				
40	焼台	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/5	27.2	12.2	-	32.2	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：5YR 5/4 にぶい赤褐				＊粘土の継ぎ目あり
41	焼台	MO-T6-1区-31.0～31.5	051215	1/5	35.2	12.6	-	42.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 6/6 橙 外面：2.5Y 6/4 にぶい橙				＊一部復元 ＊22の大鉢の焼台の可能性あり
42	匣鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	完存	12.4	7.2	13.7	13.8	観察不可	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐				
43	匣鉢	MO-T6-1区-31.0～31.5	051213	完存	10.0	5.8	10.2	11.1	観察不可	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		胴部に陶印：「上」		

表３　物原出土遺物観察表（２）

トレンチ６－２区（第47図～第49図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径（cm）	器高（cm）	底径（cm）	最大径（cm）	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
44	灯明受皿	MO-T6-2区-表～32.5	051202	完存	8.6	6.1	5.6	8.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）		底部に陶印：「○」		＊著しい歪み
45	灯明受皿	MO-T6-2区-表～32.5	051202	9/10	7.8	6.2	5.4	8.0	0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/2 暗赤褐 外面：7.5R 3/2 暗赤褐（塗土）		底部に陶印：「○」		
46	灯明受皿	MO-T6-2区-表～32.5	051202	4/5	6.9	5.4	4.0	4.1	0.1mm前後の黒色粒を少量含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10YR 6/2 灰黄褐				＊全体に自然釉付着
47	擂鉢	MO-T6-2区-表～32.5	051202	口縁部1/4	24.2	10.2	9.6	25.4	0.1～1.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～2.0mm位の褐色粒を含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：5YR 7/6 橙			近世 ２期ｂ	すり目： 24mm幅　9本
48	擂鉢	MO-T6-2区-表～32.5	051202	口縁部1/4	34.0	(8.8)	-	35.6	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 5/6 赤				すり目： 32mm幅　8本
49	徳利	MO-T6-2区-表～32.5	051202	口縁部	2.6	(9.3)	-	-	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土）				
50	窯道具 輪ドチ?	MO-T6-2区-表～32.5	051201	完存	-	1.0	-	4.9	観察不可	良好	上面：10R 5/4 赤褐 下面：10R 4/4 赤褐				
51	匣鉢	MO-T6-2区-表～32.5	051202	完存	10.6	6.5	10.6	11.5	0.5mm前後の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
52	匣鉢	MO-T6-2区-表～32.5	051201	ほぼ完存	12.2	7.0	12.5	13.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
53	甕もしくは匣鉢	MO-T6-2区-表～32.5	051201	1/5	23.6	20.5	25.0	26.0	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）		＊多種のスタンプ有り		
54	灯明受皿	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	3/4	7.4	0.9	4.0	7.6	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤（塗土） 外面：7.5R 4/4 にぶい赤				
55	灯明受皿	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	9/10	7.3	1.1	4.0	7.5	0.5mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 3/3 暗赤褐（塗土） 外面：7.5R 4/4 にぶい赤				
56	灯明受皿	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	9/10	8.0	1.3	-	8.2	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤				
57	小壷	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	3/4	5.4	5.9	6.5	8.7	0.1～1.0mm位の褐色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐（塗土）	胴部にケズリ			
58	小壷	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	口縁部2/5	12.2	(6.5)	-	14.4	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 4/6 赤褐、10R 3/2 暗赤褐（塗土）				
59	徳利	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	口縁部	2.1	4.6	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：5Y 4/1 灰（塗土）				＊背備前風
60	徳利	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	口縁部のみ	2.4	(4.7)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				
61	徳利	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	底部のみ	-	(6.0)	7.3	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		底部に陶印：「⧅」		
62	擂鉢	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	底部1/10	-	(15.0)	18.0	-	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐				すり目： 35mm幅　8本
63	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	完存	9.5	6.6	9.4	10.6	観察不可	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐		胴部にヘラ描き： 「上I」		
64	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	完存	10.5	5.9	11.0	11.5	観察不可	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：5YR 5/4 にぶい赤褐				
65	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	完存	10.4	6.3	10.4	11.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 5/4 赤褐		胴部にヘラ描き： 「上I」		
66	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	完存	9.6	5.8	12.0	10.9	観察不可	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：5YR 6/6 橙				
67	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～32.0	051203	完存	12.5	7.2	12.0	13.3	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 5/6 赤				
68	蓋	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	ほぼ完存	-	1.0	-	5.0	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	上面：2.5YR 3/6 暗赤褐（塗土） 下面：10R 5/6 赤				
69	灯明皿	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	2/3	7.5	1.2	-	7.6	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 5/3 赤褐				
70	灯明皿	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	1/4	9.5	1.2	4.4	9.6	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/1 褐灰 外面：10YR 4/1 褐灰				
71	灯明受皿	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	9/10	9.2	1.7	-	9.4	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤（塗土?） 外面：10R 4/2 灰赤				
72	灯明受皿	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	9/10	6.8	5.1	4.0	7.0	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/6 明褐 外面：5YR 5/6 明赤褐		底部に陶印：「⧅」		

表３　物原出土遺物観察表（３）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
73	油壷	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	1/4	1.6	4.3	7.8	10.0	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：10R 5/4 赤褐（塗土）				
74	小徳利	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	胴部のみ	-	(5.5)	-	6.0	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）				
75	擂鉢	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	口縁部1/10	25.0	(7.9)	-	25.6	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：5Y 6/1 灰			近世 ４期ｂ	すり目： 15mm幅　6本
76	擂鉢	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	口縁部1/10	27.6	(9.4)	-	28.4	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 5/6 赤			近世 ３期ｂ	すり目： 15mm幅　5本
77	擂鉢	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	底部1/3	-	(5.8)	11.8	-	0.1～1.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 6/8 赤橙、5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10YR 5/1 褐灰				すり目： 35mm幅　10本?
78	匣鉢	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	完存	12.2	7.1	12.6	13.2	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙				
79	甕	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	口縁部1/6	13.6	(5.1)	-	15.4	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 5/4 赤褐（塗土）				
80	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	完存	6.8	1.0	-	7.0	観察不可	良好	内面：7.5YR 5/1 褐灰 外面：10YR 5/1 褐灰	底部に糸切り			
81	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	3/4	7.6	1.1	3.5	7.8	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：2.5YR 4/2 灰赤	底部に糸切り			
82	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	完存	8.1	1.1	-	8.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙（塗土） 外面：10R 6/6 赤橙				
83	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	3/4	9.5	1.2	-	9.7	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐	底部に糸切り			
84	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	4/5	9.2	1.6	4.6	9.4	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐				
85	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	3/4	9.9	1.1	-	10.0	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐（塗土） 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）				
86	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	1/2	11.7	1.3	-	12.0	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土） 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐				
87	灯明受皿	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	9/10	9.3	1.6	4.1	9.5	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/6 赤（塗土） 外面：10R 4/6 赤				
88	油徳利	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	頸部のみ	2.1	(5.9)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/4 にぶい橙 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐（塗土）				
89	徳利	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	口縁部	2.7	(4.0)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐				
90	徳利	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	口縁部のみ	3.3	(4.8)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：5YR 4/6 赤褐（塗土）				
91	徳利	MO-T6-2区-31.0～31.5	051215	頸部のみ	2.8	(4.9)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/4 にぶい黄褐 外面：7.5YR 3/4 暗褐（塗土）				
92	甕	MO-T6-2区-32.5～31.5	051205	口縁部1/8	16.8	(4.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 3/3 暗赤褐（塗土）				
93	甕	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	口縁部1/8	38.3	(16.2)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 4/4 にぶい赤（塗土?） 外面：7.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土?）				
94	甕	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	口縁部1/10	50.2	(12.8)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙（塗土） 外面：10R 5/4 赤褐（塗土）				
95	大甕	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	口縁部1/8	54.0	(49.0)	-	59.2	0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐（塗土） 外面：10R 5/3 赤褐（塗土）		胴部に陶印：「⊗」		
96	擂鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	口縁部1/8	27.4	(7.1)	-	28.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	やや不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：5YR 6/6 橙			近世 ２期ｂ～ ３期ａ	すり目： 21mm幅　9本
97	擂鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	3/5	24.2	14.0	10.2	25.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：5YR 5/1 褐灰			近世 ３期ａ	すり目： 22mm幅　7本
98	擂鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	1/3	31.5	13.7	14.0	33.2	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：10R 4/4 赤褐			近世 ３期ａ	すり目： 18mm幅　6本
99	擂鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	口縁部2/3	33.6	(10.5)	-	35.4	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐			近世３期	すり目： 32mm幅　8本
100	匣鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	完存	10.5	6.4	10.4	12.1	0.1～1.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：5YR 6/4 にぶい橙		胴部に陶印：「〇」		
101	匣鉢	MO-T6-2区-31.0～31.5	051214	完存	13.1	7.0	13.1	14.6	観察不可	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：10R 5/4 赤褐				

表３　物原出土遺物観察表（４）

トレンチ６－３区（第50図～第53図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
102	蓋	MO-T6-3区-表～32.5	051208	ほぼ完存	-	1.3	-	3.6	0.1mmの白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
103	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	完存	7.6	1.1	-	7.7	観察不可	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤				
104	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	9/10	9.1	1.5	4.6	9.3	0.1mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4にぶい赤褐（塗土） 外面：2.5YR 5/6明赤褐	底部糸切り痕			
105	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	3/4	11.2	1.4	-	11.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：10R 3/2 暗赤褐				
106	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	完存	7.2	1.0	-	7.4	観察不可	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤				＊底に意匠的な一本引条線いれる
107	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	3/5	7.4	5.8	4.2	7.5	0.1mmの白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤 外面：10R 3/4 暗赤		底部に陶印：「上」		
108	油壺？	MO-T6-3区-表～32.5	051207	1/3	1.8	4.8	6.0	8.6	0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）				
109	徳利	MO-T6-3区-表～32.5	051208	頸部	3.4	(12.3)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐（塗土）				
110	人形徳利	MO-T6-3区-表～32.5	051208	1/2	2.7	21.3	8.0	11.4	0.1mmの黒色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/6赤 外面：10R 3/6暗赤（塗土）		底部に陶印：「㊀」		
111	擂鉢	MO-T6-3区-表～32.5	051208	口縁部1/5	26.6	(9.4)	-	28.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙	ケズリあり	注ぎ口に陶印：「□」	？	すり目： 19mm幅　6本
112	擂鉢	MO-T6-3区-表～32.5	051208	1/4	32.2	14.2	17.8	33.2	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤 外面：5YR 4/6 赤褐			近世 ５期ａ	すり目： 24mm幅　10本
113	匣鉢	MO-T6-3区-表～32.5	051207	ほぼ完存	12.8	7.6	13.8	14.3	0.1～1.0mmの黒色粒を多く含む 0.1～0.5mmの白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 6/6 橙				
114	匣鉢	MO-T6-3区-表～32.5	051208	完存	10.0	6.8	10.3	11.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/4 にぶい赤橙 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐（塗土）				
115	匣鉢	MO-T6-3区-表～32.5	051208	完存	29.0	12.4	29.5	31.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の褐色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/2 暗赤褐（塗土）	底部に8ヵ所ぼたもち状	胴部に陶印：「㊀」		＊底部が下に落ちる様に欠損
116	灯明皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	1/3	8.2	1.2	4.3	8.4	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤（塗土） 外面：10R 5/3 赤褐				
117	灯明皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/3	9.2	1.4	-	9.4	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐（塗土） 外面：10R 5/6 赤				
118	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	1/2	7.2	1.1	3.2	7.4	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐				
119	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	7.9	1.0	4.2	8.0	0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐				
120	灯明受皿	MO-T6-3区-表～32.5	051208	9/10	7.5	1.0	4.3	7.7	0.１mmの黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4赤褐（塗土） 外面：10R 4/4赤褐	底部糸切り痕			
121	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	2/3	8.0	1.2	-	8.2	0.1mm前後の黒色粒を少量含む 0.1mm前後の白色粒を極少量含む	やや不良	内面：2.5YR 6/8 橙（塗土） 外面：2.5YR 6/8 橙（塗土）				
122	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	4/5	7.7	1.4	-	7.9	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/4 赤褐（塗土）				
123	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	9/10	7.7	1.4	-	7.8	0.1mmの白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/3赤褐（塗土？） 外面：2.5YR 4/4にぶい赤褐				＊内湾していて法量大
124	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	4/5	7.7	1.2	-	7.9	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/3 にぶい赤褐				
125	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	4/5	8.2	0.9	-	8.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤橙（塗土） 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐（塗土）				
126	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051203	4/5	7.6	1.0	4.3	7.8	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤				
127	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	2/3	9.4	1.1	5.0	9.6	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤（塗土） 外面：10R 4/6 赤				
128	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	9/10	9.5	1.3	-	9.7	0.1mmの白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/6赤（塗土） 外面：10R 3/6 暗赤				
129	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	9.8	1.3	4.4	10.0	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：2.5YR 6/8 橙				
130	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	4/5	9.6	1.1	-	9.9	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐	底部糸切り痕			

表３　物原出土遺物観察表（５）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
131	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	3/5	9.8	1.6	-	10.0	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 4/6 赤（塗土）				
132	灯明受皿	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	3/4	10.4	1.4	-	10.6	0.1mm前後の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	やや不良	内面：2.5YR 6/6 橙（塗土） 外面：2.5YR 6/6 橙（塗土）				
133	花入?	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	胴部	-	(9.9)	-	-	0.1mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙		胴部に笹の葉文様		
134	掛花生?	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	5.2	(8.5)	-	8.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙	絞込みあり			＊珍しい器種
135	土錘	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	完存	-	4.3 (最大厚)	4.1 (最大幅)	5.4 (最大長)	観察不可	良好	上面：10R 4/3 赤褐 下面：2.5YR 4/2 灰赤				
136	小壺	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	5.0	6.4	6.1	7.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10R 4/2 灰赤（塗土）				
137	小壺	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	7.4	7.8	7.0	10.0	0.1mm前後の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：7.5R 4/4 にぶい赤 （塗土）				
138	甕	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/6	13.2	11.1	8.3	14.2	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 3/6 暗赤（塗土）				
139	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	2/3	1.9	12.3	4.3	7.8	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：7.5R 4/4 にぶい赤 （塗土）		底部に陶印：「⧅」		
140	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	2.8	(23.5)	-	13.1	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/6 明赤褐 （塗土）				
141	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	頸部から胴部	1.3	(6.6)	-	-	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 3/3 暗赤褐（塗土）				
142	小徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	口縁部	2.4	(6.1)	-	7.0	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/8 橙 外面：10R 5/4 赤褐（塗土）				
143	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	-	頸部のみ	2.0	(4.5)	-	-	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 4/6 赤褐				
144	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部	3.1	(6.8)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐 （塗土）				
145	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部	2.6	(7.6)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
146	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	頸部から胴部	2.1	(11.9)	-	8.1	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：5YR 4/6 赤褐（塗土）				
147	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	上部	2.3	(14.0)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 4/6 赤褐				
148	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	頸部から胴部	3.0	(11.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 6/3 にぶい褐 外面：5YR 4/4 にぶい赤褐 （塗り土）				
149	徳利	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	上部	2.7	(15.1)	-	14.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				
150	擂鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/6	24.2	(10.0)	-	25.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/1 赤灰			近世 3期b～ 4期a	すり目： 18mm幅　6本
151	擂鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/6	30.4	(8.0)	-	32.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 1.0mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 5/6 赤			近世5期 a～b	すり目： 22mm幅　7本
152	擂鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/8	34.0	(5.6)	-	35.0	0.1～1.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐			近世5期 a～b	すり目： 17mm幅　4本
153	擂鉢 (大型)	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/10	43.9	(9.8)	-	45.4	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 3/2 暗赤褐			近世5期 a～b	すり目： 40mm幅　9本
154	擂鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	底部1/4	-	(2.5)	15.6	-	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 5/4 赤褐	底部ケズリ出し			
155	甕	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/10	42.2	(12.8)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を少量含む	やや不良	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤				
156	甕	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	口縁部1/4	21.6	(15.9)	-	24.4	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/4 にぶい赤 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐				
157	甕	MO-T6-3区-32.0～32.5	051212	口縁部1/8	20.0	(4.2)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				
158	甕	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/4	22.0	(5.2)	-	-	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/3 赤褐 外面：10R 5/2 灰赤（塗土?）				
159	甕	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	口縁部1/6	22.0	(12.3)	-	-	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の褐色粒を少量含む 0.5mm前後の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				
160	匣鉢	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	完存	9.0	6.0	10.7	10.8	観察不可	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：10R 3/4 暗赤		胴部に陶印：「☺」		

表３　物原出土遺物観察表（６）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
161	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	完存	9.7	6.3	9.6	10.6	観察不可	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐		胴部に陶印：「上」		
162	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	完存	12.0	6.8	11.7	13.0	観察不可	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐				
163	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	完存	12.2	7.3	13.0	13.7	観察不可	良好	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：5YR 5/4 にぶい赤褐				
164	匣鉢	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	完存	9.8	6.5	10.7	11.0	観察不可	やや不良	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤		胴部に陶印：「上」		
165	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	ほぼ完存	10.2	9.0	13.4	10.9	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				
166	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	完存	13.0	7.6	13.8	14.5	観察不可	不良	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：5YR 6/4 にぶい橙（塗土）		胴部に陶印：「上」		
167	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	9/10	12.4	11.0	13.6	14.1	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の白色粒を含む ＊胎土不良	不良	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：10YR 7/2 にぶい黄橙				
168	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	ほぼ完存	11.9	11.6	11.2	12.9	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/4 にぶい橙 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐、10YR 7/2 にぶい黄橙（塗土?）		胴部に陶印：「上」		
169	匣鉢	MO-T6-3区-32.0～32.5	051209	1/2	11.6	12.5	12.6	13.2	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：5YR 7/4 にぶい橙				
170	土管	MO-T6-3区-31.5～32.0	051212	口縁部1/4	29.6	(26.4)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 4/2 灰赤				＊断面に輪積みの段がよく観察できる
171	灯明皿溶着片	MO-T6-3区-31.5～32.0	051212	完存	9.4 (一番下)	1.6 (一番下) 2.2 (全体)	-	9.6 (一番下) 10.5 (全体)	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：10R 5/3 赤褐				＊上2枚 受皿、下皿
172	灯明皿溶着片	MO-T6-3区-31.5～32.0	051212	ほぼ完存	8.7 (上)	1.9 (下) 2.3 (全体)	-	8.9 (上) 9.6 (下)	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/2 暗赤褐（塗土） 外面：10R 4/3 赤褐	底部糸切り痕			
173	小壷	MO-T6-3区-31.5～32.0	051212	1/3	6.3	6.6	6.0	9.0	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 6/6 橙（塗土）	ゆるいケズリ	底部に陶印：「⊠」		
174	甕	MO-T6-3区-31.5～32.0	-	口縁部１/8	46.0	(21.9)	-	-	0.1～3.0mmの白色粒を多く含む 0.1～3.0mmの黒色粒を多く含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：7.5R 4/4 にぶい赤				
175	甕	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	口縁部1/4	48.4	(17.7)	-	51.6	0.1～4.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐（塗土） 外面：2.5YR 6/6 橙（塗土）				
176	甕	MO-T6-3区-31.5～32.0	051212	口縁部1/4	52.6	(26.0)	-	-	0.1～3.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐	胴部にヘラ描き			
177	甕	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	口縁部1/6	53.2	(33.0)	-	56.6	0.1～4.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～4.0mm位の黒色粒を含む 0.5～3.0mm位の褐色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐（塗土）				
178	鉢	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	口縁部2/3	10.5	(7.2)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/4 にぶい赤橙 外面：7.5R 4/4 にぶい赤（塗土）		胴部に文様		
179	匣鉢	MO-T6-3区-31.5～32.0	051213	完存	13.1	7.4	13.4	14.2	観察不可	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：10R 5/6 赤				

トレンチ６－４区（第54図・第55図）

180	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	8.5	1.3	-	8.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤 外面：10R 4/6 赤	底部に糸切り			
181	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	-	1.5	-	7.4	不明	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：10R 4/3 赤褐	底部に糸切り			
182	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	7.5	1.1	-	7.7	不明	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 4/1 黄灰	底部に糸切り			
183	灯明皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	7.9	1.4	-	8.0	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：7.5YR 4/3 褐	底部に糸切り			
184	灯明皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	7.6	1.6	-	7.6	不明	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：5Y 6/1 灰、2.5YR 4/3 にぶい赤褐				＊内面に溶着塊
185	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	一部欠損	7.3	1.2	3.6	7.5	0.1mm位の黒色粒を含む 0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5R 4/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤	底部に糸切り			
186	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	4/5	8.6	1.4	-	8.8	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 4/6 赤（塗土）	底部に糸切り			
187	灯明受皿	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	8.6	1.3	-	8.8	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：5YR 3/3 暗赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐				
188	灯明皿が溶着した匣鉢	MO2-T6-4区-32～31.2	061117	完存	-	(8.3)	-	-	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				
189	徳利	MO2-T6-4区-31.5～31.0	061121	頸部欠損	-	(10.6)	4.7	7.9	0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/6 明赤褐		底部に陶印：「◇」		＊三方に貼型あり ＊恵比須、布袋

表３　物原出土遺物観察表（７）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
190	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	口縁部欠損	3.9	17.6	4.9	7.2	0.1mm位の白色粒を少量含む 精良	良好	内面：2.5YR 4/1 赤灰 外面：10R 4/4 赤褐		底部に陶印：「㊀」		
191	徳利	MO2-T6-3区-31～30.5	061122	頸部欠損	-	(13.3)	5.8	9.1	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐		底部に陶印：「㊇」		
192	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	底部から胴部	-	(21.2)	7.7	-	0.1～1.0mm位の白色粒を少し含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/3 赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		＊左半分欠損のため実測せず
193	人形徳利(小)	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.0	13.9	4.2	7.5	不明	良好	内面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 5/4 にぶい赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		
194	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.6	22.5	8.8	12.4	不明	良好	内面：2.5YR 3/3 暗赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		
195	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	ほぼ完存	2.8	23.6	7.7	12.7	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 3/4 暗赤 外面：10R 3/4 暗赤		底部に陶印：「Ⓨ」		
196	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.9	22.3	7.3	10.6	不明	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/4 暗赤		底部に陶印：「Ⓨ」		
197	人形徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.7	21.3	8.0	11.7	不明	良好	内面：7.5R 3/3 暗赤褐 外面：7.5R 3/3 暗赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		
198	人形徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.7	21.4	7.6	12.1	不明	良好	内面：10R 3/2 暗赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		
199	徳利	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	完存	2.6	21.4	7.7	11.4	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：10R 3/2 暗赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐		底部に陶印：「Ⓨ」		
200	擂鉢	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	1/6	26.4	8.9	12.4	27.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：10YR 5/1 褐灰			近世４期	すり目： 21mm幅　7本
201	鉢	MO2-T6-4区-32～31.5	061117	1/3	18.0	(6.4)	-	19.4	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	やや不良	内面：5YR 7/6 橙 外面：5YR 7/6 橙、10YR 5/1 褐灰	底部にヘラで大きくケズリ			
202	擂鉢	MO2-T6-4区-31.5～31.0	061121	1/6	23.2	10.1	11.3	24.6	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 4/2 灰黄褐、10YR 5/4 にぶい黄褐 外面：2.5YR 5/2 暗灰黄			近世４期	すり目：不詳 19mm幅 8本以上
203	灯明受皿	MO2-T6-4区-31.5～31.0	061121	完存	9.5	1.0	-	9.6	不明	良好	内面：10R 5/6 赤（塗土） 外面：10R 5/6 赤（塗土）	底部に糸切り			
204	匣鉢	MO2-T6-4区-31.5～31.0	061121	ほぼ完存	10.0	7.4	10.2	11.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少し含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/6 赤		底部に陶印：「Ⓨ」		
205	徳利	MO2-T6-4区-31～30.5	061130	頸部欠損	-	(8.0)	4.4	6.1	0.1mm前後の白色粒を少し含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐		底部にヘラ描き		
206	徳利	MO2-T6-4区-31～30.5	061121	頸部欠損	-	(14.8)	4.8	8.4	0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/2 灰赤				

表３　物原出土遺物観察表（８）

第６章　西側窯跡の調査概要

第１節　位置と調査の概要

西側窯跡は、国指定史跡地内の一番西側、標高25mから34mの北向きの緩斜面に立地する。指定を受ける以前から全長約33m、幅３m弱の凹地が確認されていて、同規模の窯の存在が推定されていた。操業開始時期は、先述の桂又三郎氏の調査（桂又三郎1952）などから、慶長元年ごろではないかと推定されている。

調査は、窯跡の構造、正確な規模や付随する施設を確認することが目的である。平成17年度の調査は、地形測量図をもとに草木伐採後の地表観察の結果も加味し、トレンチを設定して実施することとした。トレンチは基本的に窯内外の構造を追及するため１m幅とし、窯に対して横断、縦断する３～６m前後の長さで３地点を設定した。草木除去後、地表面を詳細に観察し、焚口推定部分をトレンチ12、窯中央部をトレンチ13、煙出想定部をトレンチ14とした。いずれのトレンチも窯壁から２～３m前後窯外に延伸するよう設定し、覆屋の柱穴など窯に付随する施設の有無を確認した。

平成17年度の調査でほぼ窯の基本的な構造や規模が確認できた。焚口推定部分のトレンチ12の調査は、当初設定のトレンチ内で焚口が確認できなかったため、北側へ延伸したところ、史跡地境界で焚口を確認することができた。

第２節　遺構の概要

１．窯体構造

概要　調査の結果、窯体は地山を整形して構築した半地下式の窖窯で、燃焼室から煙出部までほぼ良好に残存していた。

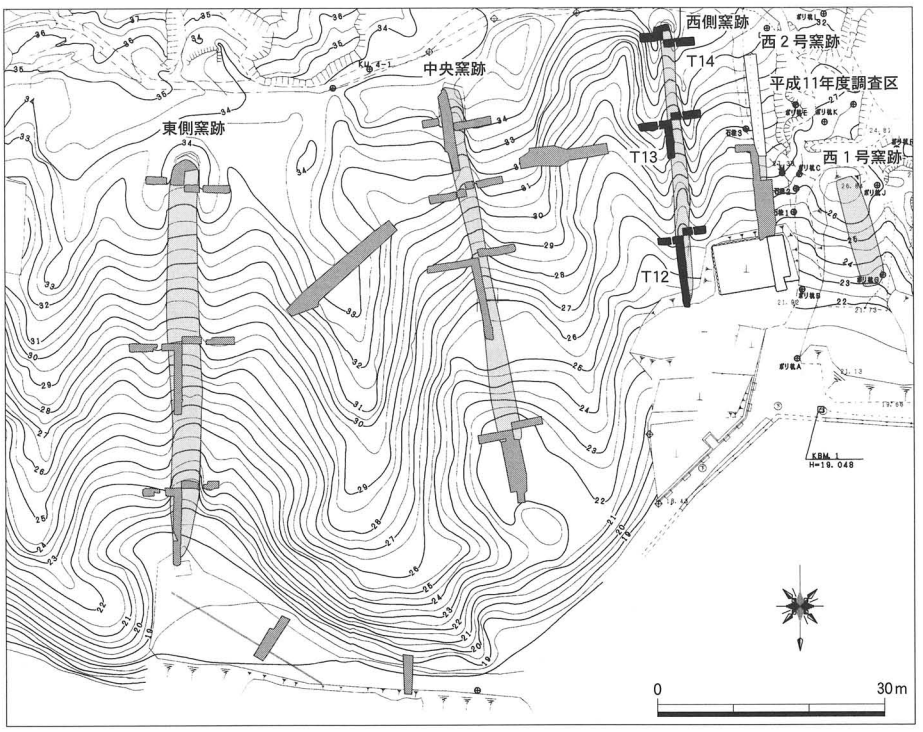
規模は、全長が水平距離33.8m、斜距離35.3m、幅は2.2～2.6mを測る。柱の位置や床面の傾斜角度から、燃焼部は斜距離で1.1mとなり、平面形は逆三角形を呈す。傾斜角度は、燃焼室はほぼ０度、燃焼室に近い焼成室部分は11度、それ以外の焼成室は16～18度、煙出部は９度で、窯全体では傾斜角度が17度になる。主軸はほぼ南北を向いている。東側窯や中央２号窯と同様、各焼成室（房）を仕切る隔壁は確認されておらず、単房である。煙出部は、排煙孔30cm手前でほぼ直角に側壁の角度が変わり、隅丸方形を呈す。排煙施設は、煙出部側壁の中央に、いびつな五角形を呈した排煙孔を確認した。

側壁　側壁は窯全体で直立して約１m前後残存しており、焼成室の側壁が一部露出している。両側壁は、煙出部に向けてほぼ平行に延びており、寸胴形を呈する。

トレンチ12と13の西側壁で、壁の裏込めとなる列石が認められた。また、煙出部の排煙孔上部は、壁の粘土が剥落し、10～20cm大の角礫を積み上げて窯壁を構築していることが確認できた。

柱　燃焼室と焼成室を区切る柱を２本確認でき、平面形がほぼ五角形を呈している。本来は３本であったと考えられる。それ以外の天井を支える柱は確認されていない。

床面　トレンチ12で、１回の床面の貼り変えの痕跡が認められた。



第56図　西側窯跡トレンチ配置図（S＝1/1000）

２．窯の埋没状況

表土層下は、礫や遺物の混入具合などに差があるものの淡黄色系の土色を呈し、斜面堆積をしている点で共通しており、窯操業時よりも後の流土である。

黄色系の土層下には、赤褐色の被熱した土に窯壁片などを含んだ堆積がある。これらの層は混入する窯体片、礫、焼土の多少について差異を含むものの、窯の内部に堆積する点が共通し、被熱した天井部などが窯の崩落に伴って窯内に流入したものと見られる。

天井部が崩落している状況が看取でき、焼成室内で多量の製品が出土していることを鑑みると、焼成直後の窯の崩落により、閉窯したものと考えられる。

３．窯内の遺物の出土状況

焚口側の焼成室の床面直上（トレンチ12）では、焼成に利用された窯道具など最終操業時に焼成された遺物が多量に出土した。窯内に流れ込んだ埋土による二次的な移動は少ないと考えられる。遺物は、擂鉢、徳利、油壷、土管などの製品や匣鉢（さや）や陶板などの窯道具まで多岐に渡っており、なかでも置物獅子の巻き毛の出土が特筆される。これらは、最終操業時の一括性の高い遺物群であると指摘できる。また油壺が、円筒形の小型の匣鉢に収まった状態で出土しており、窯詰めについて示唆する資料のひとつといえる。

４．物原の堆積状況

窯の外側には、灰白色系の山土の流土層の下に赤橙系の焼土層が堆積している。しかし、窯体の両側には明瞭な物原を形成しておらず、東側窯跡や中央窯跡の物原と好対照をなしている。焼土の堆積

も他の窯に比べると極めて少ない。以上のことからも、西側窯の操業期間が短期間であったという蓋然性が高い。トレンチ13の東側の窯の外部から徳利が出土している。また、地山直上で製品が出土している。

窯の構築　窯は、黄白色系の地山を掘り込むように構築されている。トレンチ12・13の東側窯外では、地山を一部掘り込んで、窯壁の裏込めの列石を配している。掘方は、地山を垂直に掘り込んでおり、トレンチ12の第６層にぶい赤橙色土は、被熱層であるが掘方埋土であると考えられる。トレンチ13では掘方を明確には検出できなかったため、推定ラインを図示している。

トレンチ12東西の窯外では、窯壁の列石とは別の列石が認められる。また西側では、窯壁と列石の間に深さ20㎝、幅35㎝の溝を掘削しており、排水溝として機能した可能性を指摘できる。

また焚口北側から２個体の土管が直立した状態で検出されたが、どのような目的で窯に直近した位置で出土したのかは不明である。

５．中央窯跡・西側窯跡の変遷過程

ここで、一度中央窯跡と西側窯跡、またそれに敷設する物原や作業場と見られる施設の変遷を時系列順にまとめておきたい。

① 16世紀初頭中央１号窯が築かれ、操業を開始する。トレンチ８西側で認められる石列は、この１号窯の側壁を反映している。17世紀前半に近い時期に、焚口付近に覆屋などの簡易な作業施設が建てられた可能性がある。

トレンチ11・トレンチ７北側には１号窯で焼成された製品が廃棄され、堆積する。

② 17世紀前半のある段階で１号窯が閉窯する。

③ 17世紀末から18世紀初頭、西側窯を構築する。その際、西側窯跡と中央窯跡の間の谷地形になっている箇所（トレンチ11西側）に地山を掘り込んだ土を廃棄する。

④ 18世紀前半、２号窯の構築のため１号窯煙出し付近を大きく掘り込んだ際に、１号窯の床面と壁が一部破壊される。新たに煙出と焚口、床面、壁を構築し、１号窯内に主軸を同一にした窯を構築する。

１号窯の南側（トレンチ７）が削平され、整地される。その結果できたテラス部分に簡易な作業施設が建てられた可能性がある。

２号窯の構築の際に、１号窯の製品で構成される物原の一部が崖（トレンチ11）に遺棄される。

２号窯が開窯し、不良品や窯道具が崖面（トレンチ11）に廃棄される。

⑤ 18世紀中ごろ、２号窯が閉窯する。

第３節　遺　　物

出土した遺物はすべて備前焼である。今回記述する遺物はその大部分が窯体内から出土したものである。とくに焚口付近トレンチ12の遺物が中心になる。発掘調査時において窯体内の遺物はすべて持ち帰り、接合等をした後、できうる限り多くの器種が提示できるよう努めた。

主な遺物は、擂鉢、水屋甕、徳利、油徳利、灯明皿、灯明受皿、小壷、油壷、窯道具、土管などである。厳密に器種構成は検討していないが、甕などの比率が低いようである。

１．トレンチ12出土（第60図～第65図）

１～11は擂鉢である。擂鉢は、徳利などとともに器種構成の中で主要な比率を占める。最大径が30～34cmの範囲に収まるものがほとんどで、口縁部は内面のナデにより突帯が退化し扁平化しているが稜線は保つものが多い。口縁部受け部の外面の下部の張り出しもややナデ肩状になっている。内面のすり目もくまなく施されている。

第57図　西側窯全景（南側煙出しから焚口を見る）

体部下半のヘラケズリをほどこす高台付きの**３**なども多少あるが主ではない。以上から乗岡編年近世３ａ期と考えられ、実年代としては17世紀末から18世紀初頭の年代が与えられる。また最大径が18cm前後で、内面に細かいすり目を施した小形の擂鉢**１**もある（石井啓2007）。

12～14は鉢類で、**13**は胴部上半に菊紋を施した水屋甕である。

15～24は徳利類である。擂鉢とともに主要な比率を占める徳利は、底部から三分の一のところに最大胴径部分となる器形で、体部上半に糸目を施した最大径約16cm、約14cm、約11cmの**15～23**がある。このほか尻貼形**21**や、肩部に受けをつくり、受けの中の穿孔から液体が容器内に戻る仕組みの油徳利**26**などが見られる。

糸目のある徳利は、鞆の浦（広島県福山市）の有名な薬酒「保命酒」の容器として、元禄（1688～1704）から享保（1716～1736）年間頃使用されたといわれ、享保年間以降は人形徳利も用いられたという（福山市教育委員会1979）。

27～35は灯明皿・灯明受皿である。器種構成の中で一定の比率を占め、直径が10cm強の灯明皿**27～30**、11cm弱の灯明受皿と**31～33**、法量もほぼ一定している。**34・35**など溶着片が多数あり、窯道具匣鉢（さや）の中で焼成したと推測される。

36～39が小壷、**40～47**が油壷である。出土資料内で油壷と小壷は一定の比率を占めている。油壷は17世紀後半初現の化粧道具のひとつで、鬢付油を入れる容器として肥前などのものが多く用いられている（安芸毬子2001）。大きくは胴部が扁平なものと、球状のものがあり、後者には胴部を扁平に押圧したり、ヘラ描きを施したものもある。窯道具匣鉢**48**の中に溶着した状態で確認されたものもある。**43**はやや大形で油壷でない可能性もある。

小壷は高さが７～８cm、最大胴径９～10cmの非常に小型の無頸壷で、後続する中央２号窯跡でもみられるが、用途については不詳である。

50～61は窯道具である。窯道具は製品ではないが、遺物群のなかで最も大きな比率を占めるものである。これは製品が消費地へ搬出されるのに比べ、窯道具は複数回使用されることに起因すると考えられる。

大きくは匣鉢と蓋に分けられる。匣鉢**48・49**は径11cm×高さ約６cm、径14～15cm×高さ８cm弱の**50・51・55・56**の２種類の法量のものが主流を占めるが、径15cm×高さ18～20cmの長胴形**57・58・59**、径

25cm×高さ11～15cmの穴あき形**60・61**もあり、製品に応じた使い分けがなされていたと推定できる。蓋は内面に返りをもつもの**52・53**と、陶板状のもの**54**があり、径は15cm前後を測る。

63～67は土管で、器種構成の中で一定の比率を占めるが、図化できたのは５点である。いずれも胎土は精製していない荒いものを使用している。長さ96cm、短径24cm×長径28cmの**67**は完形品である。この他短径11cmの**63**、27cmの**65**、長径38cmの**66**、32cmの**64**がある。

２．トレンチ13出土（第66図・第67図）

68～72までが擂鉢で、**68～70**は径が18cm弱の小擂鉢である。**71・72**は大型のもので**71**は径40cmの個体である。時期は近世３ａ期で17世紀末ころから18世紀初頭にあたる。

73～76は徳利で、**76**は立体的で精巧な貼り型をもつ大型の人形徳利である。

77～81は灯明皿・灯明受皿で、**80・81**は径８cmとトレンチ12よりは小型のものになる。

82～85は小壷、**86・87**は油壷である。

３．トレンチ14出土（第68図）

煙出に近い部分で遺物の量は少ない。

88・89は糸目の大型徳利、**90**は陶板状の窯道具で変形しているものである。

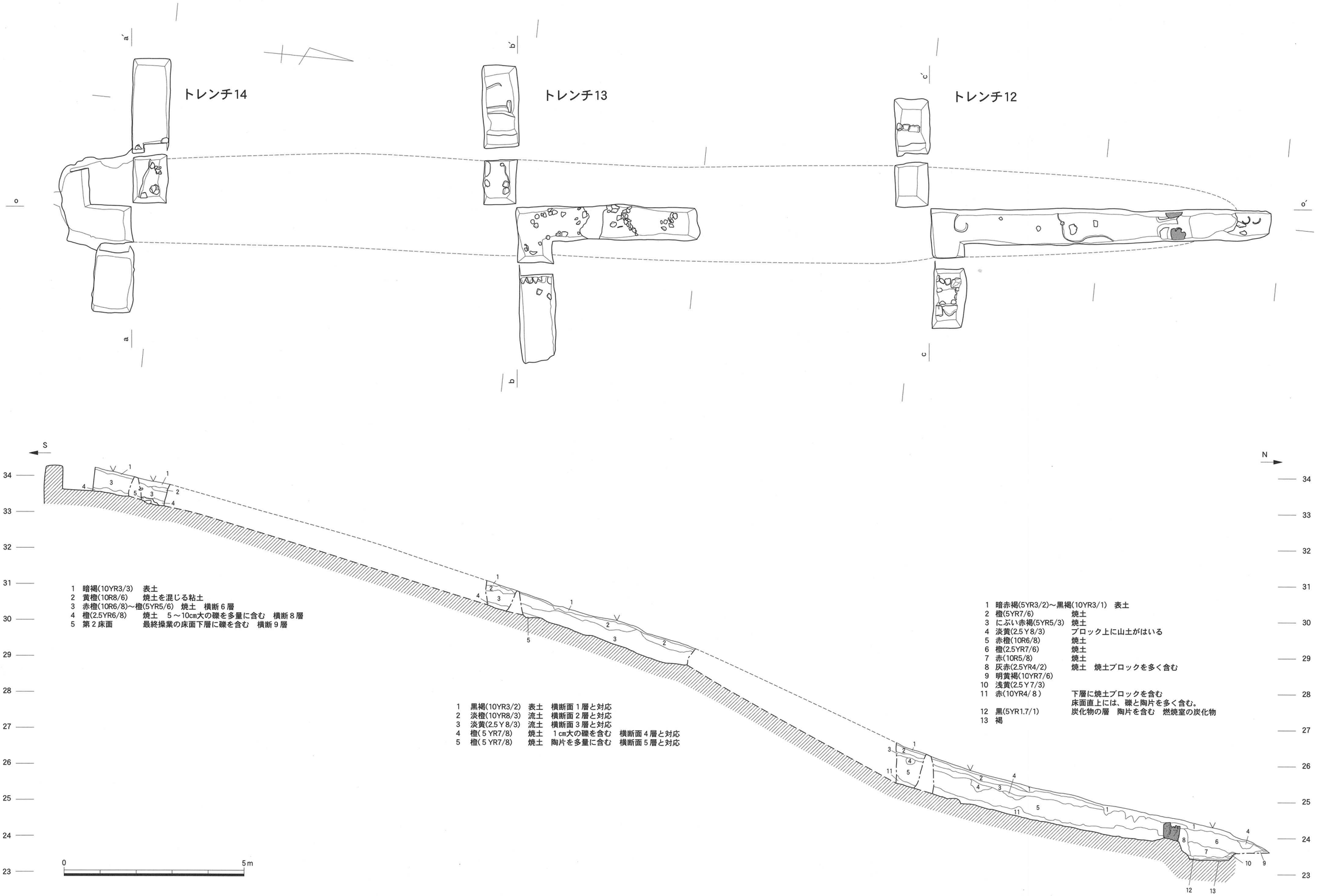
【参考・引用文献】

桂又三郎『伊部南大窯址発掘資料』日本陶磁協会　1952

石井　啓2007「備前焼分類素案（２）～南大窯跡出土遺物の検討から～」『備前歴史フォーラム2007資料集・備前と茶陶～16・17世紀の変革～』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館

安芸毬子2001「化粧道具」『事典調べる江戸時代』柏書房

福山市教育委員会1979『鞆の伝統産業』

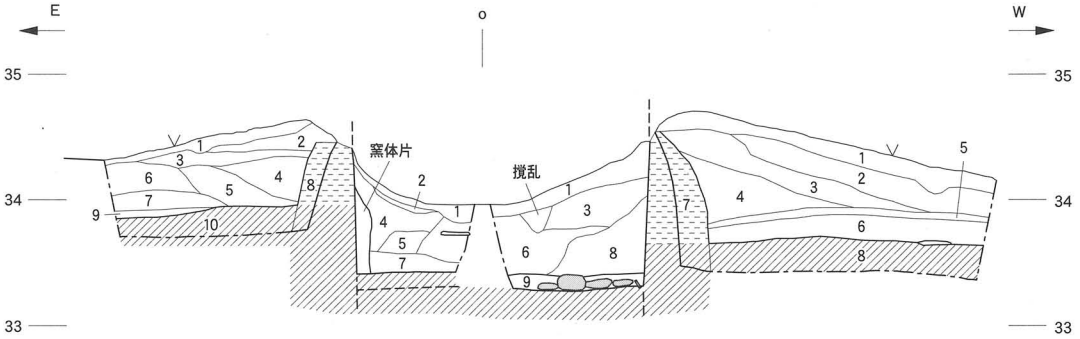


第58図　西側窯跡平面図・主軸断面図（S＝1/100）

トレンチ14

1　暗褐(10YR3/3)　表土
2　にぶい橙(2.5YR6/4)　焼土
3　明赤褐(5YR5/6)　焼土
4　橙(2.5YR6/6)　焼土
5　淡黄橙(5YR7/4)　焼土
6　赤橙(10R6/8)～橙(5YR5/6)　焼土
7　橙(2.5YR6/8)　窯崩落時埋土　4～8cm大の礫を多量に含む　窯体片を含む
8　橙(2.5YR6/8)　窯崩落時埋土　5～10cm大の礫を多量に含む
9　第2床面　最終操業の床面　下層に礫を含む

a-a′



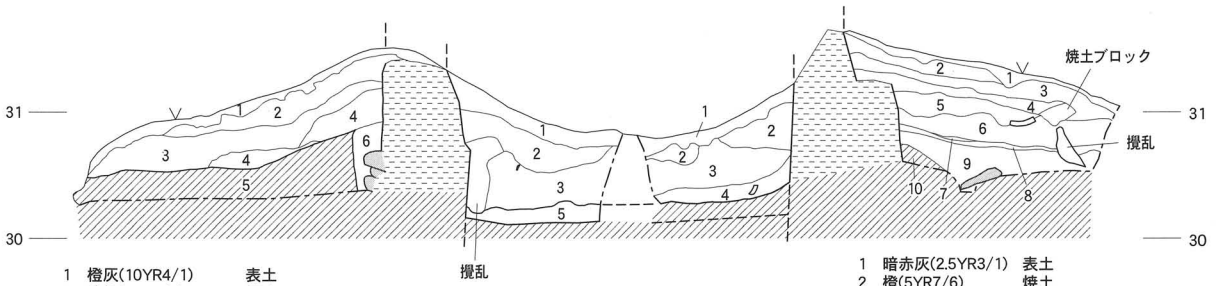
1　黒褐(2.5Y3/1)　表土
2　灰白(2.5Y8/2)　流土
3　にぶい橙(2.5YR6/4)　焼土
4　灰白(2.5Y8/1)　流土　3～5cm大の礫を含む
5　橙(2.5YR7/6)　焼土
6　浅黄(2.5Y7/4)　橙色の焼土を含む
7　橙(2.5YR6/6)　焼土
8　赤橙(10R6/8)　窯壁もしくは被熱層
9　黒(10Y2/1)　旧表土
10　淡黄(2.5Y8/4)　地山

1　黒褐(2.5Y3/1)　表土
2　浅黄(2.5Y7/4)　焼土
3　にぶい橙(7.5YR7/4)　焼土　1～3cm大の礫を多く含む
4　淡黄橙(2.5YR8/4)　焼土
5　橙(2.5YR7/6)　焼土　整地層
6　淡黄(2.5Y8/3)　地山による整地層
7　赤褐(2.5YR4/8)　窯壁
8　淡黄(2.5Y8/4)　地山

トレンチ13

1　黒褐(10YR3/2)　表土
2　淡橙(10YR8/3)　流土
3　淡黄(2.5Y8/3)～淡橙(10YR8/3)　流土
4　橙(5YR7/8)　焼土　2～5cm大の礫を少量含む
5　橙(5YR7/8)　焼土　陶片を多量に含む(西側)　床面

b-b′



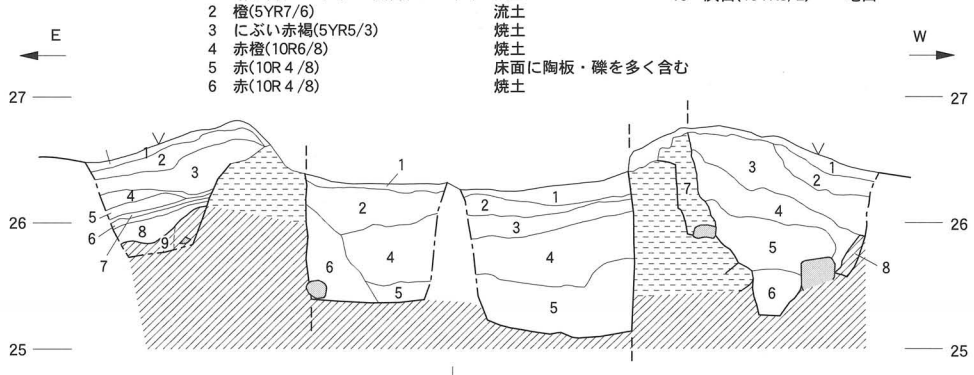
1　橙灰(10YR4/1)　表土
2　淡橙(5YR8/4)　焼土
3　灰白(10YR8/2)　流土
4　橙灰(2.5YR7/6)　焼土
6　にぶい赤橙(10R6/4)　掘方埋土　被熱している
5　浅黄橙(10YR8/3)　地山

1　暗赤灰(2.5YR3/1)　表土
2　橙(5YR7/6)　焼土
3　浅黄橙(7.5YR8/3)　流土
4　淡橙(5YR8/3)　焼土ブロックを含む
5　灰白(7.5YR8/2)　流土
6　橙(2.5YR7/8)　焼土
7　灰白(2.5YR8/2)　流土
8　黒(7.5Y2/1)　炭化物
9　橙(2.5YR7/6)　焼土
10　灰白(10YR8/2)　地山

トレンチ12

1　暗赤褐(5YR3/2)～　黒褐(10YR3/1)　表土
2　橙(5YR7/6)　流土
3　にぶい赤褐(5YR5/3)　焼土
4　赤橙(10R6/8)　焼土
5　赤(10R 4 /8)　床面に陶板・礫を多く含む
6　赤(10R 4 /8)　焼土

c-c′



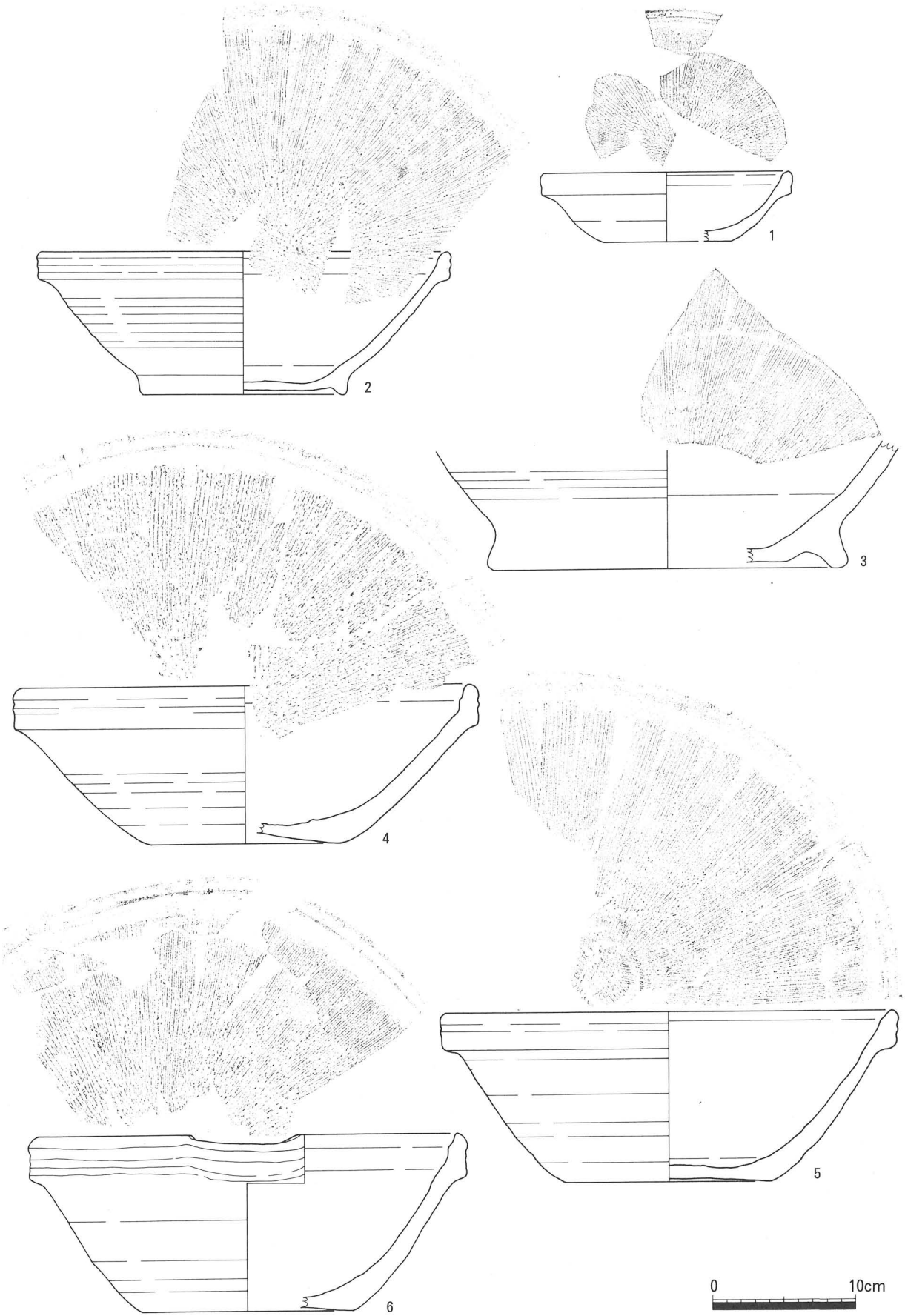
1　暗赤(7.5R3/1)　焼土
2　浅黄橙(10YR8/4)　流土
3　淡黄(2.5Y8/3)　流土
4　橙(5YR7/6)　焼土
5　黄(2.5Y8/6)　流土
6　橙(2.5YR6/8)　焼土　直上に薄い炭化物の層
7　黄(2.5Y6/8)　流土
8　にぶい赤橙(10R6/4)　焼土　直上に薄い炭化物の層
9　灰白(2.5Y8/2)　地山

1　暗赤褐(5YR3/2)　表土
2　淡黄(2.5Y8/4)　流土
3　にぶい橙(7.5YR7/3)　流土
4　淡黄(2.5Y8/4)　流土
5　赤橙(10R6/8)　焼土　礫を含む
6　赤(10R4/8)　焼土
7　赤(10R4/8)　窯壁
8　浅黄橙(10YR3/1)　地山

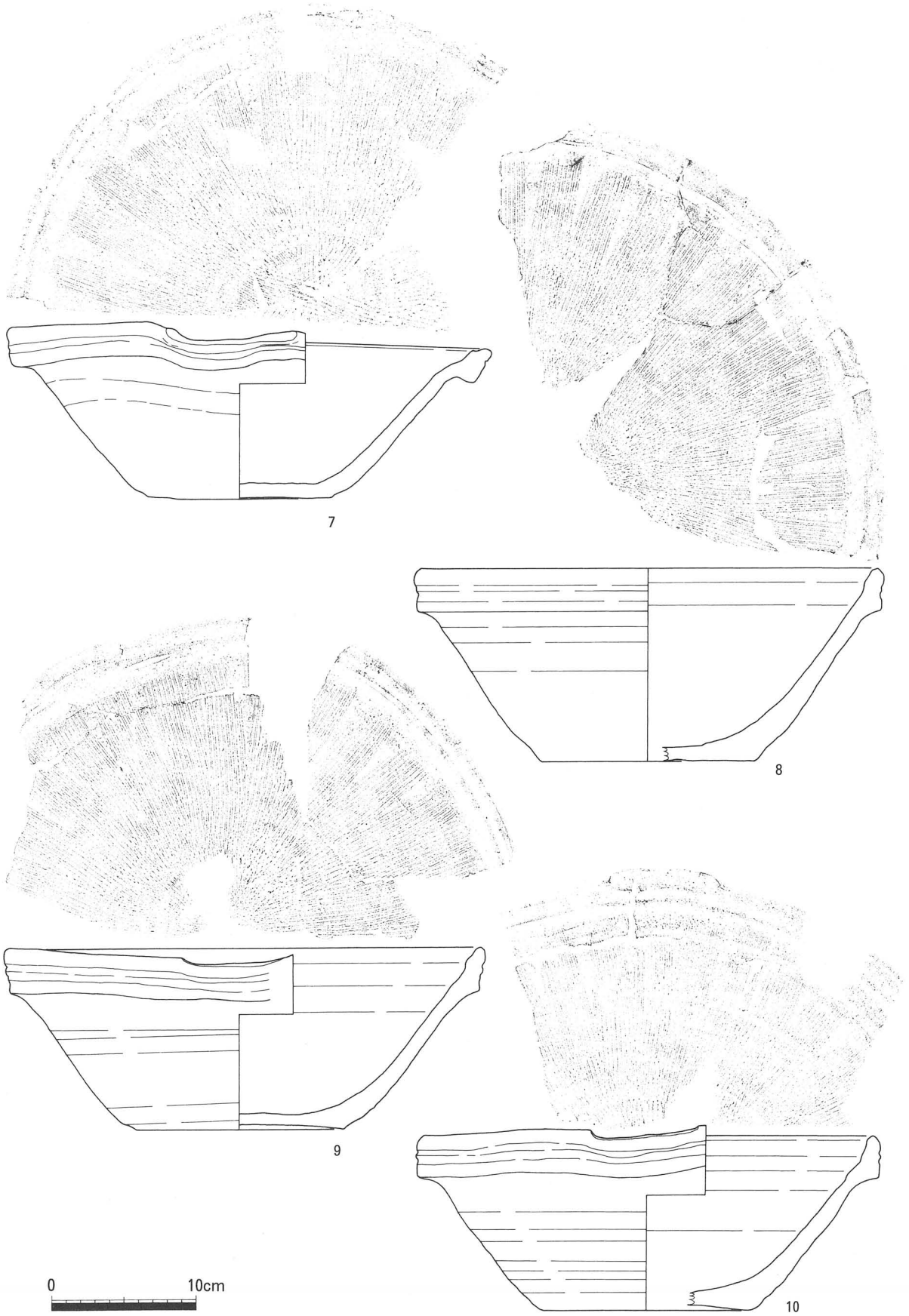
礫

0　5m

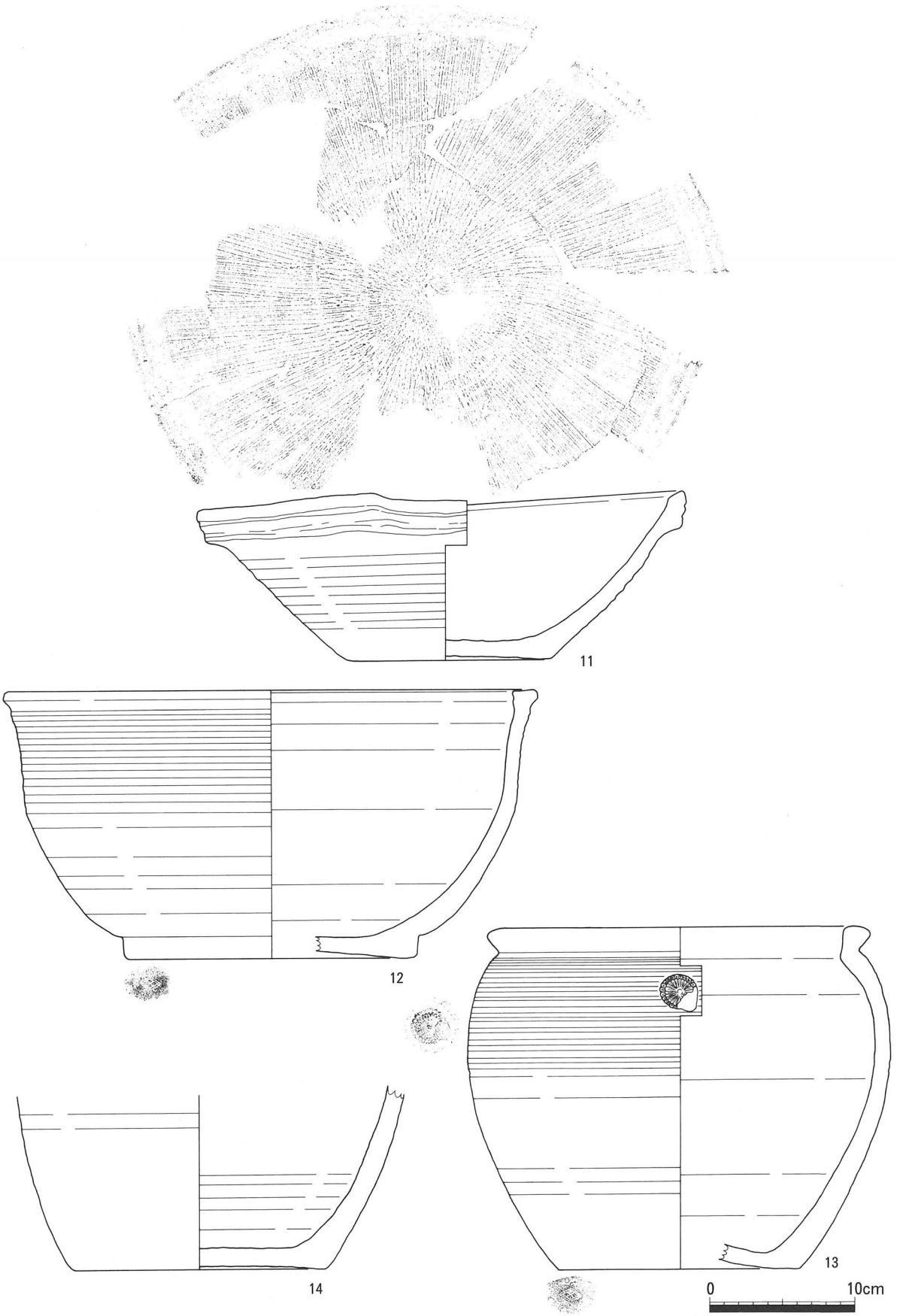
第59図　西側窯跡横断面図（S＝1/60）



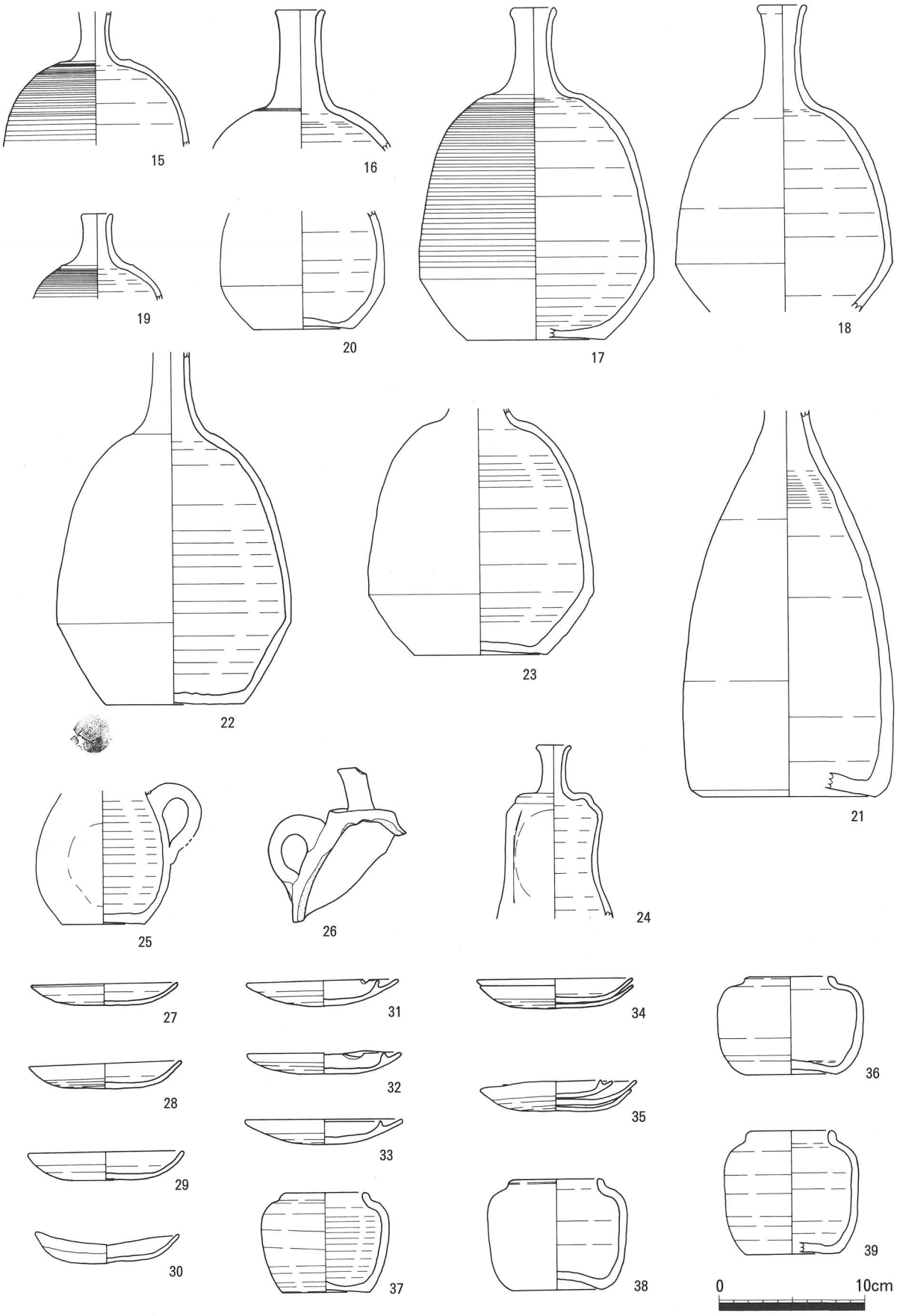
第60図　トレンチ12出土遺物１（１/４）



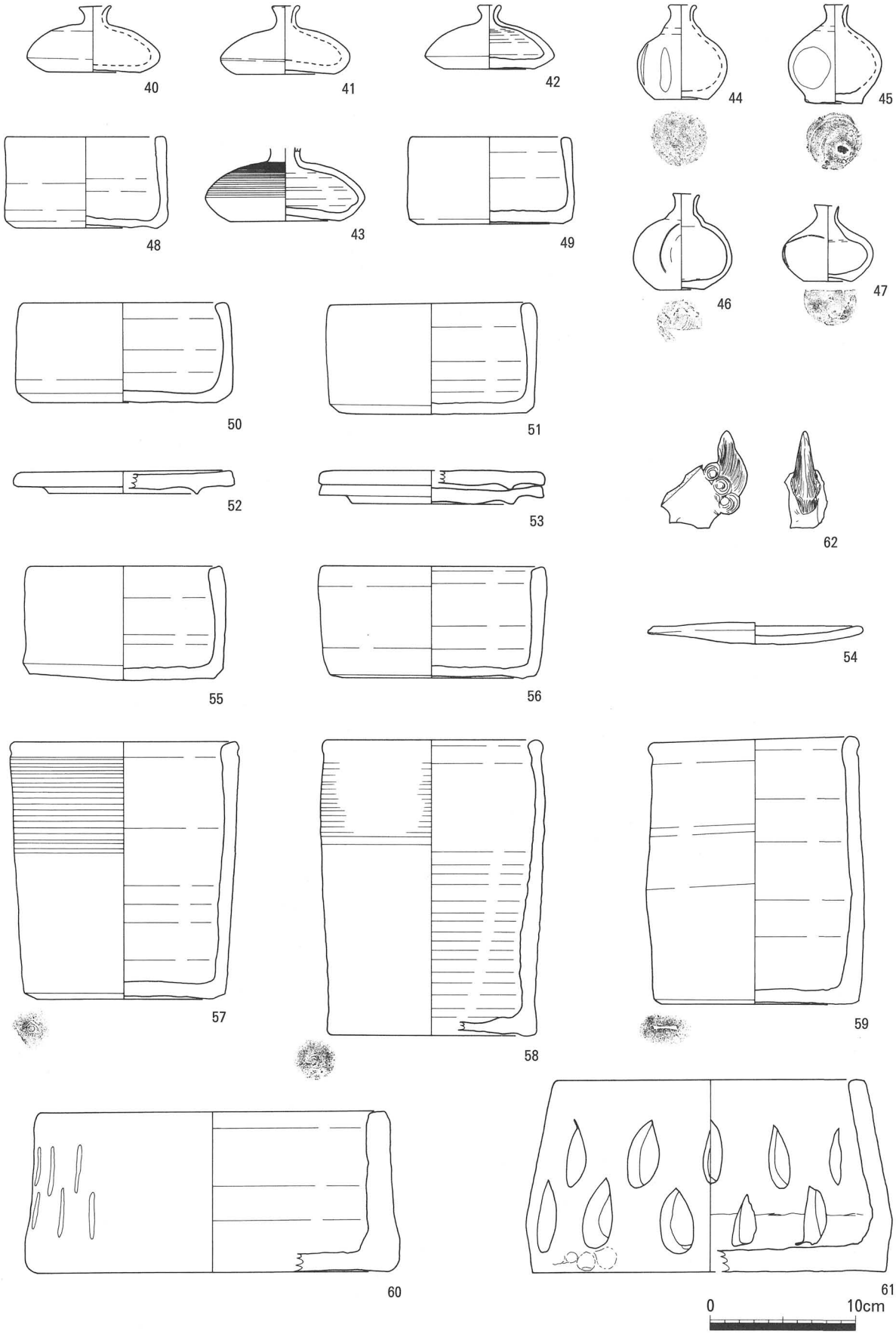
第61図　トレンチ12出土遺物２（1/4）



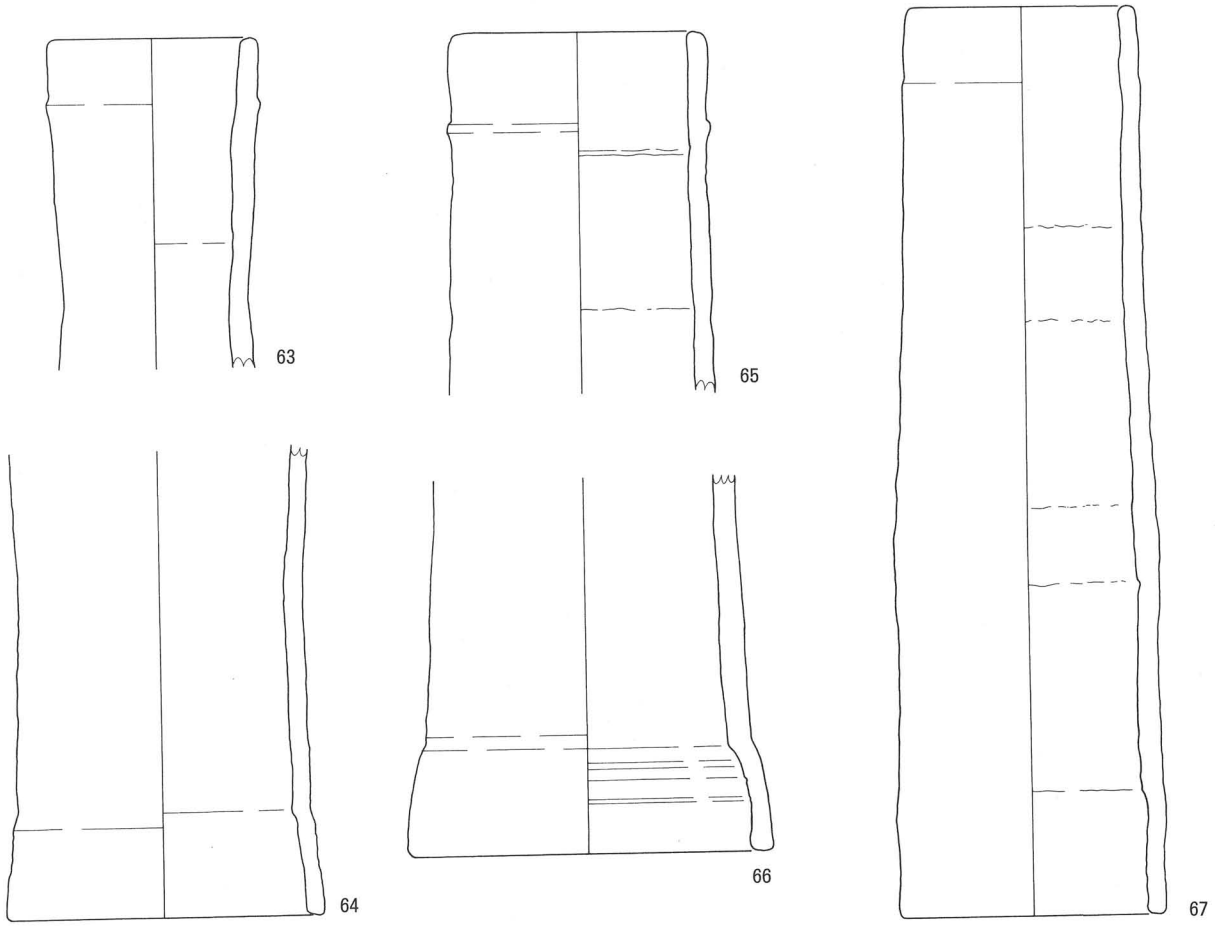
第62図　トレンチ12出土遺物３（1/4）



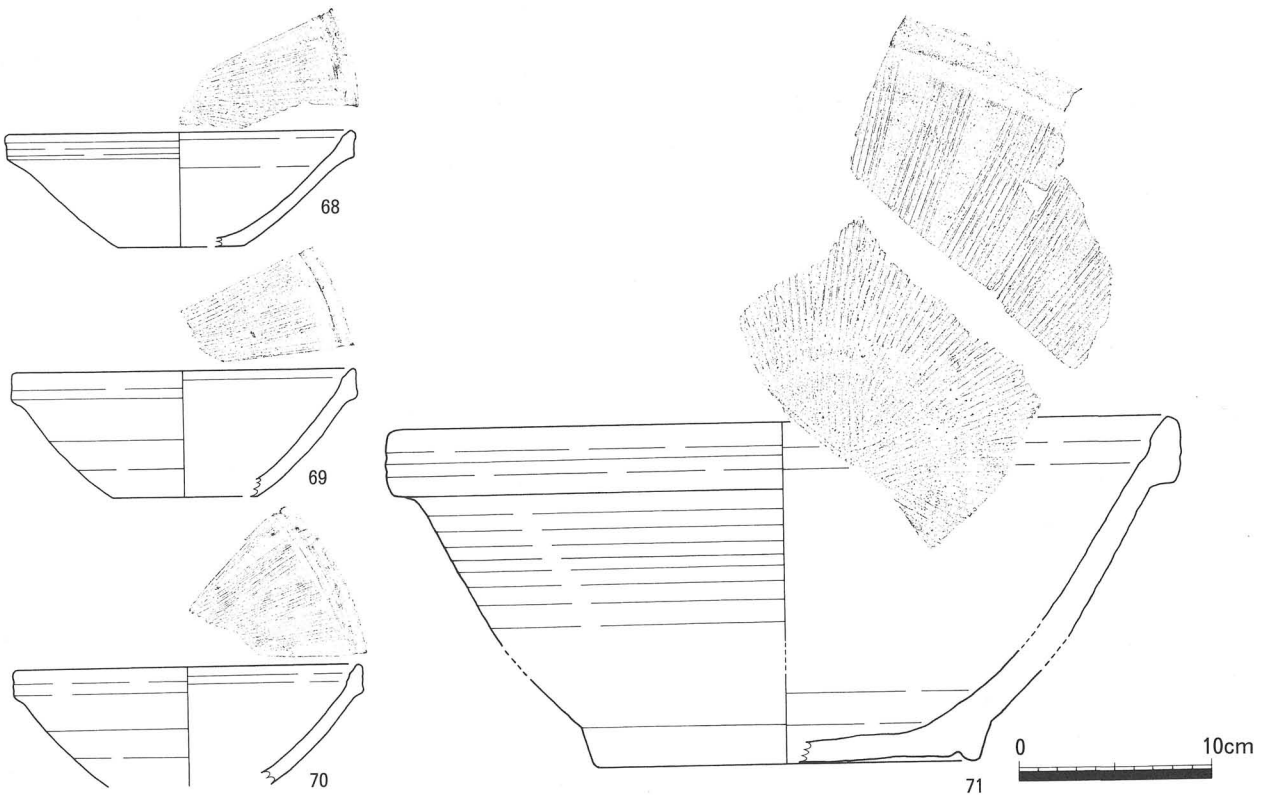
第63図　トレンチ12出土遺物４（1/4）



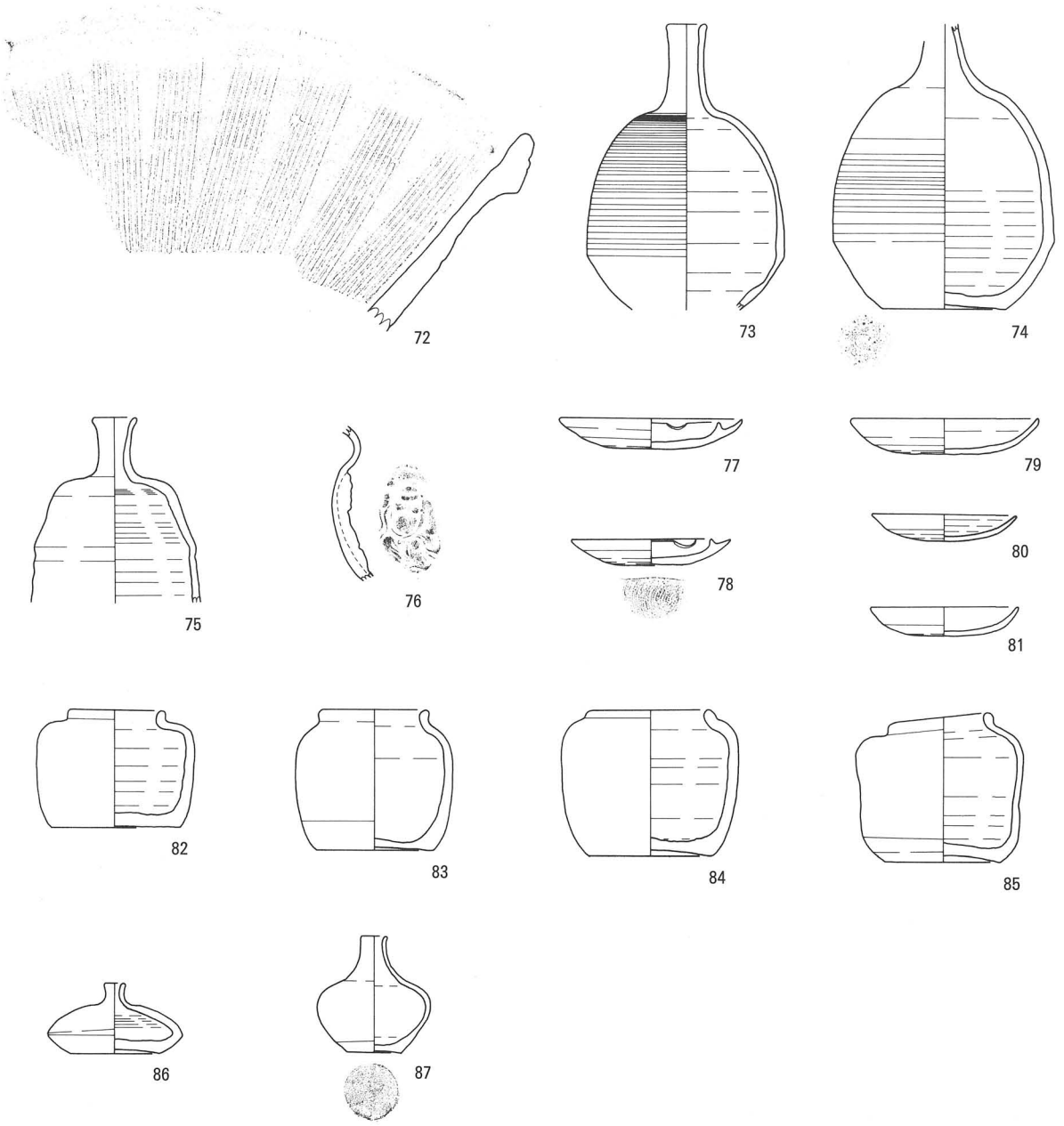
第64図　トレンチ12出土遺物５（1/4）



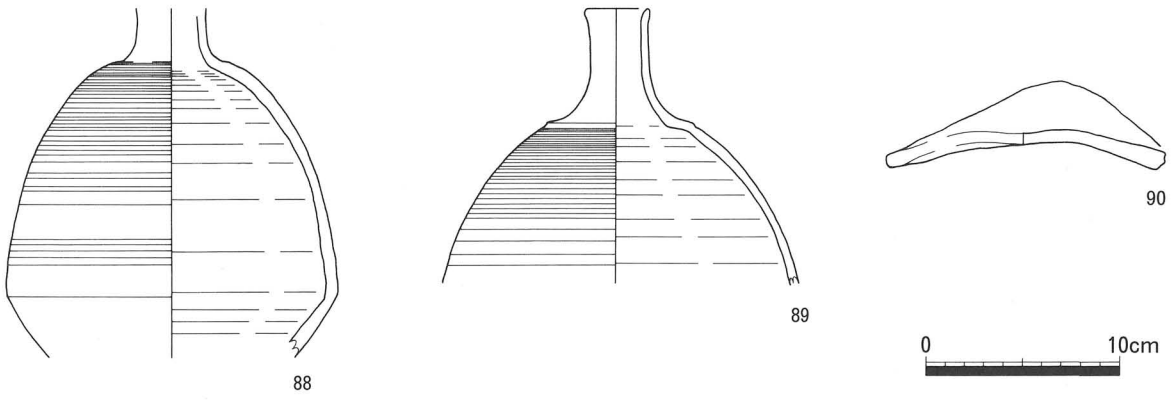
第65図　トレンチ12出土遺物６（1/4）



第66図　トレンチ13出土遺物１（1/4）



第67図　トレンチ13出土遺物２（1/4）



第68図　トレンチ14出土遺物１（1/4）

トレンチ12（第60図～第65図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
1	小擂鉢	MO-T12-西-窯内-90～床上	051118	1/4	17.0	4.9	8.8	17.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐（塗土） 外面：5YR 3/3 暗赤褐				すり目：14mm幅　7本 ＊自然釉光沢あり ＊通常の小擂鉢より広がってるが、歪んではいない
2	擂鉢	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	1/3	28.4	10.1	14.0	29.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐	高台削り出し			すり目：21mm幅　7本
3	擂鉢	MO-T12-西-窯内-床上	051118	底部1/4	-	(8.4)	24.2	-	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐	付け高台?			すり目：27mm幅　9本 ＊織維の圧痕あり ＊高台溶着痕
4	擂鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50 MO-T12-南北軸-焚口床直上	051208 051212	1/2	31.2	11.1	13.2	32.6	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：5YR 6/6 橙				すり目：27mm幅　9本
5	擂鉢	MO-T12-南北軸(北)-床上	051205	1/2	31.2	12.0	14.4	32.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	不良	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 6/6 橙				すり目：22mm幅　8本 ＊内側に重ね焼痕あり
6	擂鉢	MO-T12-東-窯内-床上(北)	051203	1/2	29.4	12.4	14.8	30.8	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：5YR 6/6 橙 外面：5YR 7/6 橙				すり目：26mm幅　9本
7	擂鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	3/4	32.5	12.3	12.6	33.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 5/4 赤褐				すり目：22mm幅　8本 ＊ひだすき様あり ＊歪みがあり受部がひらき気味
8	擂鉢	MO-T12-東-窯内-床上(南) MO-T12-東-窯内-床上(北) MO-T12-南北軸-床上(北半) MO-T12-南北軸(北)-床上	051203 051203 051203 051203	2/5	31.4	13.4	14.4	32.2	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 6/4 にぶい橙				すり目：27mm幅　9本
9	擂鉢	MO-T12-南北軸(北)-床上 MO-T12-南北軸-床上	051205 051205	9/10	32.3	12.6	14.2	33.0	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：5YR 7/4 にぶい橙、5YR 6/2 灰褐				すり目：26mm幅　9本
10	擂鉢	MO-T12-南北軸(北)-床上	051205	1/2	30.8	12.8	14.2	32.0	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む	不良	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：5YR 6/3 にぶい橙				すり目：26mm幅　9本
11	擂鉢	MO-T12-南北軸-床上（北半） MO-T12-南北軸(北)-床上	051203 051205	9/10	32.8	12.2	14.5	33.5	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 5/2 灰赤				すり目：26mm幅　8本 ＊ろくろ目顕著
12	鉢	MO-T12-南北軸(北)-床上 MO-T12-南北軸-北拡-50	051205 051208	1/4	36.1	18.6	19.6	36.6	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：10R 3/2 暗赤褐（塗土）	高台部ケズリ出し	底部に陶印：「◈」		
13	水屋甕	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半) MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203 051203	1/3	23.8	23.7	16.4	29.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：5YR 3/2 暗赤褐（塗土）		側面に文様 底部に陶印：「◈」		＊歪みが大きい
14	甕	MO-T12-東-窯内-床上(南) MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203 051203	底部のみ	-	(7.1)	17.1	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/4 にぶい赤褐（塗土） 外面：5YR 3/6 暗赤褐（塗土）				＊自然釉光沢あり
15	徳利	MO-T12-南北軸-床上 MO-T12-東-窯内-床上(南)	051215 051203	胴部のみ	-	(9.9)	-	-	0.1mm前後の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/3 暗赤褐				＊光沢
16	徳利	MO-T12-北拡-南北軸-50	051208	口縁部のみ	3.0	(9.6)	-	-	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				＊自然釉光沢あり
17	徳利	MO-T12-南北軸-焚口床直上 MO-T12-東-窯内-焚口付近	051212 051213	3/4	2.8	23.0	9.4	16.0	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				＊自然釉光沢あり
18	徳利	MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203	口縁部	3.0	(21.2)	-	15.0	0.1mm位の白色粒を含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：7.5YR 3/1 黒褐				＊自然釉あり
19	徳利	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	口縁部	2.0	(5.8)	-	-	0.1mm前後の黒色粒を少量含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				
20	徳利	MO-T12-南北軸(北)-床上	051205	底部	-	(8.1)	6.8	11.2	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/6 橙 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐（塗土）				＊自然釉光沢あり
21	徳利	MO-T12-東-窯内-床上(南) MO-T12-南北軸-床上(南半)	051203 051203	1/2	-	(27.5)	11.9	14.6	0.1～2.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土）				＊個体数少ない ＊自然釉光沢あり
22	徳利	MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203	1/3	-	(24.3)	9.4	16.0	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10YR 6/3 にぶい黄橙 外面：5YR 4/2 灰褐（塗土）		底部に陶印：「◈」		＊自然釉光沢あり
23	徳利	MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203	1/3	-	(17.0)	9.2	15.7	0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：N 6/ 灰 外面：5Y 2/1 黒（塗土）				＊自然釉光沢あり
24	徳利	MO-T12-東-窯内-床上(南) MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203 051203	口縁部	2.2	(12.0)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 5/2 灰褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐（塗土）				＊四方面の中央に凹 ＊歪みあり
25	把手付徳利?	MO-T12-南北軸(北)-床上	051205	底部	-	(9.5)	7.7	11.4	0.1mm前後の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 6/2 灰褐 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				＊油徳利?
26	油徳利	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	胴部上半	-	(10.6)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 6/3 にぶい黄 外面：2.5YR 4/4 にぶい赤褐				
27	灯明皿	MO-T12-北拡-南北軸-50	051208	完存	10.0	1.6	-	10.2	不明	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：2.5YR 5/2 灰赤				
28	灯明皿	MO-T12-北拡-南北軸-50	051208	ほぼ完存	10.4	1.9	-	10.6	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：2.5YR 5/2 灰赤				

表４　西側窯跡出土遺物観察表（１）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
29	灯明皿	MO-T12-南北軸-焚口床直上	051212	1/2	10.6	1.9	5.5	10.8	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：N 6/ 灰 外面：N 6/ 灰				
30	灯明皿	MO-T12-東-窯内-床上(北)	051209	4/5	9.8	2.2	-	10.0	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：N 6/ 灰黄 外面：N 5/ 灰				＊歪みあり
31	灯明受皿	MO-T12-西-窯内-90～床上	051118	2/3	10.2	1.7	3.0	10.4	0.1mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤（塗土） 外面：10R 4/2 灰赤				
32	灯明受皿	MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203	3/4	10.4	1.6	-	10.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5Y 6/2 灰黄 外面：10YR 5/1 褐灰				＊内面カサカサ
33	灯明受皿	MO-T12-西-窯内-90～表土	051118	1/4	10.7	1.7	-	10.8	0.1mm位の白色粒を含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 4/3 赤褐				
34	灯明皿溶着体	MO-T12-北拡-南北軸-50	051208		10.3	2.1	-	10.5	0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 4/2 灰赤（塗土） 外面：2.5YR 5/2 灰赤				＊2枚重ね
35	灯明皿と灯明受皿溶着体	MO-T12-北拡-南北軸-50	051208		10.1	2.2	-	10.6	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 3/2 黒褐（塗土） 外面：2.5YR 5/2 灰赤				＊3枚重ね
36	小壺	MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203	1/4	5.2	6.8	6.2	10.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：10R 4/3 赤褐				
37	小壺	MO-T12-窯内-南北軸	051128	2/3	5.4	6.9	5.9	10.8	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 5/3 にぶい赤褐（塗土）				
38	小壺	MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203	4/5	5.8	7.7	6.2	9.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5R 3/2 暗赤褐 外面：10R 4/2 灰赤（塗土）				＊歪みあり
39	小壺	MO-T12-南北軸-床上(南半)	051203	1/3	5.5	8.5	6.2	9.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：10R 3/2 暗赤褐（塗土）				
40	油壺	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	完存	2.1	4.6	6.2	9.1	0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/6 赤褐 外面：5YR 4/6 赤褐、10YR 7/4 にぶい黄橙（塗土）				
41	油壺	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	完存	1.7	4.7	6.8	8.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 3/4 暗赤褐 外面：2.5YR 3/4 暗赤褐、5YR 5/3 にぶい赤褐（塗土）				
42	油壺	MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203	2/3	1.3	4.4	6.2	8.8	0.1mm位の白色粒を少量含む 0.1mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/4 にぶい赤褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）				
43	油壺	MO-T12-南北軸-床上(北)	051205	1/3	-	(5.0)	7.4	10.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/4 にぶい黄褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）				＊溶着片あり
44	油壺?	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	口縁部欠損	1.6	6.5	3.7	6.1	0.1mm位の白色粒を少量含む 0.1mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5YR 5/6 明赤褐 外面：2.5YR 4/6 赤褐（塗土）	底部に糸切り			
45	油壺	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	ほぼ完存	1.6	6.8	4.0	6.4	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：5YR 4/4 にぶい赤褐 外面：5YR 4/4 にぶい赤褐（塗土）	底部に糸切り			
46	油壺	MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203	4/5	1.6	6.6	6.1	6.7	0.1mm位の白色粒を少量含む 0.1mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/2 灰赤 外面：7.5R 4/3 にぶい赤褐（塗土）	底部に糸切り			
47	油壺	MO-T12-南北軸-床上 MO-T12-東-窯内-床上(南)	051203 051203	4/5	1.6	5.3	3.3～3.6	6.2	0.1mm位の白色粒を極少量含む 0.1mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 6/6 明黄褐 外面：10R 4/4 赤褐（塗土）	底部に糸切り			
48	匣鉢	MO-T12-窯内-南北軸-床上(南半)	051203	完存	10.8	6.3	9.7	11.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	良好	内面：10YR 6/3 にぶい黄橙 外面：10YR 2/1 黒、10YR 3/3 暗褐（自然釉）：側面、7.5YR 6/3 にぶい褐：底面				
49	匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50 MO-T12-南北軸-焚口床直上	051208 051212	9/10	10.3	6.1	9.9	11.4	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：7.5YR 4/2 灰褐				
50	匣鉢	MO-T12-南北軸-床上 MO-T12-東-窯内-100	051203 051118	3/4	13.6	6.9	12.6	14.8	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 4/1 褐灰 外面：10R 4/2 灰赤				
51	匣鉢	MO-T12-南北軸-床上(北半) MO-T12-東-窯内-床上(北)	051203 051203	3/4	13.6	7.7	12.8	14.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 6/6 赤橙 外面：10R 3/4 暗赤				＊自然釉光沢あり
52	匣鉢蓋	MO-T12-東-窯内-床上(北) MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203 051203	3/4	-	1.6	-	15.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	上面：2.5YR 5/6 明赤褐、5YR 3/4 暗赤褐 下面：2.5YR 6/6 橙、2.5YR 3/2 暗赤褐				＊内外面とも端部から2cm位まで自然釉光沢あり ＊59などの匣鉢の蓋の可能性
53	匣鉢蓋溶着体	MO-T12-南北軸-床上(北)	051205		-	1.2	-	15.4	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	上面：7.5YR 5/2 灰褐 下面：7.5YR 5/3 にぶい褐				＊2枚重ね
54	匣鉢蓋	MO-T12-西-窯内-90～床上	051118	完存	-	1.5	-	14.7	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	上面：5YR 3/3 暗赤褐、2.5YR 6/4 にぶい橙 下面：10R 5/4 赤褐				＊製品を置いた所以外は自然釉光沢あり
55	匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50 MO-T12-南北軸-焚口床直上	051208 051212	9/10	13.0	7.9	12.7	13.8	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/2 灰褐 外面：5YR 4/2 灰褐				＊自然釉光沢あり
56	匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	4/5	14.8	7.7	12.4	15.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：5YR 3/4 暗赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐				＊一部自然釉光沢あり
57	匣鉢	MO-T12-南北軸-床上(北半) MO-T12-東-窯内-床上(北)	051203 051203	2/3	15.0	17.7	12.0	15.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 6/2 灰黄褐、5YR 4/1 褐灰 外面：10YR 3/2 黒褐、2.5YR 8/2 灰白		底部に陶印：「㐂」		＊一部に自然釉光沢あり
58	匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	1/4	14.4	20.4	13.8	15.4	0.1～0.5mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：5YR 3/3 暗赤褐		底部に陶印：「㊗」		

表 4　西側窯跡出土遺物観察表（2）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
59	匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	2/3	13.2	18.4	13.1	15.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：5YR 4/2 灰褐、5Y 4/2 灰オリーブ		底部に陶印：「－」		＊自然釉光沢あり
60	穴あき匣鉢	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	1/4	23.4	11.1	23.8	25.6	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：5YR 4/3 にぶい赤褐				
61	穴あき匣鉢	MO-T12-南北軸-焚口床上	051212	1/4	20.0	13.3	24.0	25.0	0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む 0.1～1.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐				＊復元図化 ＊内面底部以外自然釉光沢あり
62	獅子尾	MO-T12-東-窯内-床上	051121	尾	-	(6.7)	-	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/3 にぶい黄褐 外面：2.5YR 3/3 暗赤褐				
63	土管	MO-T12-南北軸-焚口床上	051212	上部のみ	20.1	(34.6)	-	-	0.1～5.0mm位の白色粒を含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：5Y 4/3 暗オリーブ				＊自然釉光沢あり ＊図面と同じ方向に立てて焼成
64	土管	MO-T12-南北軸-北拡-50	051208	下部のみ	-	(48.8)	32.0	32.8	0.1～5.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/2 灰褐 外面：7.5YR 4/1 褐灰、10R 4/2 灰赤				
65	土管	MO-T12-南北軸-床上(北半) MOT12-東-窯内-床上(北)	051203 051203	上部1/3	23.7	(37.7)	-	-	0.1～4.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～2.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10YR 4/1 褐灰 外面：5YR 4/1 褐灰				
66	土管	MO-T12-南北軸-床上(北半)	051203	下部1/4	36.0	(39.3)	-	38.0	0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 3/1 暗赤灰 外面：7.5YR 4/2 灰褐				＊自然釉光沢あり
67	土管	MO-T12-南北軸-北拡-50 MO-T12-東-窯内-焚口付近 MO-T12-南北軸-焚口床上 MO-T12-東-窯内-床上(北)	051208 051213 051212 051209	1/2	22.8	-	26.6	28.0	0.1～4.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～3.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/4 赤褐 外面：2.5YR 4/3にぶい赤褐				

トレンチ13（第66図～第67図）

68	小擂鉢	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	1/10	17.8	6.0	6.6	18.2	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	やや不良	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：7.5YR 5/3 にぶい褐				すり目：16mm幅　9本 ＊体部ケズリ右回転
69	小擂鉢	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	1/10	17.4	6.6	7.5	18.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む	やや不良	内面：5YR 5/3 にぶい赤褐 外面：7.5YR 5/1 褐灰				すり目：16mm幅　8本
70	小擂鉢	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	口縁部1/6	17.7	(6.2)	-	18.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	やや不良	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10YR 5/1 褐灰				すり目：15mm幅　8本
71	擂鉢	MO-T13-西-窯内-100 MO-T13-南北軸-床上	051109,10 051215	口縁部1/10	40.0	(11.5)	-	41.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：7.5R 4/2 灰赤				すり目：25mm幅　8本 ロクロ目顕著
	擂鉢	MO-T13-南北軸-床上 MO-T13-南北軸-床上(南)	051215 051215	底部3/4	-	(4.7)	19.4	-	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～2.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/2 灰赤 外面：7.5R 4/2 灰赤	底部にケズリ出し			すり目：25mm幅　8本
72	擂鉢	MO-T13-南北軸-床上 MO-T13-南北軸-床上(北)	051215 051215	-	-	-	-	-	0.1～2.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を含む		内面：10R 5/4 赤褐 外面：10R 5/6 赤	ケズリ			すり目：26mm幅　8本
73	徳利	MO-T13-西-窯内-100	051110	上部のみ	2.0	(16.7)	-	11.4	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	良好	内面：7.5YR 5/2 灰褐 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				
74	徳利	MO-T13-東-窯内-床上-80	051124	3/5	-	(16.6)	7.2	12.8	0.1～1.0mm位の白色粒を含む	良好	内面：10YR 5/4 にぶい赤褐 外面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土）		底部に陶印：「㊞」		
75	小徳利	MO-T13-東-窯内-床上-80	051124	上部のみ	2.4	(10.7)	-	-	0.1mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
76	人形徳利胴部	MO-T13-東-窯内-表～30	051109	-	-	(8.0)	-	-	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/3 赤褐（塗土）				＊布袋の貼型が比較的立体的で型の摩滅も小さい
77	灯明受皿	MO-T13-東-窯内-床上-80 MO-T13-南北軸-床上	051124 051215	4/5	10.4	1.8	-	10.6	0.1mm前後の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：10R 4/4 赤褐				
78	灯明受皿	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	1/2	9.6	1.5	-	9.6	0.1mm前後の白色粒を極少量含む 0.1mm前後の黒色粒を極少量含む	良好	内面：10YR 6/1 褐灰 外面：2.5Y 6/1 黄灰、5YR 6/4 にぶい橙	底部に糸切り			
79	灯明皿	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	1/3	10.8	2.1	-	11.0	0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 6/1 黄灰 外面：2.5Y 7/1 灰白				
80	灯明皿	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	4/5	8.2	1.6	-	8.4	0.1mm前後の黒色粒を少量含む 0.1mm前後の白色粒を極少量含む	良好	内面：10R 4/6 赤（塗土） 外面：2.5YR 6/6 橙				
81	灯明皿	MO-T13-西-窯内-表～20	051109	2/3	8.4	1.7	4.4	8.6	0.1mm位の白色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐（塗土） 外面：10R 5/6 赤				
82	小壷	MO-T13-東-窯内-表～30 MO-T13-南北軸 MO-T13-南北軸-床上	051108 051115 051215	2/3	5.3	6.9	7.5	9.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土）				＊他個体と比べてやや扁平
83	小壷	MO-T13-南北軸-床上	051215	1/2	6.0	8.2	6.8	9.2	0.1～0.5mmの白色粒を含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：7.5R 4/2 灰赤（塗土）				
84	小壷	MO-T13-東-窯内-床上-80	051124	4/5	6.7	8.5	7.2	10.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R5/6赤 外面：10R5/6赤（塗土）				
85	小壷	MO-T13-南北軸-床上 MO-T13-南北軸-床上(南)	051215 051215	9/10	5.3	8.8	6.7	11.7	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 5/6 赤 外面：10R 5/3 赤褐（塗土、底部近くたれる）				＊歪み有

表４　西側窯跡出土遺物観察表（３）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
86	油壺	MO-T13-南北軸-床上 MO-T13-東-窯内-表～30	051215 051109	2/3	1.1	4.1	5.1	7.8	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む 0.1mm前後の白色粒を少量含む	良好	内面：5YR 4/2 灰褐 外面：2.5YR 2/3 極暗赤褐（塗土?）				
87	油壺	MO-T13-南北軸-床上 MO-T13-南北軸-床上(南)	051215 051215	2/3	1.4	6.8	3.2	6.6	0.1mm前後の白色粒を少量含む 0.1mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：10R 4/3 赤褐 外面：2.5YR 4/3 にぶい赤褐（塗土?）	底部に糸切り			＊珍らしい個体

トレンチ14（第68図）

88	徳利	MO-T14-西-窯内-床 MO-T14-西-窯内-床上	051115 051116	胴部1/3	-	(18.1)	-	17.2	0.1～0.5mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：7.5YR 4/2 灰褐 外面：10R 3/4 暗赤（塗土）				＊胴部に他個体溶着
89	徳利	MO-T14-西-窯内-床上 MO-T14-西-窯内-床	051116 051115	口縁部	3.1	(9.3)	-	-	0.1mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：7.5YR 5/3 にぶい褐 外面：2.5YR 3/2 暗赤褐（塗土）				
90	陶板	MO-T14-西-窯内-床	051115	完存	-	厚み 0.5～1.0	-	14.3	不明	不良	上面：2.5YR 6/4 にぶい橙 下面：5YR 6/3 にぶい橙				

表４　西側窯跡出土遺物観察表（４）

第７章　西２号窯跡の調査概要

第１節　位置と調査の概要

西２号窯跡は、平成11年伊部南大窯跡周辺窯跡群の確認調査において構造や規模が明らかになった単房の窯である。国指定地の西側隣接地、標高25m前後から32mの北向きの緩斜面に立地する。窯の西側は、比高差４m前後の小規模な崖になっている。平成11年度調査の結果、全長14.2m以上、幅1.3～1.6m、平均勾配15度の単房の窯で、主軸に直交する方向に規則的な間隔で、窯床面に幅0.25～0.4m、長さ1.2～1.4m、深さ0.1mの８本の溝が推定できた。規則的な溝構造は備前焼窯では初見であり、また焼成不良品が窯内に相当量遺存していたことから、焼成時の偶発的な事故で廃棄されたことが推定された。遺物も「壷・甕・擂鉢」は極端に少なく、建水、蓋、平鉢、徳利など同法量のものが多量に生産されている。このような状況から、一説には「お誂えの品」を短期間で焼成するための窯との見方もある。

西２号窯跡は、備前では特異な形態をもつ窯で、しかも特殊な状況で廃棄されたことが確認されたが、史跡地内に推定される焚口部分については未調査になっていた。

窯の範囲を確定するため、平成11年度に発掘した部分を南側に拡張するように、トレンチ15を設定した。その結果、南北にのびる黄褐色層の広がりと部分的には窯壁が認められた。これは以前発掘された窯の規模と対応しており、今回の調査範囲で窯の位置が確定した。そこで焼成室内北側をトレンチ15－Ａ区、南側をトレンチ15－Ｂ区とし、それぞれ千鳥状に合計４箇所の調査区を任意に設定した。

調査の結果、焚口部北端が墓地の造成によって掘削され失われていたが、窯内の遺物は比較的良好に残存していた。

第２節　遺構の概要

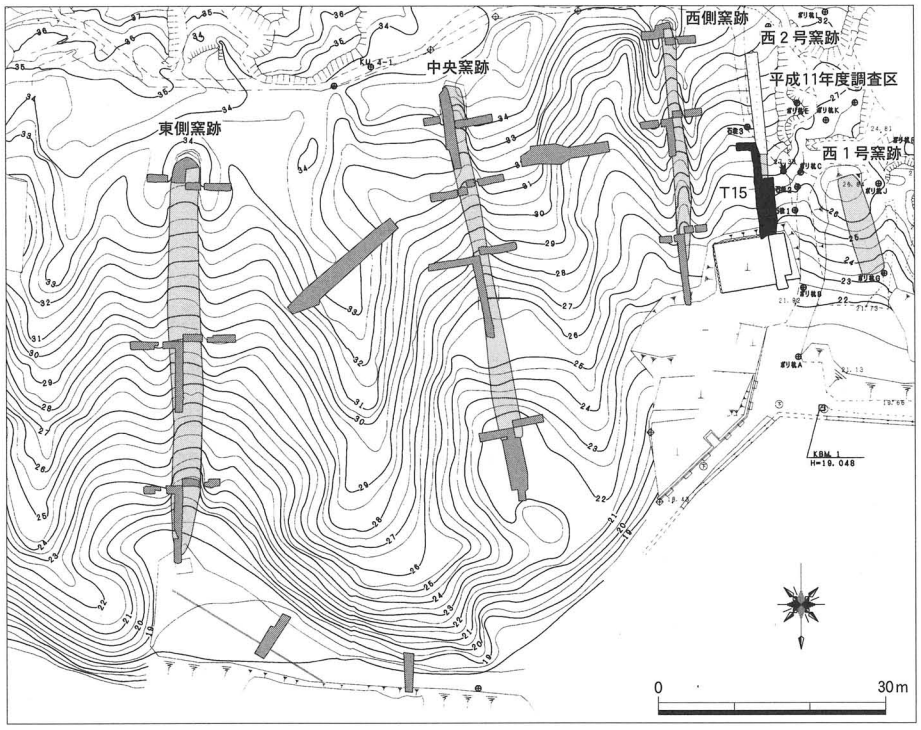
１．窯体構造

第一に、平成11年度調査と同様側壁と思われる石列と窯内外の土色の差異を確認した。調査区北側へ千鳥状に４箇所の調査区を設定し、掘り下げを行った。焚口は不明瞭であったが、調査区の北端に位置すると考えられる。平成11年度の調査結果とも考慮すると、窯の規模は水平距離で全長約24m、斜距離で25m、幅は1.4mである。床面の傾斜角度は、燃焼室付近は９度、焼成室18度で、窯全体で17度である。

11年度の調査で確認された窯内の溝状の遺構は検出されていない。このことは、燃焼室側に近い焼成室床面には溝が掘り込まれなかったという前回の調査結果と一致する。

床面は焼き締まっておらず、石組みの窯壁とともに遺存状態は非常に悪い。窯壁の残存高は10㎝～20㎝程度である。

トレンチ12北側の墓地の造成による削平を受けた部分の崖面の観察から、灰白色の地山をレンズ状に掘りくぼめて窯を構築していることが確認できた。



第69図　西２号窯跡トレンチ配置図（S＝1/1000）

２．窯の埋没状況

横断面第２層は、橙色系の被熱した土に窯壁片などを含んだ堆積である。これらの層は混入する窯体片、礫、焼土の多少について差異を含むものの、窯の内部に堆積する点が共通し、被熱した天井部などが窯の崩落に伴って窯内に流入したものと見られる。

３．遺物の出土状況

床面直上もしくはそれに近い状態で、比較的残存状況のよい建水や徳利、小型の擂鉢などの小型製品の出土が目立つ。また床面から若干離れた状態で出土しているものも多く、最終操業時に残された遺物が、崩落した天井や壁などの窯内に流れ込んだ土で二次的に動いているものと考えられる。これらの資料は焼成が不十分な製品が多く、天井部と床面の間に挟まれているものも散見される。平成11年度調査で出土した資料と今回出土した資料は、ほぼ床面直上から出土している状況と焼成具合が共通していることから、西２号窯跡の最終操業に伴う一括性の高い一群であると考えられる。

第３節　遺　　物

今回の記述は主に西２号窯跡の焚口付近の窯内遺物が中心になる。トレンチは窯内に任意に設定した北側の15－Ａ区と南側の15－Ｂ区で、千鳥状に計４箇所設定していて、そこから出土したものが主になる。Ａ・Ｂ区間で接合される遺物もあるので区別して報告はしていない。

また前節でも記述したとおり、ほとんどの遺物が焼成不良である。

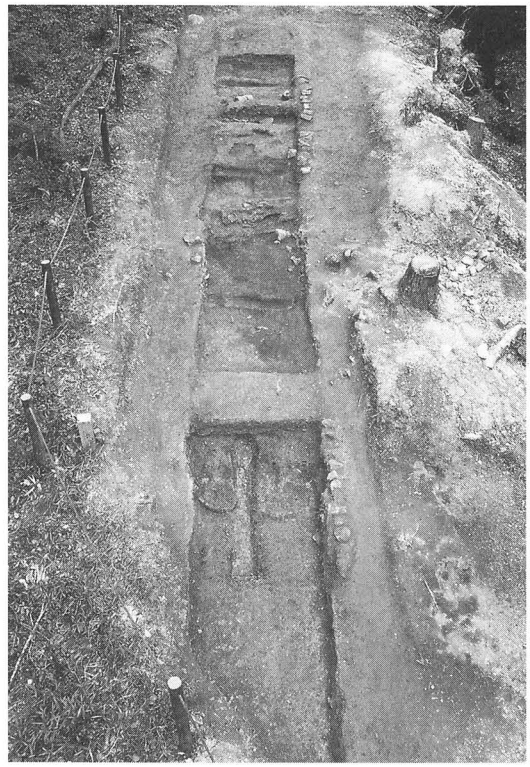
１．トレンチ15出土（第73図～第75図）

１～４は擂鉢である。口径が22cm前後のやや小型の１・２・４と30cm弱の３の２種類の法量にわかれる。乗岡編年近世２ａ期にあたるものと想像される。

５はトレンチ外の出土だが、西２号窯跡に共伴すると考えられる大甕である。全面に緑色の自然釉が付着している。口縁端部が肥厚化する慶長10（1605）年前後の年銘資料に近似する。

６・７は水屋甕で、６の胴部には貼り型の把手がつく。

８～22までは建水と考えられる。８～12の端反（はぞり）建水は折り返し部分に穿孔を施したものがあるほか、餌籠（えふご）形13の胴部には穿孔が１ヵ所あり、穿孔の意図に注視すると建水以外の用途を想定してもいいのかもしれない。14の内面はロクロ目が顕著なうえ、胴部外面に耳管が付いている。個体数は極端に少ない。19～21は胴下半部に「㊦」の陶印がある。

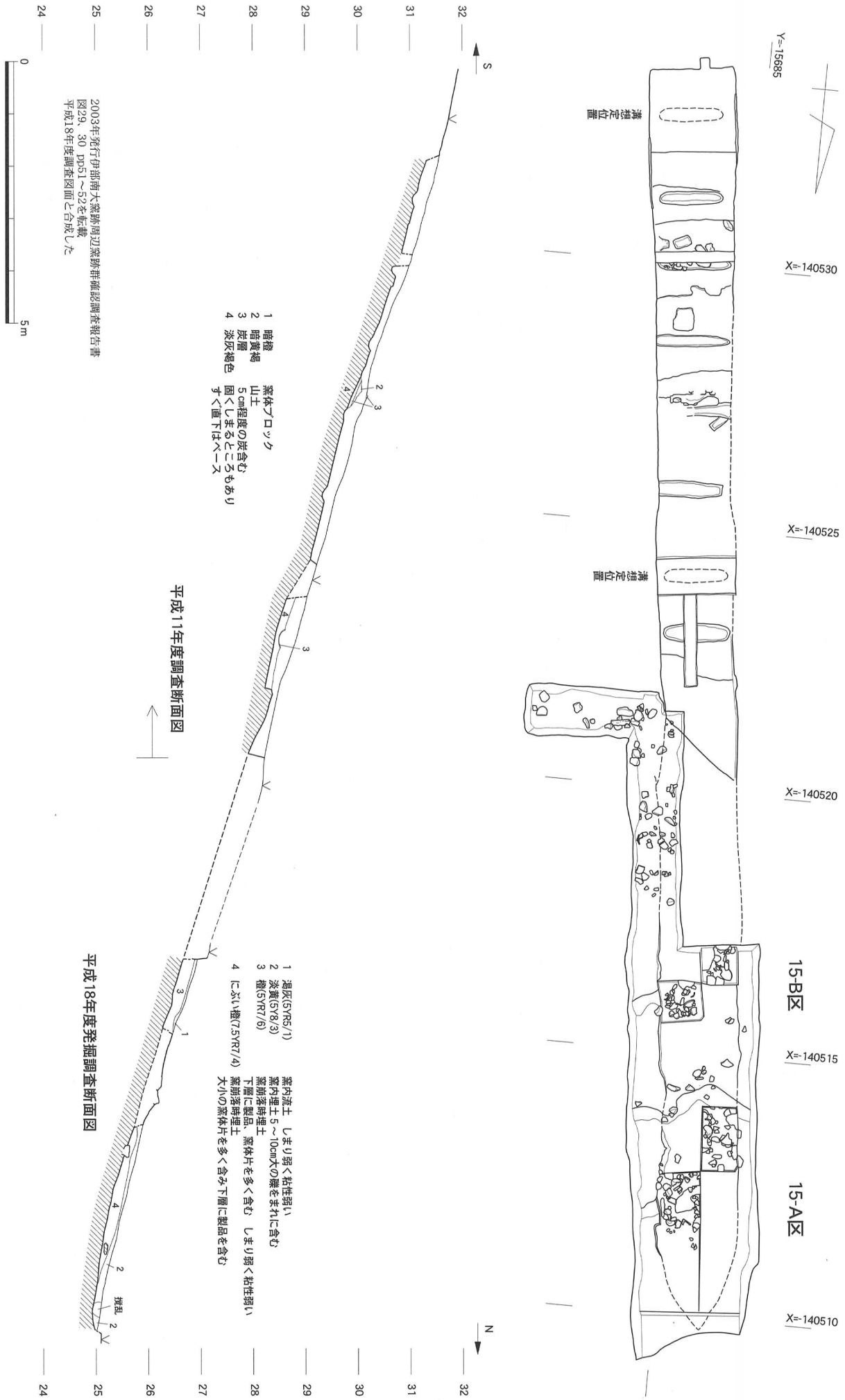


第70図　西２号窯跡全景
（北より　平成11年度調査）

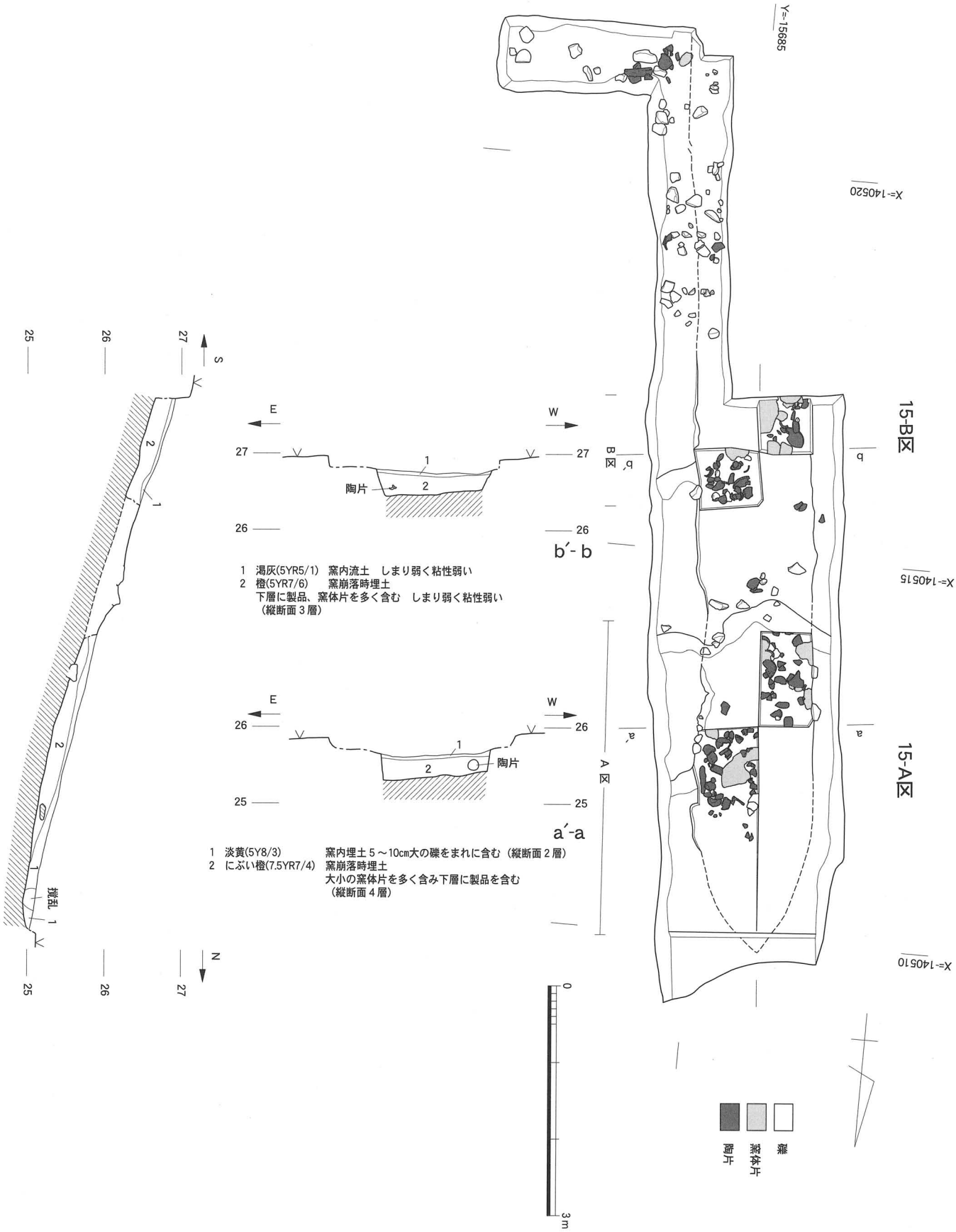
23～26は鉢・盤類である。24は、復元径20cmの丁寧なつくりで１個体のみ出土した。胴部にヘラ描きがある脚付の珍しい個体である。

27～45は徳利類で、30～34は頸部にヘラ描きと押圧で文様を構成し、器壁も薄く繊細で意匠を凝らしたものである。35～37は底部のみで、徳利ではない可能性もある。38・39は尻張形で、38は底部の最大径が21.4cmで推定高が30cmを超える大型品である。42・43は胴部を押圧し偏壷形にしたものである。

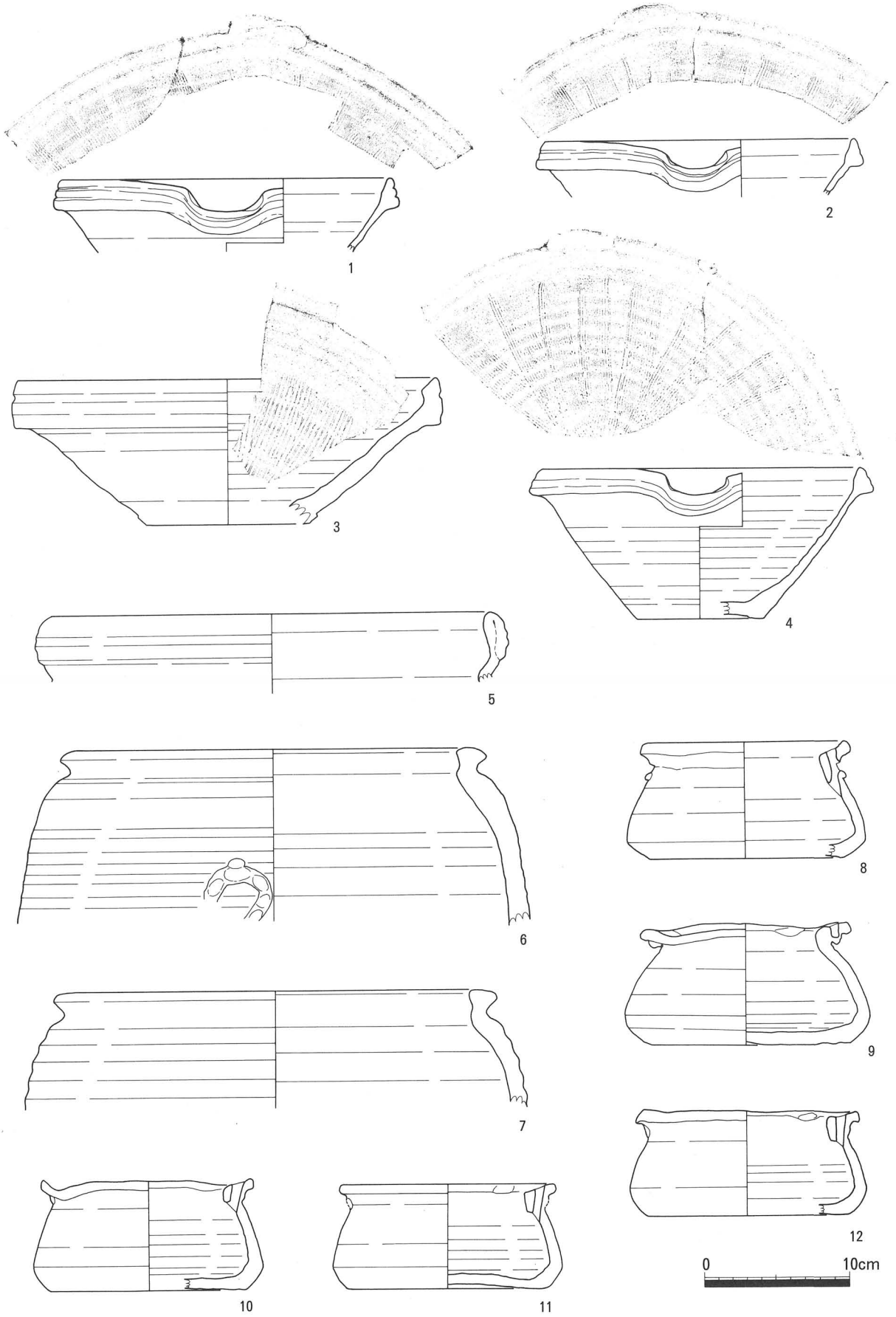
46・47は窯道具で、径33～35cmの丸形穴あき陶板である。



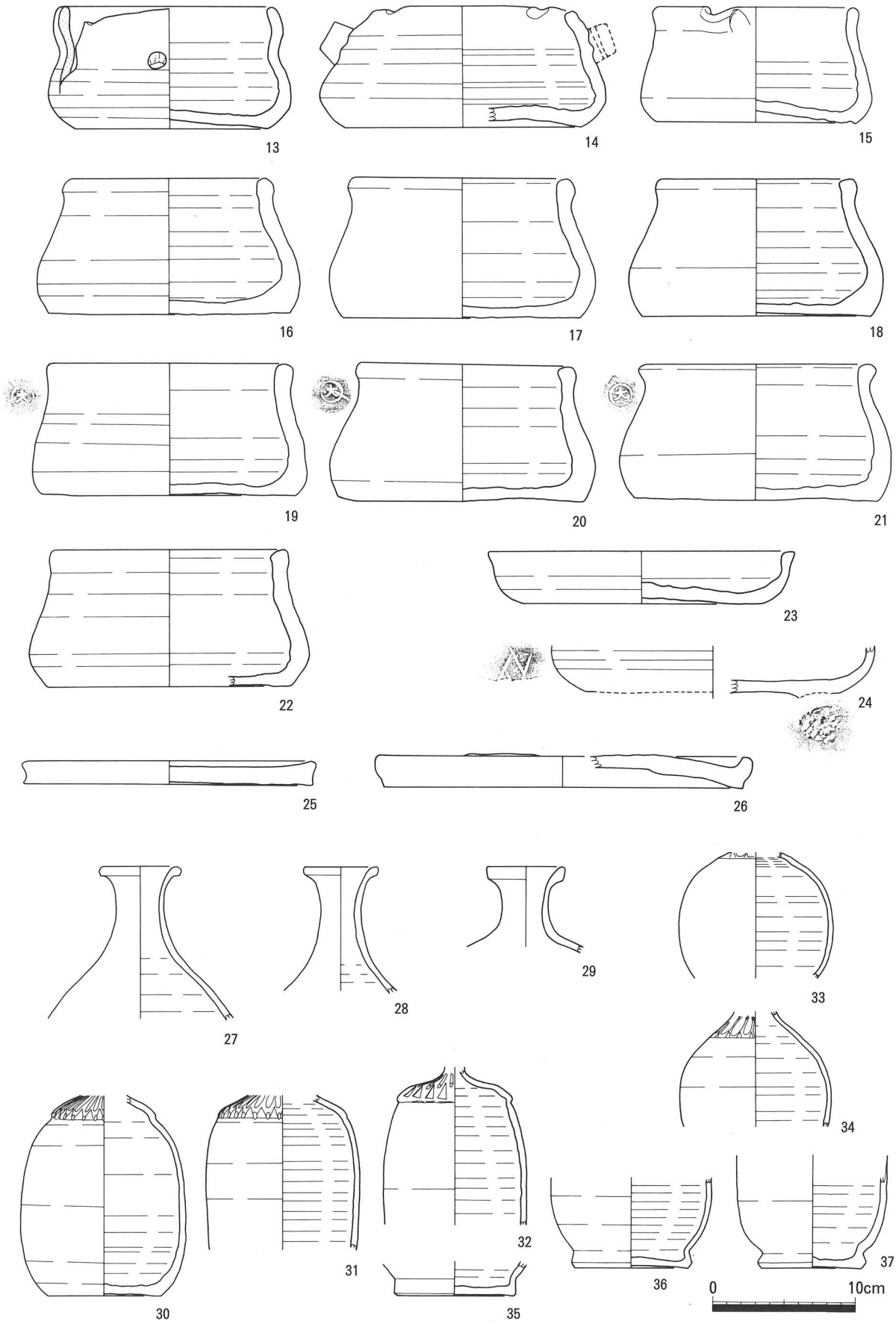
第71図　西２号窯跡主軸断面図・平面図（S＝1/100）



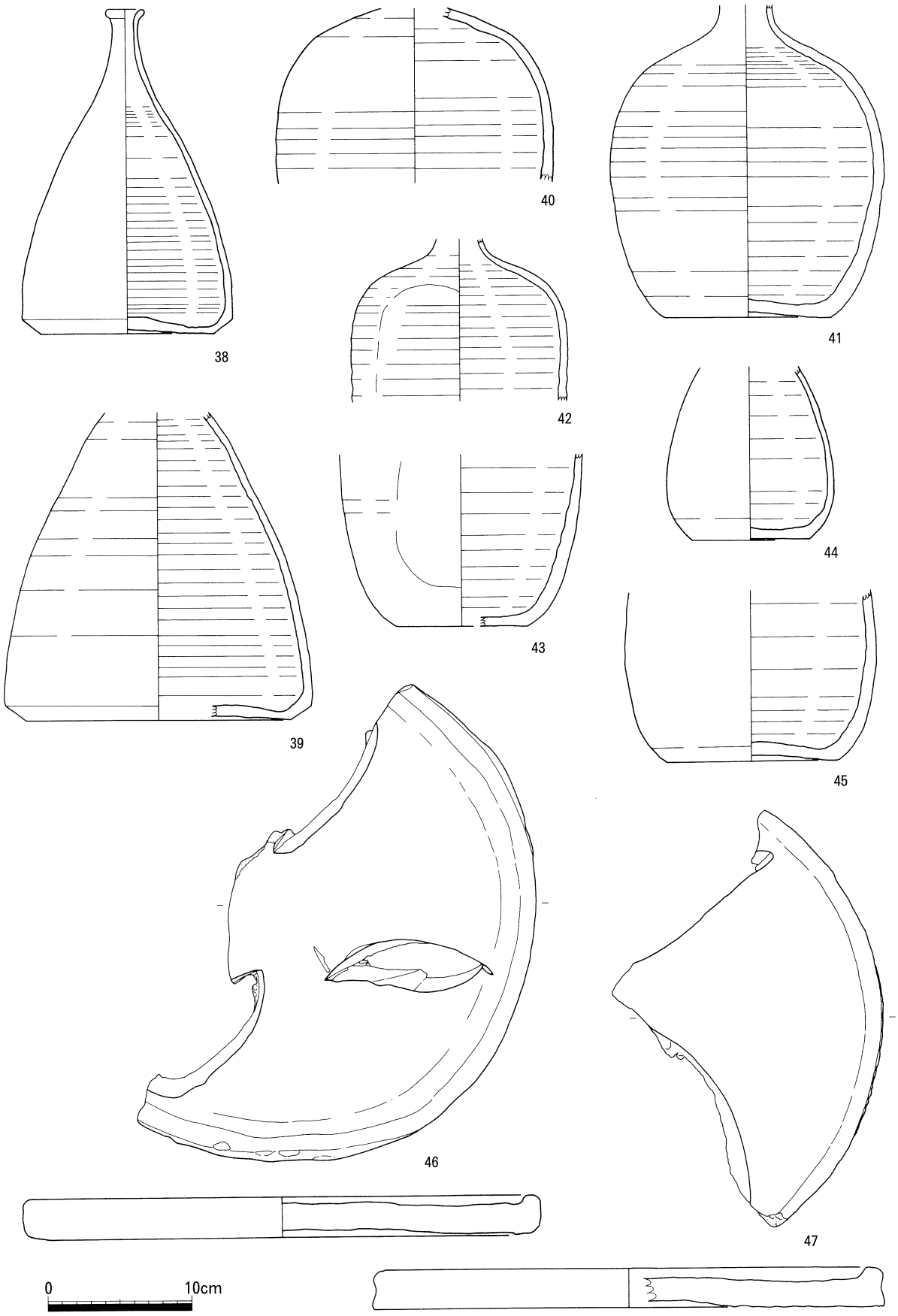
第72図　西2号窯跡平面図・主軸断面図・横断面図（S＝1/70）



第73図　トレンチ15出土遺物１（1/4）



第74図　トレンチ15出土遺物２（1/4）



第75図　トレンチ15出土遺物３（1/4）

トレンチ15（第73図～第75図）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
1	擂鉢	MO2-T15A南 MO2-T15A北(焚口)-床上～ MO2-T15A北	061020 061024 061020	口縁部1/2	22.9	(5.1)	-	24.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～1.0mm位の白色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 6/6 明黄褐 外面：10YR 6/6 明黄褐				すり目：22mm幅 12本
2	擂鉢	MO2-T15A南-床直	061206	口縁部2/5	21.6	(5.5)	-	22.8	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：10YR 7/4 にぶい黄橙				すり目：22mm幅 12本
3	擂鉢	MO2-T15A南-床直	061206	1/8	29.2	10.2	11.4	30.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 5/1 灰、7.5YR 5/2 灰褐 外面：5Y 5/1 灰				すり目：30mm幅　9本
4	擂鉢	MO2-T15A南-床直 MO2-T15A南	061206 061020	1/3	22.0	10.6	8.8	24.0	0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：5YR 6/6 橙 外面：5YR 6/6 橙				すり目：22mm幅 12本 ＊ろくろ目顕著
5	大甕	MO2-T15南-窯外	061206	口縁部1/5	61.0	(9.2)	-	-	0.1～3.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/1 黄灰 外面：2.5Y 3/1 黒褐				＊緑色自然釉付着
6	水屋甕	MO2-T15A南-床直	061206	口縁部1/15	26.6	(12.1)	-	-	0.1～1.5mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/2 灰黄褐 外面：5YR 4/2 灰褐				
7	水屋甕	MO2-T15A南-床直	061206	口縁部1/12	28.0	(8.2)	-	-	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.5mm前後の黒色粒を少量含む	良好	内面：5Y 4/1 灰 外面：5Y 5/1 灰				
8	建水	MO2-T15B北-床直	061206	1/3	13.6	8.2	13.4	16.6	0.1～2.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/1 黄灰 外面：2.5Y 5/1 黄灰				＊端反形
9	建水	MO2-T15A北-床直 MO2-T15A北(タキロ)-床上～ MO2-T15B北-床直	061206 061024 061206	ほぼ完存	13.8	8.6	14.3	17.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：2.5Y 6/4 にぶい黄 外面：2.5Y 5/1 黄灰				＊端反形
10	建水	MO2-T15B南-床直	061206	2/5	14.4	7.8	13.8	16.0	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：10YR 6/3 にぶい黄橙				＊端反形
11	建水	MO2-T15B北-床直	061206	1/2	14.6	7.4	14.0	16.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	不良	内面：5Y 6/1 灰 外面：5Y 5/1 灰				＊端反形
12	建水	MO2-T15B南-床直	061206	3/4	14.7	7.5	14.0	16.4	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：2.5Y 6/1 黄灰、2.5Y 7/4 浅黄 外面：2.5Y 7/2 灰黄				
13	建水?	MO2-T15B北-床直 MO2-T15A北-床直	061206 061206	3/4	14.7	8.6	13.4	17.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の白色粒を含む	不良	内面：5Y 6/2 灰オリーブ、2.5Y 8/3 淡黄 外面：10YR 6/4 にぶい黄橙、2.5Y 7/3 浅黄				＊胴部に1ヵ所穿孔（対面破損のため対かどうかは不明。珍しい穴） ＊餌籠形
14	耳付建水	MO2-T15B北-床直 MO2-T15B南-床直	061206 061206	1/3	14.1	8.5	16.4	20.0	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：2.5Y 5/2 暗灰黄 外面：2.5Y 6/1 黄灰				＊耳付は少ない ＊耳付餌籠形 ＊ひずみのある破片を補正して図化 ＊内面ろくろ目顕著
15	建水	MO2-T15B南-床直	061206	1/2	13.4	8.1	13.8	16.2	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 7/4 にぶい橙 外面：7.5YR 7/6 橙				＊押えがかなり強
16	建水	MO2-T15A北-床直 MO2-T15A北 MO2-T15A北(タキロ)-床上～	061206 061020 061024	2/3	13.5	9.5	16.9	18.4	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：10YR 8/3 浅黄橙 外面：10YR 8/3 浅黄橙				＊餌籠形
17	建水	MO2-T15A北(タキロ)-床上～ MO2-T15北半	061024 061019	3/4	14.8	9.8	16.6	18.6	0.1～1.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 8/4 浅黄橙 外面：7.5YR 8/4 浅黄橙				
18	建水	MO2-T15A南-床直	061206	1/4	13.2	9.6	16.0	17.8	0.1～1.0mm位の白色粒を少量含む 0.1～1.5mm位の黒色粒を多く含む	不良	内面：10R 6/8 赤橙 外面：5YR 6/4 にぶい橙				
19	建水	MO2-T15A北-床直	061206	完存	16.2	9.3	17.7	19.2	不明	不良	内面：10YR 8/4 浅黄橙 外面：10YR 8/4 浅黄橙		胴部に陶印：「㊋」		
20	建水	MO2-T15A北-床直 MO2-T15A北(タキロ)-床上～ MO2-T15A北	061206 061024 061020	完存	14.6	9.7	17.3	18.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：10YR 8/4 浅黄橙 外面：7.5YR 6/6 橙		胴部に陶印：「㊋」		
21	建水	MO2-T15A北-床直	061206	3/4	15.5	9.6	17.0	19.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 8/4 浅黄橙 外面：7.5YR 8/4 浅黄橙		胴部に陶印：「㊋」		
22	建水	MO2-T15A北-床直	061206 061020	1/2	16.0	9.6	17.0	19.6	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	不良	内面：7.5YR 7/6 橙 外面：7.5YR 6/4 にぶい橙				
23	浅鉢	MO2-T15B北-床直	061206	1/4	21.2	3.6	16.6	21.4	0.1～2.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	内面：10YR 4/3 にぶい黄褐 外面：5Y 4/1 灰				
24	脚付鉢	MO2-T15A南-床直	061206	底部2/5	-	(3.6)	17.7	-	0.1～3.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：10R 4/4 赤褐 外面：N 4/ 灰、10YR 3/1 黒褐		胴部にヘラ描き		＊脚欠損あり
25	盤	MO2-T15B南-床直	061206	1/2	-	1.7	-	20.6	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	良好	上面：7.5Y 4/1 灰 下面：5Y 5/1 灰				＊珍しい個体
26	盤	MO2-T15A南-床直	061206	1/4	25.6	2.3	25.0	26.4	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を多く含む	良好	内面：7.5YR 4/1 褐灰 外面：7.5YR 4/2 灰褐				
27	徳利	MO2-T15B北-床直	061206	口縁部のみ	5.1	(10.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	良好	内面：10YR 5/1褐灰 外面：2.5Y 4/1 黄灰				
28	徳利	MO2-T15B北-床直	061206	口縁部のみ	5.1	(8.6)	-	-	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙 外面：10YR 6/3 にぶい黄橙				
29	徳利	MO2-T15-A北-床直	061206	口縁部	5.2	(5.6)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：7.5YR 5/4 にぶい褐 外面：7.5YR 5/1 褐灰				

表５　西２号窯跡出土遺物観察表（１）

番号	器　種	出土地点	採取日	残存部	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	最大径(cm)	胎　　土	焼成	釉薬、色調	成形、技法	文様、意匠、陶印	作成時期	備　考
30	徳利	MO2-T15A南-床直	061206	底部から胴部	-	(14.0)	7.9	11.5	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	やや不良	内面：10YR 5/2 灰黄褐、7.5YR 7/6 橙 外面：10YR 5/2 灰黄褐、10YR 6/3 にぶい黄橙		文様あり		＊珍しい個体
31	徳利?	MO2-T15B北-床直	061206	胴部1/4	-	(10.8)	-	10.8	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙 外面：10YR 6/2 灰黄褐		上部に文様あり		＊珍しい個体
32	徳利	MO2-T15B北-床直 MO2-T15B南-床直	061206 061206	胴部一部	-	(11.0)	-	10.0	0.1mm位の白色粒を含む	やや不良	内面：10YR 5/2 灰黄褐 外面：2.5Y 6/2 灰黄		文様あり		
33	徳利	MO2-T15B南-床直	061206	胴部	-	(8.8)	-	10.8	0.5mm前後の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 7/4 にぶい黄橙 外面：10YR 6/3 にぶい黄橙				
34	徳利	MO2-T15南-床直	061206	胴部1/6	-	(8.0)	-	10.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙 外面：10YR 7/4 にぶい黄橙		上部に文様あり		
35	?	MO2-T15B北-床直	061206	底部のみ	-	(2.2)	8.2	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 8/4 浅黄橙 外面：10YR 7/3 にぶい黄橙				
36	?	MO2-T15B北-床直 MO2-T15B南-床直	061206 061206	底部2/3	-	(6.3)	8.0	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：N 5/ 灰、2.5Y 7/2 灰黄 外面：2.5Y 6/1 黄灰、2.5Y 7/2 灰黄				
37	?	MO2-T15B北-床直	061206	底部のみ	-	(7.9)	7.0	-	0.1～0.5mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：10YR 5/1 褐灰 外面：5YR 6/4 にぶい橙、10YR 5/1 褐灰				
38	徳利	MO2-T15A北 MO2-T15A北(タキロ)床上～ MO2-T15北半 MO2-T15B南	061020 061024 061019 061024	2/3	2.4	22.5	12.0	14.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 6/3 にぶい黄橙 外面：10YR 6/4 にぶい黄橙				
39	徳利	MO2-T15B南-床直 MO2-T15B北-床直	061206 061206	底部から胴部1/2	-	(21.3)	18.4	21.4	0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	不良	内面：2.5Y 7/3 浅黄 外面：2.5Y 6/2 灰黄				＊ひずみのある破片を補正して図化
40	徳利	MO2-T15A北-床直 MO2-T15A北 MO2-T15北半 MO2-T15A北(タキロ)床上～ MO2-T15A南	061206 061020 061019 061024 061024	胴部	-	(12.1)	-	19.2	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む	不良	内面：7.5YR 7/6 橙 外面：5YR 6/6 橙				
41	徳利	MO2-T15A北-床直 MO2-T15A北(タキロ)-床上 MO2-T15A北	061206 061024 061020	頸部欠損	-	(21.6)	11.6	19.0	0.1～1.0mm位の黒色粒を含む 0.1～0.5mm位の白色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 8/4 浅黄橙 外面：10YR 7/4 にぶい黄橙				
42	徳利	MO2-T15B南-床直	061206	胴部	-	(11.3)	-	-	0.1～0.5mm位の白色粒を多く含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を含む	良好	内面：N 5/ 灰 外面：N 5/ 灰				＊偏壺形
43	徳利	MO2-T15A北-床直	061206	底部のみ	-	(11.9)	9.1	-	0.1～0.5mm位の白色粒を含む	良好	内面：5YR 6/4 にぶい橙 外面：7.5YR 5/1 褐灰				
44	徳利	MO2-T15B北-床直	061206	1/3	-	(12.0)	8.2	11.6	0.1～0.5mm位の黒色粒を極少量含む	不良	内面：10YR 7/3 にぶい黄橙、10YR 6/1 褐灰 外面：10YR 7/4 にぶい黄橙、10YR 5/1 褐灰				
45	徳利	MO2-T15A北-床直	061206	底部	-	(11.8)	11.8	16.8	0.1～0.5mm位の白色粒を少量含む 0.1～0.5mm位の黒色粒を多く含む	不良	内面：7.5YR 7/6 橙 外面：2.5YR 6/6 橙				＊底部にセンイの圧痕
46	窯道具 丸形穴あき陶板	MO2-T15B南-床直	061206	1/2	35.0	2.8	35.1	36.0	0.1～1.0mm位の白色粒を含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を少量含む	良好	上面：7.5YR 6/4 にぶい橙 下面：2.5Y 5/2 暗灰黄				
47	窯道具 穴あき陶板	MO2-T15B北-床直	061206	1/4	33.4	2.7	35.2	35.4	0.1～1.0mm位の白色粒を多く含む 0.1～1.0mm位の黒色粒を含む	良好	上面：10YR 7/3にぶい黄橙 下面：2.5Y 6/2 灰黄				

表５　西２号窯跡出土遺物観察表（２）

第８章　ま　と　め

第１節　はじめに

この章では、今回報告した４基の窯跡について、窯構造の特徴と操業期間について記述することを目的とする。

発掘された窯の操業期間を明らかにするためには、従来から言われているとおり出土遺物を型式分類する基礎的作業を前提として、実年代がわかる紀年銘資料や自然科学的年代測定などから導き出すのが通常の方法である。

しかし遺物整理場所に常駐せず本庁業務で繁忙を極める整理担当者が、今回は800箱にも及ぶ膨大な出土遺物を１年未満のごく短期間で、報告書作成業務の総括をするという変則的な作業になったため、水洗後若干の接合作業をした遺物を任意に抽出し図化するという過程をたどることになった。そのため遺構層序との綿密な突合が十分ではなく、遺物群として器種構成を担保するにはやや不安を覚えることになった。つまり、各窯跡からの出土遺物について基礎的な型式分類作業が十分にできなかったため、型式分類・編年については、間壁忠彦氏・間壁葭子氏の長年の成果（間壁忠彦氏・間壁葭子1966・1968・1984間壁忠彦1971・1982・1991・2000)、伊藤晃氏（伊藤晃1977・1985・1987)、平井泰男氏（平井泰男1984)、乗岡実氏（乗岡実2000・2002)、重根弘和氏（重根弘和2002）の編年案に依拠することとし、型式名を記述する際は併記する形をとった。

第２節　東側窯跡の窯構造と操業期間について

１．構造

東側窯の規模は、全長53.8m（水平距離51.4m)、全幅３～5.2m、平均傾斜角度17度で、ほぼ南北を向いている。燃焼室は長さ3.4m（斜距離）の逆三角形を呈している。焼成室との間に縦90㎝、横70㎝の平面形がホームベース状の巨大な柱が窯の縦軸に対し横に３本立ち並び、燃焼室と焼成室との間に位置する。基本的に焼成室には隔壁はなく、単房といえる。

焼成室は、中央軸線上に１m前後の間隔で規則的に並んだ直径0.5～0.6mの巨大な土柱で、少なくとも30本以上で天井を支える構造で、検出した29本の柱間の規模から、焼成室と燃焼室の区切りの柱も含めて37本以上の柱があったと推定される。窯壁は直立した部分しか残存していないが、天井部はアーチ状であったと想定できる。製品の出し入れのための出入り口は、煙出しに近い地点で幅１m規模のものが一箇所のみ確認できた。通常このような巨大な窯であれば両側に複数あるはずだが、今回は確認できなかった。嘉永年間に描かれた絵図では焼成前後の窯の両側に陶片が３～４箇所のまとまりをもって描かれているため、左右各３～４箇所、計６～８箇所の出入り口が想定される（石井啓2008)。

煙出部は窯壁が徐々に狭くなり丸く収められている。排煙の構造は、断面が縦長の素堀の排煙孔を中心に、左右対称の位置に土管を利用したものが２箇所ある。また床面付近にも土管を利用した左右対称の排煙孔がある。排煙孔は計５箇所あるが、これは最終段階の改修された窯の最後の段階の排煙

設備である。築窯当初のものは床下にあるため未確認であり、50m以上の窯の排煙設備であることから、現況の規模よりさらに大型の排煙孔等が想定される。

このほか煙出部の窯外東側トレンチ３において、幅1.4m、深さ１mの溝状遺構が断面で観察でき、雨水の流れ込みを排するための施設が窯の東側にあったと考えられる。

窯の改修については操業期間の項でも記述したが、全長34.5m（水平33.3m）、全幅３～５m、傾斜角度16度の窯を先述の巨大窯の南側３分の２を利用して改築している。この改修は延宝８（1680）年ごろと想定されているが、その後壁面は少なくとも１回は貼り替えられている。

またこの窯の焚口から煙出部分に向かって約15mの地点で、直径20cmの土管に厚さ５cmの粘土が貼り付けられた柱を３本確認している。この柱列は西側のみであるが、その両側の壁には幅２cm程度の棒状の圧痕が数条あり、しかも内傾していることから、この地点を焚口にして全長25m程度の窯に改修した可能性もある。

最後にこの窯の築窯時の地山であるが、基本的には大きく掘り込まず、地形を利用して窯壁を構築したと考えられる。これはトレンチ４・５の断面観察や、トレンチ２の遺物堆積状況から推定している。築窯時の床面が窯の外側の地山整地面と同じレベルにあると考えられる。

操業を繰り返し、不良品や窯道具などを窯の両側に遺棄するたびに、作業面があがり必然的に窯の床面をあげる必要があったと推測している。また窯を短く改修する行為は、傾斜を利用した窯であるがゆえに北側の低い部分に物原が形成されたため、不良品廃棄の作業効率や作業面を確保する点から、南側上部へと遺棄地点が移動していく過程の反映と考えられないこともない。その証拠に中央窯と東側窯の間にある巨大な物原の頂上部は緩やかな傾斜で平坦部を形成している。

２．操業期間

東側窯の操業期間は、17世紀前半から19世紀中頃で最盛期は17世紀代と推定される。全長50mを超える大窯の操業期間について、わずか４本のトレンチで推定をするのは不安を覚えるが、本調査における暫定的知見とし、将来的な調査において訂正されることを前提とするものである。

もうひとつの前提は、東側窯が改修を繰り返しながら相当長期間使用されたことが推定されることである。燃焼室部分で床面が４層、煙出部西側の窯内断割りで床面が合計５層、窯の中間部分の新たに焚口を設けた箇所があり、さらにこの窯を短くしたと推定される窯壁の内傾が確認されている。つまり長期間にわたって窯を改修しながら操業したことが想定され、また窯の両側に堆積している物原の量からも長期操業が追認できる。もちろん操業頻度は一定ではないであろうし、改修後の窯の生産量も一定ではないはずである。

さらに操業期間の推定を困難にしている要因は、あまり改修を行わず一定期間操業した通常の窯であれば、窯床面にある一群の遺物をとらえればストレートに操業期間にたどりつくことができるだろうが、東側窯は複数回にわたって改修された結果、時期差のある遺物が混在しているうえ、トレンチ調査のため各窯床面上で確認できた遺物の数量の絶対数が不足している。したがって、燃焼室南西側のトレンチ２、巨大物原のトレンチ６、トレンチ３～４などの窯周辺の遺物堆積状況から、最も蓋然性の高い操業期間を推定するにいたった。

つぎにその根拠になったものを示す。

焚口北西側のトレンチ２の地山層直上で、17世紀前半の擂鉢を検出していることから、その操業開

始期を17世紀前半とした。その状況はトレンチ３・４の窯外出土の遺物状況でも追認できる。

煙出に近いトレンチ５の窯内外で、19世紀半ばぐらいの擂鉢・小型甕・小型角徳利などが検出されており、最終的に改修した窯の操業終了をほぼこの時期と推定した。

以上から東側窯の操業期間は17世紀前半から19世紀半ばと推定されるが、具体的にいつ改修されたかという点について考えてみたい。

トレンチ３で確認された焚口から南上方の標高25m付近に新たに別の焚口が確認されている。平面形は最初に構築された焚口よりややゆるやかな円弧を呈すが、構造的には燃焼室と焼成室を数本の柱で区画するという同様の形態である。その壁の厚さやその焚口をさらに改修していることから、一時的な改修ではなく、恒常的な窯運営を企図した構造物と考えられる。しかし遺物堆積状況からは17世紀後半から18世紀にかけてという漠然とした時期の改修としか推定できない。

では文献資料から推測する方法はないであろうか。

岡山藩の藩政記録『御留帳評定書』の延宝８（1680）年のなかに「従来窯（長さ二十五間、幅二間二尺、高さ六尺）を長さ十七間、幅一間二尺、高さ五尺五寸に改め、従来ある三窯で年間七度焼いていたのを十四回焼く故許可して欲しいと願い出て、ためし焼きをする」との記述がある。規模の値は確認した遺構と微妙に異なるが、遺物から考えられる年代に最も近い文献資料であるため、ここに記載された窯である可能性は否定できない。文献資料に引きずられていく危惧はあるが、年銘資料など絶対年代を示す遺物がない以上、東側窯との強い関連を示唆している文献と考えられる。

東側窯の操業終了時期は、間壁忠彦氏が1954年時の古老からの聞取りで、明治の初め頃まで操業していたと指摘している（間壁忠彦1991）。トレンチ５の煙出付近には、天保窯でも焼成していた小型角徳利などが少量確認されていることから、最終段階の改修した窯がそのころまで操業していた可能性がある。

第３節　中央窯跡の窯構造と操業期間について

１．構造

中央窯跡では、２基の窯体がほぼ重なるように確認されたため、古段階を中央１号窯跡、新段階を中央２号窯跡と呼称することとした。

先述したとおり中央１号窯跡と２号窯跡は窯体が重なるように位置する。平成17年度の調査時においては２号窯のみ全容を確認したが、その時点では全長50mもの１号窯がその下に埋没していようとは想定外のことであった。

中央１号窯は、残存長が48.8m（水平距離47.6m）、幅が２～4.5m、平均勾配15度をはかり、主軸はほぼ南北を向いている。規模は、東側窯と東３号窯の間に位置する大型の窯である。焼成室を区切る隔壁は確認されていないことから、単房である。大きな改修は少なくとも３回おこなわれている。焚口付近で柱穴状の遺構が３～４箇所観察できるため、覆屋のような簡易な作業場があった可能性がある。煙出部は窯壁が当該部分で急に狭まり丸く収められている。改修最終段階の排煙孔は１箇所で、その規模は高さ50㎝以上、最大幅30㎝である。焚口北側の物原層からは、16世紀末から17世紀初頭の擂鉢などとともに陶馬が出土している。また徳利、鉢、水屋甕、水指などの優品が確認されている。

この長大な１号窯を破壊するような形で、２号窯跡は築かれている。２号窯は全長27m（水平距離

25m)、幅２～2.5m、平均勾配17度で主軸はほぼ南北を向いている。平面形が逆三角形（全長3.4m）の燃焼室と焼成室は土管を芯にした粘土を貼り付けた直径35㎝の柱で区切られる。燃焼室床面の角度が５～７度と緩やかで、土柱の仕切りで焼成室の３度と変化する。しばらく３度と緩やかな面があったのち、床面傾斜が急に11度となるのは燃焼室直後で窯の中で最も良好な状態で焼成できる空間をすこしでも確保するためかもしれない。煙道部は丸く収められている。窯の壁は角礫と粘土で積上げられていて、１回改修した跡が観察できる。特徴的なのは二重になった土管を芯にして粘土を塗布し天井を支える柱にしている点である。土管を芯にする構造の柱は東側窯の最終段階（19世紀代）や西側窯でも確認されていている。しかし天保窯などでは用いられていないことから、幅の狭い窯や応急処置的に用いる限定された築窯技術であったのかもしれない。とくに備前では18世紀になり盛んに土管を焼成しているので、それらの転用によって急場をしのいだものと想定される。

２．操業期間

中央１号窯の操業期間は、16世紀を中心とする時期で、16世紀の初頭から17世紀初頭の約100年間と推定している。

中央２号窯の操業期間は18世紀前半を中心とする時期で、西側窯に後続する時期と考えている。

まず中央１号窯の操業期間の根拠を記述する。中央窯は全長50mにもおよぶ長大な窯であるが、複数回の窯の床面の改修が行われており、大規模なもので３回は確認できる。その最下部から最上部の床面までは90㎝をはかり、操業期間の長さが反映されている。その最下部で焚口前面の地山層直上の擂鉢が間壁編年Ｖ期、乗岡編年中世６期ａ、重根編年ＶＡ期であるので、操業開始期は16世紀初頭ごろと推定できる。同時期の窯跡は、南大窯から西南西方向に500mに位置する片口団地窯跡、ＫＰ－２窯跡があるが、擂鉢だけの型式差からいうと、中央１号窯は片口団地窯跡より後続と考えられる。したがって16世紀初頭の伊部南大窯跡周辺の窯跡群の流れは、ＫＰ－２窯跡→片口団地窯跡→中央１号窯跡と想定される。

終了の時期は、トレンチ７で確認された遺物群の中に、図化していないが碁笥底の徳利があること、擂鉢で斜めのすり目を持たない個体があること、円盤に二方割り込んだ筒を貼り付けたタイプの窯道具があることなどから17世紀初頭ごろを大きくくだらない時期と考えている。

中央２号窯跡は18世紀の前半を中心とする時期と考えているが、それはトレンチ８・９を中心に床面上から検出した遺物群の中に乗岡編年近世３期ａ～ｂを多く含むこと、先述したとおり溝内の堆積遺物の前後関係から西側窯に後続することなどによる。遺物群の中にも西側窯で多く見られた小壷、土管など型式が近い個体も多く見受けられ、また逆に天保窯などに普遍的に見られる小甕で、胴が張った初源的な個体も見られることからも、相対的ではあるがこの結果を追認できると考えた。

第４節　西側窯跡の窯構造と操業期間について

１．構造

西側窯跡の構造については遺構の章で詳細に記述したが、再度ここでとりまとめてみたい。

西側窯は全長が35.3m、水平方向で33.8m、幅は最大で2.6mである。焼成室と燃焼室を仕切る土管を芯にした柱から、燃焼部は全長1.1m、平面が逆三角形を呈し、床面はほとんど傾斜を持たない。

床面の傾斜は一定ではないが、平均で17度である。窯には仕切りが無く、地山を掘り込んで築いた半地下式の単房の窯といえる。燃焼室の壁は直立しており、煙出しに向けてほぼ平行に延びて、窯全体としては寸胴形になる。煙道部は、排煙孔30㎝手前で急に側壁の角度が変わり、東側窯などの円弧を描く収め方と比較して隅丸方形状である。

西側窯跡は、同じ史跡地内にある東側窯跡や中央窯跡の構造、物原の堆積状態など、様相を異にしている。特に地山を掘りくぼめる半地下式であること、また天井を支える柱を持たないこと、操業期間がごく短期間であることなど、土管などの生産器種の変化への対応が見て取れるのかもしれない。

２．操業期間

西側窯の操業期間は17世紀末から18世紀初頭ごろの可能性が高い。

その根拠は、焚口付近の焼成室の床面直上に窯道具とともに獅子置物巻き毛、擂鉢、徳利、油壷、土管などの多量の遺物が出土したことによる。出土状況から窯外から流れ込んだ二次堆積とは考えられず最終操業時、つまり廃窯時直前の一括性が高い遺物群と考えられる。また窯体の両側に明瞭な物原を形成していないため西側窯の操業期間がごく短期間であったことは先述のとおりである。

型式編年が進んでいる擂鉢は、徳利などとともに器種構成の中で主要な比率を占める。最大径が30～34㎝の範囲に収まるものがほとんどで、口縁部は内面のナデにより突帯が退化し扁平化しているが稜線は保つものが多い。口縁部受け部外面の張り出しもややナデ肩状になっている。内面のすり目もくまなく施されている。体部下半のヘラケズリをほどこす高台付きの個体も多少あるが主ではない。以上から乗岡編年近世３ａ期と考えられ、実年代としては17世紀末から18世紀初頭の年代が与えられる。また最大径が18㎝前後で、内面に細かいすり目を施した小型の擂鉢もある。

17世紀末から18世紀はじめにかけての窯に関する文献資料（表６）の中に、享保元（1716）年に「土管を製造する窯が築かれる　笹谷半右衛門に樋方御用仰せつけられる」という記事が撮要録にあり、また享保六（1721）年にも「土管の値段を下げる」とある。この期に頻出する文献からは耕地開発のため多量の土管を必要としており、備前窯に対して土管の需要が高まっていたとも推定できる。

実際、トレンチ12からは土管が一定の割合確認されていて胴径も20㎝～36㎝まであり３～５型式設定できる。また、西側窯の後に操業したと思われる中央２号窯においても、胴径47㎝を超えるような巨大な土管が焼成されている。もちろん中空の土管であるから、生産効率は悪く、当然他の器種も焼成せざるをえない。先ほどの文献では「土管を製造する窯」とあるが、このような出土例から考えても当然土管専用窯ではないことは推定できよう。

以上西側窯を撮要録に記載されている「土管窯」と直接結びつける明確な根拠はないが、強い関連はありそうである。

さらに操業期間を推定する直接資料ではないが、西側窯焚口から南東方向にわずか数ｍの地点に近世墓がある。墓石には明和５（1768）年の紀年銘がある。窯操業時には作業密度が高くなる焚口部分に墓地を造成したとは考えられず、少なくとも紀年銘が示す18世紀中頃には西側窯は廃窯されていたと考えられる。（註１）

第５節　西２号窯跡の窯構造と操業期間について

１．構造

第７章で記述したとおり、西２号窯跡は平成11年度の伊部南大窯周辺窯跡群確認調査で、西側窯跡（指定地内）の西側隣接緩斜面に、残存長14.2m（水平13.6m）以上、幅1.3～1.6m、平均勾配15度、主軸がほぼ南北の単房半地下式の窯があることを確認している。平成18年度に指定地内に想定されている焚口部分の調査を実施した結果、全長25m（水平24m）、幅1.4mと規模を確定することができた。平成11年度の調査で主軸に直交する方向に規則的な間隔で、窯床面に幅0.25～0.40m、長さ1.2～1.4m、深さ0.1mの溝が８本（推定含む）確認されたが、今回は確認されていない。床面は焼き締まっておらず、石組みの窯壁などの遺存状態も悪い。建水や徳利、小型の擂鉢などの遺物の出土も、ほぼ床面直上からの検出であり、極端に焼成不良という点も前回と一致している。

規則的な窯内溝構造は備前窯では初見であり、また遺物も一般的ないわゆる「壷・甕・擂鉢」は極端に少なく、建水、蓋、平鉢、徳利など同法量のものが多量に生産されている。操業が17世紀の第１半期を中心とする時期であることや、特定器種を多量生産する状況から、「お誂えの品（注文品）」を短期間で焼成するための窯との見方もある。この時期の大窯は、３万４、５千点の製品を三十数日かけて焚く全長50m、幅３～５mにもおよぶ長大な窯であるため、急を要する需要には的確に対応できない。それを補完するため、西２号窯のような小規模な窯を築いたと考えられるが、焼成中の何らかの事故で天井が崩落し、ごく短期間で廃窯に追い込まれている。

さらに言及するなら、消費する側から、需要のある製品の短期間での焼成を企図し、新型式の窯の導入を備前の窯場にうながしたが、陶工にとって不慣れな窯であったため焼成時に事故を起し、廃窯にいたったと考えられる。

２．操業期間

西２号窯の操業については、前回の報告で、17世紀の第１四半期を中心とする時期で、大きくは下らない期間と考えていて、平成17年度調査時の遺物出土状況もこれを大きく覆すものではない。既に何度も記述してきたが、備前焼で一般的な「壷・甕・擂鉢」は極端に少なく、建水、蓋、平鉢、徳利など同法量のものが多量に生産されている。今回は耳付建水や脚付鉢など前回確認されなかった器種も見られたが、これも前回の所見を大きく変えるものではない。

第６節　総　　括

以上、平成17年度～18年度にかけて国指定史跡伊部南大窯跡で実施した発掘調査の概要をまとめてきた。その結果を窯ごとに箇条書きにしてみる。

①東側窯は全長53.8m、全幅３～5.2m、平均傾斜角度17度、天井を径0.5～0.6mの土柱の列で支える仕切りのない窯体で、17世紀前半～19世紀中頃の操業の長大な窯であることが判明した。最盛期は17世紀代と推定されるが、以後窯の途中に焚口を設けるなどして改窯し、人形徳利、灯明皿、擂鉢などを連綿と焼き続けた。

②中央２号窯は全長27m、全幅２～2.5m、平均傾斜角度17度、土管を芯にした土柱で天井を支える仕切りのない窯体で、操業が18世紀前半を中心とする時期であることが推定された。さらに２号窯の下層に全長48.8m、全幅２～4.5m、平均傾斜角度17度、操業期間が16世紀前半から17世紀初頭の長大な１号窯が埋没していることを確認し、後半期には徳利、鉢、茶入れなどいわゆる桃山陶を焼成していたことが判明した。

③西側窯は全長が35.3m、最大幅2.6m、土管を芯にした柱で燃焼室と焼成室を仕切る窯体で、地山を掘り込んで築いた半地下式の単房の窯であることが判明した。焚口付近の擂鉢、徳利、油壷などの一括の遺物群から17世紀末～18世紀初頭ごろと推定できる。

以上が発掘調査の概要であるが、広大な面積に設定したトレンチからの知見であるため、推定した部分が多く、今後の調査によっては訂正される点もあると思われる。しかし、現段階では現場でのトレンチ調査、出土遺物の整理を通してできうる限りの情報を引き出したと考えている。ただ、多くのことが判明することにより、逆に課題として見えてきている部分もある。

とくに窯構造や焼成方法などについては、大橋康二氏が「近世の窯業技術は、肥前系の技術と瀬戸・美濃の技術を基礎とした関西系の技術でほぼ大別できる」（大橋康二2005）との指摘がなされている。しかし、その視点で東側窯や中央窯を比較してみると、天井を支える窯中軸線上にならぶ土柱列や、窯道具である匣鉢のみを積上げる窯詰めなど、肥前系・関西系で読み解くには違和感があり、逆に備前窯の独自性、保守性といった側面が強く見える。この点は既に伊部南大窯跡周辺の近世の窯跡群についても指摘されているが、文献資料に見られる関西系技術の情報の伝播という前提を考慮しながら、その「独自性・保守性」の内容について、窯業史の中で体系的に熟考していく必要がある。

対して備前焼の生産画期という視点で「伊部南大窯跡」を考えるとどうなるだろうか。南大窯は西大窯、北大窯とともに近世の備前焼を代表する大窯で、江戸時代の備前焼の生産体制を考えるうえで重要な遺跡であることはいうまでもない。また、南大窯を含めて３箇所の窯場に集約するまでには、その周辺において備前焼が連綿と生産されてきた歴史がある。ここであらためてその要点を整理すると次のとおりになる。

12世紀代のある時期、須恵器窯と大差ない全長10m前後、幅1.5m前後の窯で備前焼は生産を開始する。南北朝期の終わりごろには全長20m、幅2.1～2.5mのやや大型化した窯を丘陵先端部や山裾部に築くようになる。この時期は、西日本において備前焼が国産陶器の需要をかなりの部分を占有するようになる。室町時代前半の不老山東口窯跡の段階では、天井をささえる土柱構造が現れ、以後の大型の窯構造の流れをつくるとともに、量産化を押し進める。16世紀終わりごろには、爆発的な器種の増加、南・北・西への窯場の集約がおこるとともに、大型化した窯と並行して特定の器種のみ多量に焼成する小型窯が出現する。これは消費側の需要の変化、為政者の干渉など外的要因が考えられる。

17世紀には、商品として流通圏域が急激に縮小するが、逆に備前最大の窯ができる。17世紀末ごろには「御用窯」の閑谷焼窯跡が閑谷学校建設にともなって築窯される。閑谷焼窯は連房式窯であるが、備前焼の中心生産地である伊部の地にはその形式は、150年間も普及しなかったといわれている。ようやく天保年間（1829～）に「融通窯」とよばれる連房式窯が合計３基築かれ、人形徳利や灯明皿といった商品価値の高い商品を中心に窯業が営まれる。このとき大形の窯は完全に廃れたわけではなく、窯規模の縮小、焼成回数の削減などをおこないながら、明治初年頃まで焼きつがれていった。

西　暦	元　号	内　　容	該当窯名	文　　献
1680	延宝 8	従来窯（長さ二十五間、幅二間二尺、高さ六尺）を長さ十七間、幅一間二尺、高さ五尺五寸に改め、従来ある三窯で年間七度焼いていたのを十四回焼く許可をして欲しいと願い出て、ためし焼をする。	三 大 窯	御留帳評定書
1682	天和 2	新小窯（長さ十八間、幅五尺一寸五分）の運上かねを六十目に定める	三 大 窯	御留帳評定書
1687	貞享 4	閑谷学校の瓦窯に隣接して小窯で祭器や工芸品を焼成	閑谷焼窯	留帳
1691	元禄 4	藩により箆目禁止		撮要録
1709	宝永 6	伊部　竈四つあり、各間二十間に、二間宛に横しきり有り、一間一間に窓有り	三 大 窯	和気絹
1711	宝永 8	大窯の三分の一の大きさの小窯を築きたい旨の願い出、陶工三十四名連署		撮要録
1711	正徳元	白備前を初めて二窯焼く	白 備 前	撮要録
1713	正徳 3	備前焼の値段を 2 から 3 割値上げ		撮要録
1715	正徳 5	彩色備前始まる　絵師狩野三徳、伊部彩色御用仰せ付けられる	彩色備前	狩野三徳奉公書
1716	享保元	土管を製造する窯が築かれる　笹谷半右衛門に樋方御用仰せ付けられる	土 管 窯	撮要録・奉公書
1716	享保元	白焼窯を改修する	白 備 前	立会御評定留帳
1720	享保 5	北大窯を 3 分の 2（穴数12番を 4 番減）の大きさにしたいと申し出	北 大 窯	撮要録
1721	享保 6	土管の値段を値上げ	土 管 窯	撮要録
1781～	天明年間	此器を焼く竈、其數今四つあり、各長廿一間横二間高七尺計	三 大 窯	東備郡村誌
1790	天明 9	伊部の陶工が御花畠でお庭焼	お 庭 焼	木村家文書
1821	文政 4	釜間数　定日十日出　西長サ　穴十ニ小穴　弐拾弐拾間　同十一日出　北長サ　穴十一ニ小穴　弐拾四間　内ヨコ中　一丈五尺程高サ八尺程ツッ　外釜モ右ニ順申候　同十二日出　南長サ　穴十二ニ小穴　弐拾六間	西 大 窯 北 大 窯 南 大 窯	木村家文書（引用は桂又三郎1982『翻刻備前焼二巻二号より』
1831	天保 2	天保窯開窯。発起人木村長十郎、木村肌杢介、木村新七良、森五兵衛、木村儀三郎、木村幸衛門、森甚次郎の 7 名。角徳利や古備前写しが主力商品。昭和15、16年ごろまで使用。	天 保 窯	森家墓碑
1840	天保11	第二、第三の天保窯を講組織で築窯。	天 保 窯	融通講規定
1842	天保13	北窯三尺床埋めをする	北 大 窯	木村家文書
1842	天保13	西窯も三尺床埋めの願い出	西 大 窯	木村家文書
1843	天保14	南の釜　竪　弐拾八間　横幅　壱丈八尺　　北の釜　竪　弐拾六間　同　壱丈六尺　西の釜　竪　弐拾四間　同　壱丈六尺　小釜今相築候ハ　竪テ　八間半　横幅　壱丈弐尺	南 大 窯 北 大 窯 西 大 窯 天 保 窯	陶器忌瓶小釜焼惑問
1849	嘉永 2	木村平八郎泰武「古伊部神伝録」刊行。窯元六姓説の初出		古伊部神伝録
1873	明治 6	北窯を廃止。天保窯の東側に森栄太郎らが明治窯を築く	明 治 窯	岡上為右衛門1925『備前陶窯誌』大塚工藝社
1877	明治10	後藤貞三、大饗為五郎、行本伝三郎らが陶器改選図所をつくり「黄薇窯」を築窯		桂又三郎1976『明治の備前焼』奥山書店
1887	明治20	森琳三が備前ではじめて個人窯を築窯	個 人 窯	桂又三郎1977『明治の備前焼』奥山書店

表 6　窯関連文献一覧

こうして生産画期を整理してみると、16世紀後半段階の窯場の集約、つまり南大窯、北大窯、西大窯への生産の集約は備前焼の歴史の中でも大きな変換点であり、それらを構成する窯跡群はその証として重要な遺跡である。したがって適切な保護をはかり、公開・活用しながら後世に伝えていくことはわれわれの世代に与えられた責務である。

さらに大甕・擂鉢などは先学により多くの型式編年が提示されているが、徳利、皿、鉢などは時間的な変化を捉える試みがあまりなされていない（石井啓2006・2007）。これを受け今後は、16世紀の

後半のある段階で、壷・甕・擂鉢以外の器種が爆発的に生産され、さらにそれぞれの器種が分化していくが、その様を型式編年という枠のなかで捉えていきたいと考えている。

そして、これらの研究が継続的になされるには、恒久的な調査研究体制が必要である。そのためには、備前歴史フォーラムなどの開催をとおし窯業地「備前」としての情報発信を行い、全国の窯業の中での備前という視点を常日頃持つ必要があり、ひいてはそれが考古学の研究テーマとしてだけでなく、観光資源として、さらには備前市の将来を考えるきっかけとして、さまざまな方向に展開するようつとめていくことが肝要と理解している。

【註】

（1）間壁忠彦氏が現地にてご助言。

【引用・参考文献】

石井啓2006「窯跡出土資料から見る「桃山」－16・17世紀の備前焼－」『備前歴史フォーラム資料集「備前焼・海の道・夢フォーラム2006～備前焼の歴史と未来像を求めて～』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館

石井啓2007「備前焼分類素案（2）～南大窯跡出土遺物の検討から～」『備前と茶陶～16・17世紀の変革～』備前市教育委員会・備前市歴史民俗資料館

石井啓2008「備前焼窯跡の調査（五）」『陶説』658　日本陶磁協会

大橋康二2005「わが国の窯業における生産技術の展開」『窯構造・窯道具からみた窯業資料集』関西陶磁史研究会

伊藤晃・上西節雄1977「備前」『日本陶磁全集』10　中央公論社

伊藤晃1985「15世紀から17世紀の備前焼」『中近世土器の基礎研究』日本中世土器研究会

伊藤晃1987「窯業」『岡山県の考古学』吉川弘文館

重根弘和2002「山崎古窯跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』167　岡山県教育委員会

乗岡実2000「備前焼擂鉢の編年について」『第3回中近世備前焼研究会資料』

乗岡実2000「中世の備前焼甕（壺）の編年案・紀年銘資料にみる大甕（壺）の変遷」『第2回中近世備前焼研究会資料』

乗岡実2002「近世備前焼擂鉢の編年案」『岡山城三之曲輪跡』　岡山市教育委員会

平井泰男1984「中世の遺構・遺物について」「百間川原尾島遺跡2」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』56　建設省河川工事事務所・岡山県教育委員会

間壁忠彦・間壁葭子1966、1966、1968、1984「備前焼研究ノート（1）～（4）」『倉敷考古館研究集報』1、2、5、18

間壁忠彦1991「備前焼」『考古学ライブラリー』60　ニューサイエンス社

間壁忠彦・西川宏1971「岡山県備前町合が淵古窯群」『日本考古学協会年報』19

間壁忠彦1982「備前焼の編年と分布」『島根県立博物館調査報告』第3分冊

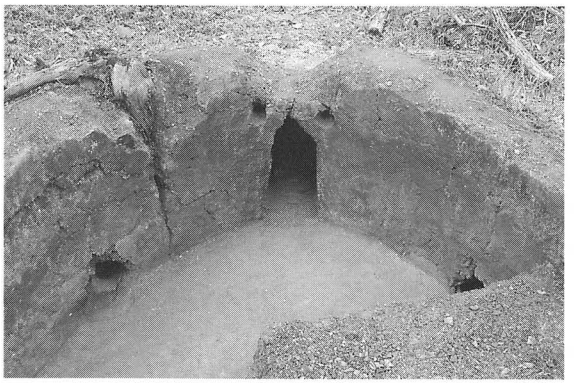
間壁忠彦2000「備前焼の窯跡」『陶説』569　日本陶磁協会

写真図版

1．トレンチ 3 東側窯焚口（北より）

2．トレンチ 3 東側窯焚口（北より）

3．トレンチ 4 東側窯焚口（北より）



4．東側窯煙出（北より）

5．東側窯西壁出入口（東より）

図版２

１．トレンチ２西壁断面（北東より）

２．トレンチ６物原の堆積（西より）

３．トレンチ６北壁断面（南より）

４．中央窯跡全景（北より）

５．中央１号窯煙出（奥）・２号窯
煙出（手前）（北より）

１．トレンチ10－１中央２号窯煙出（北より）

２．トレンチ９中央２号窯の柱（東より）

３．トレンチ８西窯外中央１号窯側壁（右）
中央２号窯側壁（左）

４．トレンチ１西壁断面（北東より）

５．トレンチ７西壁断面（東から）

図版４

１．トレンチ７南北軸南壁断面（北より）

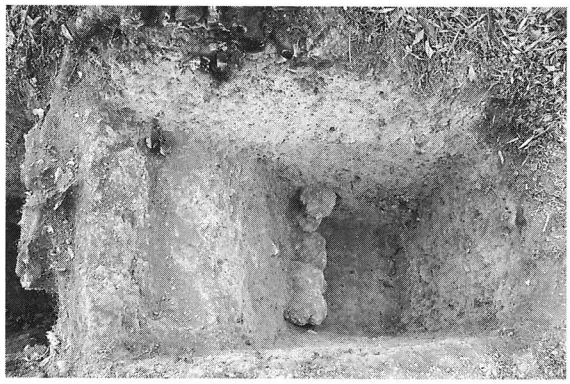
２．トレンチ11南壁断面（西より）

３．西側窯跡全景（北より）

４．西側窯焚口（北より）

１．トレンチ12西側窯内遺物出土状況（南より）

２．西側窯煙出（北より）



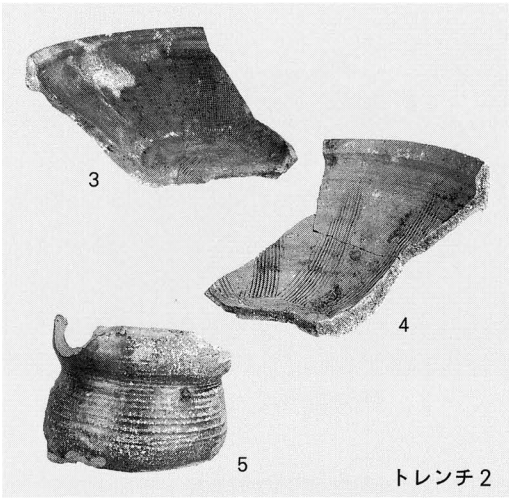
３．トレンチ12西窯外側壁・裏込石
検出状況（北より）

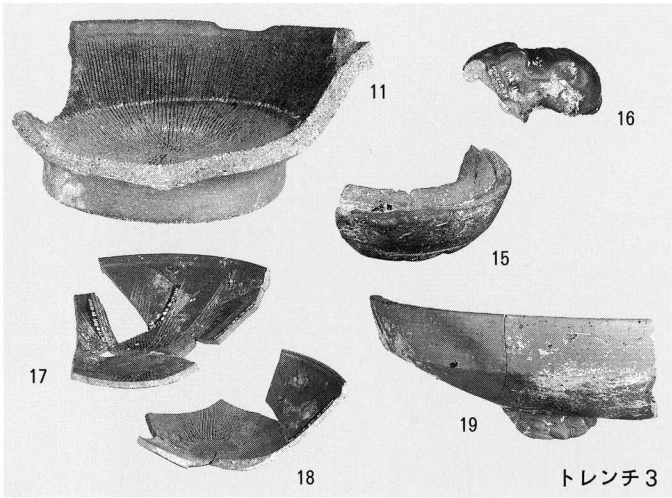
４．西２号窯跡焚口付近全景（北より）

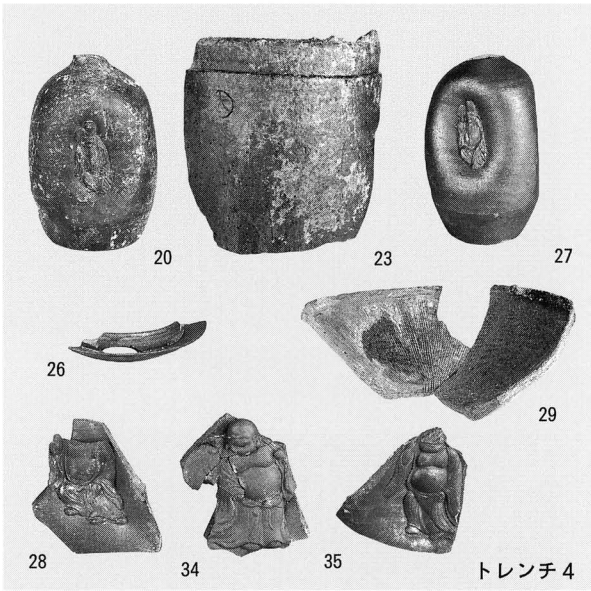
５．西２号窯Ｂ区遺物出土状況（北より）

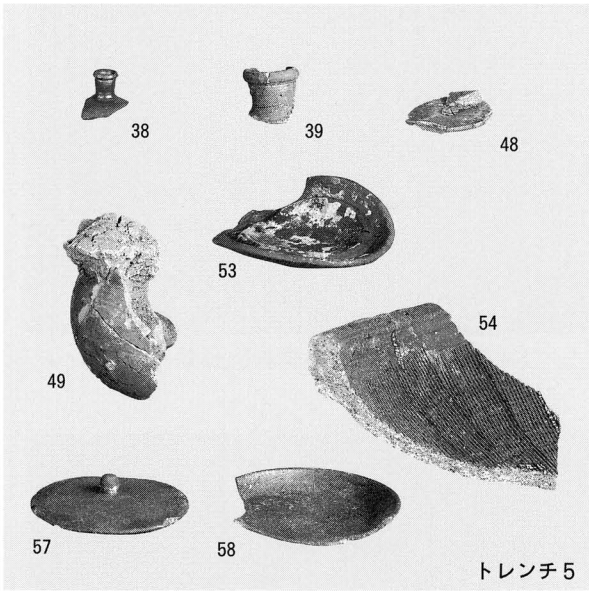
６．西２号窯Ａ区遺物出土状況（南より）

図版６

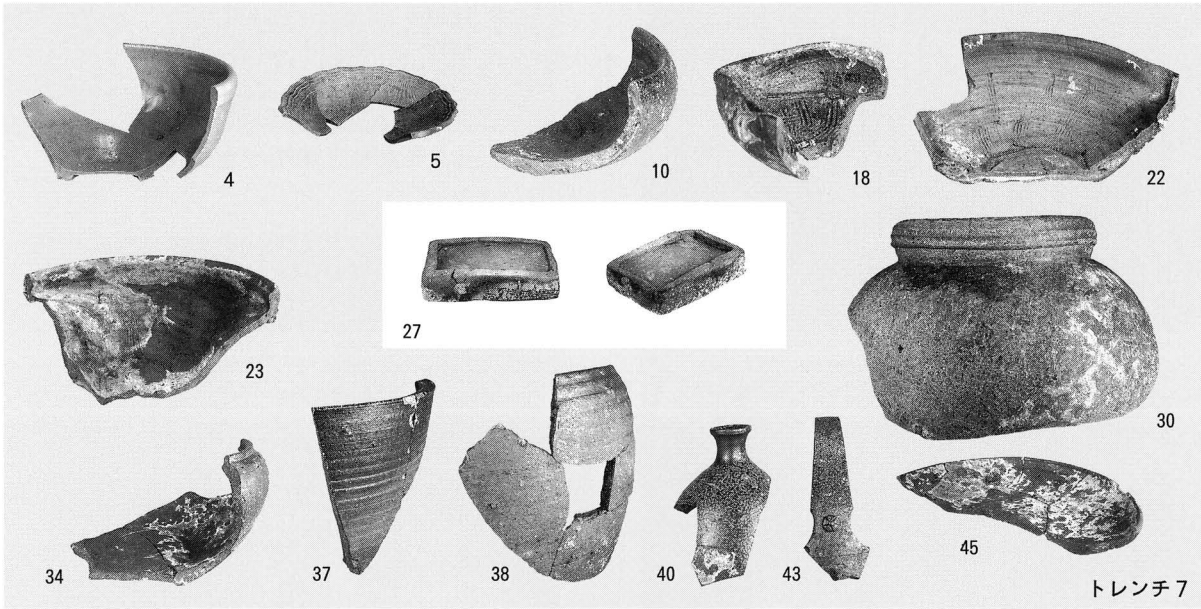




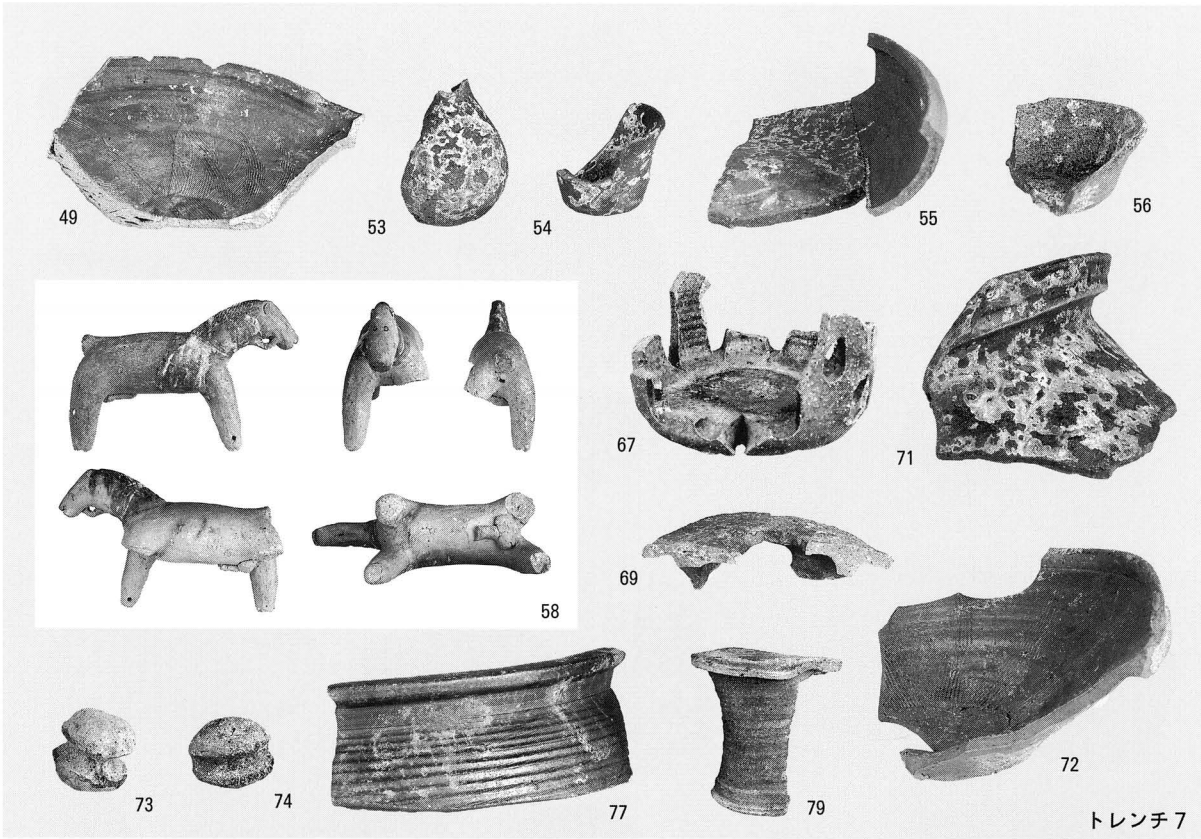


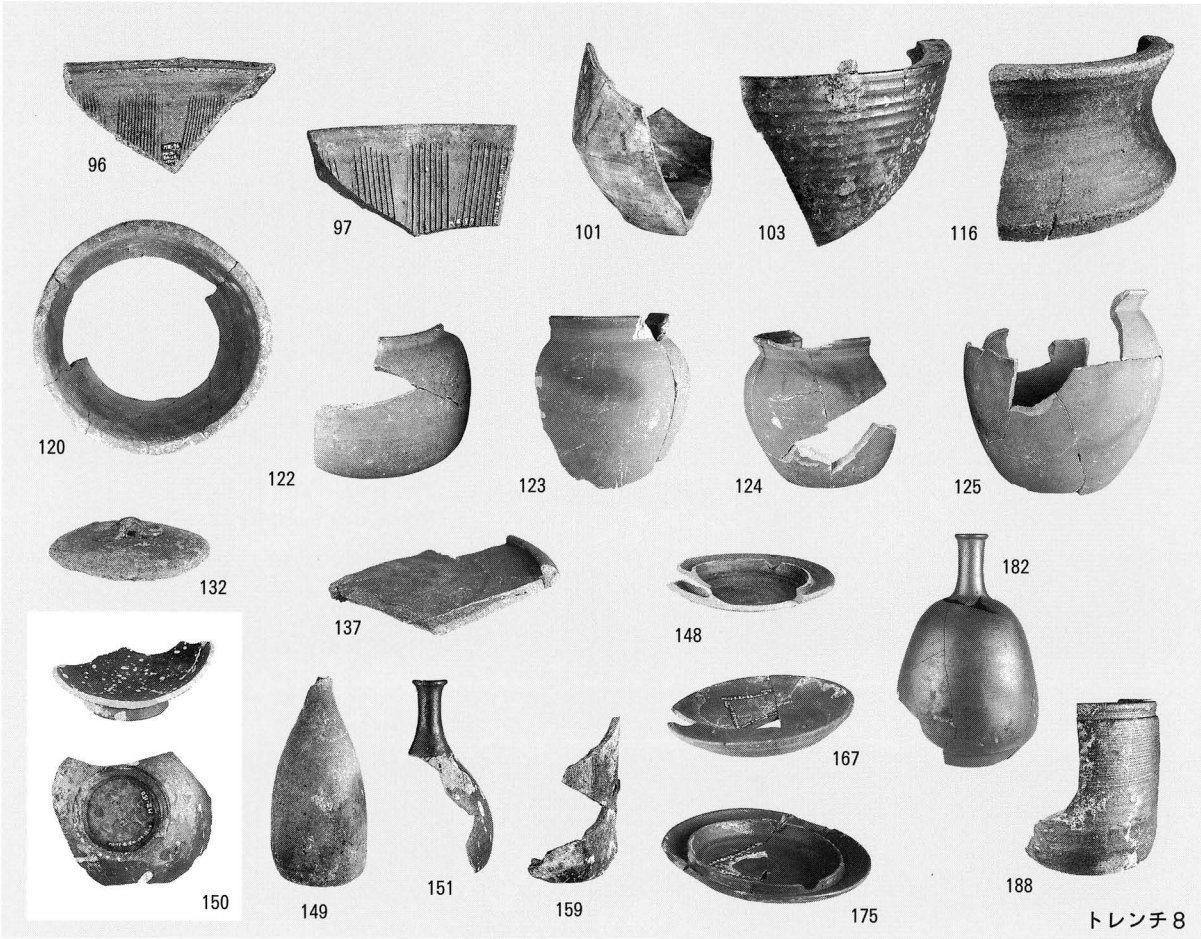


東側窯跡出土遺物（１）



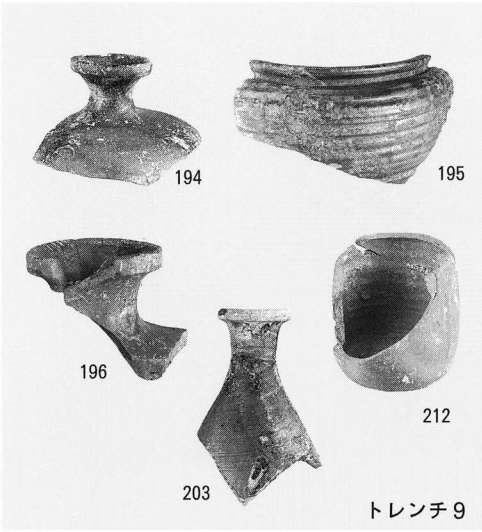
中央窯跡出土遺物（１）

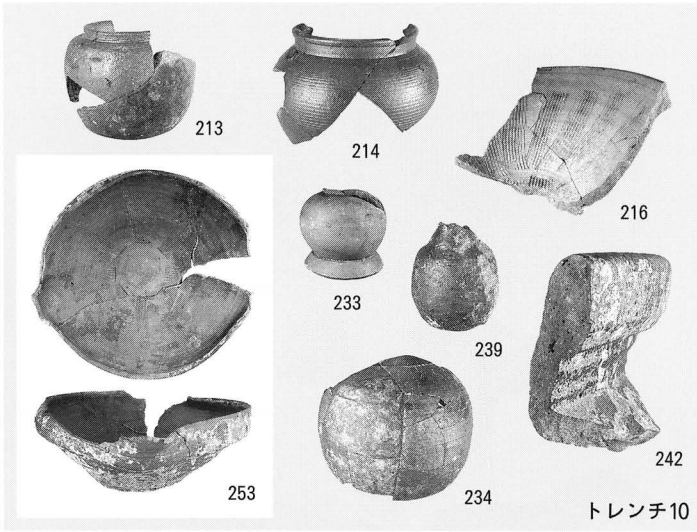

49
53
54
55
56
58
67
71
69
73
74
77
79
72
トレンチ７

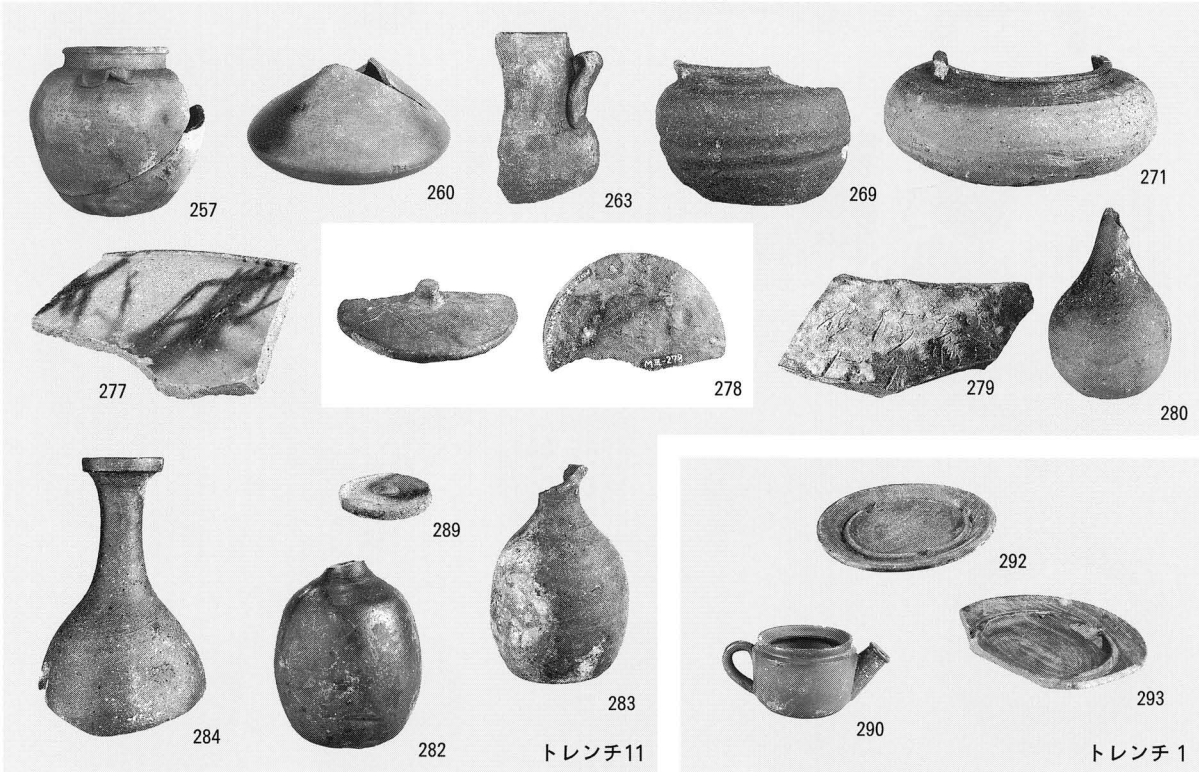

96
97
101
103
116
120
122
123
124
125
132
137
148
182
150
149
151
159
167
175
188
トレンチ８

中央窯跡出土遺物（２）

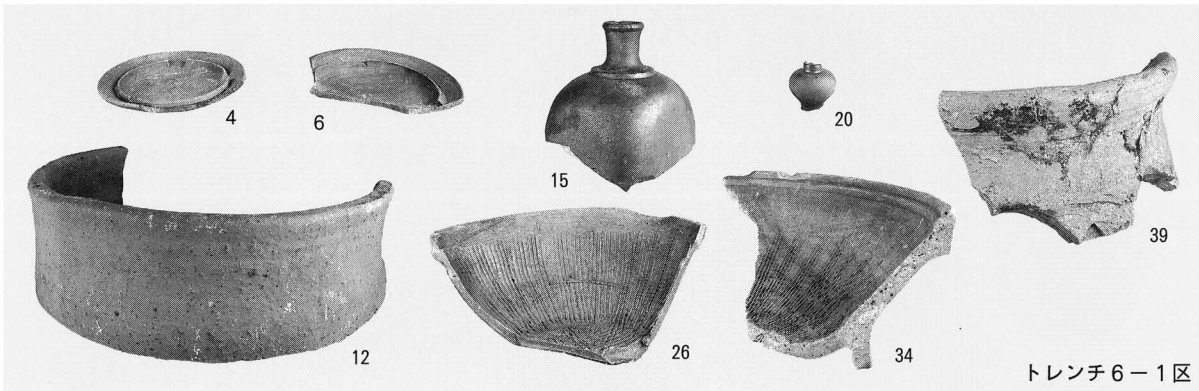
図版８



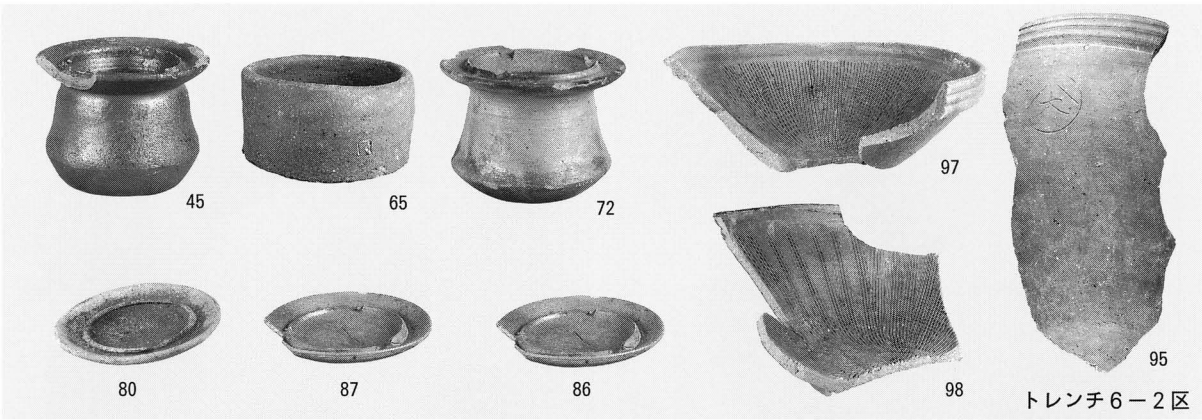


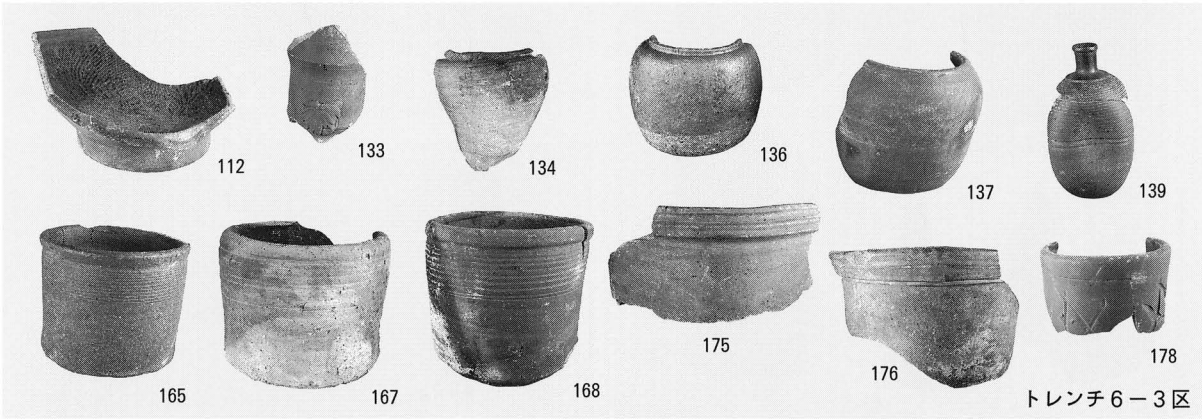


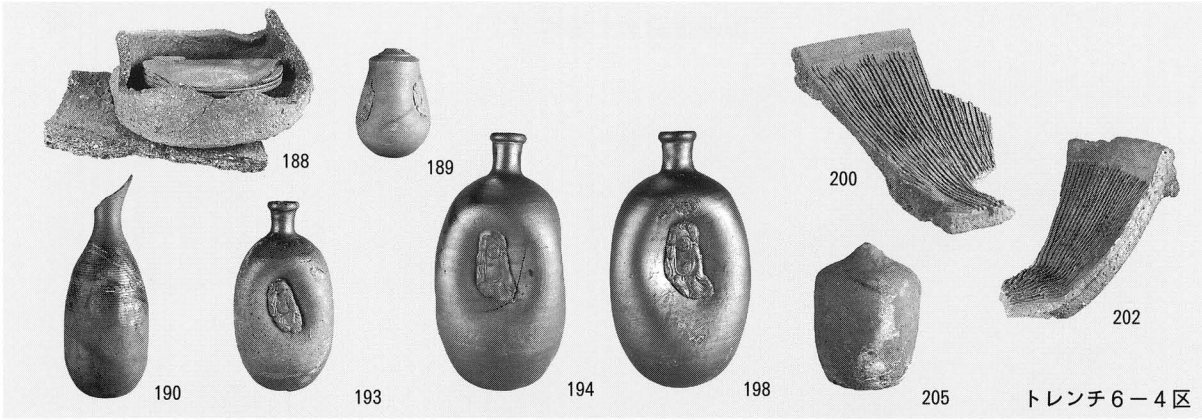
中央窯跡出土遺物（３）



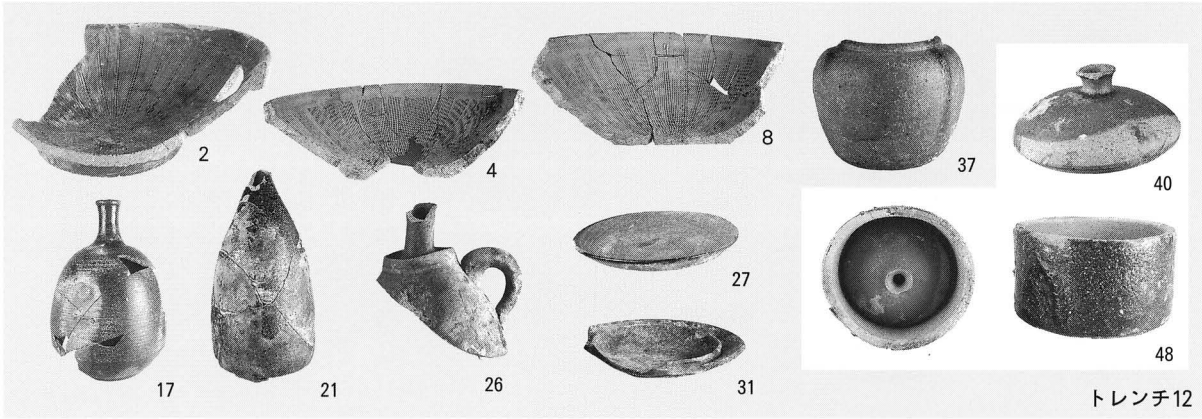
物原出土資料（１）



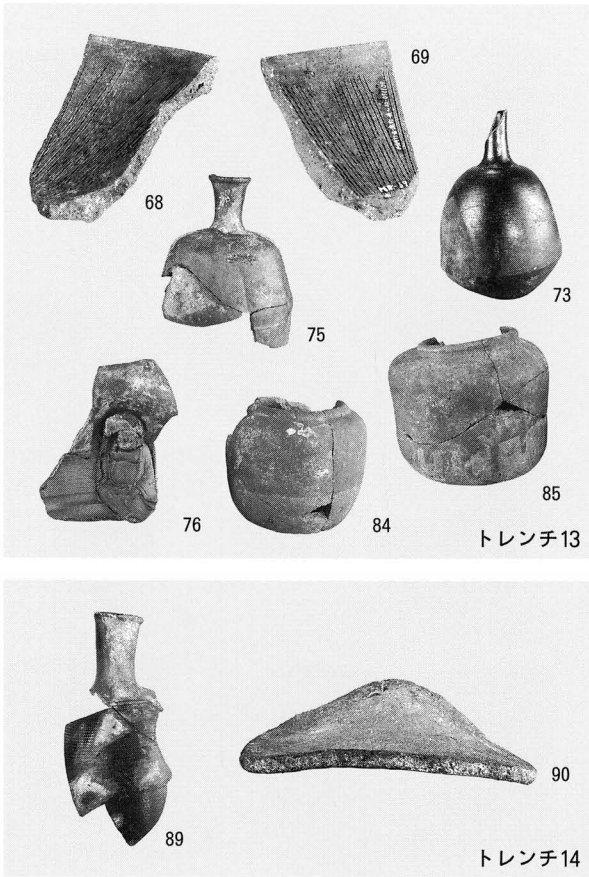




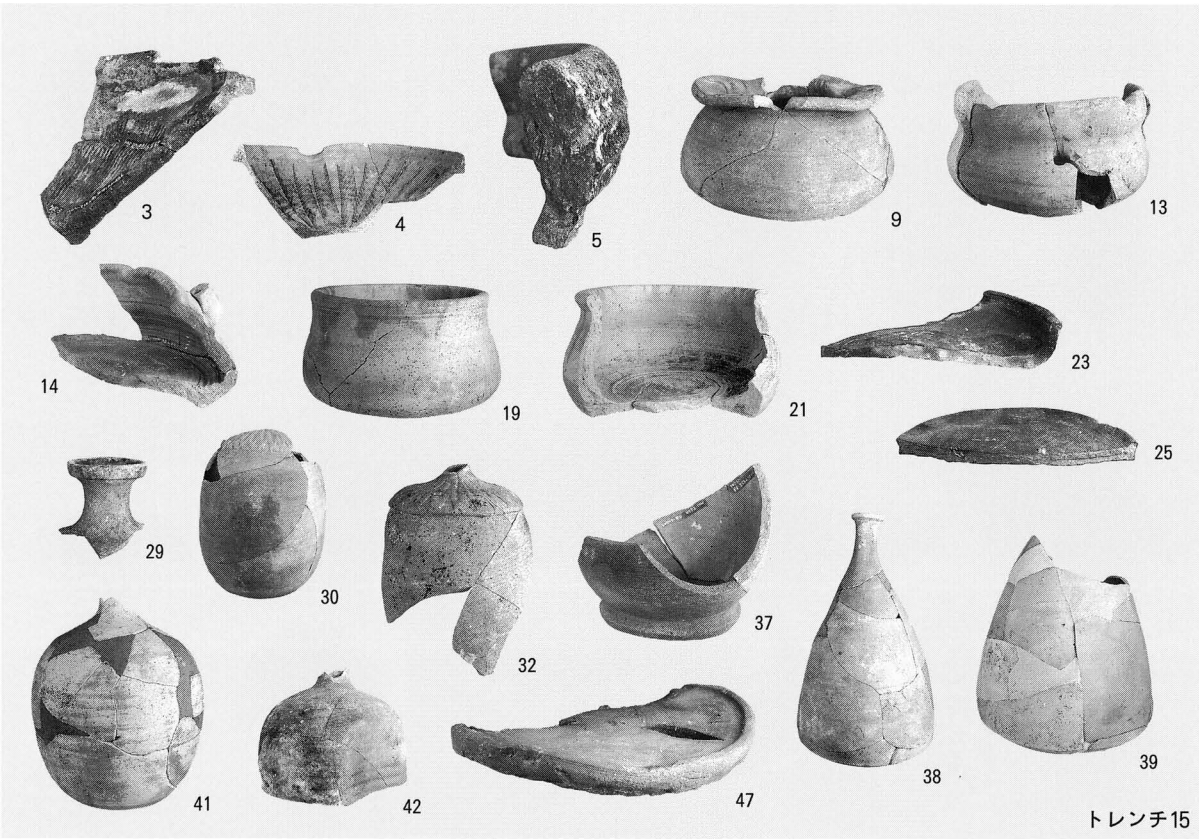
物原出土資料（２）



西側窯跡出土資料（１）



西側窯跡出土資料（２）



西２号窯跡出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	くにしていしせきいんべみなみおおがまあとはっくつちょうさほうこくしょ
書名	国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査報告書
シリーズ名	備前市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	8
編著者名	石井啓・岩﨑紅美
編集機関	岡山県備前市教育委員会
所在地	〒705-0021　岡山県備前市西片上7　TEL 0869－64－1841 E-mail : bzsyougai@city.bizen.lg.jp
発行年月日	西暦2008年3月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
国指定史跡 伊部南大窯跡	岡山県 備前市 伊部	211	－	34° 44′ 12″	134° 09′ 35″	2005.10.16～ 2005.12.27 2006.10.11～ 2006.12.28	487.3	史跡整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
国指定史跡 伊部南大窯跡	窯跡	江戸時代	東側窯跡	備前焼	全長53.8mの窯
	窯跡	室町～桃山	中央1号窯跡	備前焼	全長約50mの窯
	窯跡	江戸時代	中央2号窯跡	備前焼	
	窯跡	江戸時代	西側窯跡	備前焼	
	窯跡	江戸時代	西2号窯跡	備前焼	焼成中に崩落した窯

備前市埋蔵文化財調査報告８

国指定史跡伊部南大窯跡発掘調査報告書

平成20年３月25日　編集
平成20年３月25日　発行

編集・発行　備前市教育委員会
岡山県備前市西片上７

印　　刷　㈱大西商店印刷部
岡山県備前市西片上62